長久手市
障がい者施策に関するアンケート調査結果

令和８年８月

長久手市

目次

Ⅰ　調査の概要 1
１．調査の目的 2
２．調査方法 2
３．報告書の見方 2
Ⅱ　調査結果 3
１．当事者への調査 4
１．あなたの性別・年齢・家族などについて 5
２．あなたの障がいの状況について 12
３．生活の支援について 15
４．成年後見制度・権利擁護について 24
５．障がい者差別について 30
６．福祉サービスについて 35
７．雇用・就労について 67
８．地域社会とのかかわりについて 76
９．余暇・外出について 84
10．災害への備えについて 87
11．医療的ケアについて 95
12．長久手市の障がい福祉施策について 100
13．お子さんの成長発達を支える仕組みについて 113
２．相談員への調査 124
３．障害福祉サービス提供事業所への調査 141
４．団体への調査 175

Ⅰ　調査の概要

１．調査の目的

長久手市障がい者施策に関するアンケート調査は、「第５次長久手市障がい者基本計画・長久手市第８期障がい福祉計画・長久手市第４期障がい児福祉計画」の策定にあたり、施策立案のための基礎資料として活用することを目的として実施しました。

２．調査方法

（1）当事者への調査

■ 調査の方法

区分	内容
調査地域	長久手市内全域
調査対象	市内在住の障害者手帳所持者及び障がい福祉サービス利用者
抽出方法	全数調査
調査方法	郵送配布・郵送回収、Web 回答
調査期間	令和７年 12 月１０日～令和８年１月７日
配布数	2,550 件
有効回収件数	1,186 件（郵送 836 件、Web350 件）
有効回収率	46.5%

３．報告書の見方

○ 図表中の「ｎ数（number of case）」は集計対象者総数（あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人）を示しています。

○ グラフ中の「%」は、小数第２位を四捨五入しているため、単数回答の設問（１つだけにをつけるもの）であっても合計が 100.0%にならない場合があります。また、複数回答の設問の場合（いくつでもをつけるものなど）は「ｎ」に対する各選択肢の回答者数の割合を示しています。

○ 図表中において、「無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が著しく困難なものです。

○ クロス集計表の表側（左端の分類層）は「無回答」を除いているため、各層の実数と集計対象の総数が一致しないことがあります。

○ 本文中の分析文やグラフ・表中の選択肢は、原則として調査票に記載された表現のまま記載していますが、一部、必要に応じて省略しています。

○ 自由記述式の回答結果については内容を損なわない範囲内で、要約や修正をして掲載しています。

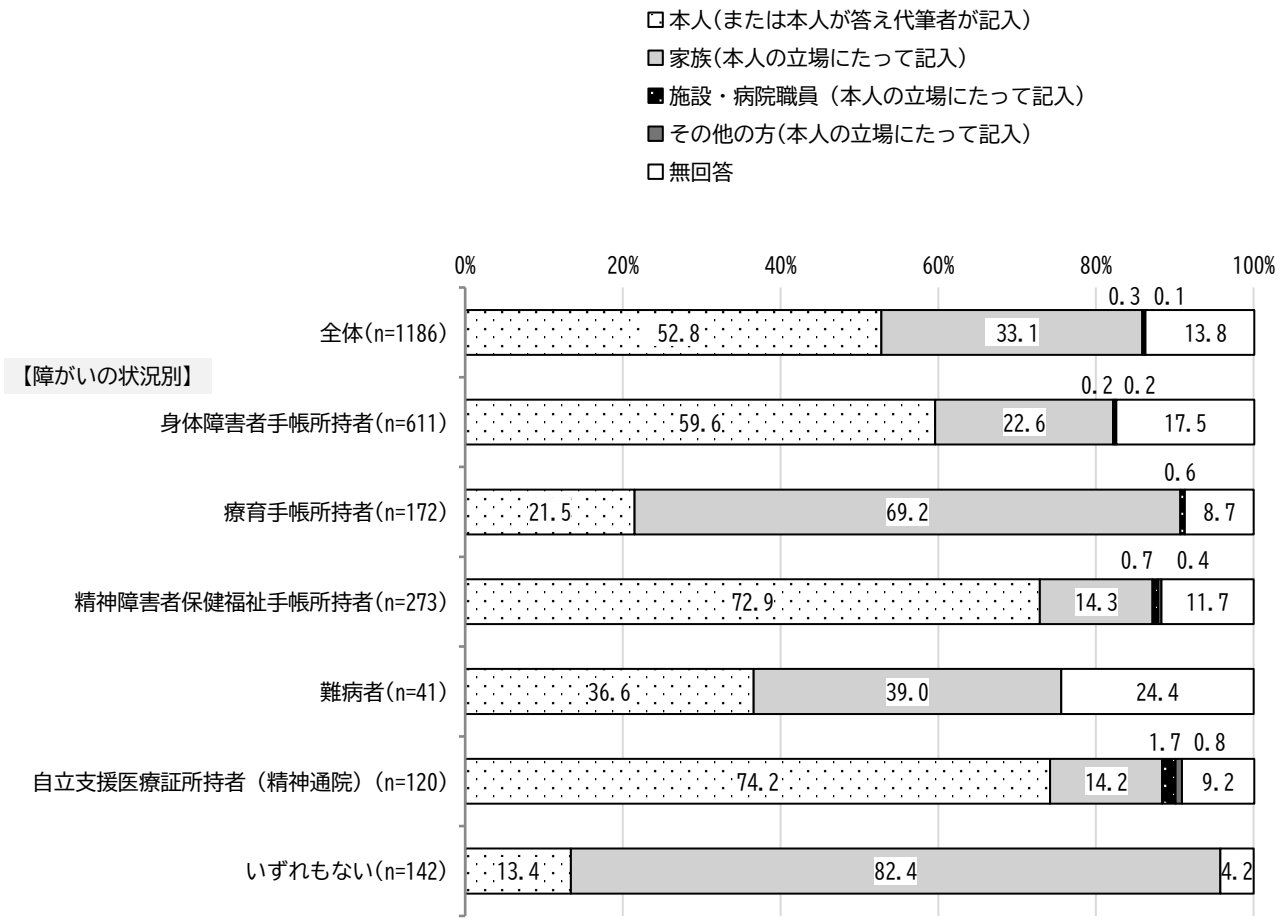
○ 調査結果を図表で表示していますが、グラフ以外のクロス集計の表は、「無回答」「その他」を除いて高い割合の第１位と第２位のものに網掛けをしています。（第１位：濃い網掛けに白数字、第２位：薄い網掛けに黒数字）ただし、ｎが１桁のものは網掛けをしていません。

Ⅱ　調査結果

１．当事者への調査

問１　お答えになるのは、どなたですか。【○は１つ】

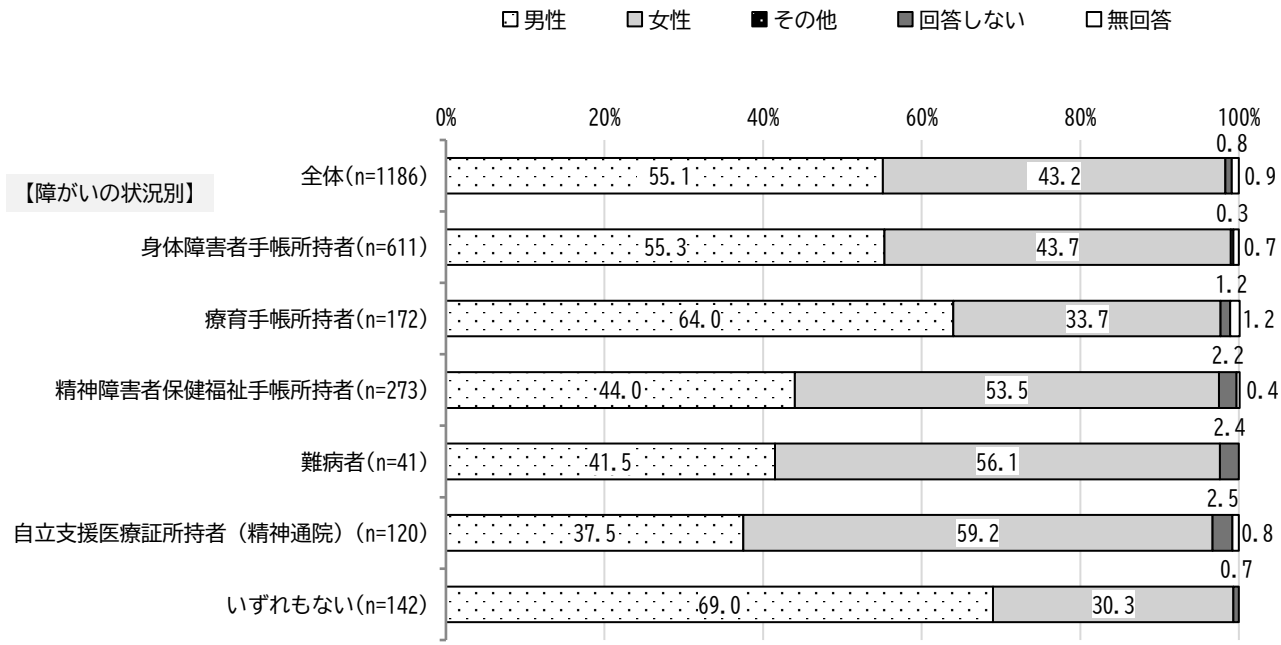
◆ 全体では、「本人」が 52.8%で最も高くなっており、次いで「家族」が 33.1%となっています。
◆ 障がいの状況別にみると、身体障害者手帳所持者・精神障害者保健福祉手帳所持者・自立支援医療証所持者で「本人」が、療育手帳所持者・難病者・いずれもない人で「家族」が、それぞれ最も高くなっています。



１．あなたの性別・年齢・家族などについて

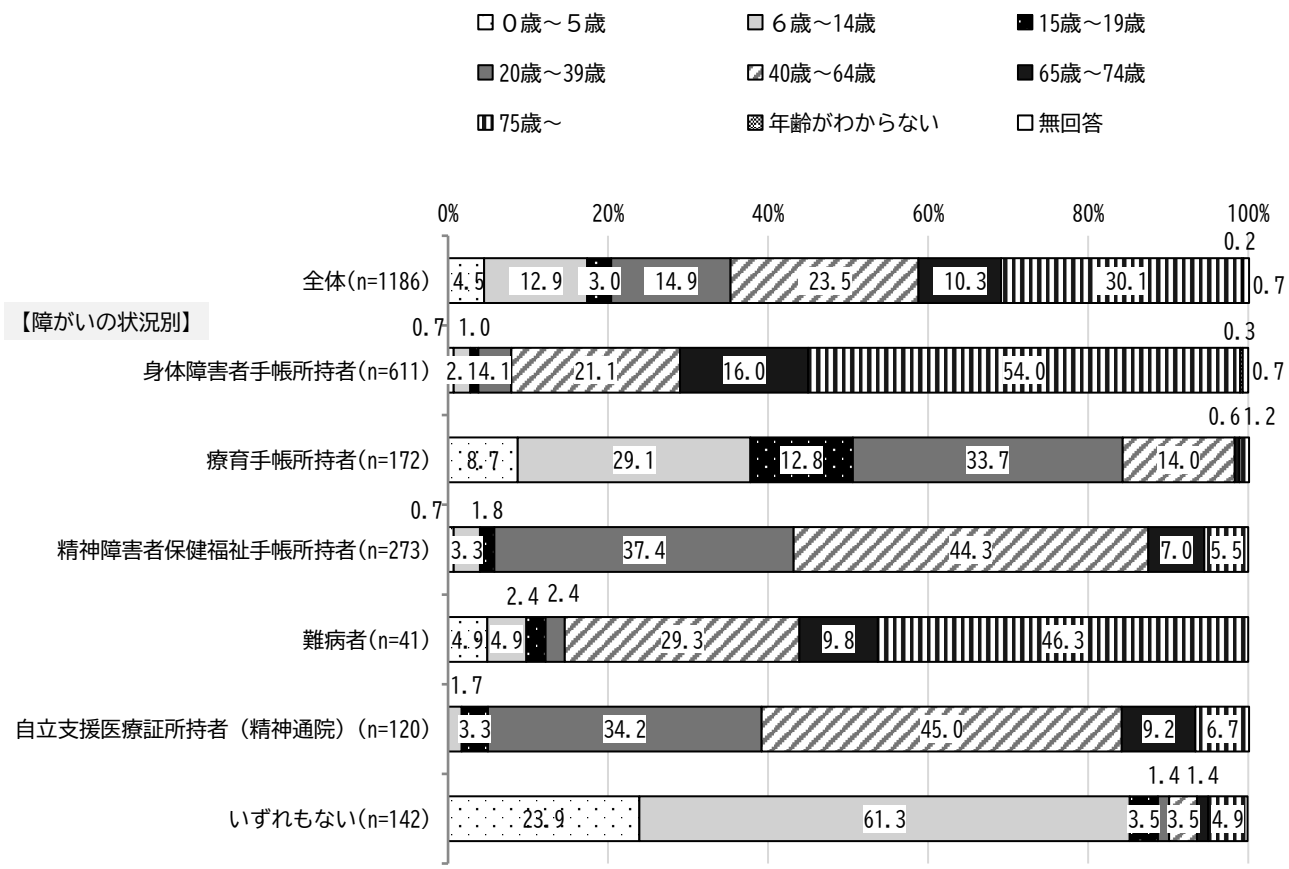
問２　あなたの性別は、次のうちどれですか。【○は１つ】

◆ 全体では、「男性」が 55.1%、「女性」が 43.2%となっています。
◆ 障がいの状況別にみると、身体障害者手帳所持者・療育手帳所持者・いずれもない人で「男性」が、精神障害者保健福祉手帳所持者・難病者・自立支援医療証所持者で「女性」が、それぞれ高くなっています。



問３　あなたの年齢（令和７年４月２日現在）をお答えください。【○は１つ】

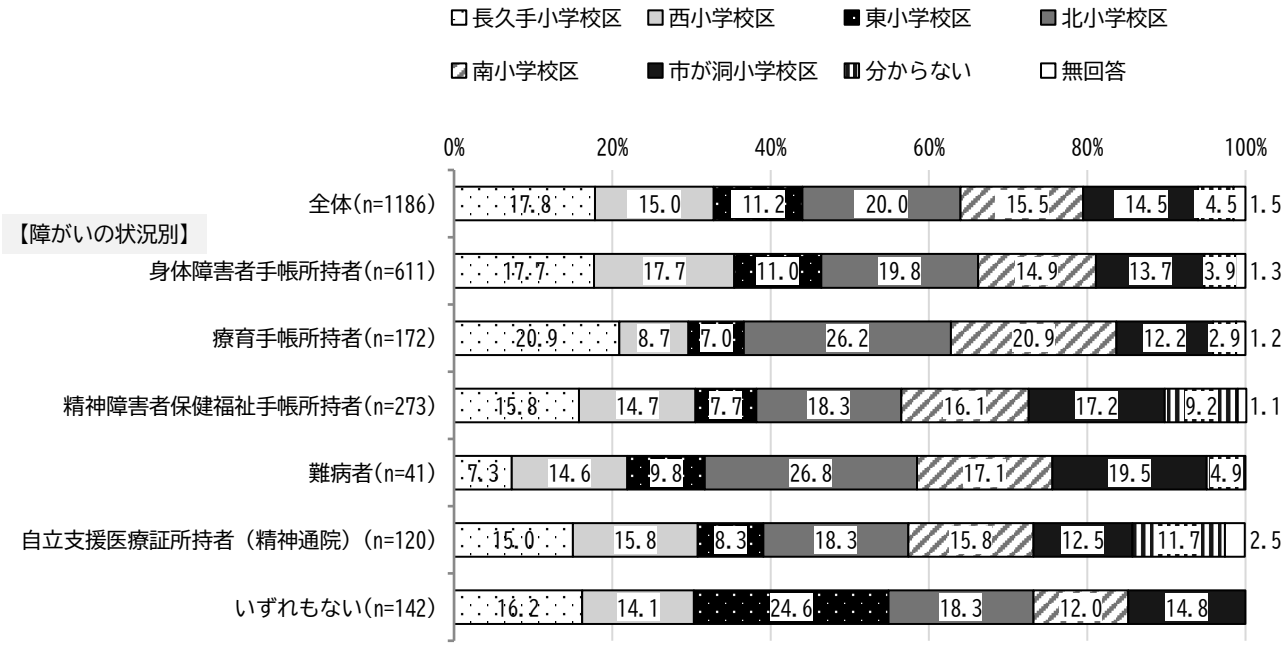
◆ 全体では、「75 歳～」が 30.1%と最も高く、次いで「40 歳～64 歳」が 23.5%、「20 歳～39 歳」が 14.9%となっています。
◆ 障がいの状況別にみると、身体障害者手帳所持者・難病者で「75 歳～」が、療育手帳所持者で「20 歳～39 歳」が、精神障害者保健福祉手帳所持者・自立支援医療証所持者で「40 歳～64 歳」が、いずれもない人で「６歳～14 歳」が、それぞれ最も高くなっています。



問４　あなたの住んでいる場所は、次のうちどれですか。【○は１つ】
（分からない場合はお住まいの地区名を記入してください）

◆ 全体では、「北小学校区」が 20.0%と最も高く、次いで「長久手小学校区」が 17.8%、「南小学校区」が 15.5%となっています。
学区別の人口と比較すると大きな差異はありません。

◆ 障がいの状況別にみると、身体障害者手帳所持者・療育手帳所持者・精神障害者保健福祉手帳所持者・難病者・自立支援医療証所持者で「北小学校区」が、いずれもない人で「東小学校区」が、それぞれ最も高くなっています。



問５　現在、あなたが一緒に暮らしている人や状況についてお答えください。あなたからみた続柄でお答えください。【○はいくつでも】

◆ 全体では、「父母」が 36.2%と最も高く、次いで「配偶者(夫または妻)」が 36.1%、「子ども」が 20.2%となっています。
◆ 障がいの状況別にみると、身体障害者手帳所持者・難病者で「配偶者(夫または妻)」が、療育手帳所持者・精神障害者保健福祉手帳所持者・自立支援医療証所持者・いずれもない人で「父母」が、それぞれ最も高くなっています。

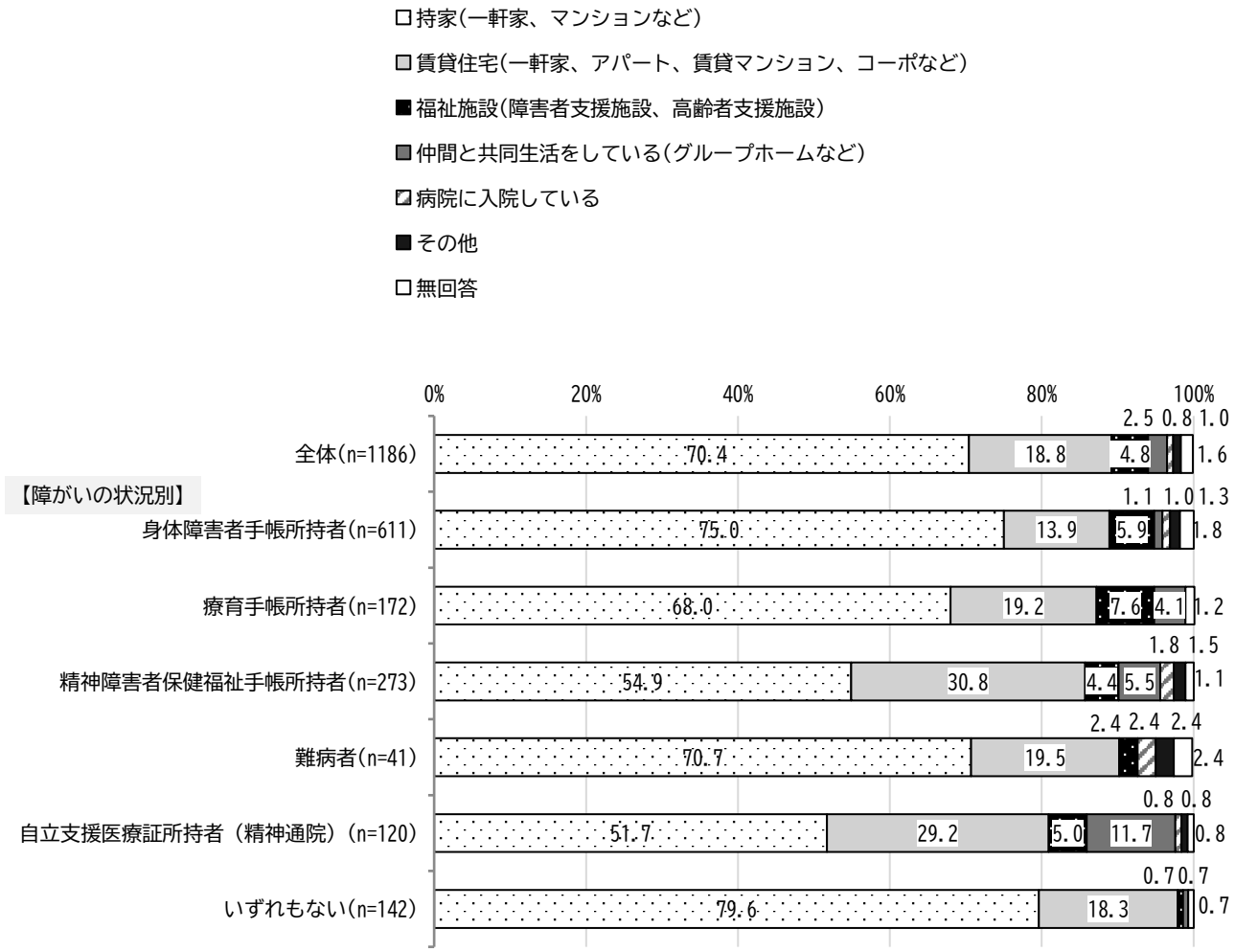
(%)

	父母	兄弟姉妹	子ども	祖父母	配偶者(夫または妻)	一人で暮らしている	友人、仲間、グループホーム	その他	無回答
全体(n=1186)	36.2	20.1	20.2	2.2	36.1	11.8	6.8	2.7	0.4
身体障害者手帳所持者(n=611)	11.1	5.7	29.0	0.2	55.5	13.6	6.9	2.3	0.2
療育手帳所持者(n=172)	86.6	50.0	2.9	2.9	3.5	1.2	10.5	2.3	0.0
精神障害者保健福祉手帳所持者(n=273)	37.7	13.6	15.8	2.9	26.7	19.4	8.8	5.5	0.0
難病者(n=41)	14.6	14.6	26.8	0.0	53.7	14.6	4.9	4.9	0.0
自立支援医療証所持者（精神通院）(n=120)	34.2	10.8	15.8	4.2	29.2	16.7	15.0	5.0	0.0
いずれもない(n=142)	88.7	62.7	7.7	7.7	4.9	1.4	1.4	0.7	0.0

主な「その他」の内容	件数
施設	11
特別養護老人ホーム	5
婚約者・パートナー・恋人	5
入院中	4
孫	4

問６　あなたが、現在暮らしているのはどちらですか。【○は１つ】

◆ 全体では、「持家」が 70.4%と最も高く、次いで「賃貸住宅」が 18.8%、「福祉施設」が 4.8%となっています。
◆ 障がいの状況別にみると、それぞれで「持家」が最も高くなっています。



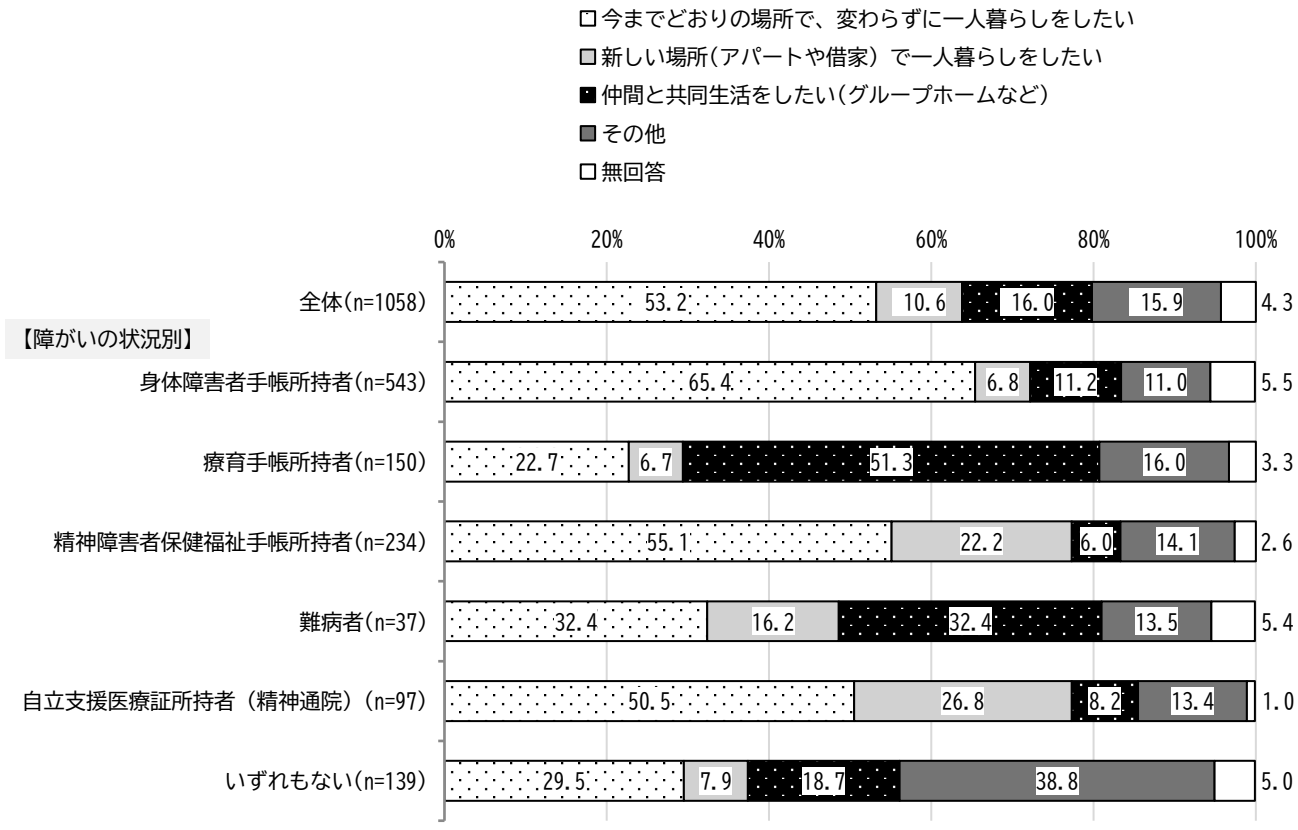
主な「その他」の内容	件数
有料老人ホーム	4
老人ホーム	2

問６で「１．持家」「２．賃貸住宅」を選んだ方に伺います

問７　もし、現在一緒に暮らしている人が一緒に暮らせなくなってしまった時、あなたはどのような生活を望みますか。【○は１つ】

◆ 全体では、「今までどおりの場所で、変わらずに一人暮らしをしたい」が 53.2%で最も高く、次いで「仲間と共同生活をしたい(グループホームなど)」が 16.0%、「新しい場所(アパートや借家）で一人暮らしをしたい」が 10.6%となっています。

◆ 障がいの状況別にみると、身体障害者手帳所持者・精神障害者保健福祉手帳所持者・自立支援医療証所持者・いずれもない人で「今までどおりの場所で、変わらずに一人暮らしをしたい」が、療育手帳所持者で「仲間と共同生活をしたい(グループホームなど)」が、それぞれ最も高くなっています。難病者では「今までどおりの場所で、変わらずに一人暮らしをしたい」と「仲間と共同生活をしたい(グループホームなど)」が最も高くなっています。



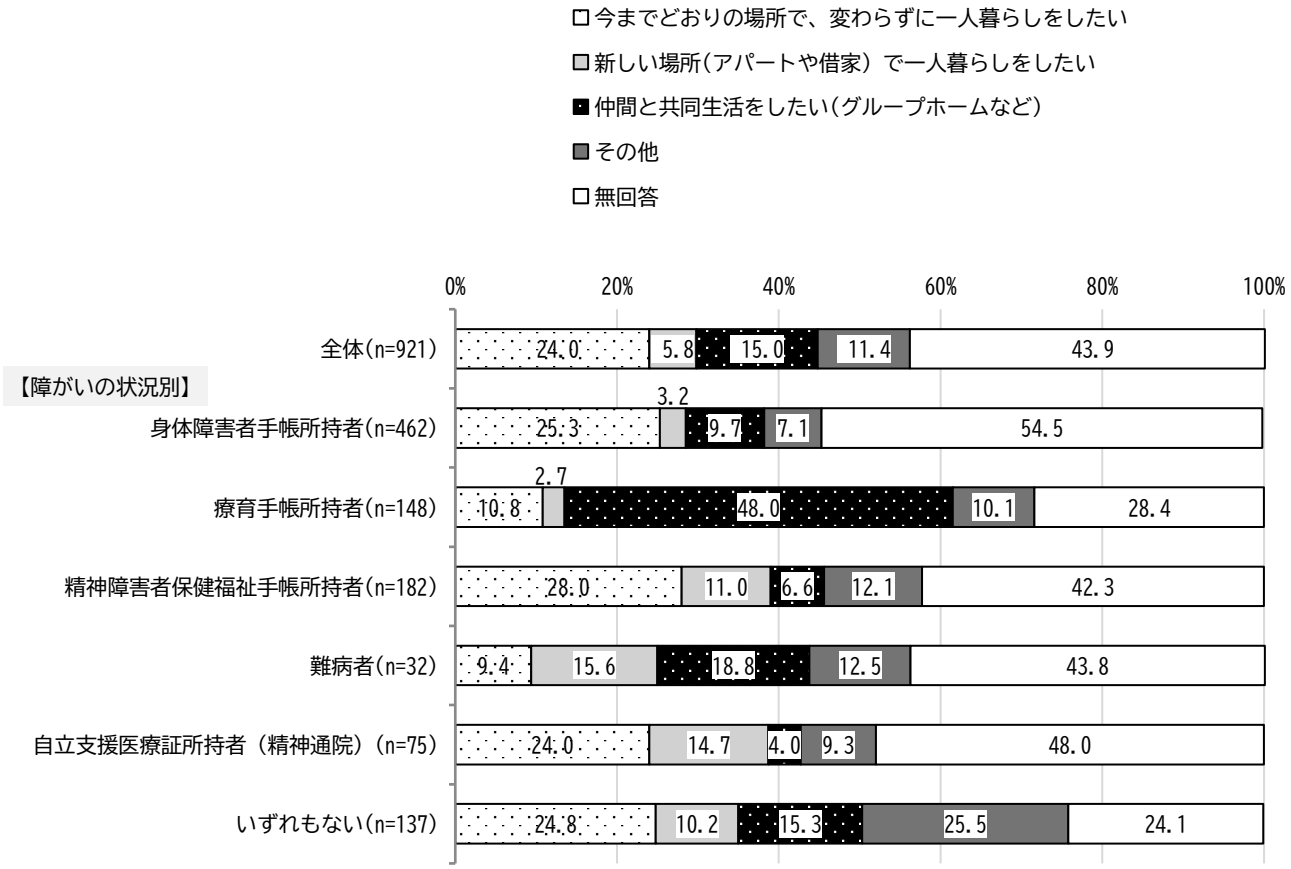
主な「その他」の内容	件数
祖父母との生活	30
親戚・親族との生活	11
施設に入る	8
実家に戻る	7

※家族がいる人で、家族の希望が分かる場合は、以下に記入してください。

問7　家族の希望

◆ 全体では、「今までどおりの場所で、変わらずに一人暮らしをしたい」が 24.0%で最も高く、次いで「仲間と共同生活をしたい(グループホームなど)」が 15.0%、「新しい場所(アパートや借家）で一人暮らしをしたい」が 5.8%となっています。

◆ 障がいの状況別にみると、身体障害者手帳所持者・精神障害者保健福祉手帳所持者・自立支援医療証所持者・いずれもない人で「今までどおりの場所で、変わらずに一人暮らしをしたい」が、療育手帳所持者・難病者で「仲間と共同生活をしたい」が、それぞれ最も高くなっています。

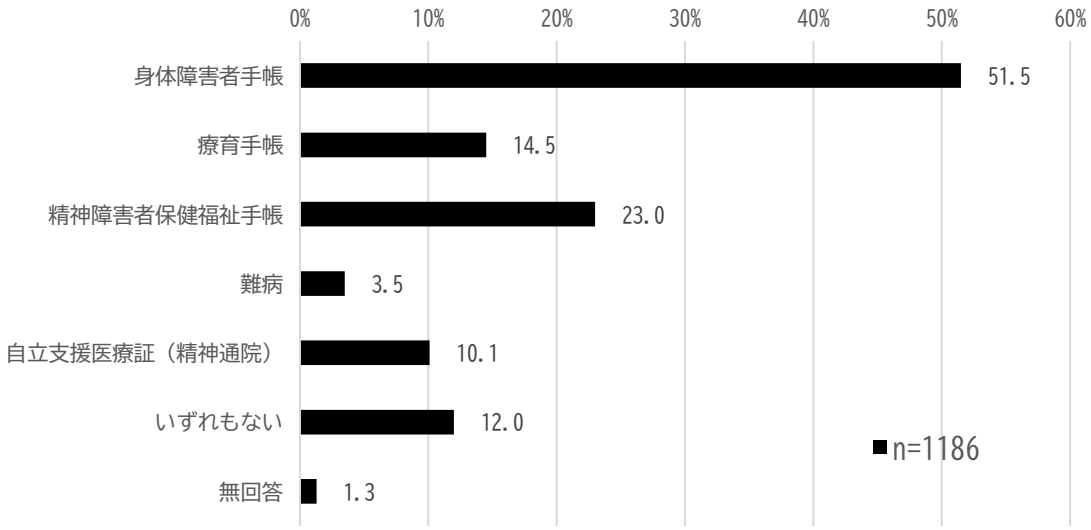


主な「その他」の内容	件数
祖父母との生活	15
親戚・親族との生活	6
施設に入る	5

２．あなたの障がいの状況について

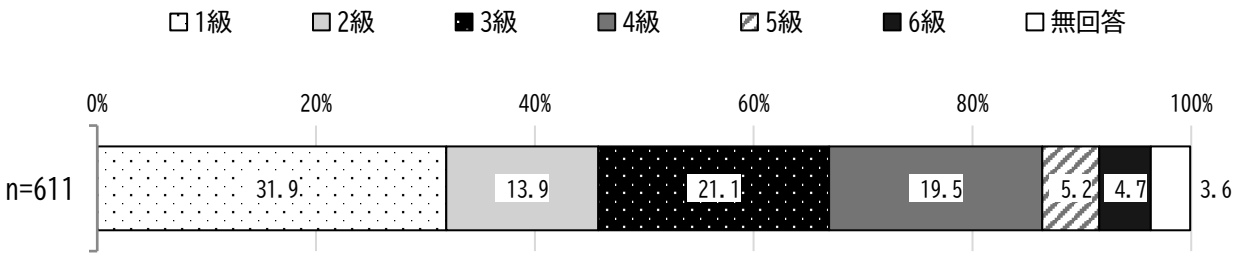
問８　あなたは、以下のものを持っていますか。また、その等級はいくつですか。
【あてはまるものに○をし、等級をご記入ください】

◆「身体障害者手帳所持者」が 51.5%と最も高く、次いで「精神障害者保健福祉手帳所持者」が 23.0%、「療育手帳所持者」が 14.5%となっています。



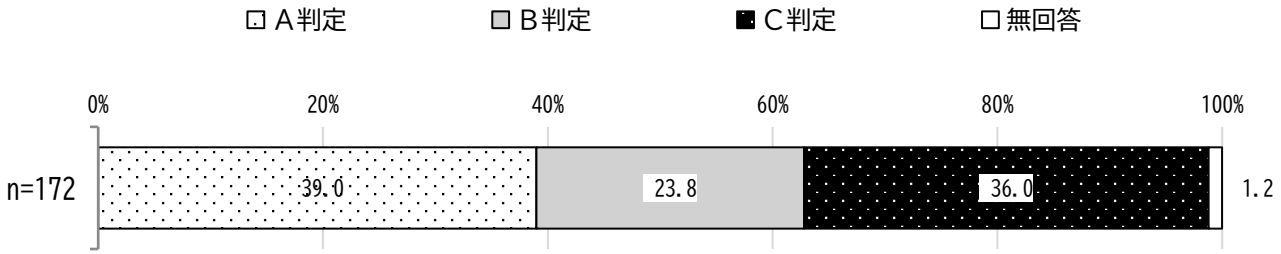
問８－１　身体障害者手帳の等級

◆「１級」が 31.9%と最も高く、次いで「３級」が 21.1%、「４級」が 19.5%となっています。



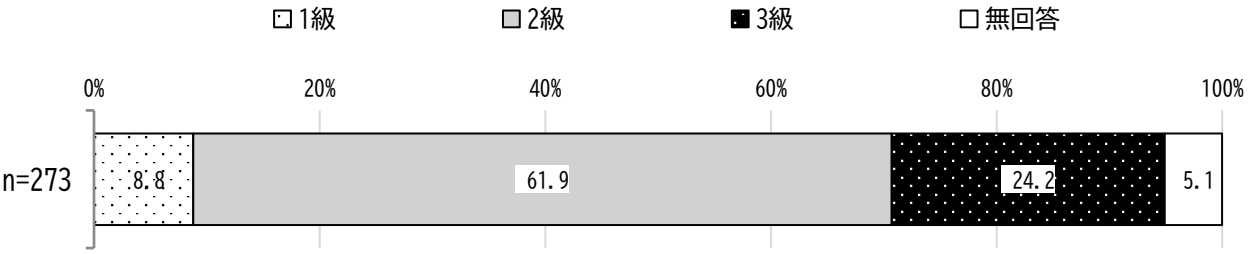
問８－２　療育手帳所持者判定

◆ 「Ａ判定」が 39.0%と最も高く、次いで「Ｃ判定」が 36.0%、「Ｂ判定」が 23.8%となっています。



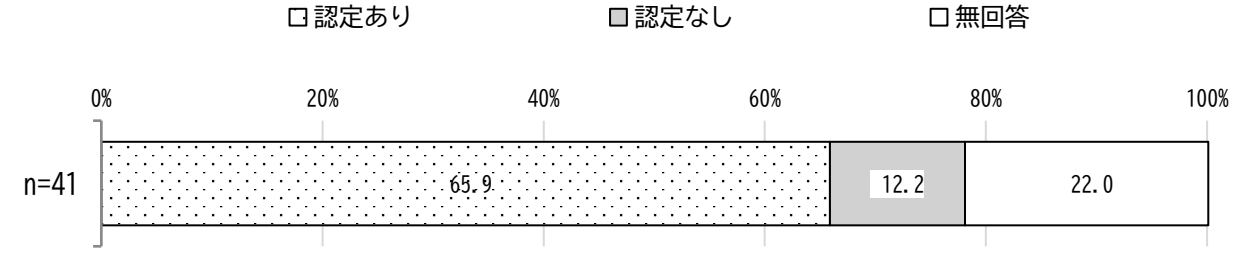
問８－３　精神障害者保健福祉手帳の等級

◆ 「２級」が 61.9%と最も高く、次いで「３級」が 24.2%、「１級」が 8.8%となっています。



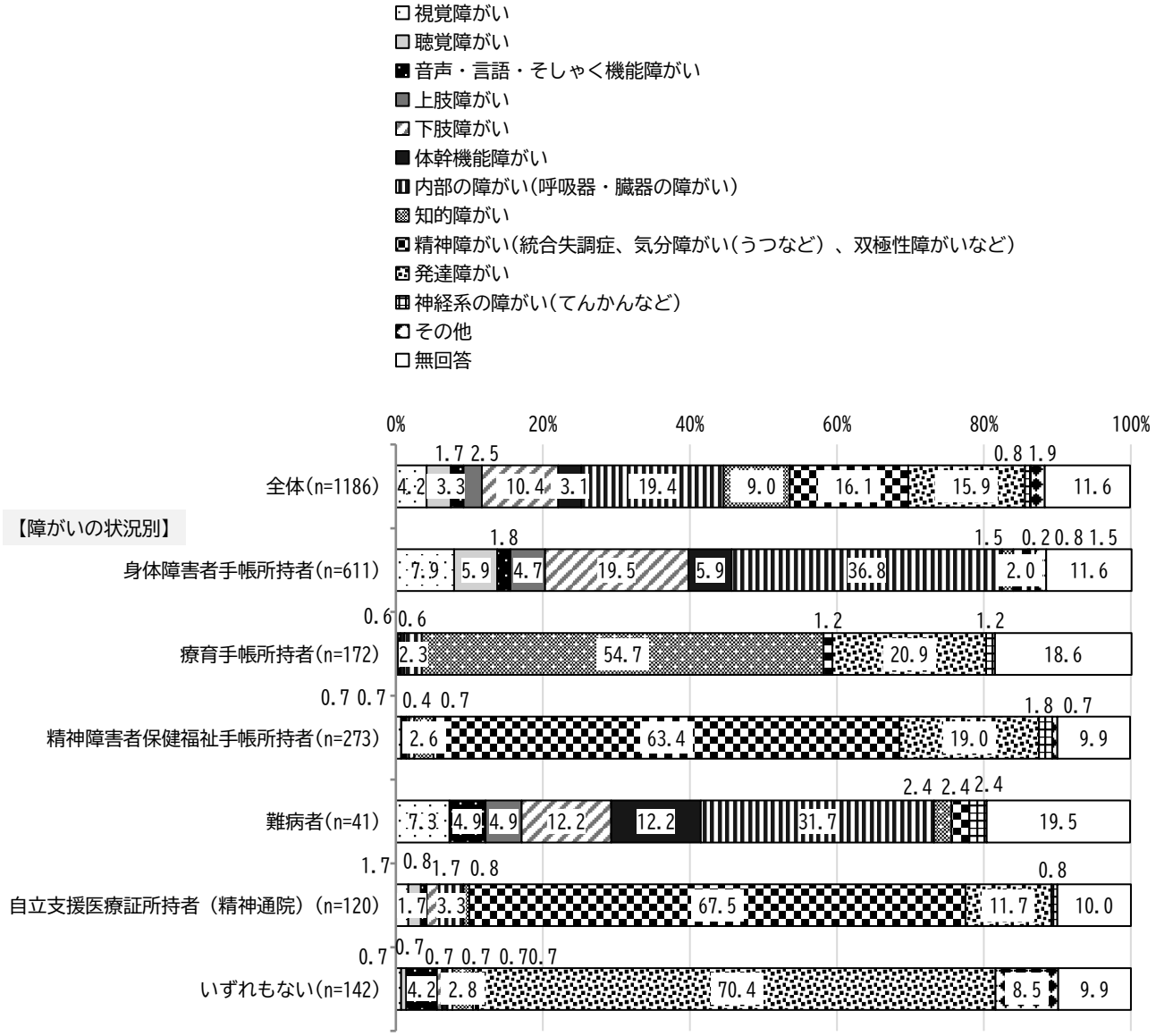
問８－４　難病の認定の有無

◆ 「認定あり」が 65.9%となっており、「認定なし」が 12.2%となっています。



問９　主になる障がいとなるものは次のうちどれですか。２つ以上障がいのある人は、ご自分で主になる障がいと考えているものをお選びください。【○は１つ】

◆ 全体では、「内部の障がい(呼吸器・臓器の障がい）」が 19.4%と最も高くなっており、次いで「精神障がい(統合失調症、気分障がい(うつなど）、双極性障がいなど)」が 16.1%、「発達障がい」が 15.9%となっています。
◆ 障がいの状況別にみると、身体障害者手帳所持者では「内部の障がい」が最も高くなっており、次いで「下肢障がい」、「視覚障がい」が高くなっています。

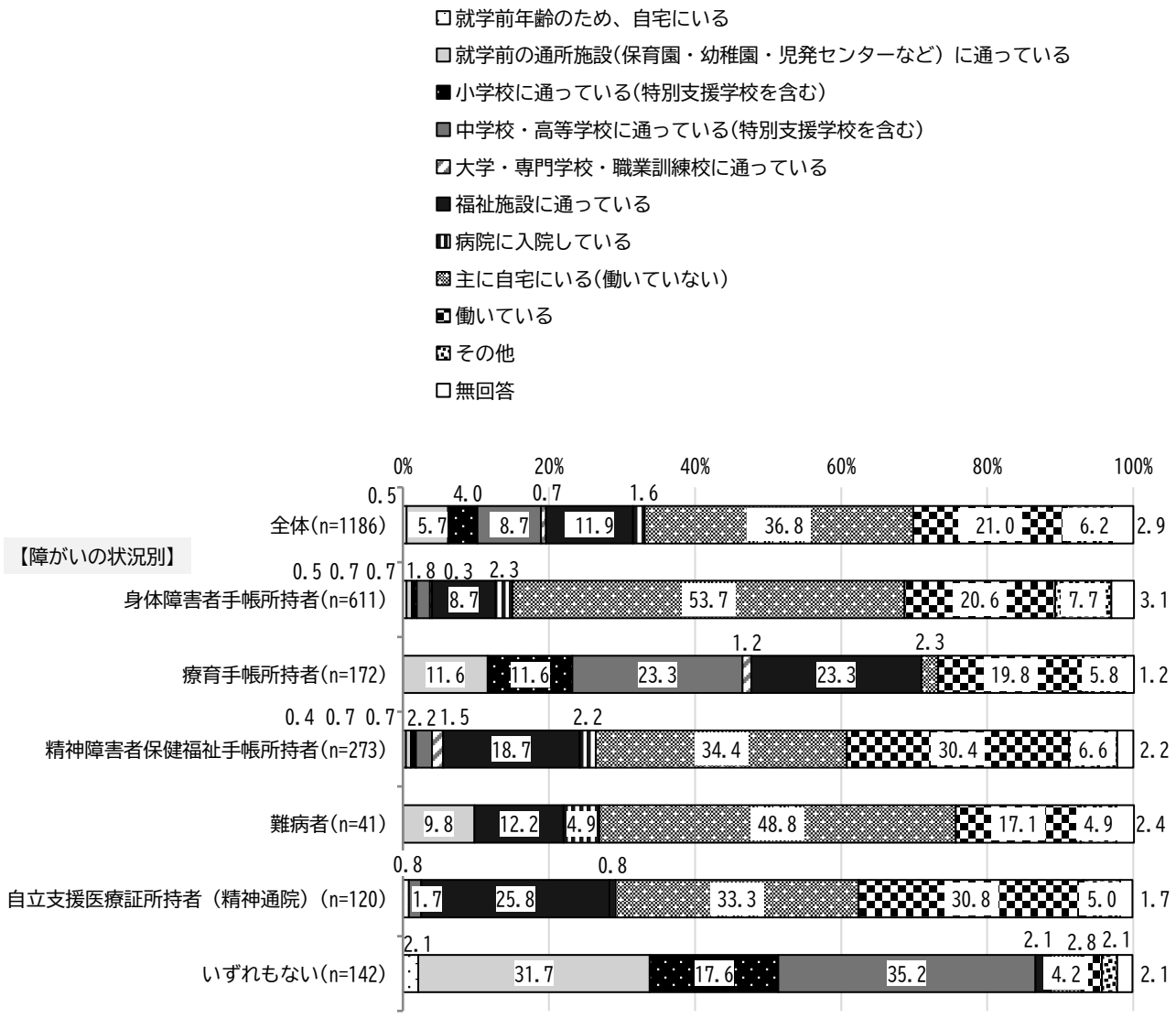


主な「その他」の内容	件数
ペースメーカー	7

3．生活の支援について

問 10　あなたは平日の日中、どのように過ごしていますか。【○は１つ】

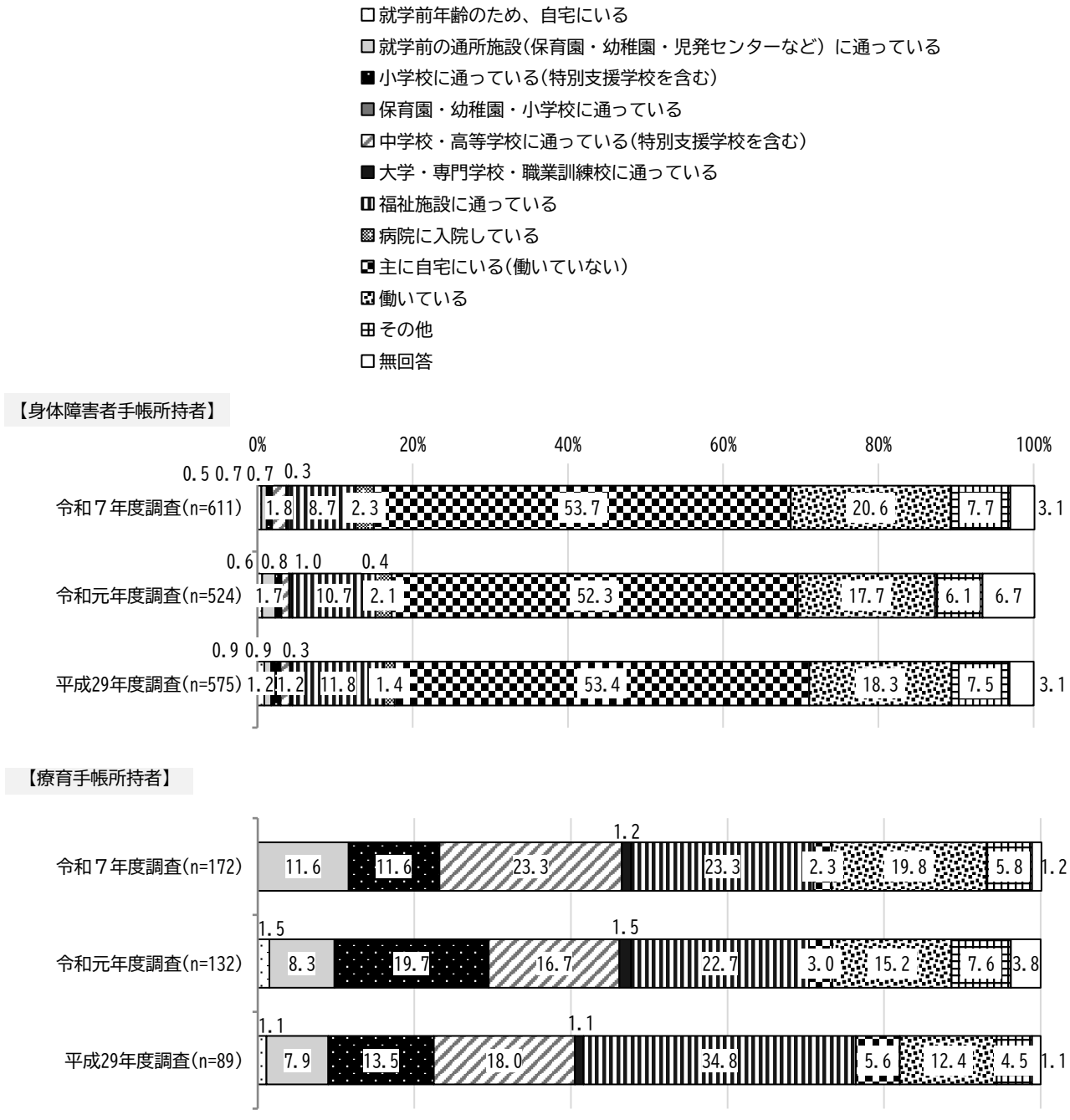
◆ 全体では、「主に自宅にいる(働いていない）」が 36.8%と最も高くなっており、次いで「働いている」が 21.0%、「福祉施設に通っている」が 11.9%となっています。
◆ 障がいの状況別にみると、身体障害者手帳所持者・精神障害者保健福祉手帳所持者・難病者・自立支援医療証所持者で「主に自宅にいる」が、いずれもない人で「中学校・高等学校に通っている」が、療育手帳所持者では「中学校・高等学校に通っている」と「福祉施設に通っている」が、それぞれ最も高くなっています。



主な「その他」の内容	件数
透析	3
寝ている	2

前回・前々回調査との比較

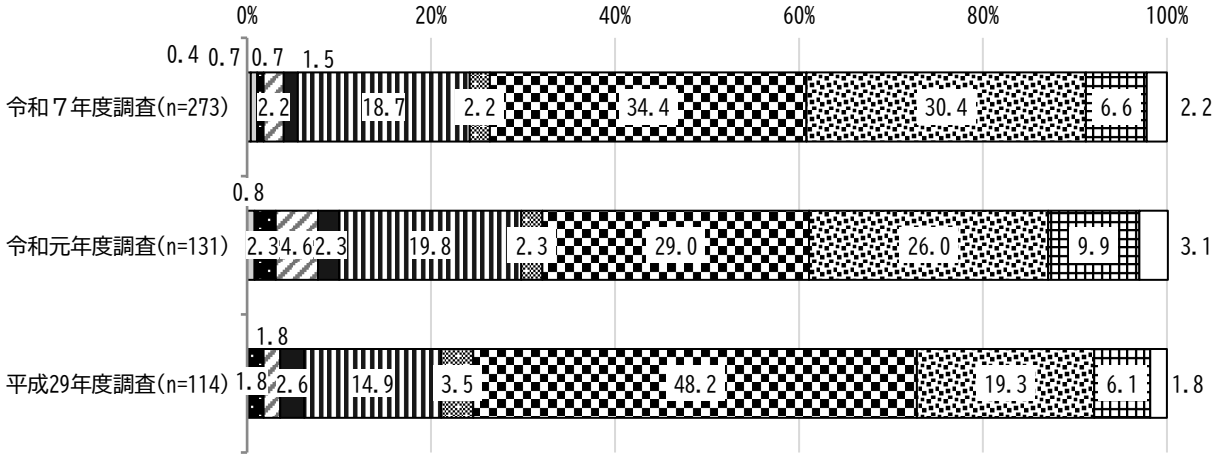
◆ 前回・前々回調査と比較すると、身体障害者手帳所持者で「福祉施設に通っている」、療育手帳所持者で「中学校・高等学校に通っている(特別支援学校を含む)」がそれぞれ減少しています。また、精神障害者保健福祉手帳所持者で「働いている」、難病者医療受給者証所持者で「主に自宅にいる(働いていない)」がそれぞれ増加しています。



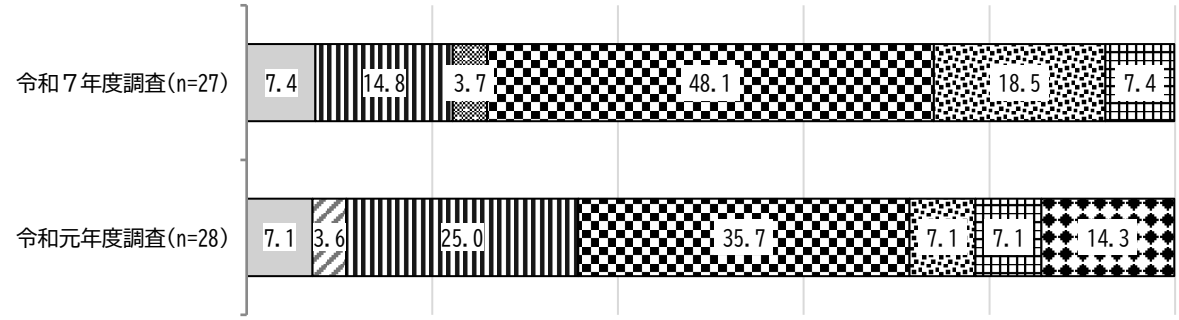
※　令和元年度調査・令和７年度調査には「保育園・幼稚園・小学校に通っている」の選択肢はありません。

□就学前年齢のため、自宅にいる
□就学前の通所施設(保育園・幼稚園・児発センターなど）に通っている
■小学校に通っている(特別支援学校を含む)
■保育園・幼稚園・小学校に通っている
▨中学校・高等学校に通っている(特別支援学校を含む)
■大学・専門学校・職業訓練校に通っている
▥福祉施設に通っている
▩病院に入院している
▣主に自宅にいる(働いていない)
▣働いている
▦その他
□無回答

【精神障害者保健福祉手帳所持者】



【難病医療受給者証所持者】



※「難病者」のうち、「認定あり」と回答された方を「難病医療受給者証所持者」と見なし、前回調査と比較しています。

問 11　あなたが生活していく上での収入は何ですか。【○はいくつでも】

◆ 全体では、「年金・手当など」が 56.3%と最も高くなっており、次いで「家族に養ってもらっている・親戚などの援助」が 38.1%、「勤め先の給与・賃金」が 19.6%となっています。
◆ 障がいの状況別にみると、身体障害者手帳所持者・精神障害者保健福祉手帳所持者・難病者・自立支援医療証所持者で「年金・手当など」が、療育手帳所持者・いずれもない人で「家族に養ってもらっている・親戚などの援助」が、それぞれ最も高くなっています。

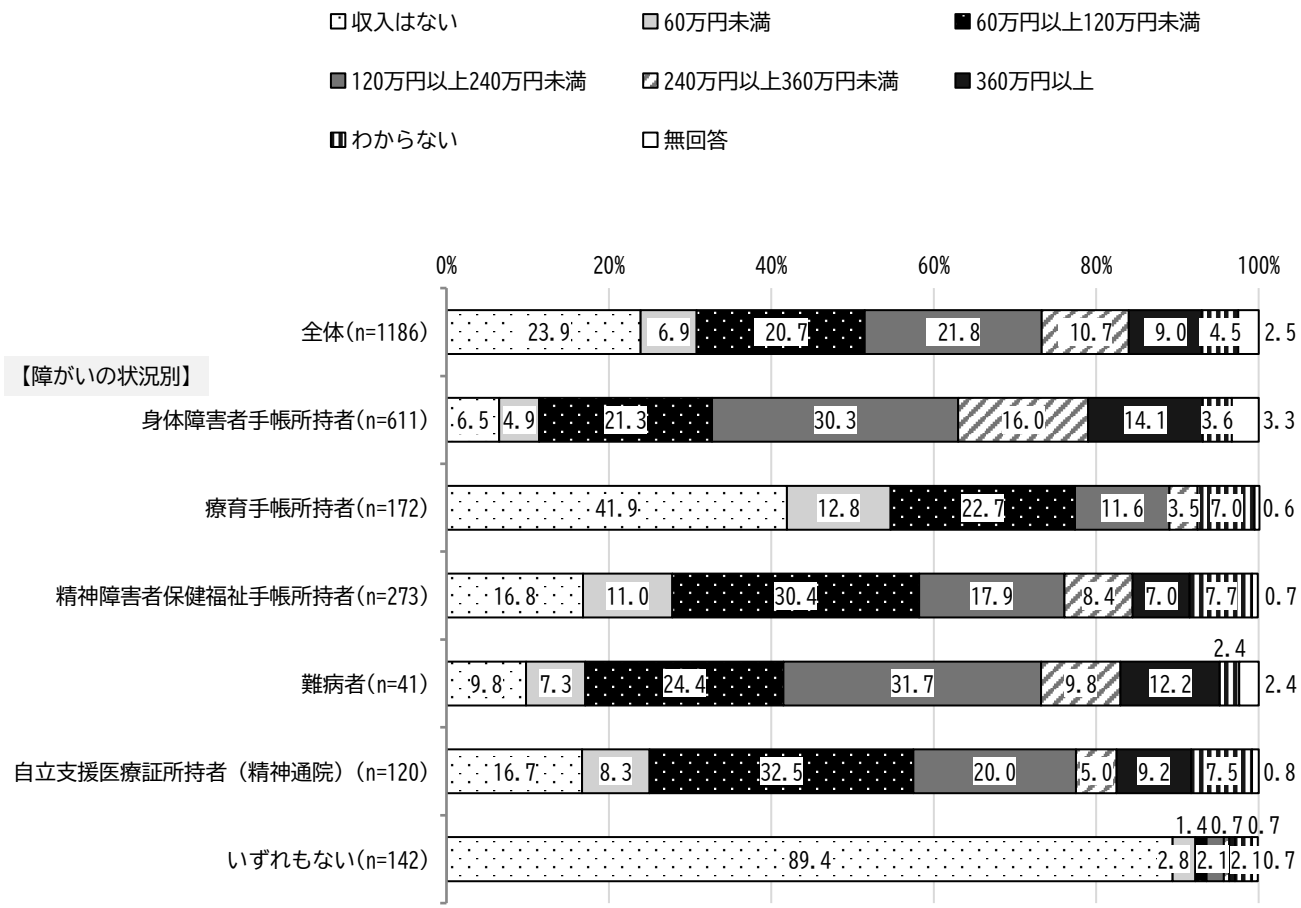
(%)

	勤め先の給与・賃金	通所施設・事業所などの賃金・工賃	事業収入(自営業など)	財産収入(家賃収入など)	年金・手当など	家族に養ってもらっている・親戚などの援助	生活保護費	その他	無回答
全体(n=1186)	19.6	4.2	2.2	3.0	56.3	38.1	2.7	1.7	1.3
身体障害者手帳所持者(n=611)	16.9	0.5	3.3	4.7	76.1	18.3	2.0	1.1	1.3
療育手帳所持者(n=172)	19.2	13.4	0.6	0.0	33.1	71.5	0.0	1.2	0.0
精神障害者保健福祉手帳所持者(n=273)	32.2	10.3	1.8	1.8	55.7	39.2	6.6	2.6	0.7
難病者(n=41)	12.2	2.4	0.0	7.3	68.3	29.3	0.0	0.0	2.4
自立支援医療証所持者（精神通院）(n=120)	32.5	13.3	3.3	2.5	56.7	31.7	12.5	1.7	0.8
いずれもない(n=142)	4.9	0.7	0.7	0.0	4.9	87.3	0.7	2.1	0.7

主な「その他」の内容	件数
貯金	2

問 12　あなた自身の年間の収入(年金や手当を含む)は、いくらですか。【○は１つ】

◆ 全体では、「収入はない」が 23.9%と最も高くなっており、次いで「120 万円以上 240 万円未満」が 21.8%、「60 万円以上 120 万円未満」が 20.7%となっています。
◆ 障がいの状況別にみると、身体障害者手帳所持者・難病者で「120 万円以上 240 万円未満」が、療育手帳所持者・いずれもない人で「収入はない」が、精神障害者保健福祉手帳所持者・自立支援医療証所持者で「60 万円以上 120 万円未満」が、それぞれ最も高くなっています。



問 13　現在、あなたは、悩んでいることや相談したいことがありますか。
【○はいくつでも】

◆ 全体では、「自分の健康や治療のこと」が 38.4%と最も高くなっており、次いで「特にない」が 30.9%、「生活費など経済的なこと」が 25.0%となっています。
◆ 障がいの状況別にみると、身体障害者手帳所持者・精神障害者保健福祉手帳所持者・難病者で「自分の健康や治療のこと」が、療育手帳所持者・いずれもない人で「特にない」が、自立支援医療証所持者では「自分の健康や治療のこと」と「生活費など経済的なこと」が、それぞれ最も高くなっています。
◆ 前回・前々回調査と比較すると、身体障害者手帳所持者と精神障害者保健福祉手帳所持者で「自分の健康や治療のこと」が増加しており、療育手帳所持者では「仕事や就職のこと」が減少傾向です。

（%）

	自分の健康や治療のこと	生活費など経済的なこと	自分の介助や介護のこと	家事（食事・洗濯・掃除）のこと	住まいのこと	外出や移動のこと	就学や進学のこと	仕事や就職のこと	恋愛や結婚のこと
全体(n=1186)	38.4	25.0	17.5	12.1	8.3	14.7	7.0	12.8	3.9
【身体障害者手帳所持者】									
令和７年度調査(n=611)	44.4	21.3	24.5	11.3	6.5	19.0	1.3	5.1	1.0
令和元年度調査(n=524)	37.4	17.4	19.8	7.4	5.2	15.6	1.9	4.6	1.3
平成 29 年度調査(n=575)	41.0	17.7	15.8	8.5	5.6	18.8	0.9	5.0	1.7
【療育手帳所持者】									
令和７年度調査(n=172)	23.8	17.4	14.5	9.9	10.5	13.4	18.0	14.0	5.2
令和元年度調査(n=132)	22.0	18.2	22.0	14.4	7.6	18.9	22.0	15.9	5.3
平成 29 年度調査(n=89)	23.6	15.7	12.4	10.1	7.9	16.9	14.6	20.2	5.6
【精神障害者保健福祉手帳所持者】									
令和７年度調査(n=273)	50.9	49.5	15.0	20.9	16.8	13.9	2.9	33.3	12.1
令和元年度調査(n=131)	35.9	35.1	13.0	15.3	11.5	13.7	5.3	29.8	8.4
平成 29 年度調査(n=114)	35.1	38.6	7.9	19.3	11.4	10.5	0.9	28.9	11.4
【難病者】									
令和７年度調査(n=41)	58.5	26.8	41.5	29.3	14.6	29.3	4.9	4.9	4.9
【難病医療受給者証所持者】									
令和７年度調査(n=27)	66.7	33.3	40.7	25.9	22.2	25.9	7.4	7.4	3.7
令和元年度調査(n=28)	53.6	25.0	35.7	3.6	7.1	10.7	7.1	7.1	0.0
【自立支援医療証所持者（精神通院）】									
令和７年度調査(n=120)	56.7	56.7	15.8	18.3	17.5	13.3	2.5	34.2	13.3
いずれもない(n=142)	9.9	3.5	2.1	2.1	0.7	2.8	26.8	6.3	0.7

（%）

	緊急時や災害時のこと	話し相手のこと	福祉サービスのこと	家族や地域での人間関係のこと	職場や施設内での人間関係のこと	その他	特にない	無回答
全体(n=1186)	13.8	7.0	11.0	8.9	6.2	3.0	30.9	2.3
【身体障害者手帳所持者】								
令和７年度調査(n=611)	16.7	5.4	11.3	5.2	2.8	1.1	30.8	2.9
令和元年度調査(n=524)	16.6	3.8	11.1	4.6	1.1	2.9	31.5	3.8
平成 29 年度調査(n=575)	18.1	2.4	6.6	4.2	2.1	1.6	31.5	7.0
【療育手帳所持者】								
令和７年度調査(n=172)	16.3	8.1	18.0	7.0	11.0	4.7	36.0	0.6
令和元年度調査(n=132)	17.4	5.3	18.2	8.3	13.6	6.1	28.0	1.5
平成 29 年度調査(n=89)	13.5	5.6	11.2	9.0	4.5	6.7	25.8	6.7
【精神障害者保健福祉手帳所持者】								
令和７年度調査(n=273)	13.6	12.8	13.6	19.4	15.4	5.1	14.3	1.1
令和元年度調査(n=131)	9.9	8.4	11.5	13.7	16.0	6.1	18.3	1.5
平成 29 年度調査(n=114)	9.6	7.9	6.1	14.9	11.4	7.0	16.7	8.8
【難病者】								
令和７年度調査(n=41)	31.7	7.3	7.3	4.9	4.9	4.9	17.1	2.4
【難病医療受給者証所持者】								
令和７年度調査(n=27)	33.3	7.4	3.7	3.7	7.4	3.7	18.5	0.0
令和元年度調査(n=28)	21.4	7.1	17.9	10.7	3.6	0.0	32.1	3.6
【自立支援医療証所持者（精神通院）】								
令和７年度調査(n=120)	15.0	10.0	11.7	20.8	20.0	4.2	13.3	1.7
いずれもない(n=142)	2.8	2.8	2.1	7.7	2.1	7.0	57.0	0.0

※「難病者」のうち、「認定あり」と回答された方を「難病医療受給者証所持者」と見なし、前回調査と比較しています。

問 14　あなたが、悩んでいることを相談する相手は誰(どこ)ですか。【○はいくつでも】

◆ 全体では、「家族・親戚」が 77.2%と最も高くなっており、次いで「友人・知人」が 22.9%、「医療機関(病院、診療所など)」が 19.5%となっています。
◆ 障がいの状況別にみると、それぞれで「家族・親戚」が、最も高くなっています。

(%)

	家族・親戚	友人・知人	学校・職場	相談支援事業所	市役所	こどもの発達相談室	保健センター	子育て支援センター	民生委員・児童委員	スクールソーシャルワーカー
全体(n=1186)	77.2	22.9	9.5	11.0	5.5	1.0	0.6	0.6	1.3	0.2
身体障害者手帳所持者(n=611)	80.9	24.7	4.3	5.2	6.1	0.0	0.5	0.3	2.3	0.0
療育手帳所持者(n=172)	79.7	11.0	25.6	27.9	4.7	3.5	0.6	0.6	0.6	0.0
精神障害者保健福祉手帳所持者(n=273)	60.4	25.6	6.6	16.5	6.6	0.0	0.7	0.0	0.7	0.7
難病者(n=41)	82.9	31.7	2.4	9.8	4.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
自立支援医療証所持者（精神通院）(n=120)	58.3	23.3	4.2	15.0	5.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
いずれもない(n=142)	93.0	21.8	23.2	12.7	2.1	4.2	1.4	2.8	0.0	0.0

(%)

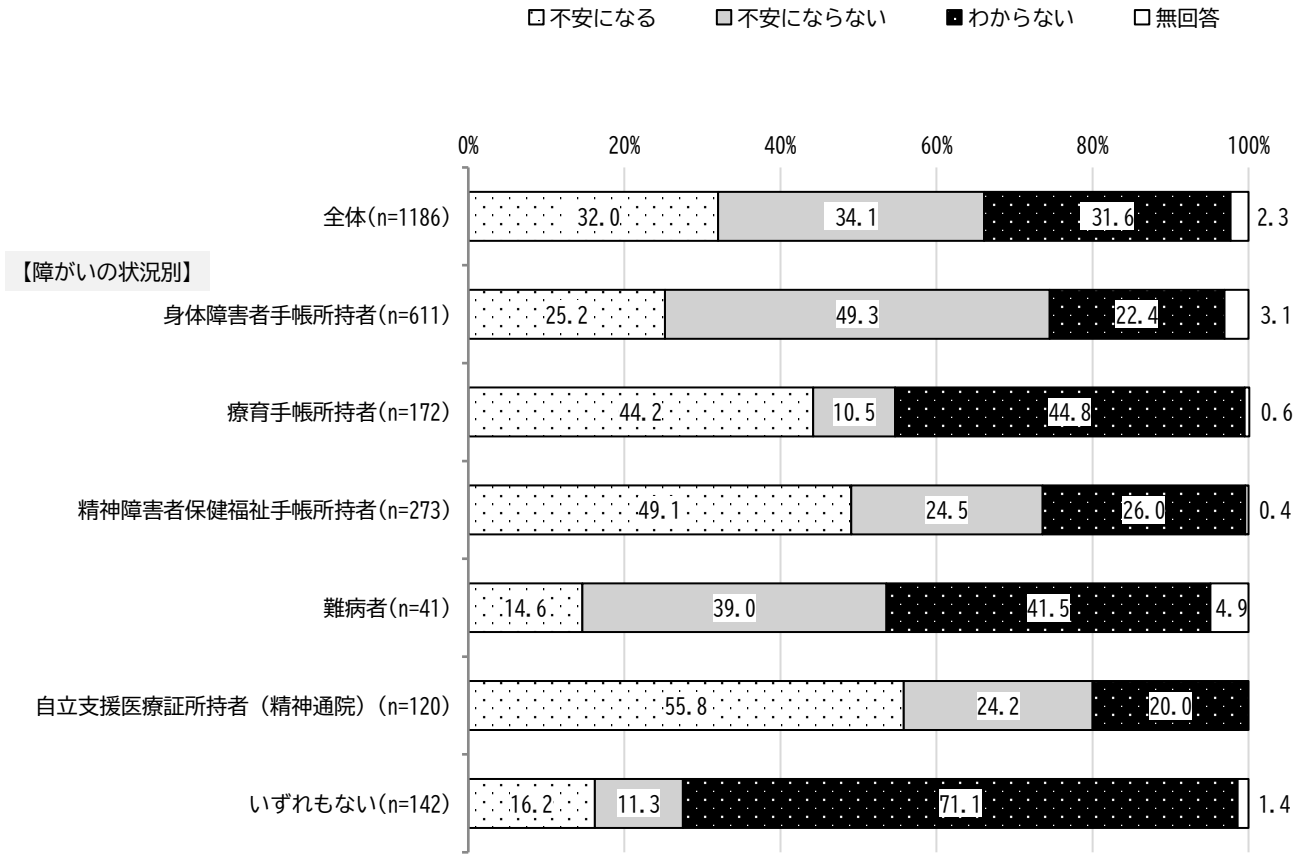
	社会福祉協議会	通っている福祉施設	公共職業安定所（ハローワーク）	医療機関（病院、診療所など）	ホームヘルパー・訪問看護師	インターネット・SNS	どこに相談したらよいかわからない	いない	その他	無回答
全体(n=1186)	7.8	10.7	0.8	19.5	8.9	3.1	2.1	3.8	4.8	2.1
身体障害者手帳所持者(n=611)	6.9	4.7	0.2	18.2	10.0	2.0	2.0	2.3	3.8	2.0
療育手帳所持者(n=172)	15.1	27.3	0.0	16.9	5.2	2.9	1.2	3.5	5.8	2.3
精神障害者保健福祉手帳所持者(n=273)	9.5	10.3	2.2	31.1	14.7	8.1	4.4	8.4	7.0	0.7
難病者(n=41)	14.6	7.3	0.0	34.1	24.4	4.9	0.0	0.0	2.4	4.9
自立支援医療証所持者（精神通院）(n=120)	10.0	13.3	2.5	36.7	20.0	8.3	1.7	6.7	6.7	1.7
いずれもない(n=142)	1.4	19.0	0.7	6.3	0.7	0.0	0.0	4.2	6.3	0.7

主な「その他」の内容	件数
ケアマネージャー	7
放課後等デイサービス	6

４．成年後見制度・権利擁護について

問 15　あなたは、自分のお金の管理や契約を結ぶときに不安になることがありますか。【○は１つ】

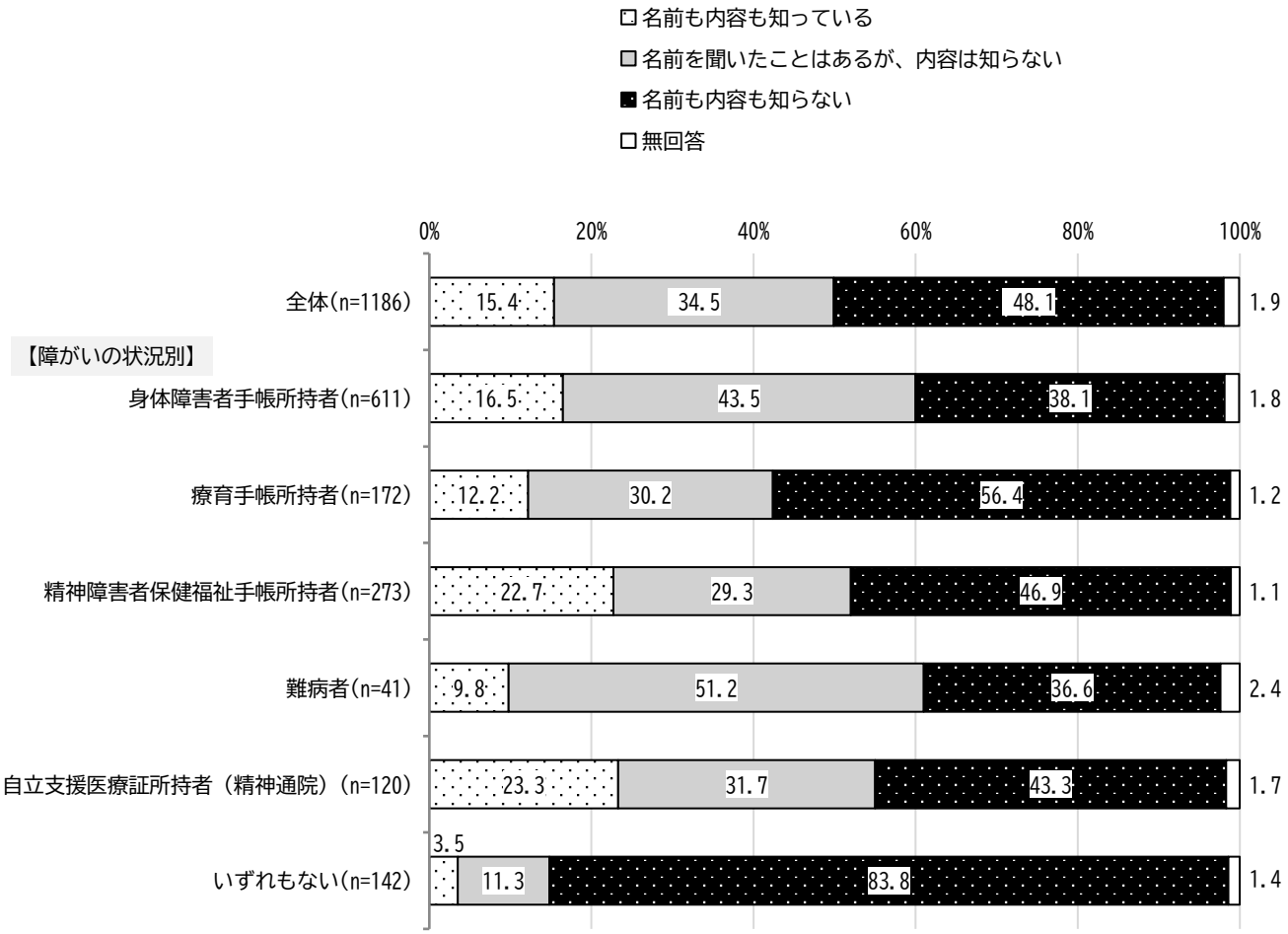
◆ 全体では、「不安にならない」が 34.1%と最も高くなっており、次いで「不安になる」が 32.0%、「わからない」が 31.6%となっています。
◆ 障がいの状況別にみると、身体障害者手帳所持者で「不安にならない」が、療育手帳所持者・難病者・いずれもない人で「わからない」が、精神障害者保健福祉手帳所持者・自立支援医療証所持者で「不安になる」が、それぞれ最も高くなっています。



問 16　あなたは、日常生活自立支援事業について知っていますか。【○は１つ】

◆ 全体では、「名前も内容も知らない」が 48.1%と最も高くなっており、次いで「名前を聞いたことはあるが、内容は知らない」が 34.5%、「名前も内容も知っている」が 15.4%となっています。

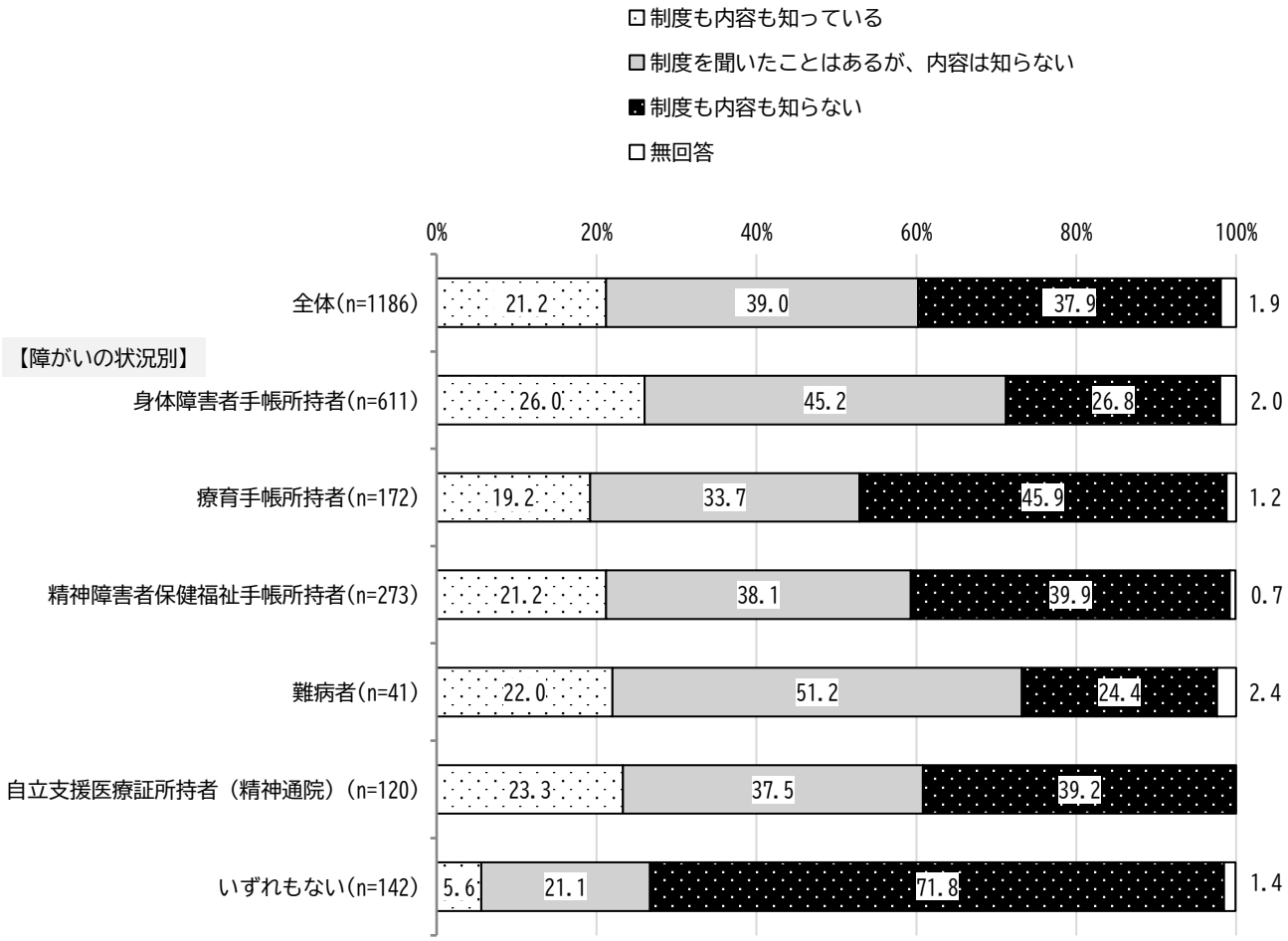
◆ 障がいの状況別にみると、身体障害者手帳所持者・難病者で「名前を聞いたことはあるが、内容は知らない」が、療育手帳所持者・精神障害者保健福祉手帳所持者・自立支援医療証所持者・いずれもない人で「名前も内容も知らない」が、それぞれ最も高くなっています。



問 17　あなたは、成年後見制度について知っていますか。【○は１つ】

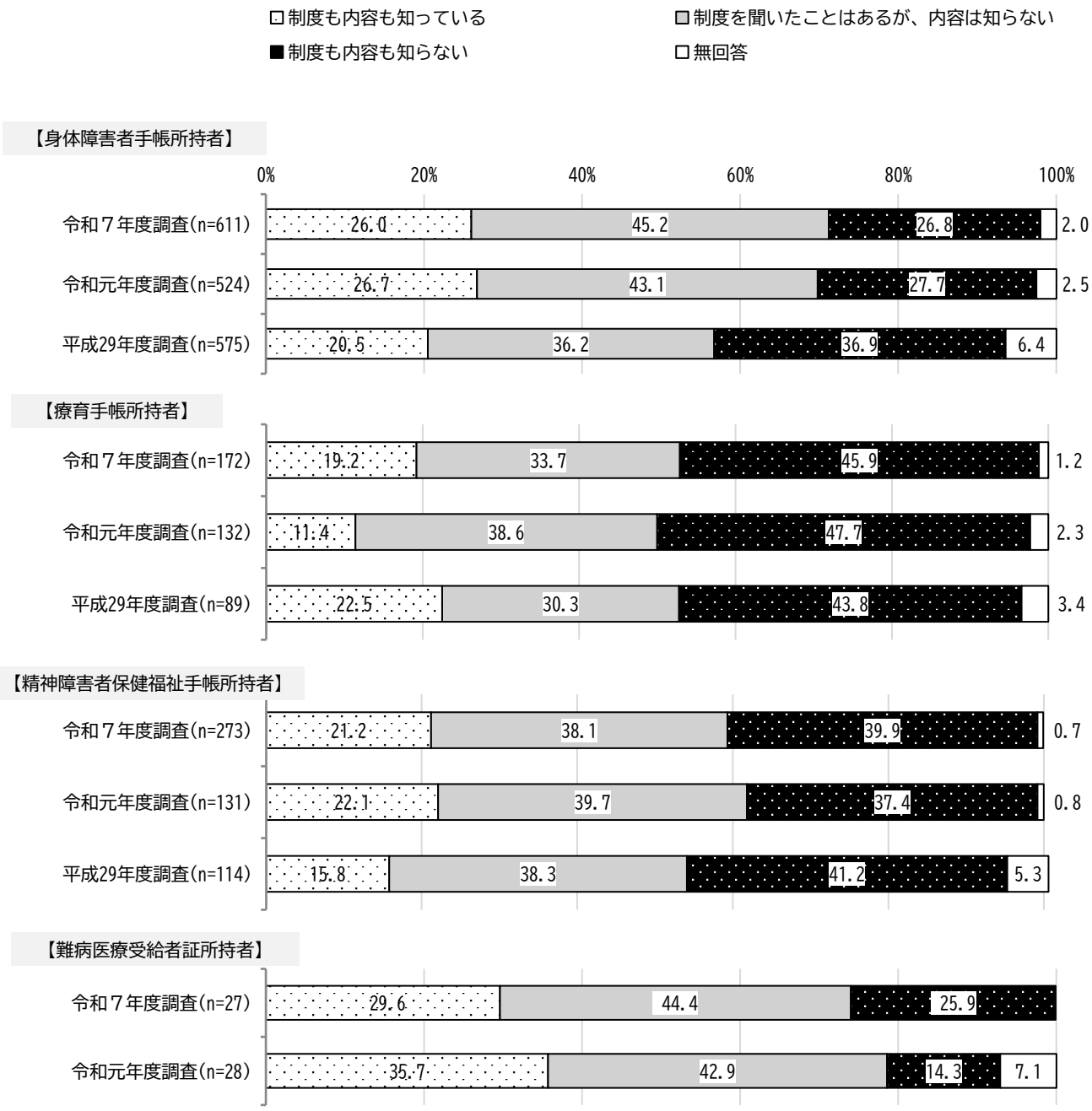
◆ 全体では、「制度を聞いたことはあるが、内容は知らない」が 39.0%と最も高くなっており、次いで「制度も内容も知らない」が 37.9%、「制度も内容も知っている」が 21.2%となっています。

◆ 障がいの状況別にみると、身体障害者手帳所持者・難病者で「制度を聞いたことはあるが、内容は知らない」が、療育手帳所持者・精神障害者保健福祉手帳所持者・自立支援医療証所持者・いずれもない人で「制度も内容も知らない」が、それぞれ最も高くなっています。



前回・前々回調査との比較

◆ 前回・前々回調査と比較すると、身体障害者手帳所持者では「制度を聞いたことはあるが、内容は知らない」が増加傾向にあり、難病医療受給者証所持者では「制度も内容も知らない」が増加しています。

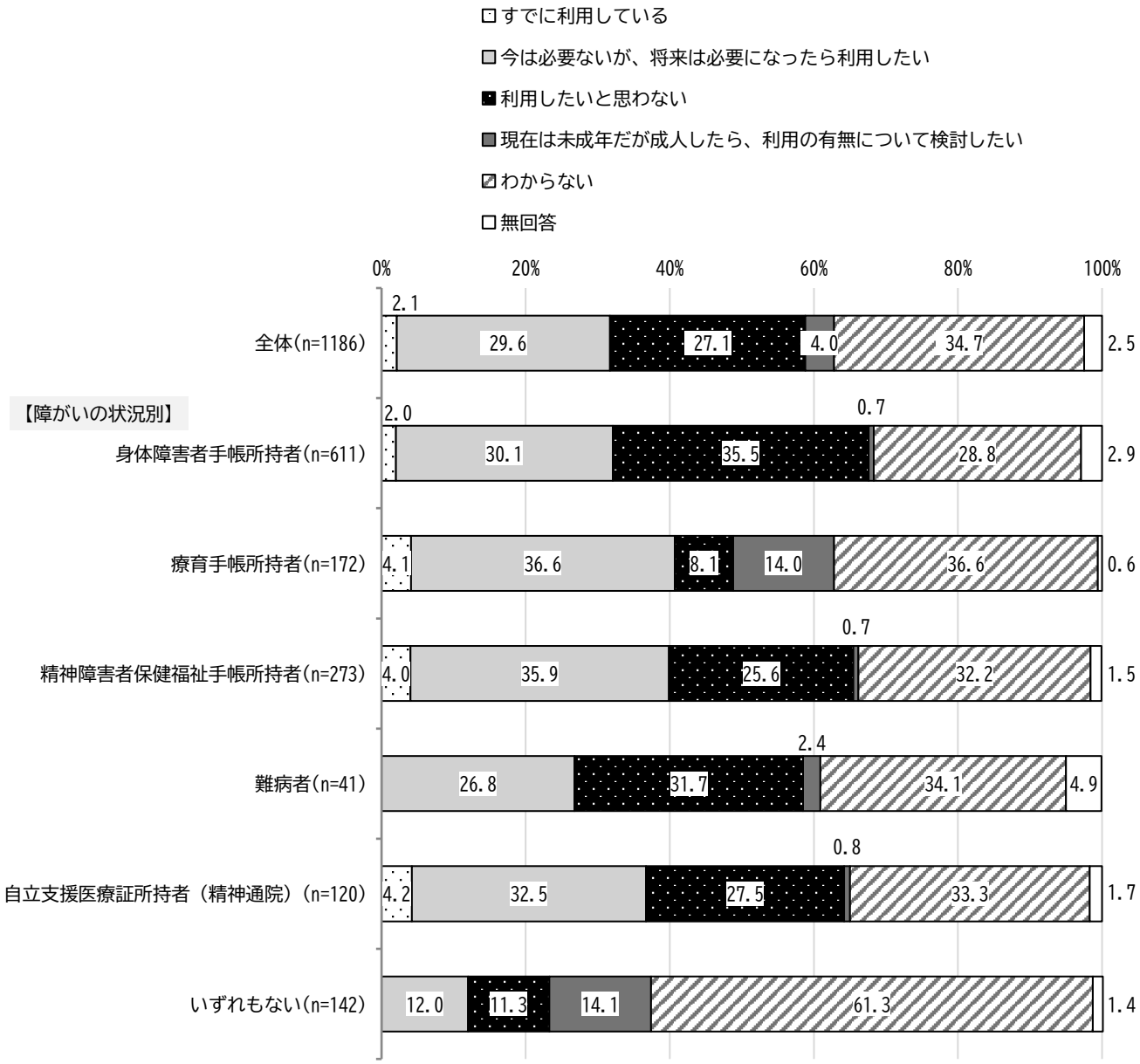


※「難病者」のうち、「認定あり」と回答された方を「難病医療受給者証所持者」と見なし、前回調査と比較しています。

問 18　あなたは、成年後見制度を利用したいと思いますか。【○は１つ】

◆ 全体では、「わからない」が 34.7%と最も高くなっており、次いで「今は必要ないが、将来は必要になったら利用したい」が 29.6%、「利用したいと思わない」が 27.1%となっています。

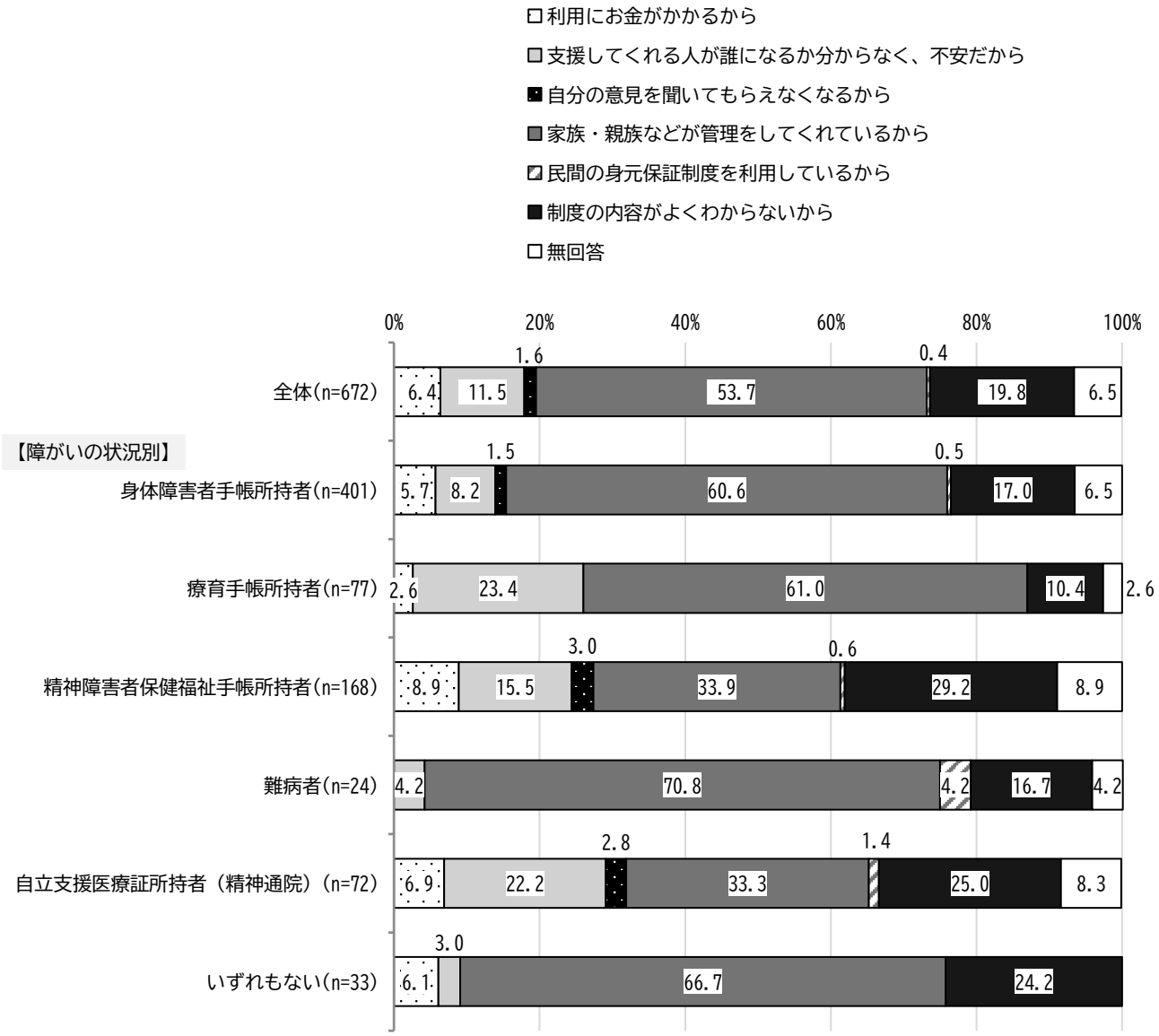
◆ 障がいの状況別にみると、身体障害者手帳所持者で「利用したいと思わない」が、精神障害者保健福祉手帳所持者で「今は必要ないが、将来は必要になったら利用したい」が、難病者・自立支援医療証所持者・いずれもない人で「わからない」が、療育手帳所持者では「今は必要ないが、将来は必要になったら利用したい」と「わからない」が、それぞれ最も高くなっています。



問 18 で「２．今は必要ないが、将来は必要になったら利用したい」または「３．利用したいと思わない」を選んだ方にお聞きします。

問 19　あなたが、成年後見制度を利用しない理由を教えてください。【○は１つ】

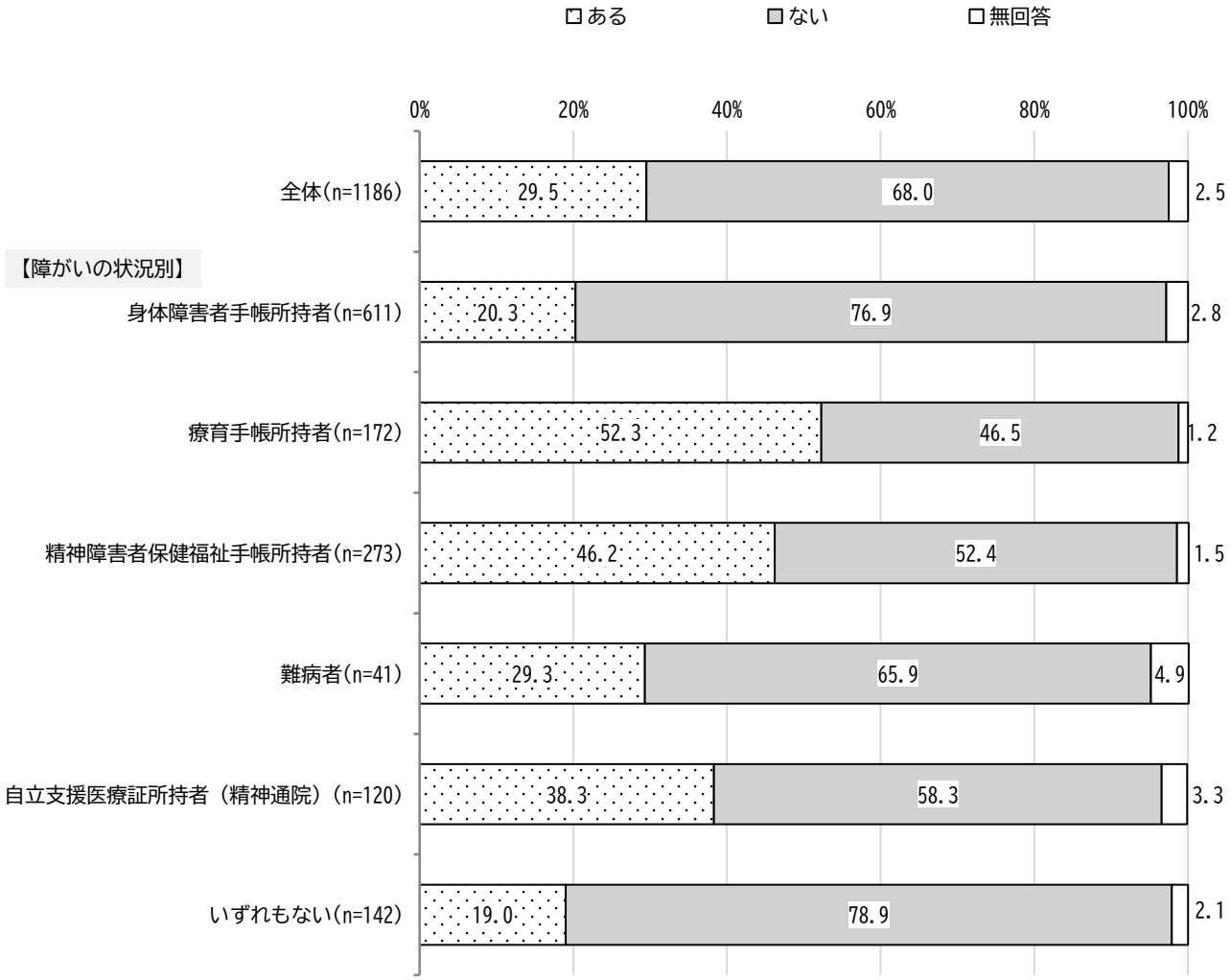
◆ 全体では、「家族・親族などが管理をしてくれているから」が 53.7%と最も高くなっており、次いで「制度の内容がよくわからないから」が 19.8%、「支援してくれる人が誰になるか分からなく、不安だから」が 11.5%となっています。
◆ 障がいの状況別にみると、それぞれで「家族・親族などが管理をしてくれているから」が、最も高くなっています。



５．障がい者差別について

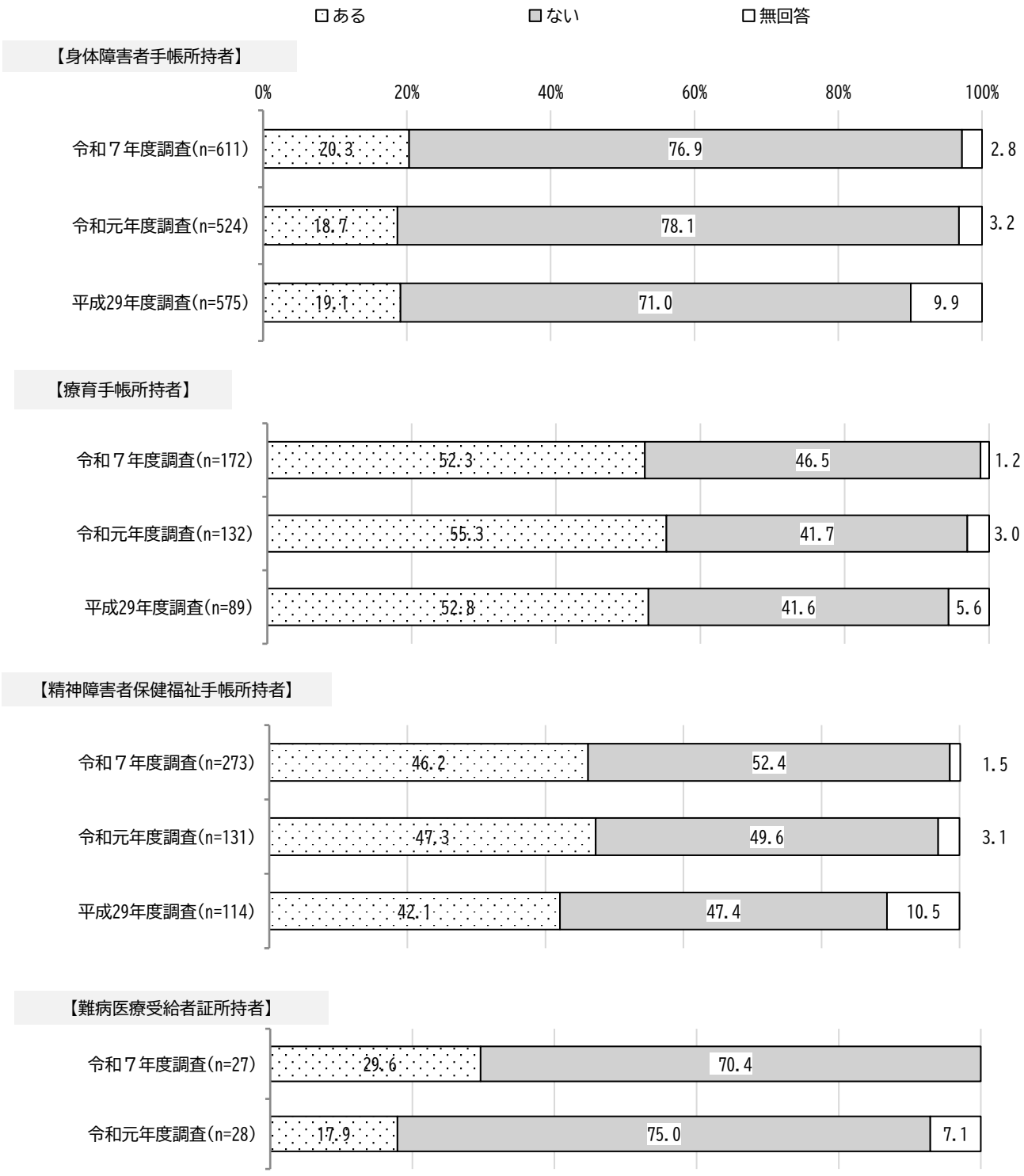
問 20　あなたは、これまでに障がいがあるために差別を受けたことや、嫌な思いをしたことはありますか。【○は１つ】

◆ 全体では、「ない」が 68.0%、「ある」が 29.5%となっています。
◆ 障がいの状況別にみると、療育手帳所持者で「ある」が、身体障害者手帳所持者・精神障害者保健福祉手帳所持者・難病者・自立支援医療証所持者・いずれもない人で「ない」が、それぞれ最も高くなっています。



前回・前々回調査との比較

◆ 前回・前々回調査と比較すると、療育手帳手帳所持者と精神障害者保健福祉手帳所持者で「ない」が増加傾向です。



※「難病者」のうち、「認定あり」と回答された方を「難病医療受給者証所持者」と見なし、前回調査と比較しています。

問 20 で「１．ある」を選んだ方にお聞きします。

問 21　それは、次のうちどのような場所で感じましたか。【○はいくつでも】

◆ 全体では、「学校」が 36.9%と最も高くなっており、次いで「仕事場」が 28.9%、「店舗や公園などの外出先」が 21.7%となっています。
◆ 障がいの状況別にみると、身体障害者手帳所持者・難病者で「バスや電車などの公共交通機関」が、療育手帳所持者・いずれもない人で「学校」が、精神障害者保健福祉手帳所持者・自立支援医療証所持者で「仕事場」が、それぞれ最も高くなっています。

(%)

	学校	市役所や図書館、体育館などの公共施設	仕事場	病院などの医療機関	バスや電車などの公共交通機関	店舗や公園などの外出先	住んでいる近所	その他	無回答
全体(n=350)	36.9	10.9	28.9	18.3	20.6	21.7	13.4	12.0	0.0
身体障害者手帳所持者(n=124)	22.6	12.1	27.4	21.0	29.0	19.4	13.7	10.5	0.0
療育手帳所持者(n=90)	57.8	17.8	13.3	23.3	23.3	36.7	11.1	6.7	0.0
精神障害者保健福祉手帳所持者(n=126)	32.5	8.7	47.6	16.7	15.1	16.7	16.7	17.5	0.0
難病者(n=12)	16.7	8.3	16.7	16.7	33.3	16.7	25.0	25.0	0.0
自立支援医療証所持者（精神通院）(n=46)	23.9	10.9	54.3	15.2	13.0	23.9	13.0	19.6	0.0
いずれもない(n=27)	63.0	7.4	3.7	7.4	7.4	18.5	7.4	18.5	0.0

主な「その他」の内容	件数
友人関係	7
習い事	3
就職活動	3

問 22　あなたは、より安心して暮らしていくためにはどういった配慮や取組が必要だと思いますか。【○はいくつでも】

◆ 全体では、「障がい特性に関する啓発及び理解」が 47.8%と最も高くなっており、次いで「障害者差別解消法の周知」が 29.8%、「道路などでの段差の解消」が 29.7%となっています。
◆ 障がいの状況別にみると、身体障害者手帳所持者で「道路などでの段差の解消」が、療育手帳所持者・精神障害者保健福祉手帳所持者・難病者・自立支援医療証所持者・いずれもない人で「障がい特性に関する啓発及び理解」が、それぞれ最も高くなっています。

（%）

	障害者差別解消法の周知	障がい特性に関する啓発及び理解	印刷物などへの字の大きさ、色への配慮	連絡先のＦＡＸ番号やメールアドレスの記載	講演会などでの手話通訳者などの設置	施設内のバリアフリー化	道路などでの段差の解消	その他	無回答
全体(n=1186)	29.8	47.8	12.0	7.5	3.5	22.5	29.7	8.7	9.4
身体障害者手帳所持者(n=611)	23.4	33.7	14.6	8.0	2.3	33.1	46.6	5.6	11.5
療育手帳所持者(n=172)	39.0	70.9	8.1	2.3	5.8	14.5	14.5	11.0	5.2
精神障害者保健福祉手帳所持者(n=273)	38.5	61.5	9.2	9.5	5.9	12.5	16.1	12.5	7.3
難病者(n=41)	29.3	41.5	17.1	7.3	2.4	39.0	39.0	7.3	12.2
自立支援医療証所持者（精神通院）(n=120)	38.3	62.5	12.5	11.7	5.0	14.2	21.7	7.5	9.2
いずれもない(n=142)	31.0	61.3	10.6	4.2	2.1	14.1	7.7	14.1	4.9

主な「その他」の内容	件数
経済的支援	5
トイレ	3
就業支援	2

問 23　あなたは、障がいのある人が会社などで就労するにあたり、どのような配慮が必要だと思いますか。【○はいくつでも】

◆ 全体では、「職場の人たちが障がいを理解すること」が 68.0%と最も高くなっており、次いで「職場内で相談や支援をする人がいること」が 49.2%、「体の調子が悪いときに休めること」が 42.2%となっています。
◆ 障がいの状況別にみると、それぞれで「職場の人たちが障がいを理解すること」が、最も高くなっています。

（%）

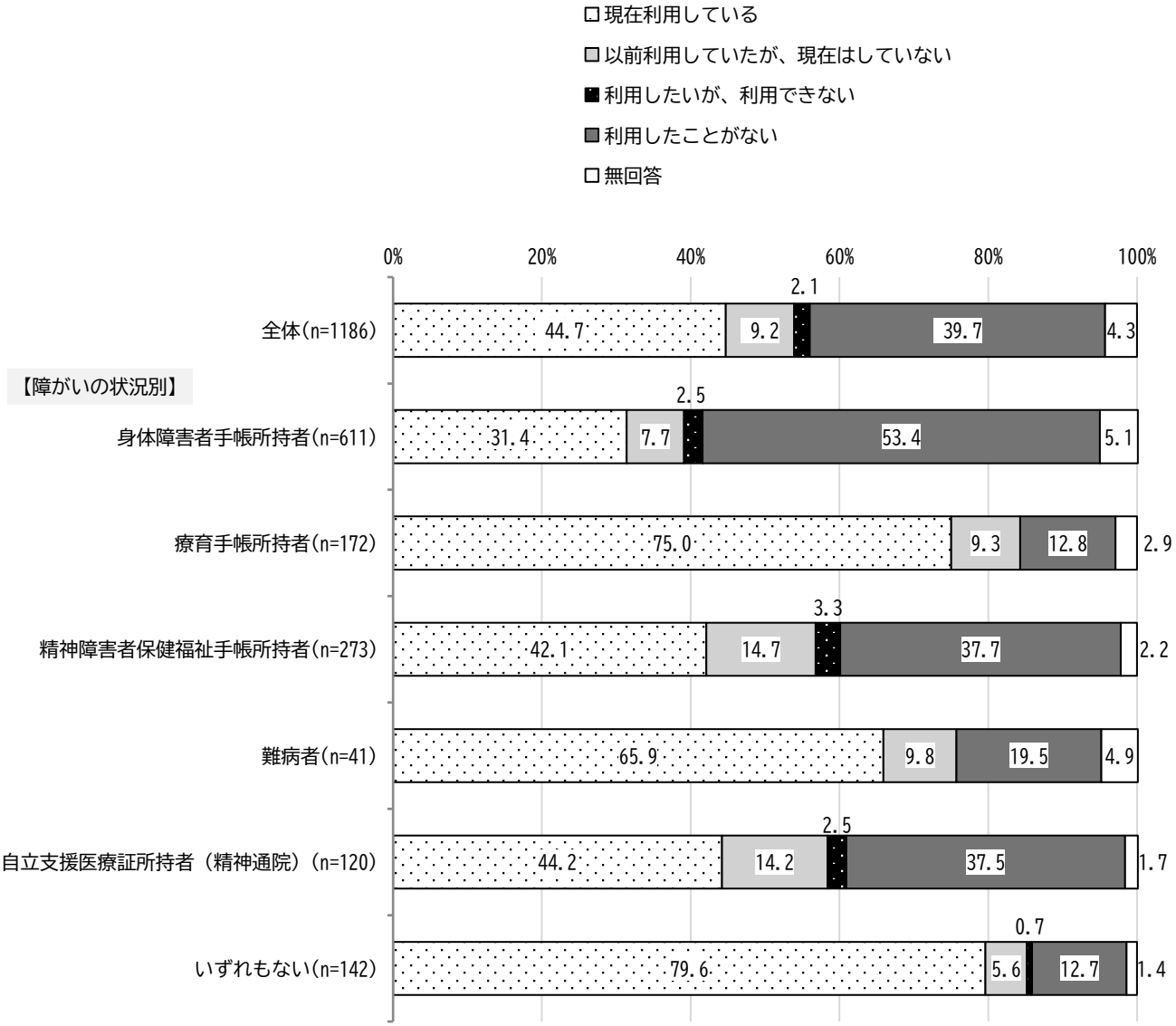
	職場の人たちが障がいを理解すること	職場に障がいの特性に応じた設備があること	体の調子が悪いときに休めること	職場内で相談や支援をする人がいること	通勤方法・時間をずらすなどの配慮があること	通院、服薬などへ配慮があること	外部で困ったときの相談先があること	その他	無回答
全体(n=1186)	68.0	35.8	42.2	49.2	27.4	34.5	31.5	4.3	8.3
身体障害者手帳所持者(n=611)	63.7	36.0	38.0	40.8	22.7	33.2	25.9	3.9	11.8
療育手帳所持者(n=172)	79.1	47.1	36.0	70.9	26.7	29.1	39.0	2.9	5.2
精神障害者保健福祉手帳所持者(n=273)	67.8	31.9	59.7	55.7	38.8	46.5	37.7	4.0	3.7
難病者(n=41)	78.0	46.3	46.3	53.7	34.1	48.8	29.3	2.4	9.8
自立支援医療証所持者（精神通院）(n=120)	70.8	30.8	61.7	54.2	41.7	49.2	33.3	2.5	5.8
いずれもない(n=142)	72.5	37.3	37.3	52.1	26.1	28.2	38.0	8.5	3.5

主な「その他」の内容	件数
会社側の負担に対する配慮・サポート	4
在宅ワークの制限をなくすこと	2

６．福祉サービスについて

問 24　あなたは福祉サービスを利用していますか。【○は１つ】

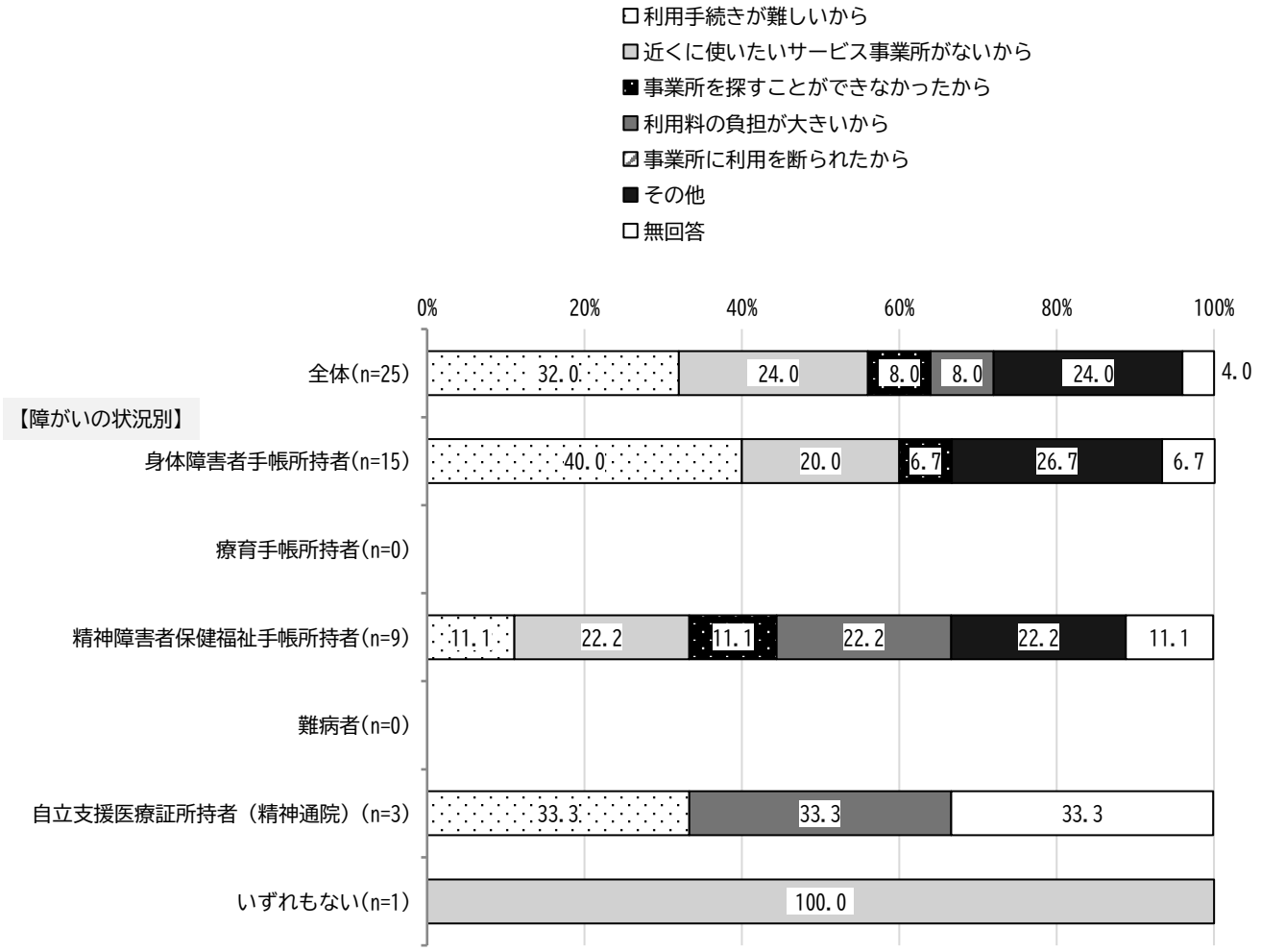
◆ 全体では、「現在利用している」が 44.7%と最も高くなっており、次いで「利用したことがない」が 39.7%、「以前利用していたが、現在はしていない」が 9.2%となっています。
◆ 障がいの状況別にみると、身体障害者手帳所持者で「利用したことがない」が、療育手帳所持者・精神障害者保健福祉手帳所持者・難病者・自立支援医療証所持者・いずれもない人で「現在利用している」が、それぞれ最も高くなっています。



問 24 で「３．利用したいが、利用できない」を選んだ方にお聞きします。

問 25　福祉サービスが利用できない理由は何ですか。【○は１つ】

◆ 全体では、「利用手続きが難しいから」が 32.0%と最も高くなっており、次いで「近くに使いたいサービス事業所がないから」が 24.0%となっています。
◆ 障がいの状況別にみると、身体障害者手帳所持者で「利用手続きが難しいから」が、いずれもない人で「近くに使いたいサービス事業所がないから」が、精神障害者保健福祉手帳所持者では「近くに使いたいサービス事業所がないから」と「利用料の負担が大きいから」が、自立支援医療証所持者では「利用手続きが難しいから」と「利用料の負担が大きいから」が、それぞれ最も高くなっています。

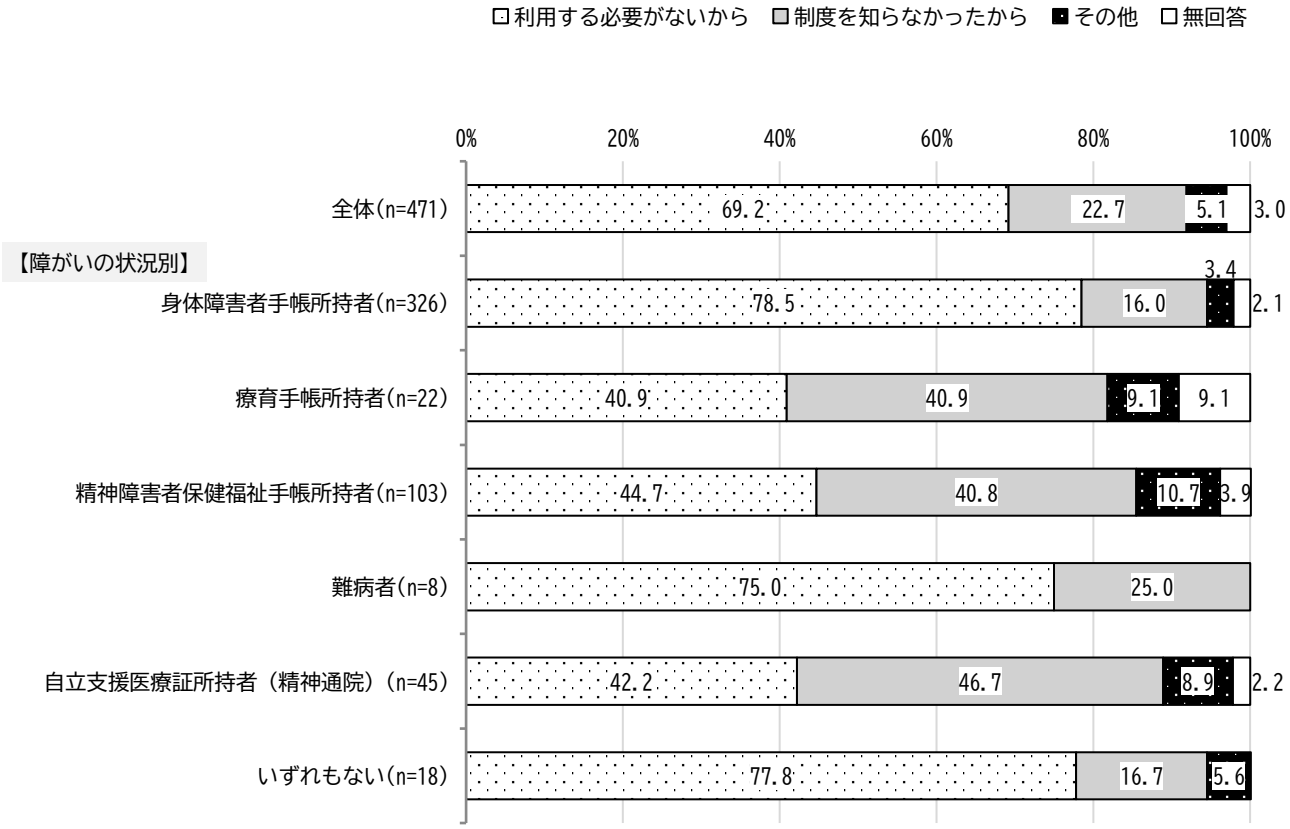


主な「その他」の内容	件数
利用できる範囲が決められているから	1
人と関わるのが苦手だから	1

問 24 で「４．利用したことがない」を選んだ方にお聞きします。

問 26　福祉サービスを利用したことがない理由は何ですか。【○は１つ】

◆ 全体では、「利用する必要がないから」が 69.2%と最も高くなっており、次いで「制度を知らなかったから」が 22.7%となっています。
◆ 障がいの状況別にみると、身体障害者手帳所持者・療育手帳所持者・精神障害者保健福祉手帳所持者・難病者・いずれもない人で「利用する必要がないから」が、自立支援医療証所持者で「制度を知らなかったから」が、それぞれ最も高くなっています。



主な「その他」の内容	件数
家族が援助してくれているから	3

問 27　あなたが福祉サービスなどを利用する上で、困っていることは何ですか。【○はいくつでも】

◆ 全体では、「特に困っていることはない」が 31.3%と最も高くなっており、次いで「サービス提供や内容に関する情報が少ない」が 15.6%、「利用の手続きが大変」が 12.3%となっています。

◆ 障がいの状況別にみると、それぞれで「特に困っていることはない」が、最も高くなっています。２番目に注目すると、身体障害者手帳所持者・いずれもない人で「サービス提供や内容に関する情報が少ない」が、療育手帳所持者で「福祉サービス事業者の選択肢が少ない」が、精神障害者保健福祉手帳所持者・自立支援医療証所持者で「利用の手続きが大変」が、難病者では「サービス提供や内容に関する情報が少ない」と「福祉サービス事業者の選択肢が少ない」が、それぞれ高くなっています。

（%）

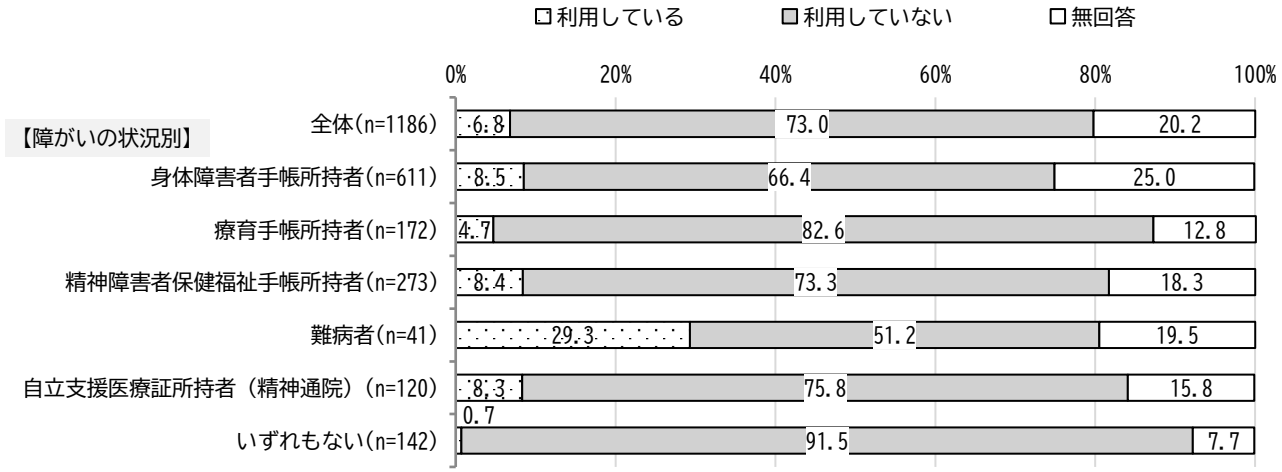
	サービス提供や内容に関する情報が少ない	福祉サービス事業者の選択肢が少ない	利用の手続きが大変	事業者との利用日時などの調整が大変	利用できる回数や日時が少ない	サービスの質	他の利用者との関係	利用料の負担	その他	特に困っていることはない	無回答
全体(n=1186)	15.6	12.1	12.3	7.3	6.1	6.3	4.5	10.5	4.4	31.3	27.7
身体障害者手帳所持者(n=611)	14.7	8.8	9.3	5.4	4.4	5.4	2.5	10.8	3.3	30.3	35.2
療育手帳所持者(n=172)	19.2	30.2	19.2	12.8	10.5	8.7	7.0	13.4	7.0	33.1	7.6
精神障害者保健福祉手帳所持者(n=273)	15.0	11.7	16.5	8.4	4.8	9.9	8.8	8.4	5.9	25.6	28.2
難病者(n=41)	12.2	12.2	9.8	9.8	4.9	0.0	2.4	4.9	2.4	41.5	17.1
自立支援医療証所持者（精神通院）(n=120)	14.2	10.8	19.2	9.2	6.7	12.5	11.7	9.2	5.0	21.7	26.7
いずれもない(n=142)	15.5	12.0	10.6	9.9	12.0	4.2	2.8	14.1	4.2	45.1	9.9

主な「その他」の内容	件数
混んでいてなかなか利用できない	4
移動手段	2

問 28　あなたが利用している（していた）福祉サービスおよび今後利用したいサービスは何なんですか。【○はいくつでも】

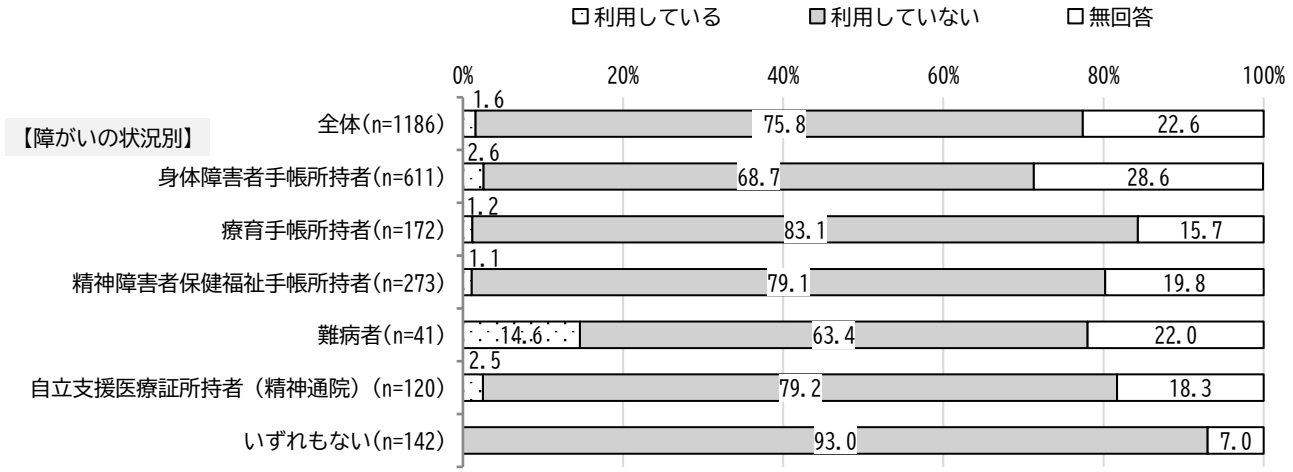
【利用状況】１－①居宅介護（ホームヘルプ）

◆ 全体では、「利用している」が 6.8%、「利用していない」が 73.0%となっています。
◆ 障がいの状況別にみると、それぞれで「利用していない」が最も高くなっている中で、難病者で「利用している」が他と比べて高くなっています。



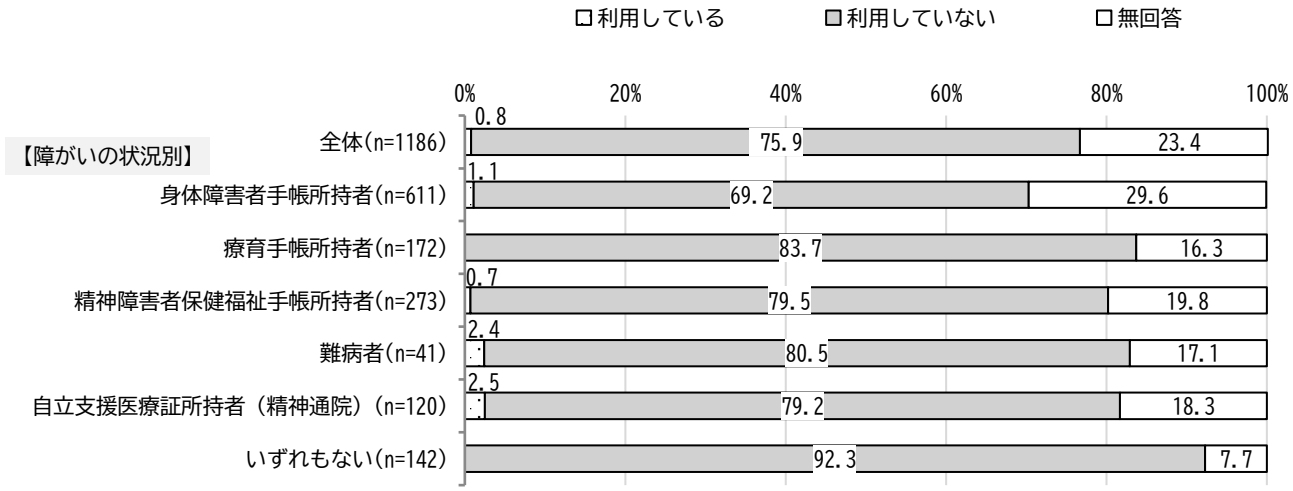
【利用状況】１－②重度訪問介護

◆ 全体では、「利用している」が 1.6%、「利用していない」が 75.8%となっています。
◆ 障がいの状況別にみると、それぞれで「利用していない」が最も高くなっている中で、難病者で「利用している」が他と比べて高くなっています。



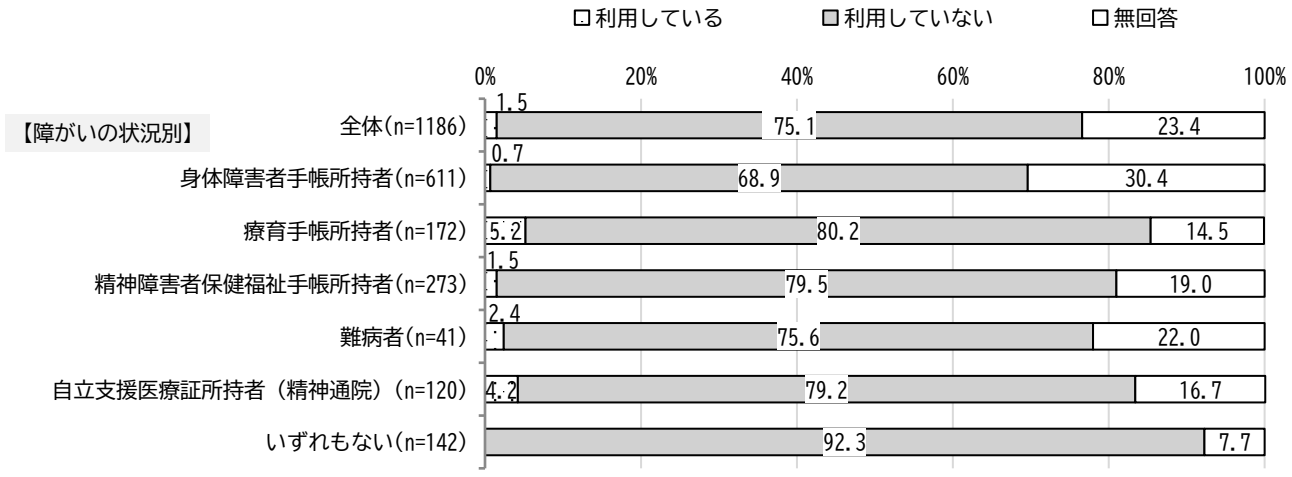
【利用状況】１－③同行援護

◆ 全体では、「利用している」が 0.8%、「利用していない」が 75.9%となっています。
◆ 障がいの状況別にみると、それぞれで「利用していない」が、最も高くなっています。



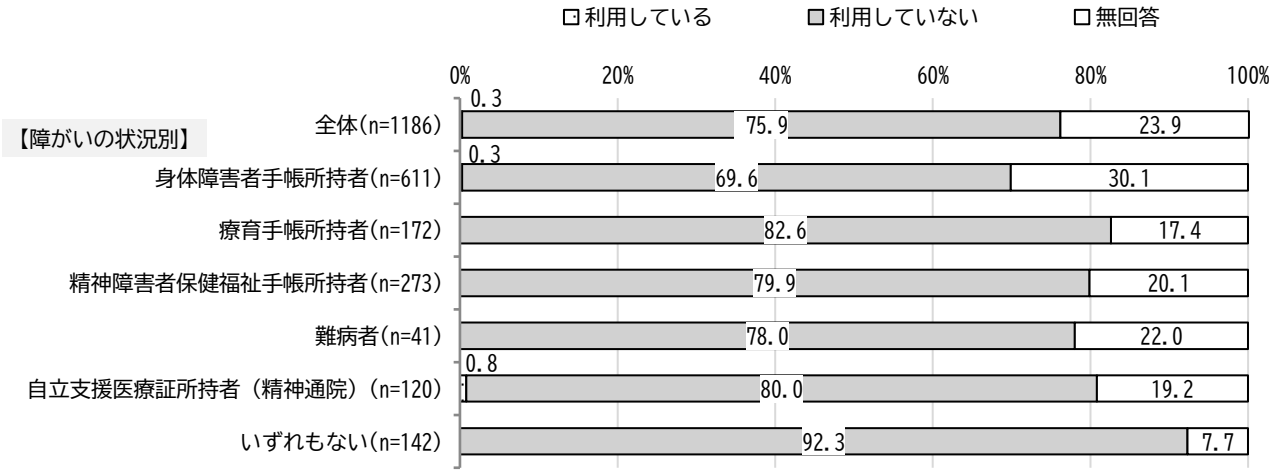
【利用状況】１－④行動援護

◆ 全体では、「利用している」が 1.5%、「利用していない」が 75.1%となっています。
◆ 障がいの状況別にみると、それぞれで「利用していない」が、最も高くなっています。



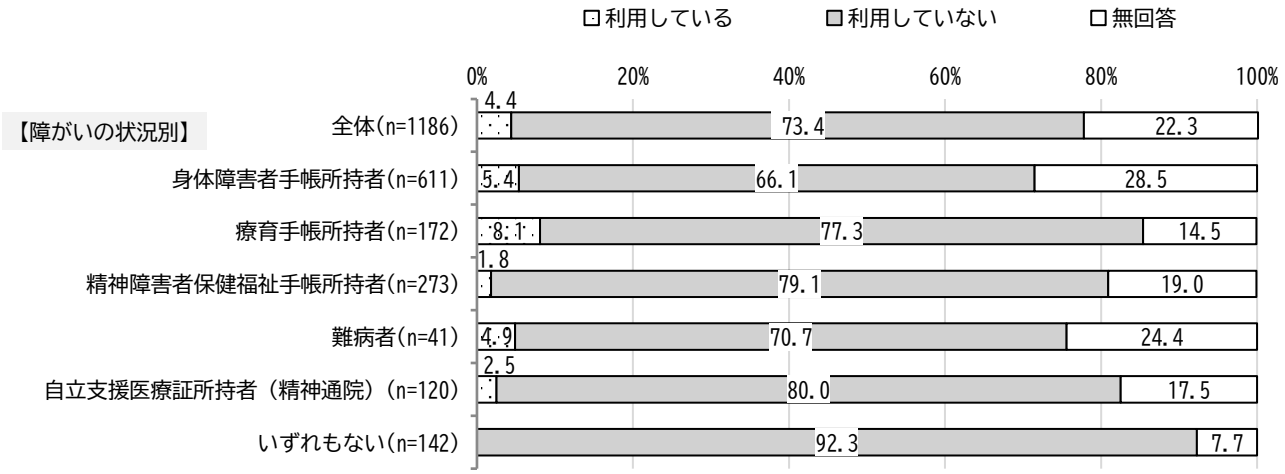
【利用状況】１－⑤重度障害者等包括支援

◆ 全体では、「利用している」が 0.3%、「利用していない」が 75.9%となっています。
◆ 障がいの状況別にみると、それぞれで「利用していない」が、最も高くなっています。



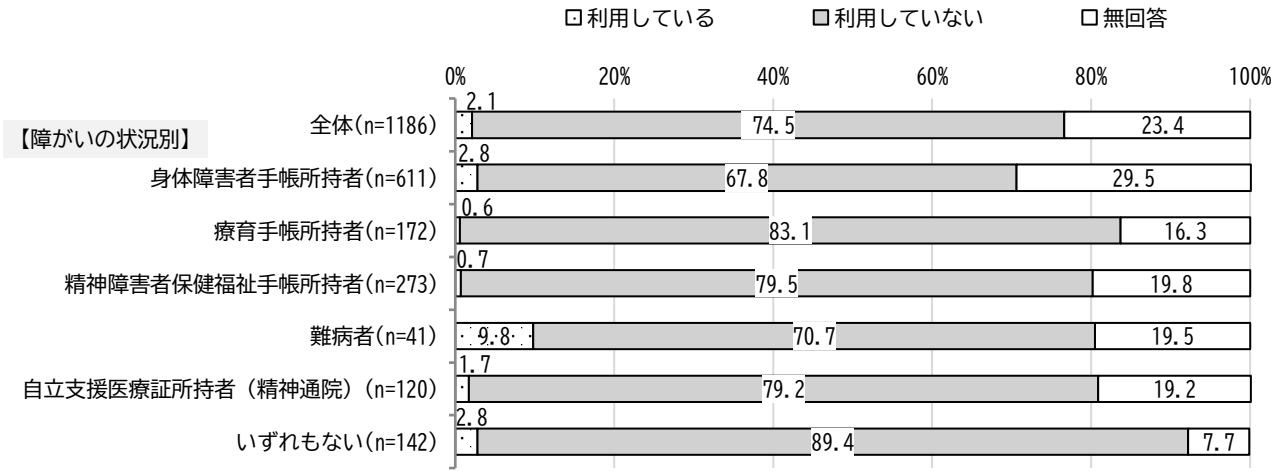
【利用状況】２－①短期入所(ショートステイ)

◆ 全体では、「利用している」が 4.4%、「利用していない」が 73.4%となっています。
◆ 障がいの状況別にみると、それぞれで「利用していない」が最も高くなっている中で、療育手帳所持者で「利用している」が他と比べて高くなっています。



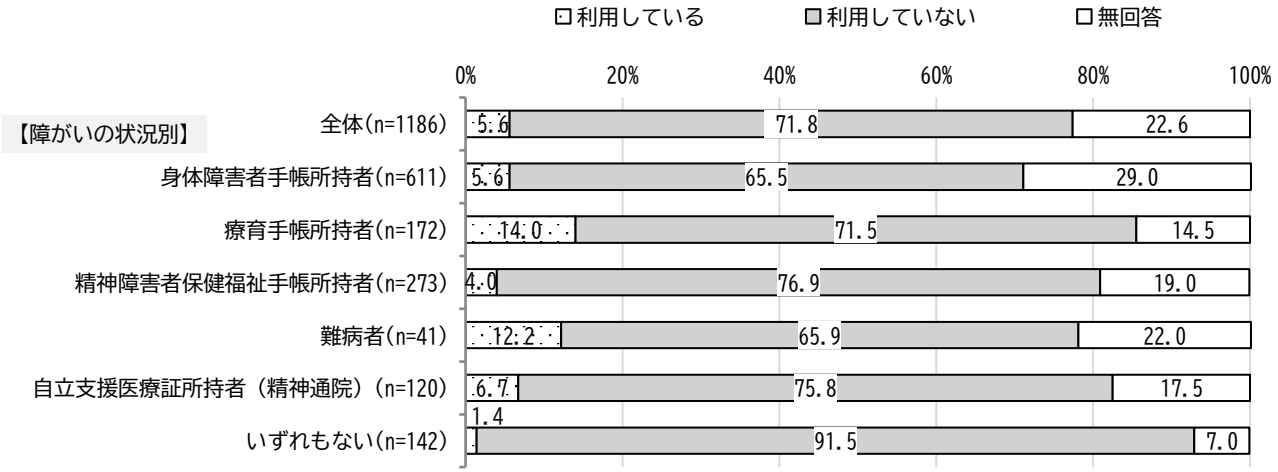
【利用状況】２－②療養介護

◆ 全体では、「利用している」が 2.1%、「利用していない」が 74.5%となっています。
◆ 障がいの状況別にみると、それぞれで「利用していない」が、最も高くなっている中で、難病者で「利用している」が他と比べて高くなっています。



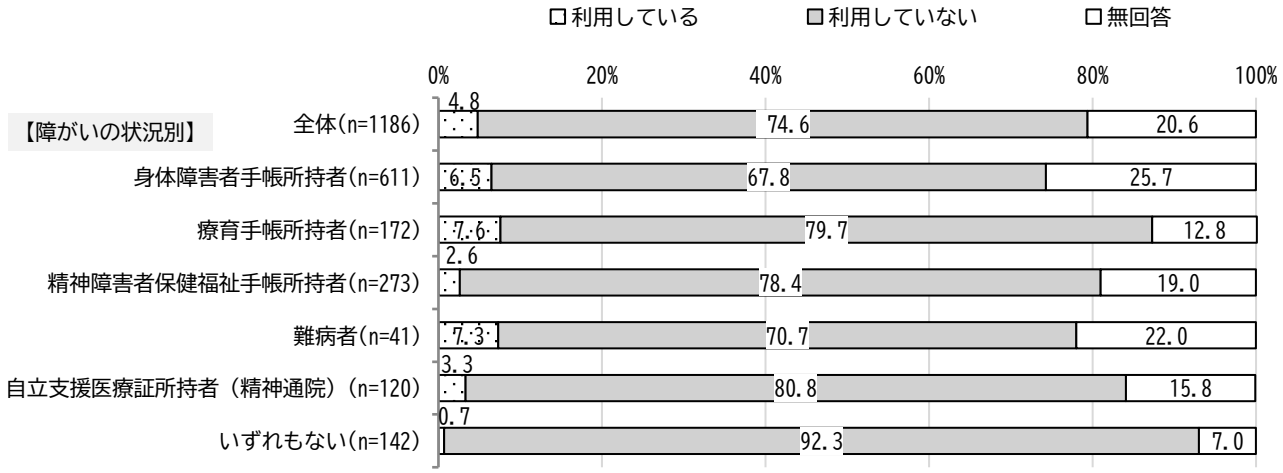
【利用状況】２－③生活介護

◆ 全体では、「利用している」が 5.6%、「利用していない」が 71.8%となっています。
◆ 障がいの状況別にみると、それぞれで「利用していない」が、最も高くなっている中で、療育手帳所持者・難病者で「利用している」が他と比べて高くなっています。



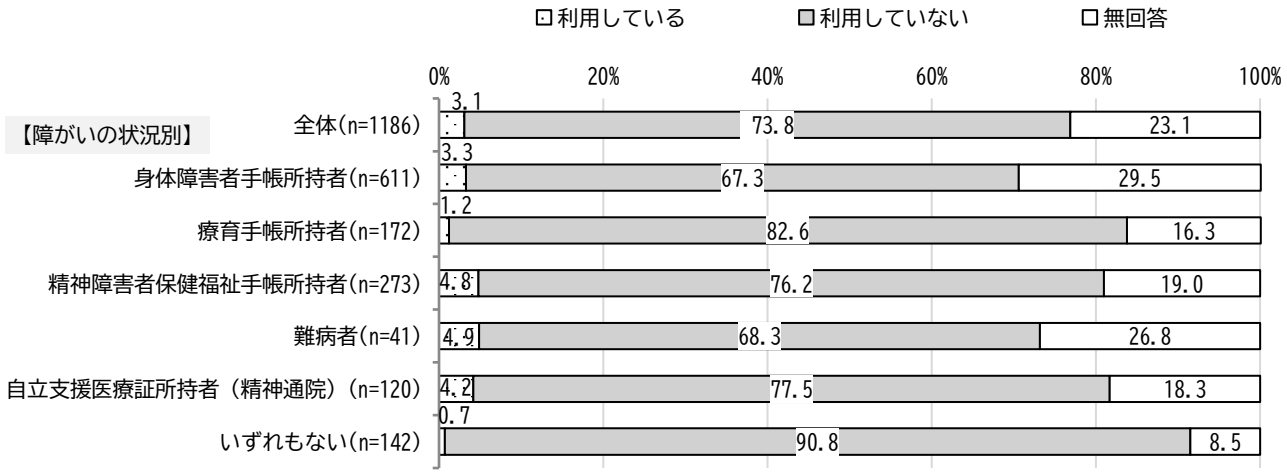
【利用状況】３－①施設入所支援

◆ 全体では、「利用している」が 4.8%、「利用していない」が 74.6%となっています。
◆ 障がいの状況別にみると、それぞれで「利用していない」が、最も高くなっている中で、療育手帳所持者・難病者で「利用している」が他と比べて高くなっています。



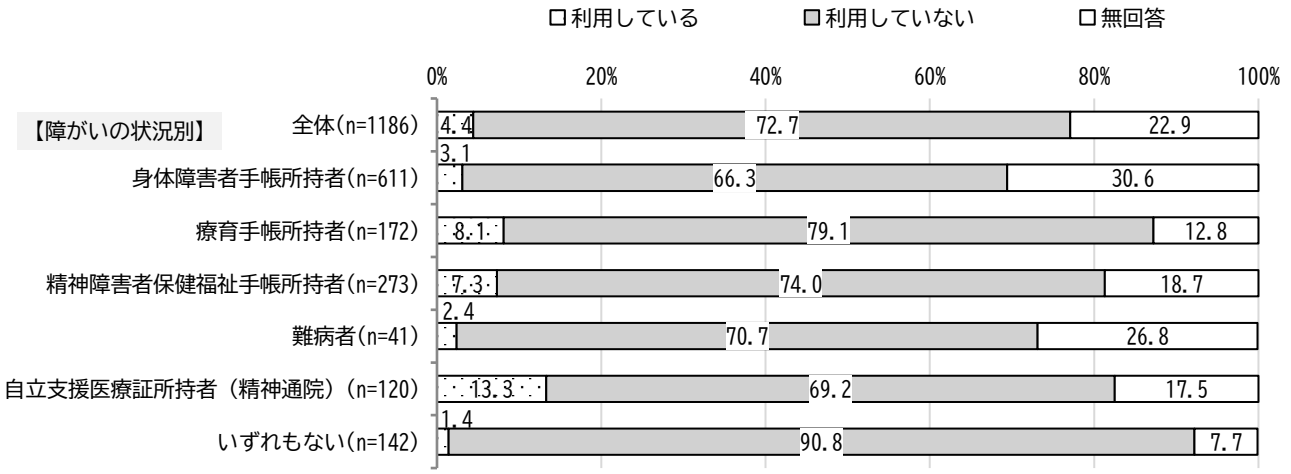
【利用状況】４－①自立生活援助

◆ 全体では、「利用している」が 3.1%、「利用していない」が 73.8%となっています。
◆ 障がいの状況別にみると、それぞれで「利用していない」が、最も高くなっています。



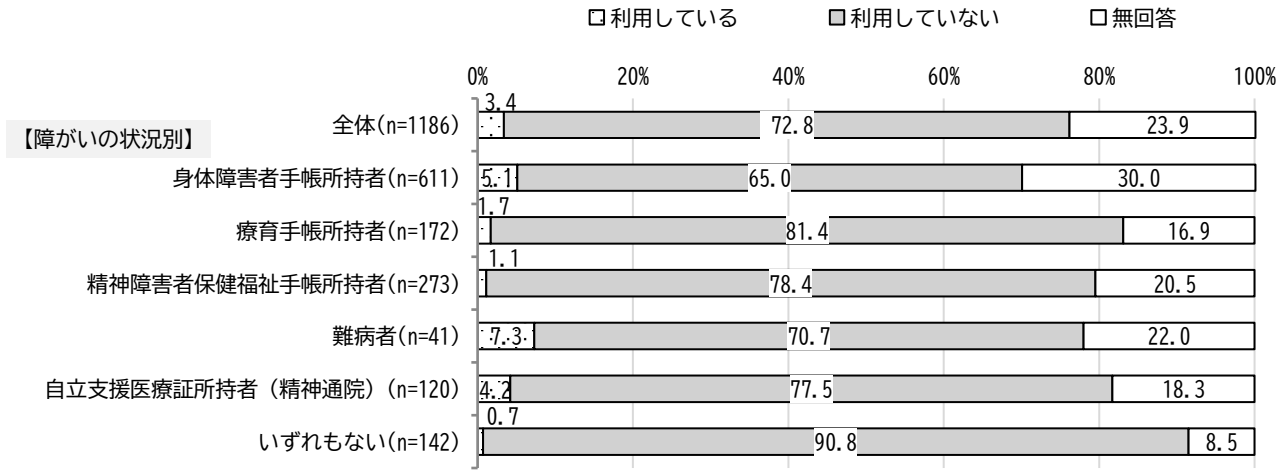
【利用状況】４－②共同生活援助（グループホーム）

◆ 全体では、「利用している」が 4.4%、「利用していない」が 72.7%となっています。
◆ 障がいの状況別にみると、それぞれで「利用していない」が、最も高くなっている中で、自立支援医療証所持者で「利用している」が他と比べて高くなっています。



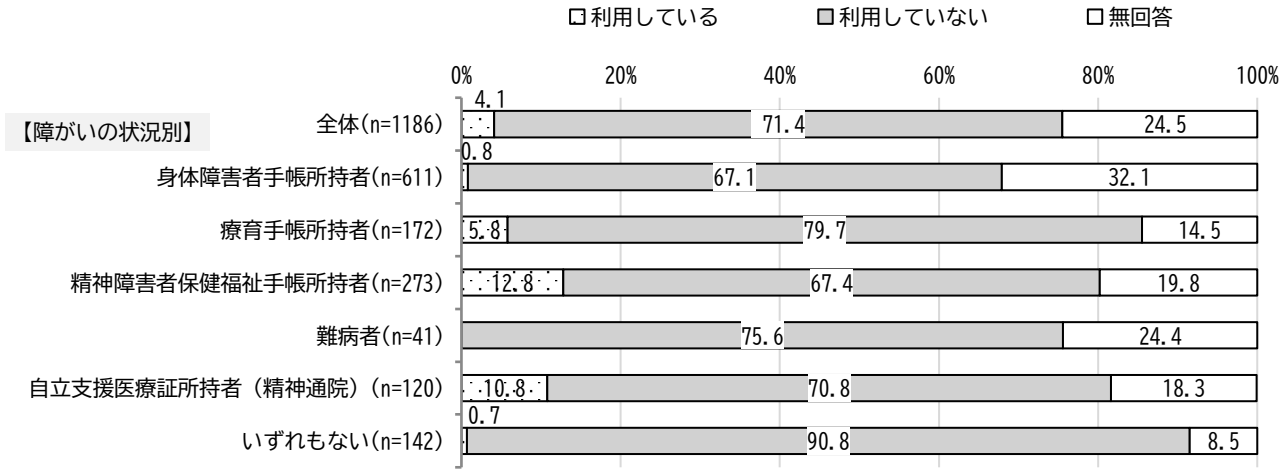
【利用状況】５－①自立訓練（機能訓練・生活訓練）

◆ 全体では、「利用している」が 3.4%、「利用していない」が 72.8%となっています。
◆ 障がいの状況別にみると、それぞれで「利用していない」が、最も高くなっている中で、難病者で「利用している」が他と比べて高くなっています。



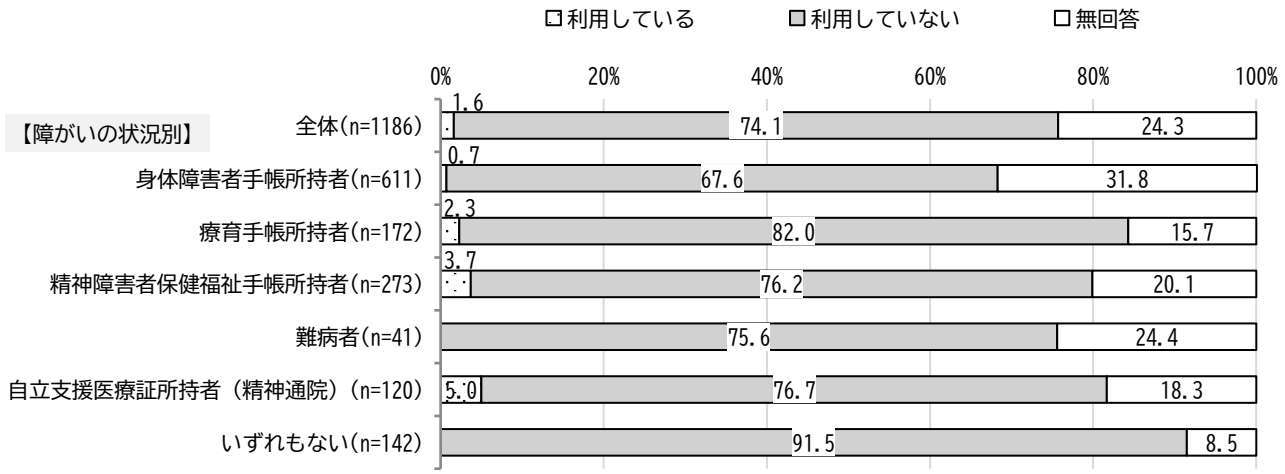
【利用状況】５－②就労移行支援

◆ 全体では、「利用している」が4.1%、「利用していない」が71.4%となっています。
◆ 障がいの状況別にみると、それぞれで「利用していない」が最も高くなっている中で、精神障害者保健福祉手帳所持者・自立支援医療証所持者で「利用している」が他と比べて高くなっています。



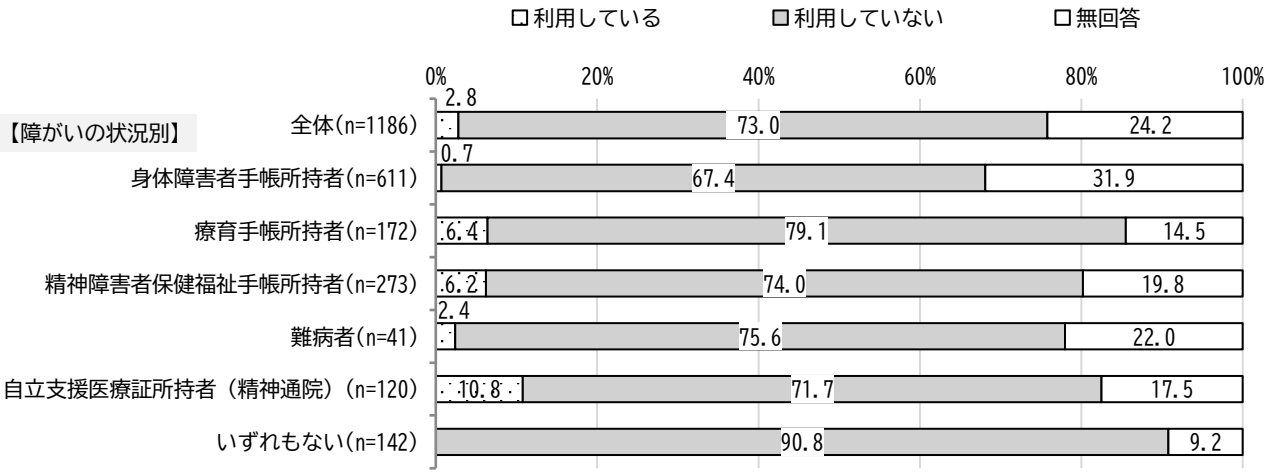
【利用状況】５－③就労選択支援

◆ 全体では、「利用している」が1.6%、「利用していない」が74.1%となっています。
◆ 障がいの状況別にみると、それぞれで「利用していない」が、最も高くなっています。



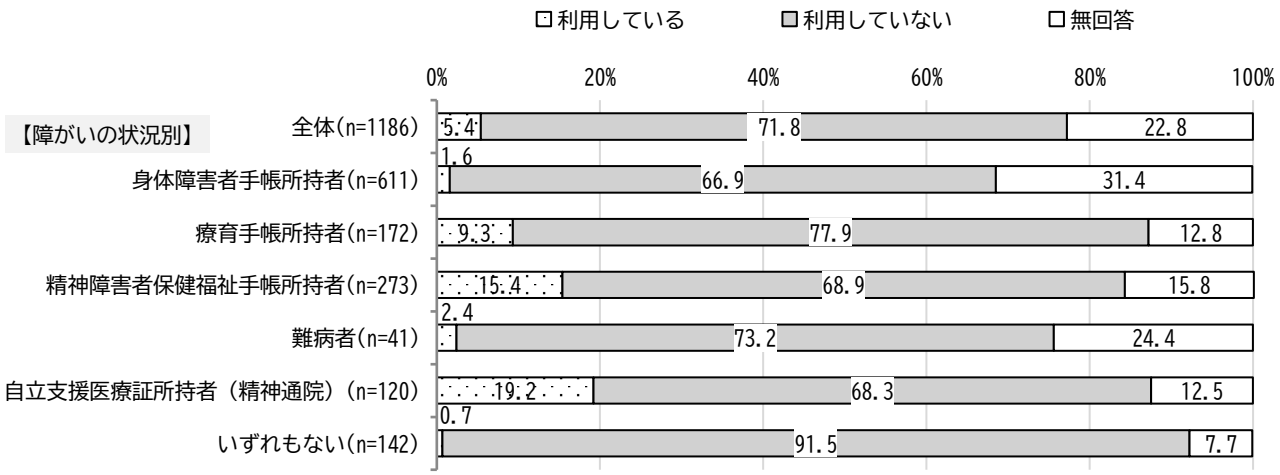
【利用状況】５－④就労継続支援（Ａ型）

◆ 全体では、「利用している」が 2.8%、「利用していない」が 73.0%となっています。
◆ 障がいの状況別にみると、それぞれで「利用していない」が最も高くなっている中で、自立支援医療証所持者で「利用している」が他と比べて高くなっています。



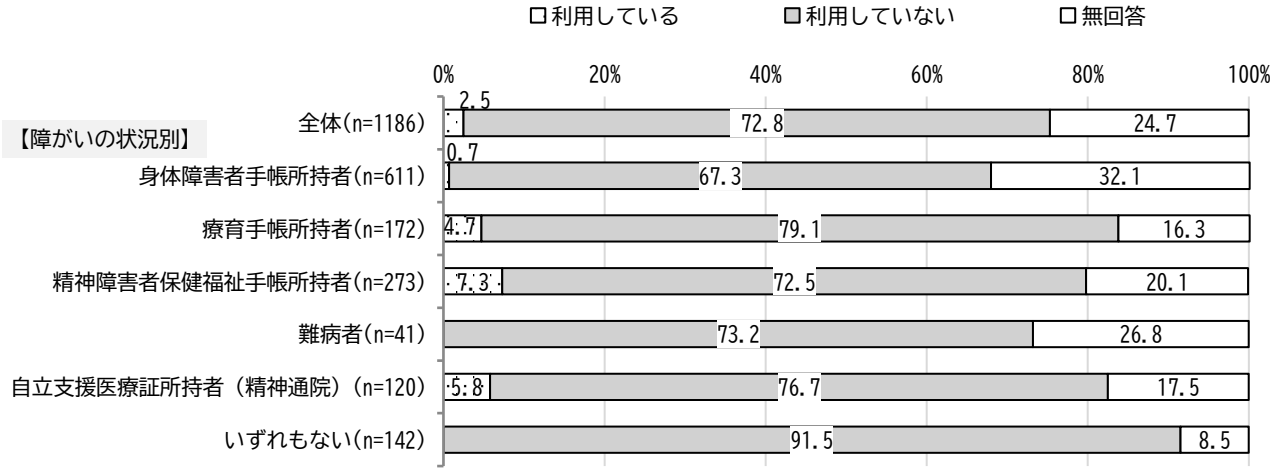
【利用状況】５－⑤就労継続支援（Ｂ型）

◆ 全体では、「利用している」が 5.4%、「利用していない」が 71.8%となっています。
◆ 障がいの状況別にみると、それぞれで「利用していない」が最も高くなっている中で、精神障害者保健福祉手帳所持者・自立支援医療証所持者で「利用している」が他と比べて高くなっています。



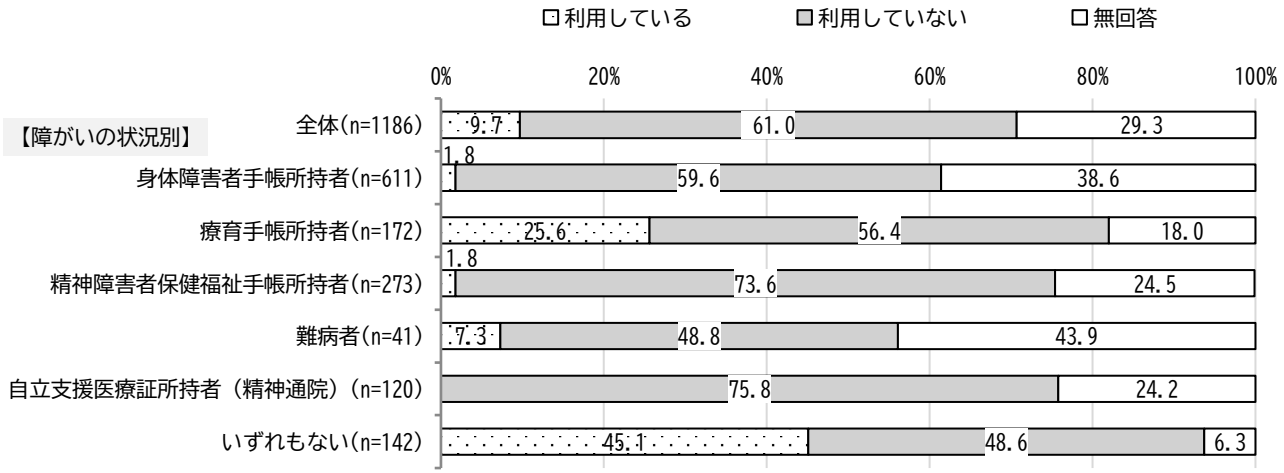
【利用状況】５－⑥就労定着支援

◆ 全体では、「利用している」が 2.5%、「利用していない」が 72.8%となっています。
◆ 障がいの状況別にみると、それぞれで「利用していない」が最も高くなっている中で、精神障害者保健福祉手帳所持者で「利用している」が他と比べて高くなっています。



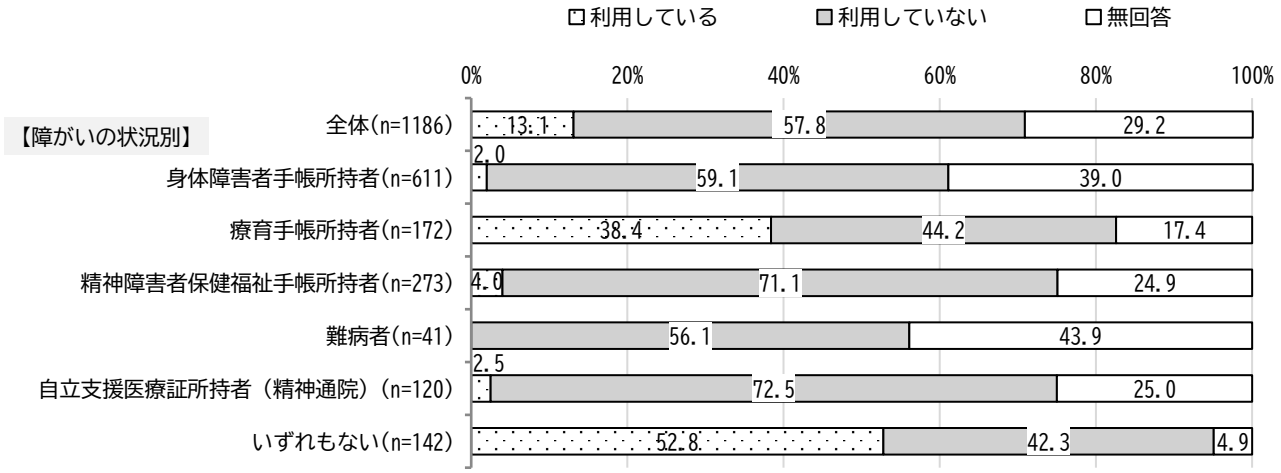
【利用状況】６－①児童発達支援

◆ 全体では、「利用している」が 9.7%、「利用していない」が 61.0%となっています。
◆ 障がいの状況別にみると、それぞれで「利用していない」が最も高くなっている中で、療育手帳所持者・いずれもない人で「利用している」が他と比べて高くなっています。



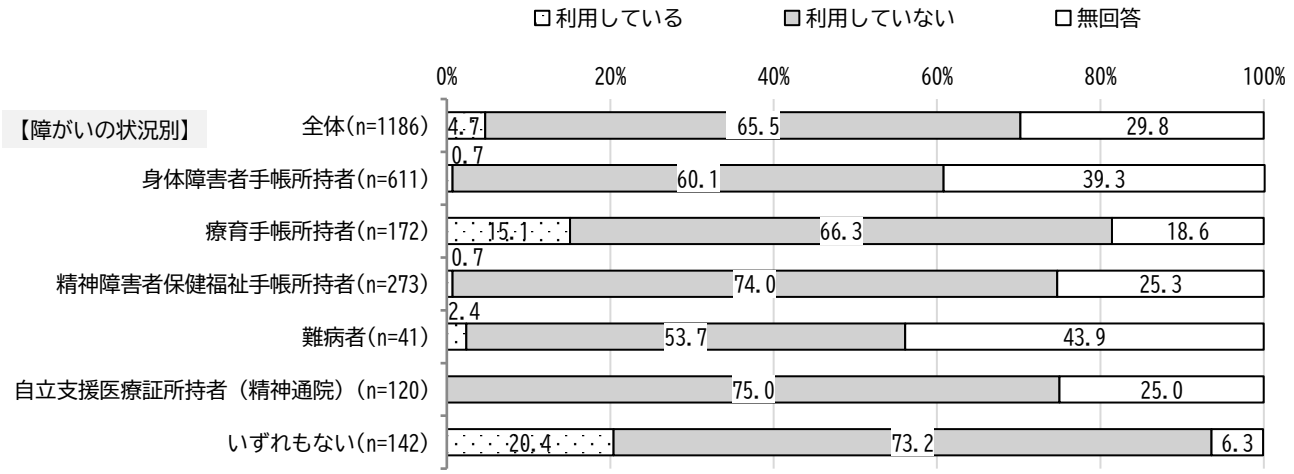
【利用状況】６－②放課後等デイサービス

◆ 全体では、「利用している」が 13.1%、「利用していない」が 57.8%となっています。
◆ 障がいの状況別にみると、それぞれで「利用していない」が最も高くなっている中で、療育手帳所持者・いずれもない人で「利用している」が他と比べて高くなっています。



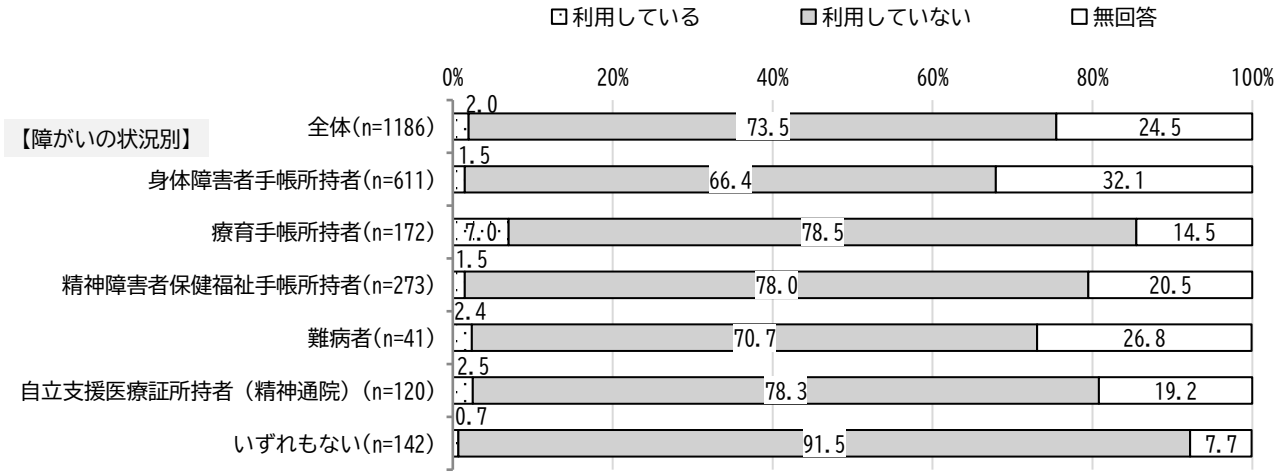
【利用状況】６－③保育所等訪問支援

◆ 全体では、「利用している」が 4.7%、「利用していない」が 65.5%となっています。
◆ 障がいの状況別にみると、それぞれで「利用していない」が最も高くなっている中で、療育手帳所持者・いずれもない人で「利用している」が他と比べて高くなっています。



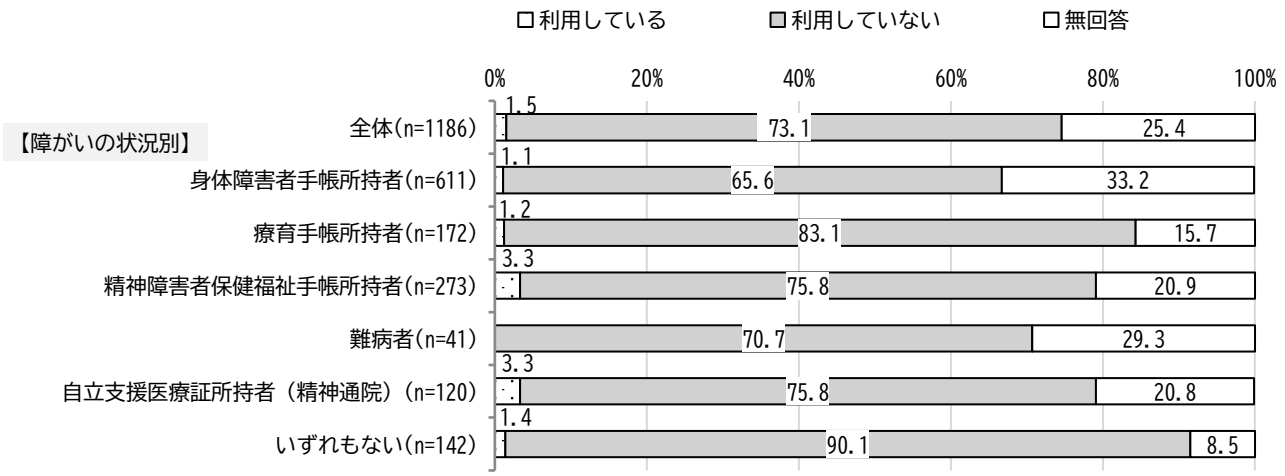
【利用状況】７－①移動支援事業

◆ 全体では、「利用している」が 2.0%、「利用していない」が 73.5%となっています。
◆ 障がいの状況別にみると、それぞれで「利用していない」が最も高くなっている中で、療育手帳所持者で「利用している」が他と比べて高くなっています。



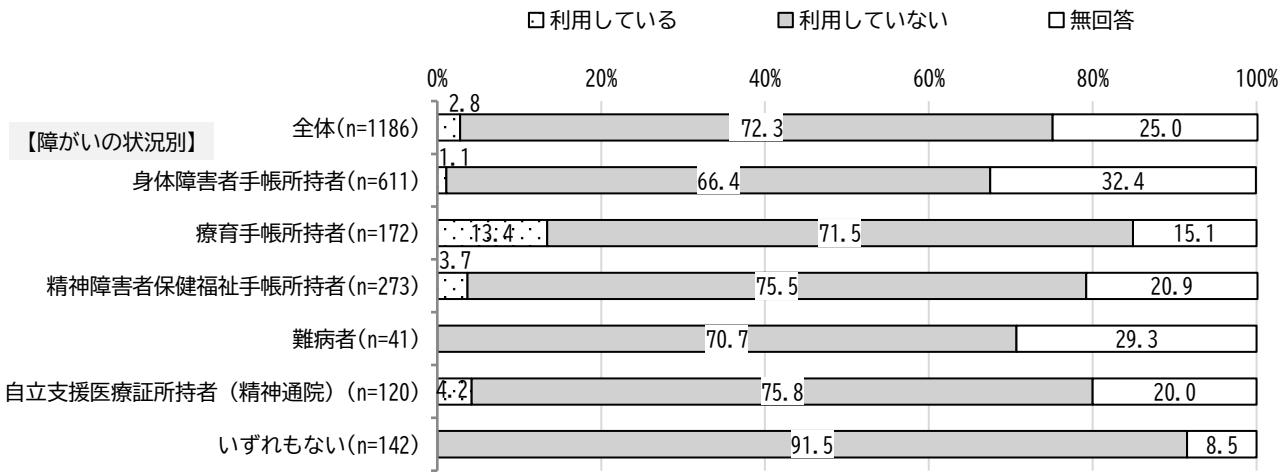
【利用状況】７－②地域活動支援センター事業

◆ 全体では、「利用している」が 1.5%、「利用していない」が 73.1%となっています。
◆ 障がいの状況別にみると、それぞれで「利用の予定していない」が、最も高くなっています。



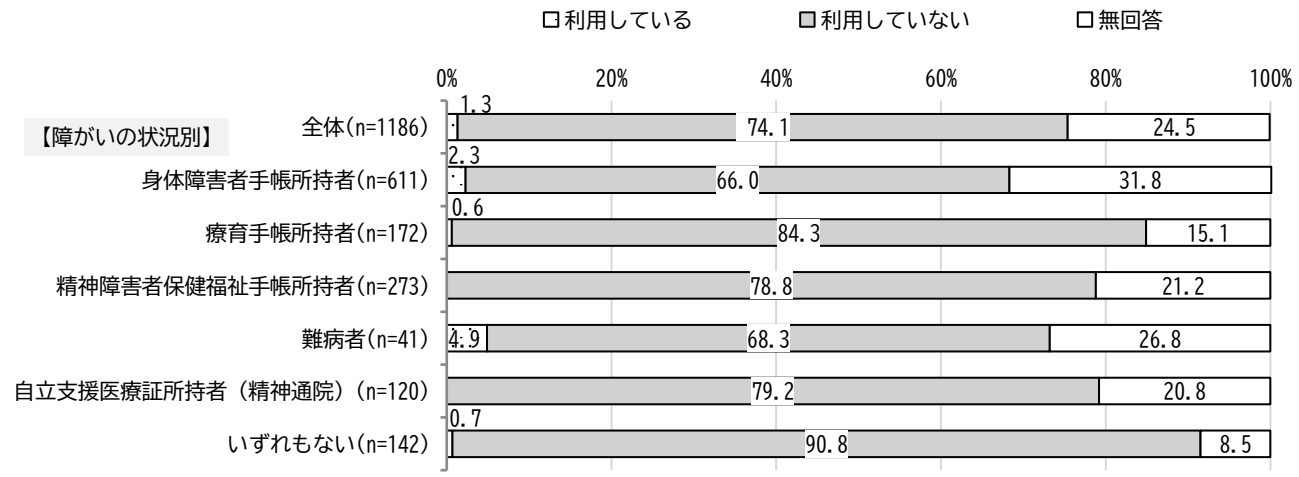
【利用状況】７－③日中一時支援事業

◆ 全体では、「利用している」が 2.8%、「利用していない」が 72.3%となっています。
◆ 障がいの状況別にみると、それぞれで「利用していない」が最も高くなっている中で、療育手帳所持者で「利用している」が他と比べて高くなっています。



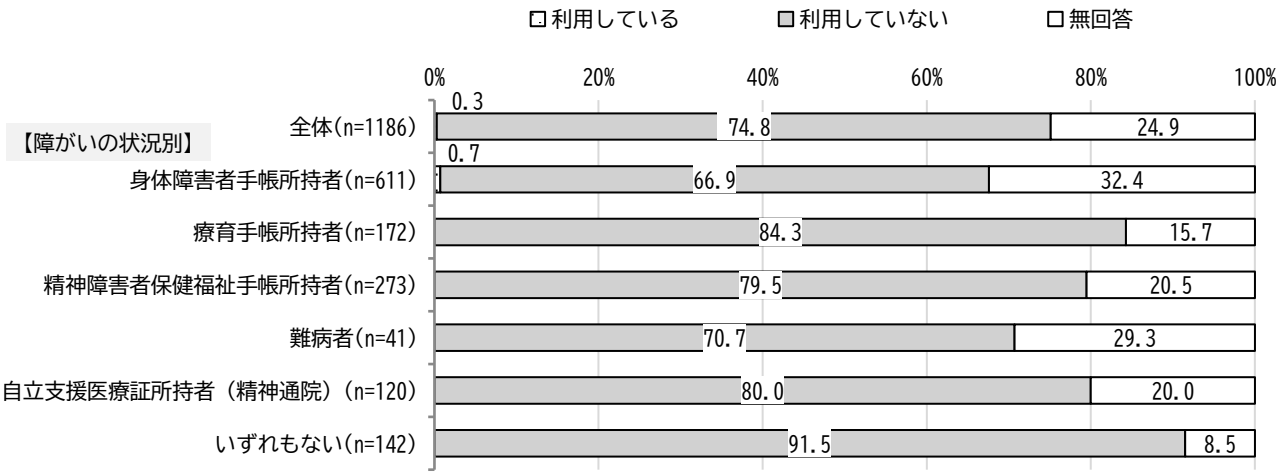
【利用状況】７－④訪問入浴サービス事業

◆ 全体では、「利用している」が 1.3%、「利用していない」が 74.1%となっています。
◆ 障がいの状況別にみると、それぞれで「利用していない」が最も高くなっている中で、難病者で「利用している」が他と比べて高くなっています。



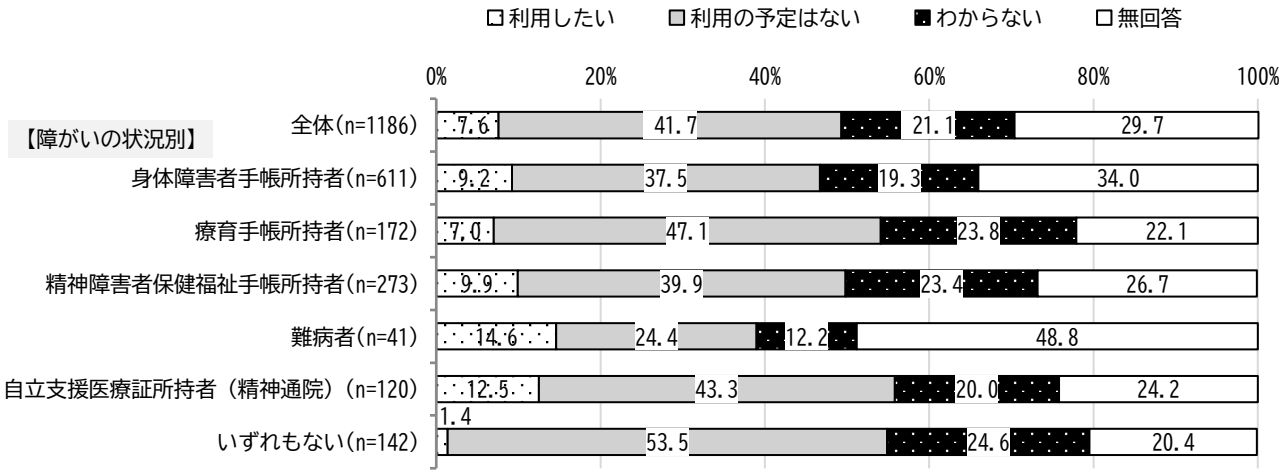
【利用状況】７－⑤意思疎通支援事業

◆ 全体では、「利用している」が 0.3%、「利用していない」が 74.8%となっています。
◆ 障がいの状況別にみると、それぞれで「利用していない」が最も高くなっており、「利用している」と回答している人がほとんどいません。



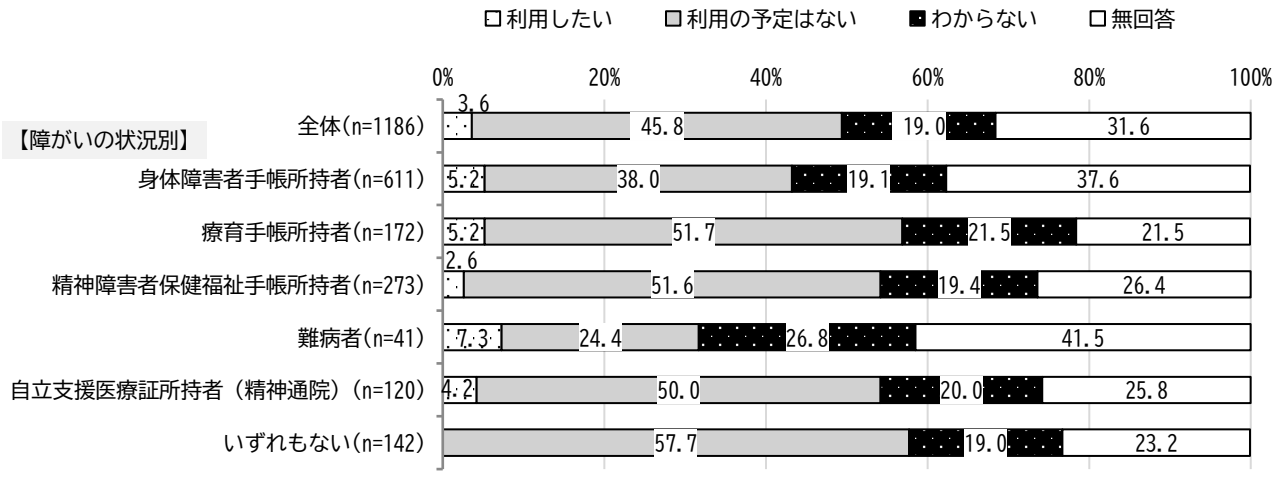
【利用の意向】１－①居宅介護（ホームヘルプ）

◆ 全体では、「利用したい」が7.6%、「利用の予定はない」が41.7%、「わからない」が21.1%となっています。
◆ 障がいの状況別にみると、それぞれで「利用の予定はない」が最も高くなっている中で、難病者・自立支援医療証所持者で「利用したい」が他と比べて高くなっています。



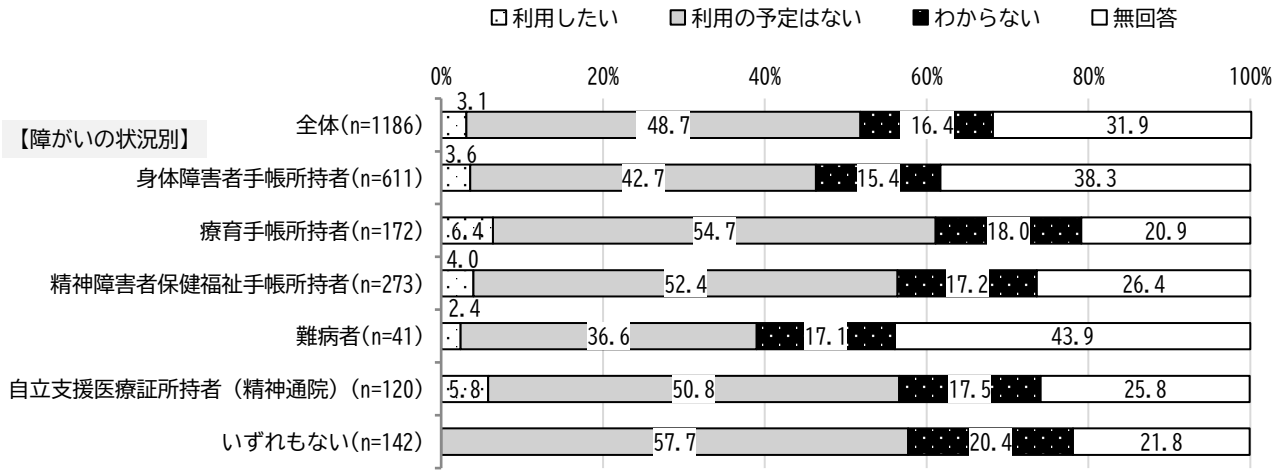
【利用の意向】１－②重度訪問介護

◆ 全体では、「利用したい」が3.6%、「利用の予定はない」が45.8%、「わからない」が19.0%となっています。
◆ 障がいの状況別にみると、それぞれで「利用の予定はない」が最も高くなっている中で、難病者で「利用したい」が他と比べて高くなっています。



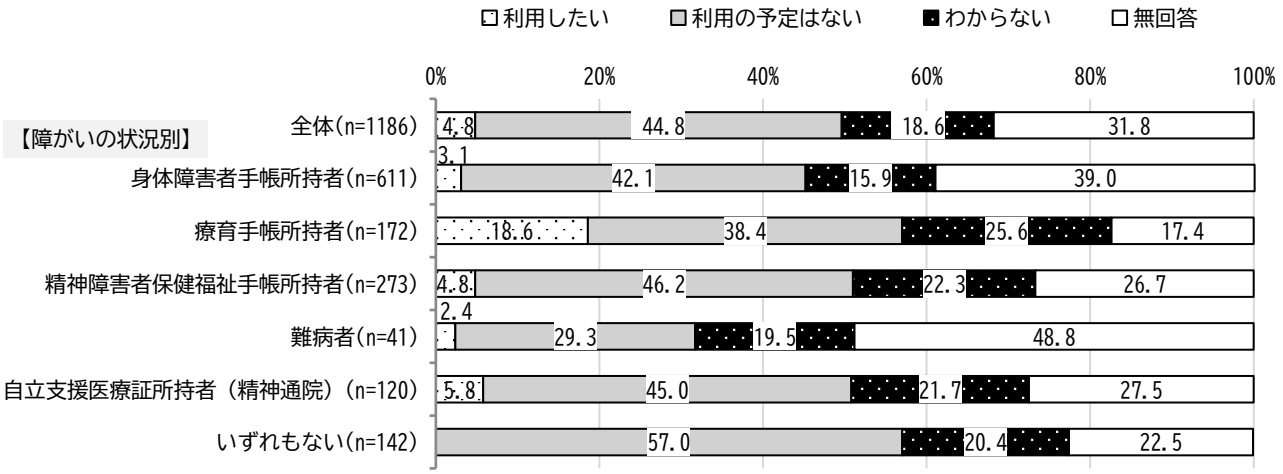
【利用の意向】１－③同行援護

◆ 全体では、「利用したい」が 3.1%、「利用の予定はない」が 48.7%、「わからない」が 16.4%となっています。
◆ 障がいの状況別にみると、それぞれで「利用の予定はない」が最も高くなっている中で、療育手帳所持者で「利用したい」が他と比べて高くなっています。



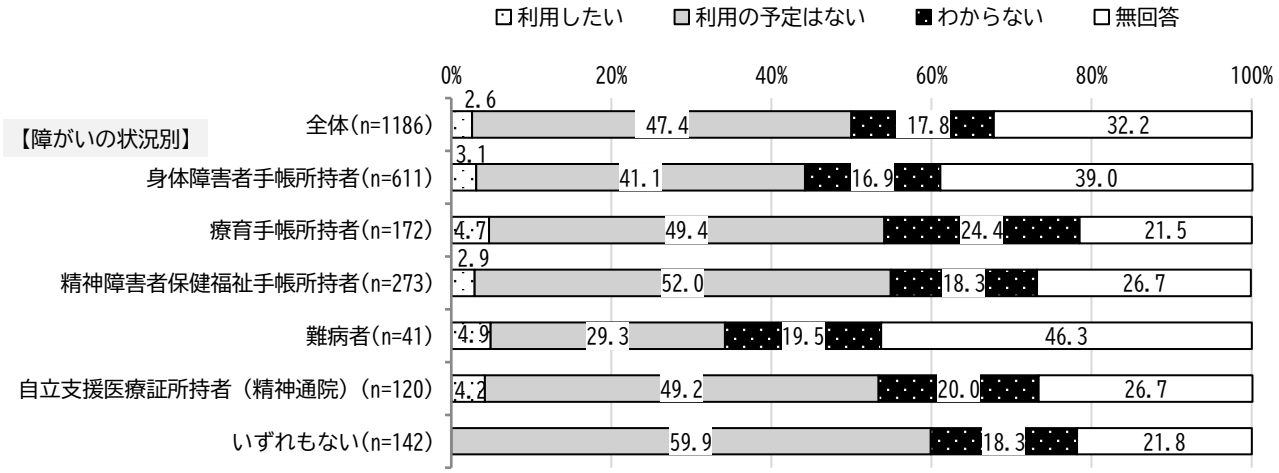
【利用の意向】１－④行動援護

◆ 全体では、「利用したい」が 4.8%、「利用の予定はない」が 44.8%、「わからない」が 18.6%となっています。
◆ 障がいの状況別にみると、それぞれで「利用の予定はない」が最も高くなっている中で、療育手帳所持者で「利用したい」が他と比べて高くなっています。



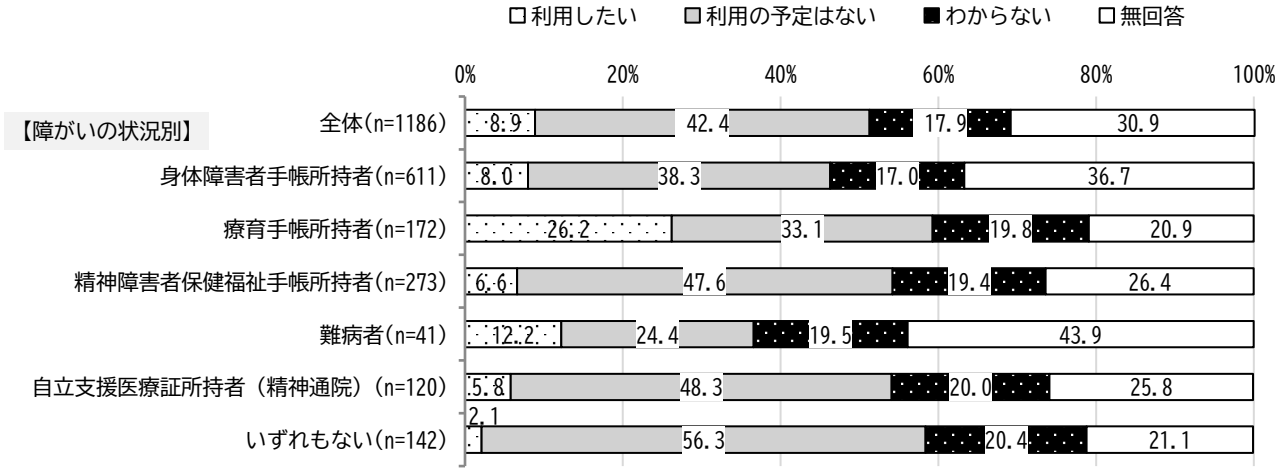
【利用の意向】１ー⑤重度障害者等包括支援

◆ 全体では、「利用したい」が 2.6%、「利用の予定はない」が 47.4%、「わからない」が 17.8%となっています。
◆ 障がいの状況別にみると、それぞれで「利用の予定はない」が、最も高くなっています。



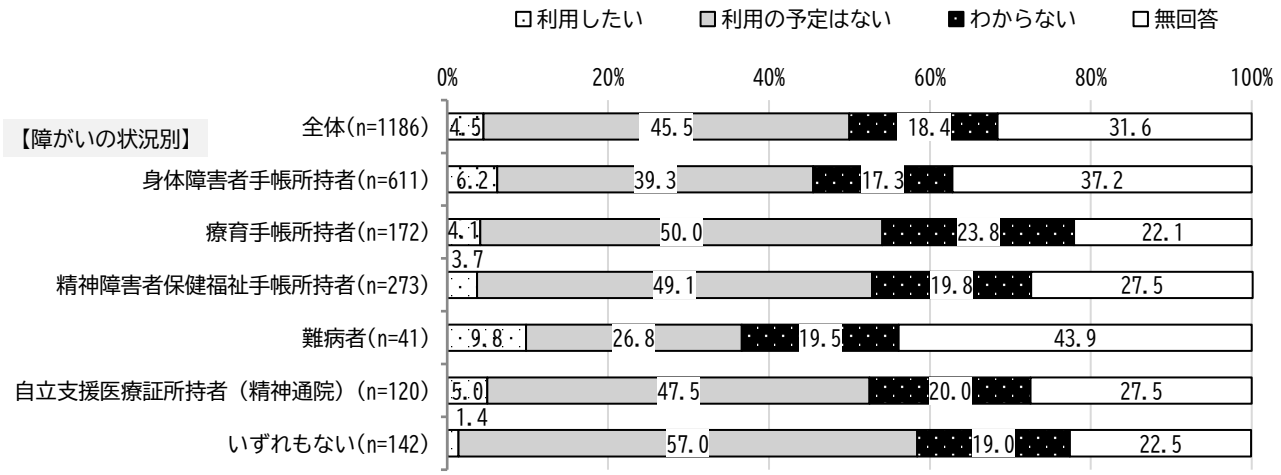
【利用の意向】２ー①短期入所(ショートステイ)

◆ 全体では、「利用したい」が 8.9%、「利用の予定はない」が 42.4%、「わからない」が 17.9%となっています。
◆ 障がいの状況別にみると、それぞれで「利用の予定はない」が最も高くなっている中で、療育手帳所持者で「利用したい」が他と比べて高くなっています。



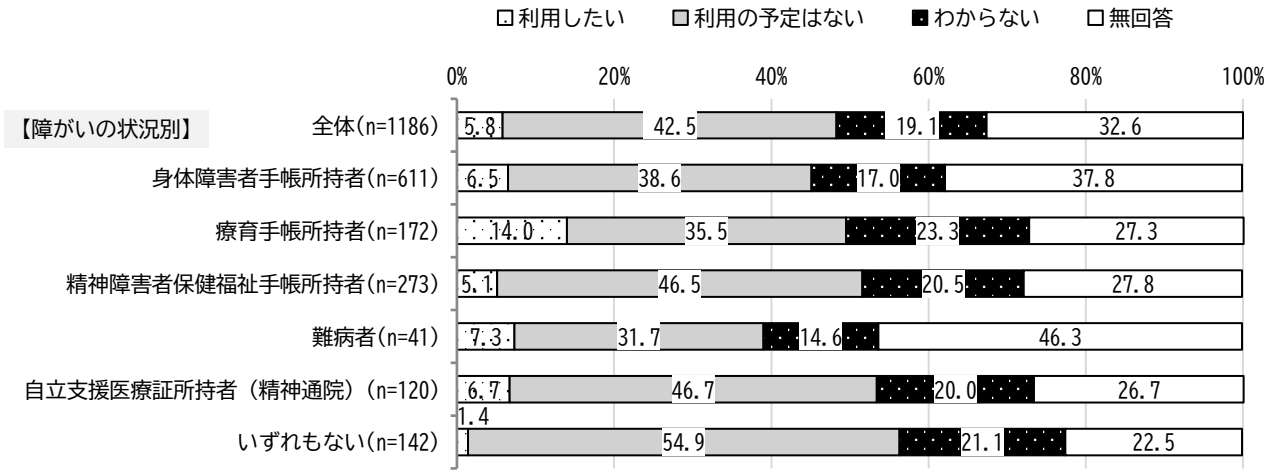
【利用の意向】２－②療養介護

◆ 全体では、「利用したい」が4.5%、「利用の予定はない」が45.5%、「わからない」が18.4%となっています。
◆ 障がいの状況別にみると、それぞれで「利用の予定はない」が最も高くなっている中で、難病者で「利用したい」が他と比べて高くなっています。



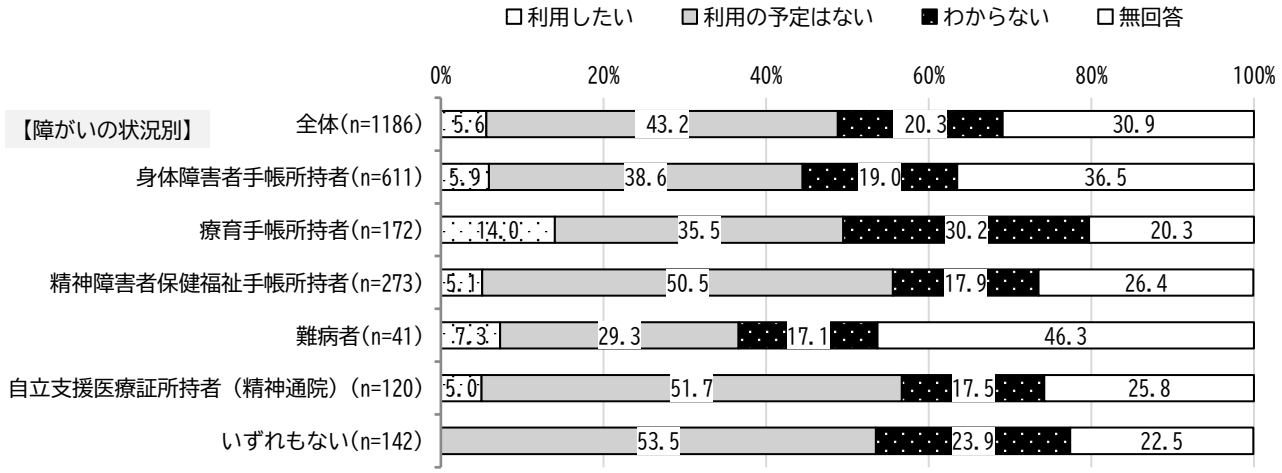
【利用の意向】２－③生活介護

◆ 全体では、「利用したい」が5.8%、「利用の予定はない」が42.5%、「わからない」が19.1%となっています。
◆ 障がいの状況別にみると、それぞれで「利用の予定はない」が最も高くなっている中で、療育手帳所持者で「利用したい」が他と比べて高くなっています。



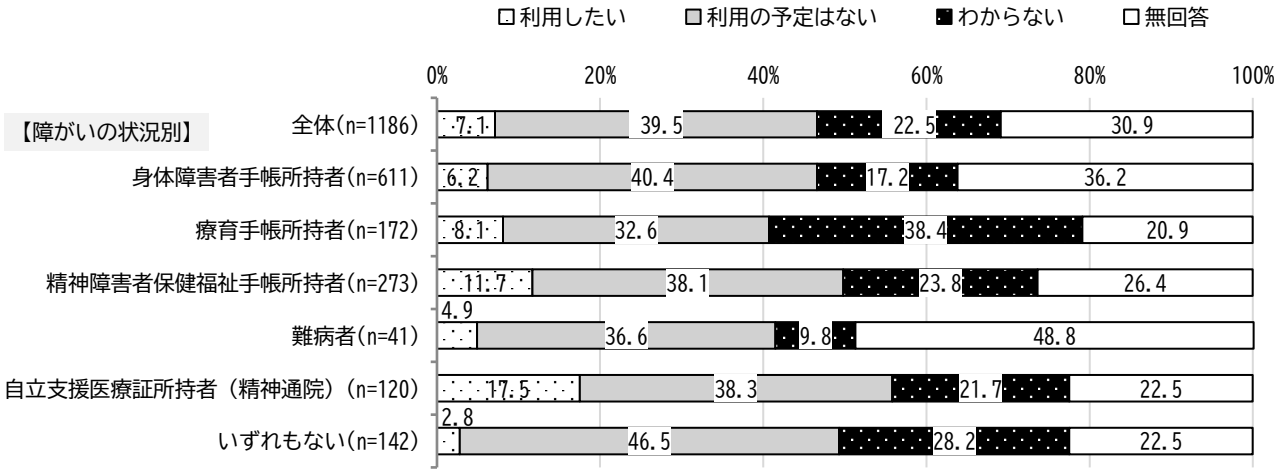
【利用の意向】３－①施設入所支援

◆ 全体では、「利用したい」が5.6%、「利用の予定はない」が43.2%、「わからない」が20.3%となっています。
◆ 障がいの状況別にみると、それぞれで「利用の予定はない」が最も高くなっている中で、療育手帳所持者で「利用したい」が他と比べて高くなっています。



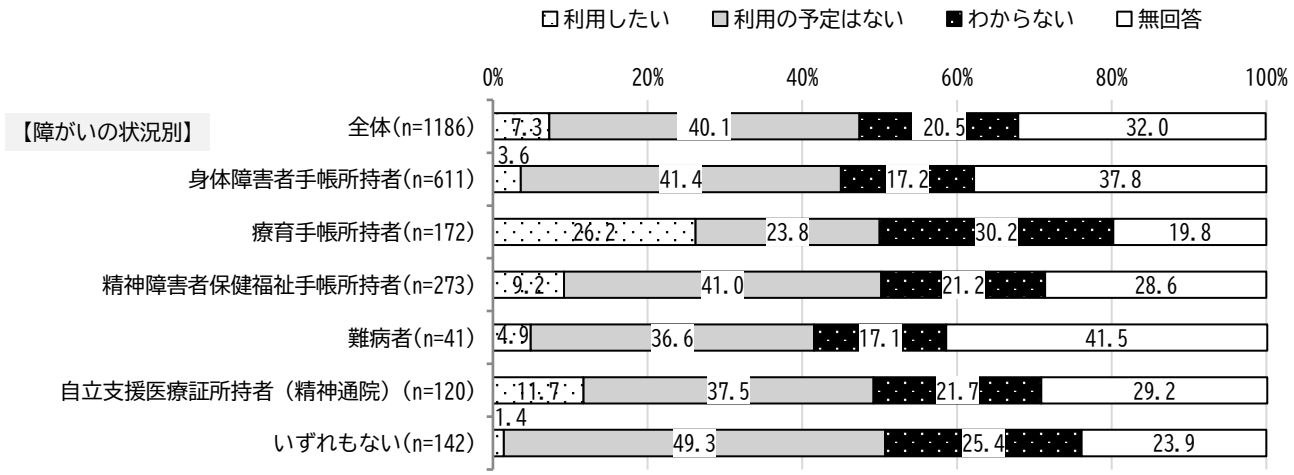
【利用の意向】４－①自立生活援助

◆ 全体では、「利用したい」が7.1%、「利用の予定はない」が39.5%、「わからない」が22.5%となっています。
◆ 障がいの状況別にみると、それぞれで「利用の予定はない」が最も高くなっている中で、自立支援医療証所持者で「利用したい」が他と比べて高くなっています。



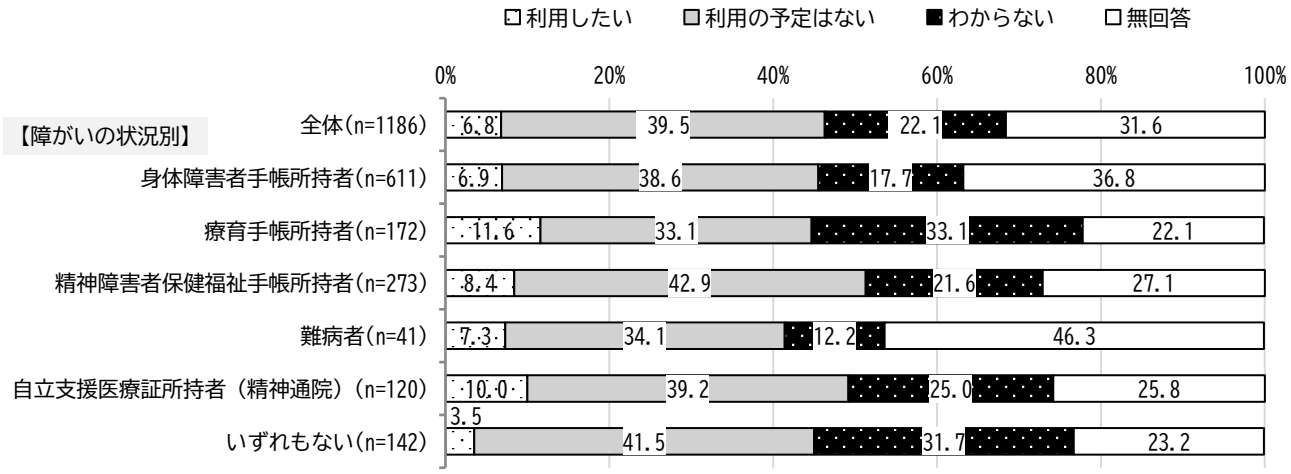
【利用の意向】４－②共同生活援助（グループホーム）

◆ 全体では、「利用したい」が 7.3%、「利用の予定はない」が 40.1%、「わからない」が 20.5%となっています。
◆ 障がいの状況別にみると、療育手帳所持者で、「わからない」と「利用したい」が、「利用の予定はない」よりも高くなっています。



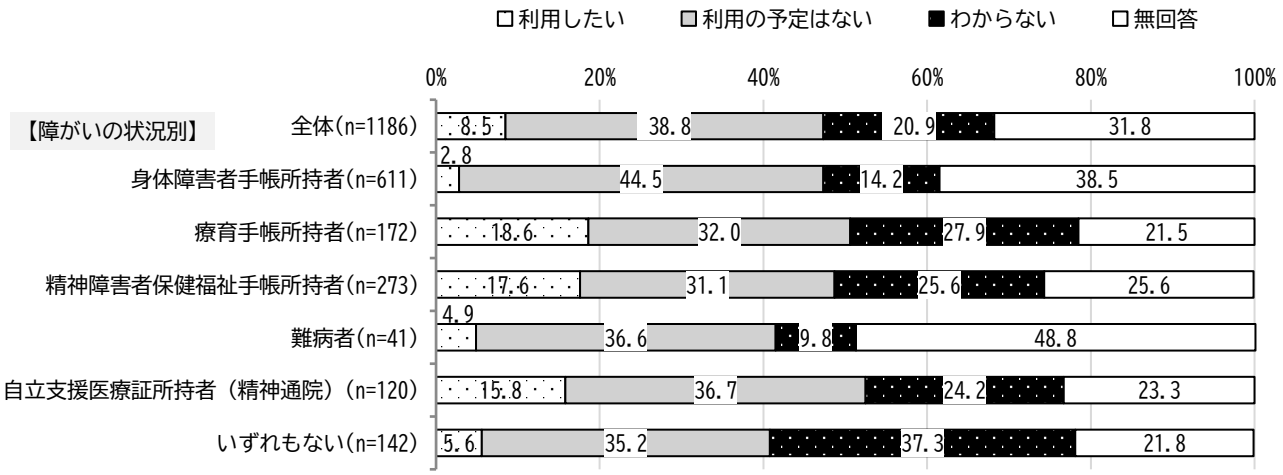
【利用の意向】５－①自立訓練（機能訓練・生活訓練）

◆ 全体では、「利用したい」が 6.8%、「利用の予定はない」が 39.5%、「わからない」が 22.1%となっています。
◆ 障がいの状況別にみると、それぞれで「利用の予定はない」が、最も高くなっている中で、療育手帳所持者・自立支援医療証所持者で「利用したい」が他と比べて高くなっています。



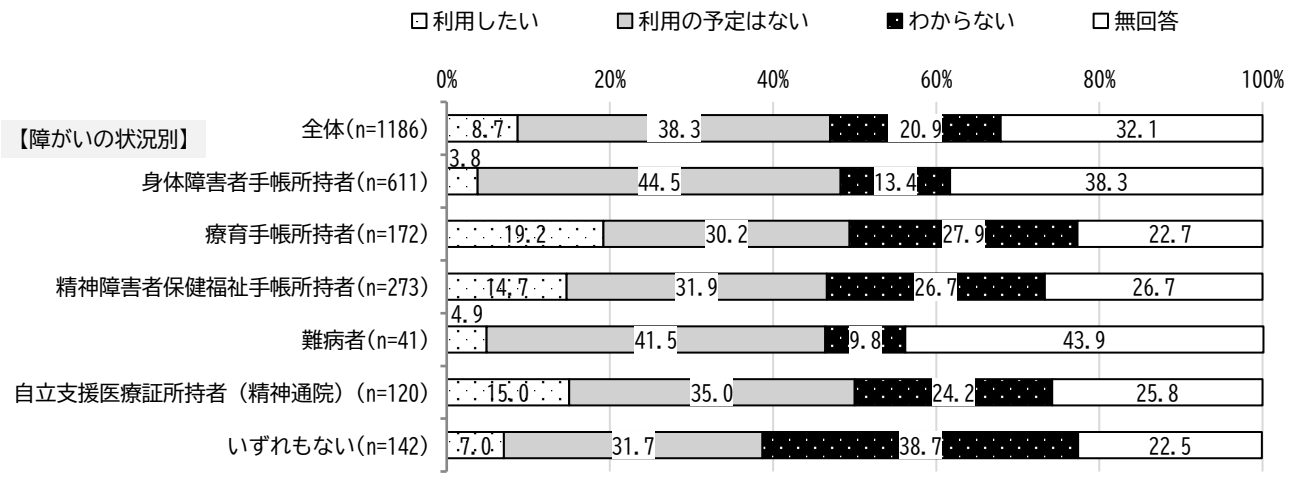
【利用の意向】５－②就労移行支援

◆ 全体では、「利用したい」が 8.5%、「利用の予定はない」が 38.8%、「わからない」が 20.9%となっています。
◆ 障がいの状況別にみると、それぞれで「利用の予定はない」が最も高くなっている中で、療育手帳所持者・精神障害者保健福祉手帳所持者・自立支援医療証所持者で「利用したい」が他と比べて高くなっています。



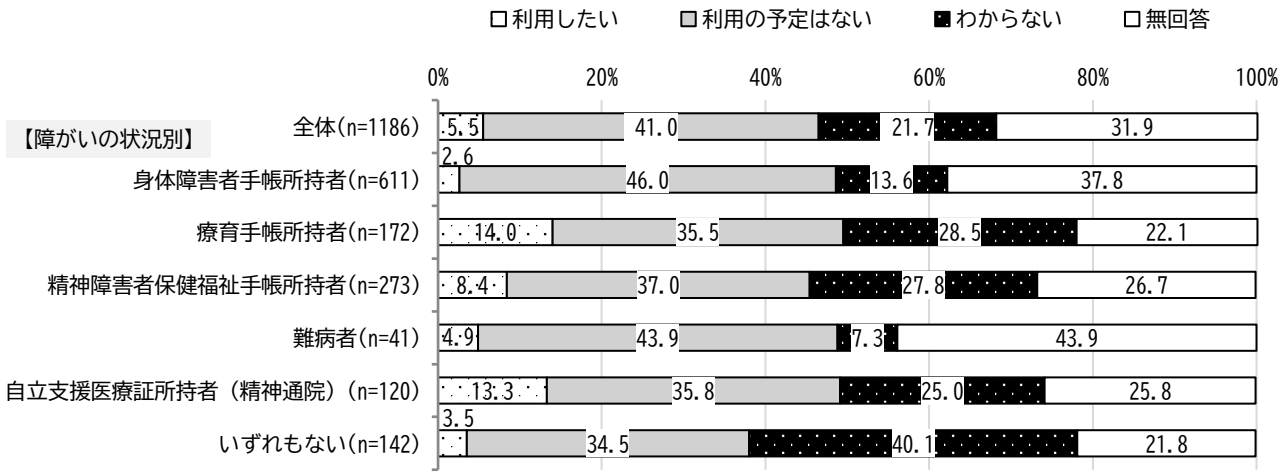
【利用の意向】５－③就労選択支援

◆ 全体では、「利用したい」が 8.7%、「利用の予定はない」が 38.3%、「わからない」が 20.9%となっています。
◆ 障がいの状況別にみると、それぞれで「利用の予定はない」が最も高くなっている中で、療育手帳所持者・精神障害者保健福祉手帳所持者・自立支援医療証所持者で「利用したい」が他と比べて高くなっています。



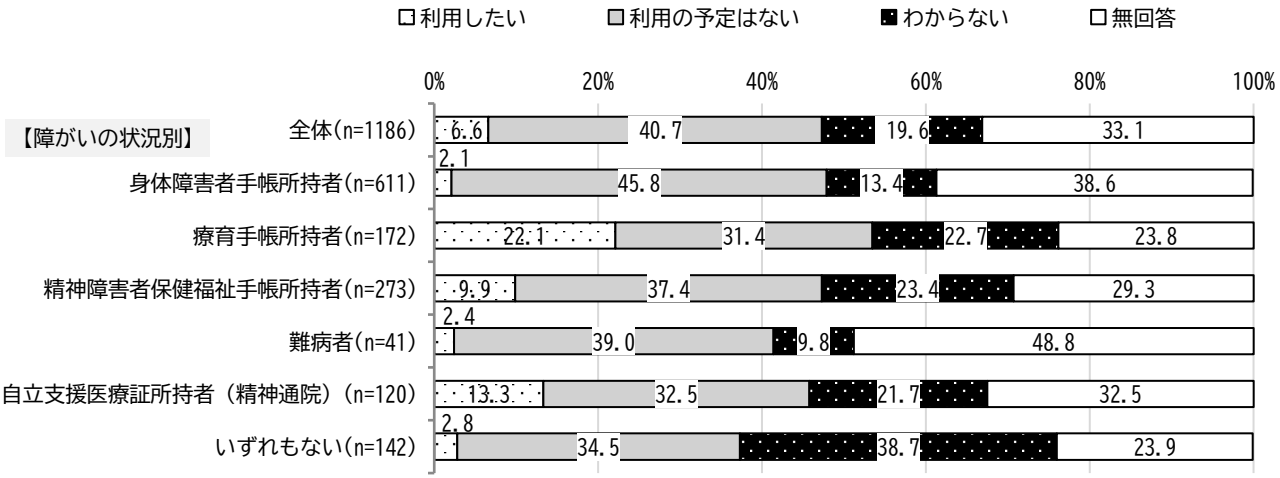
【利用の意向】５－④就労継続支援（Ａ型）

◆ 全体では、「利用したい」が5.5%、「利用の予定はない」が41.0%、「わからない」が21.7%となっています。
◆ 障がいの状況別にみると、それぞれで「利用の予定はない」が最も高くなっている中で、療育手帳所持者・自立支援医療証所持者で「利用したい」が他と比べて高くなっています。



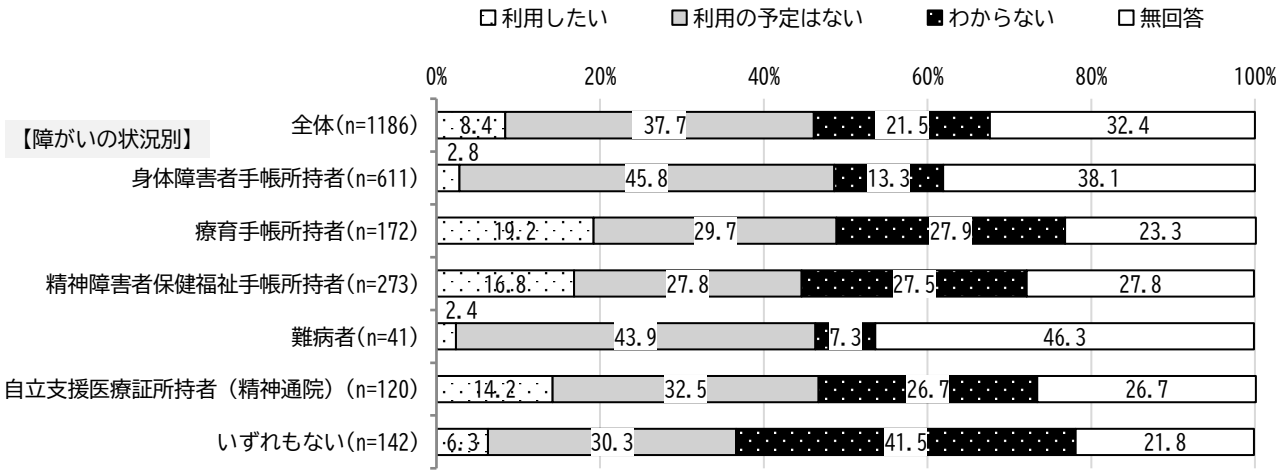
【利用の意向】５－⑤就労継続支援（Ｂ型）

◆ 全体では、「利用したい」が6.6%、「利用の予定はない」が40.7%、「わからない」が19.6%となっています。
◆ 障がいの状況別にみると、いずれもない人で「わからない」が、最も高くなっています。また、療育手帳所持者で、「利用したい」が他と比べて高くなっています。



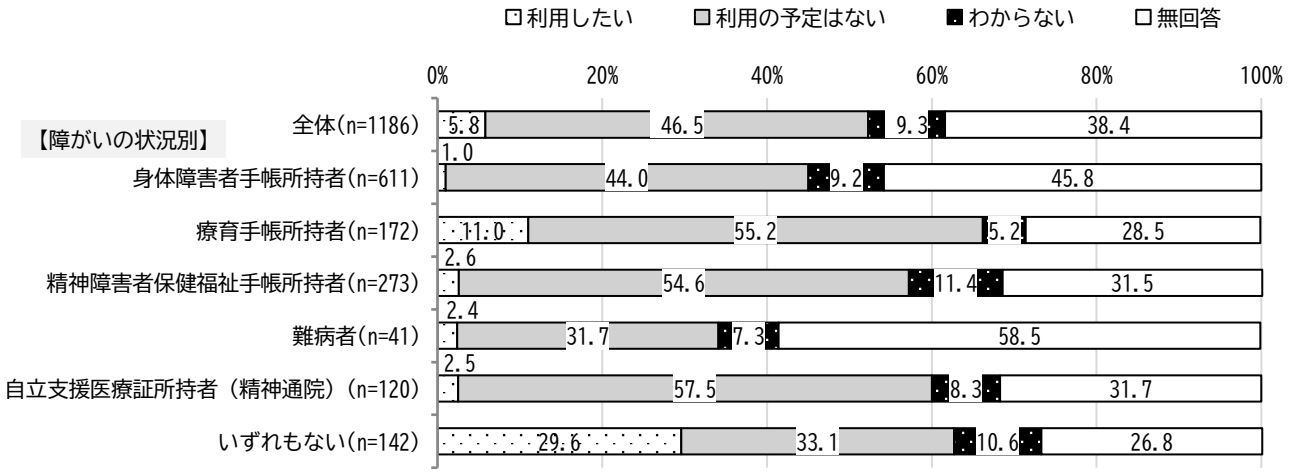
【利用の意向】５－⑥就労定着支援

◆ 全体では、「利用したい」が 8.4%、「利用の予定はない」が 37.7%、「わからない」が 21.5%となっています。
◆ 障がいの状況別にみると、いずれもない人で「わからない」が、最も高くなっています。また、療育手帳所持者・精神障害者保健福祉手帳所持者・自立支援医療証所持者で、「利用したい」が他と比べて高くなっています。



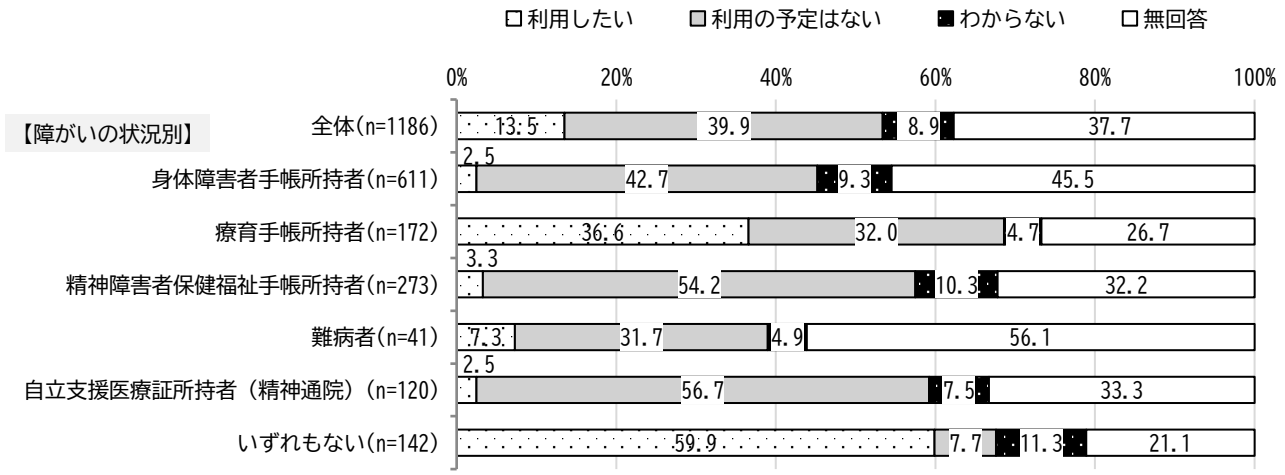
【利用の意向】６－①児童発達支援

◆ 全体では、「利用したい」が 5.8%、「利用の予定はない」が 46.5%、「わからない」が 9.3%となっています。
◆ 障がいの状況別にみると、それぞれで「利用の予定はない」が最も高くなっている中で、いずれもない人で「利用したい」が他と比べて高くなっています。



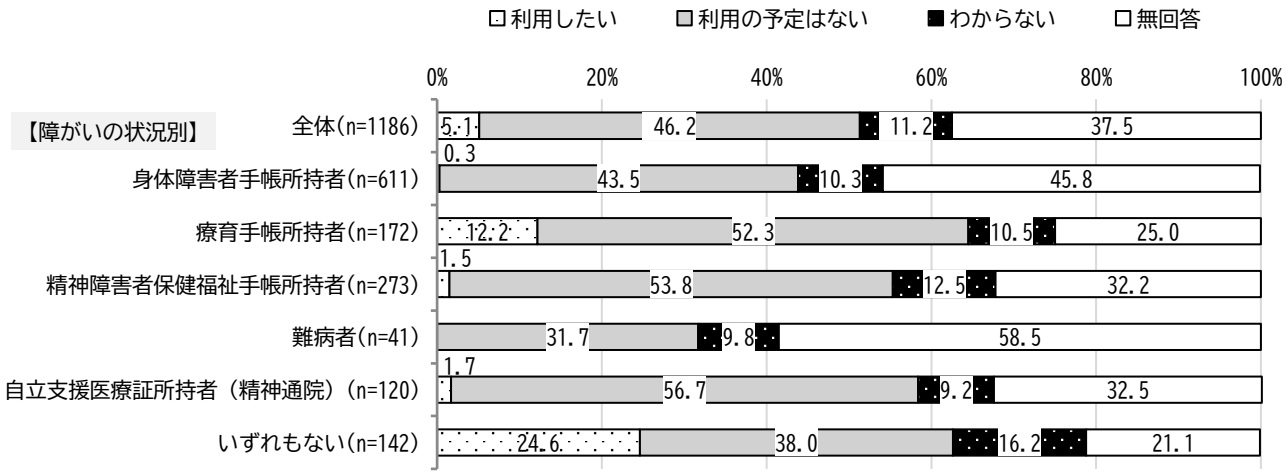
【利用の意向】６ー②放課後等デイサービス

◆ 全体では、「利用したい」が 13.5%、「利用の予定はない」が 39.9%、「わからない」が 8.9%となっています。
◆ 障がいの状況別にみると、療育手帳所持者・いずれもない人で「利用したい」が、最も高くなっています。



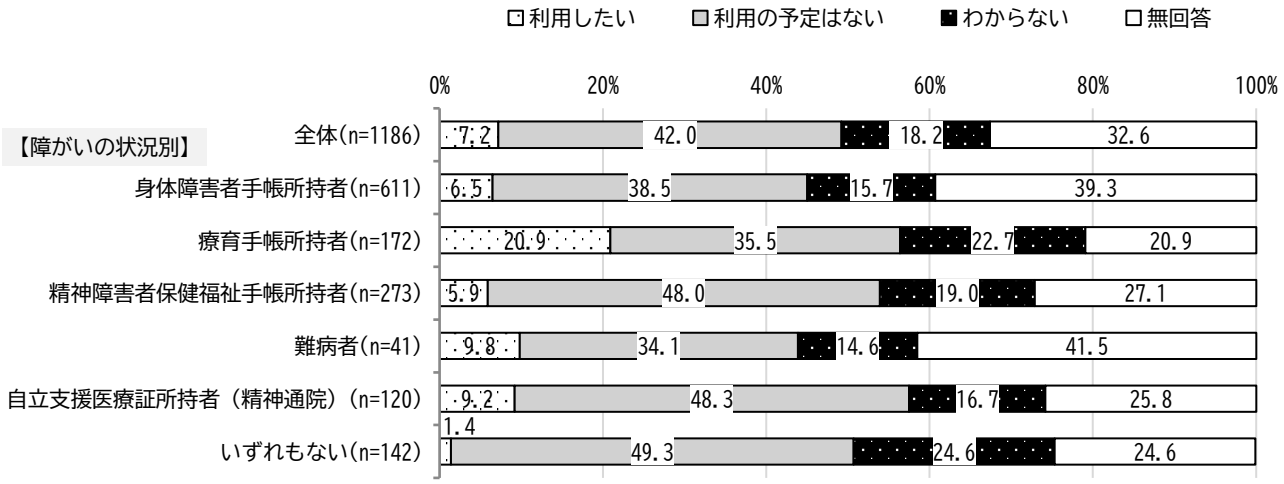
【利用の意向】６ー③保育所等訪問支援

◆ 全体では、「利用したい」が 5．1%、「利用の予定はない」が 46.2%、「わからない」が 11.2%となっています。
◆ 障がいの状況別にみると、それぞれで「利用の予定はない」が最も高くなっている中で、いずれもない人で「利用したい」が他と比べて高くなっています。



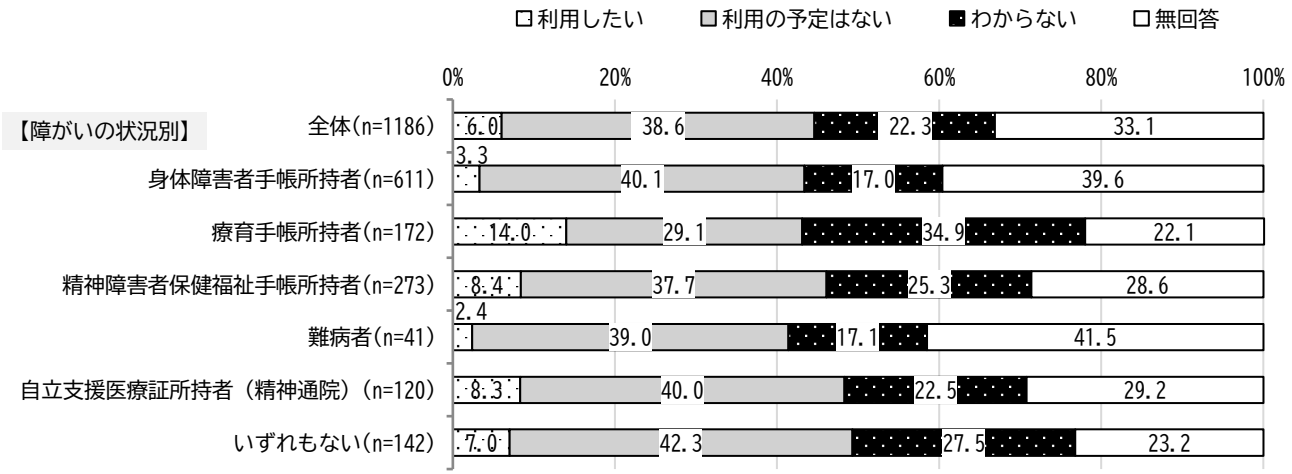
【利用の意向】７ー①移動支援事業

◆ 全体では、「利用したい」が 7.2%、「利用の予定はない」が 42.0%、「わからない」が 18.2%となっています。
◆ 障がいの状況別にみると、それぞれで「利用の予定はない」が最も高くなっている中で、療育手帳所持者で「利用したい」が他と比べて高くなっています。



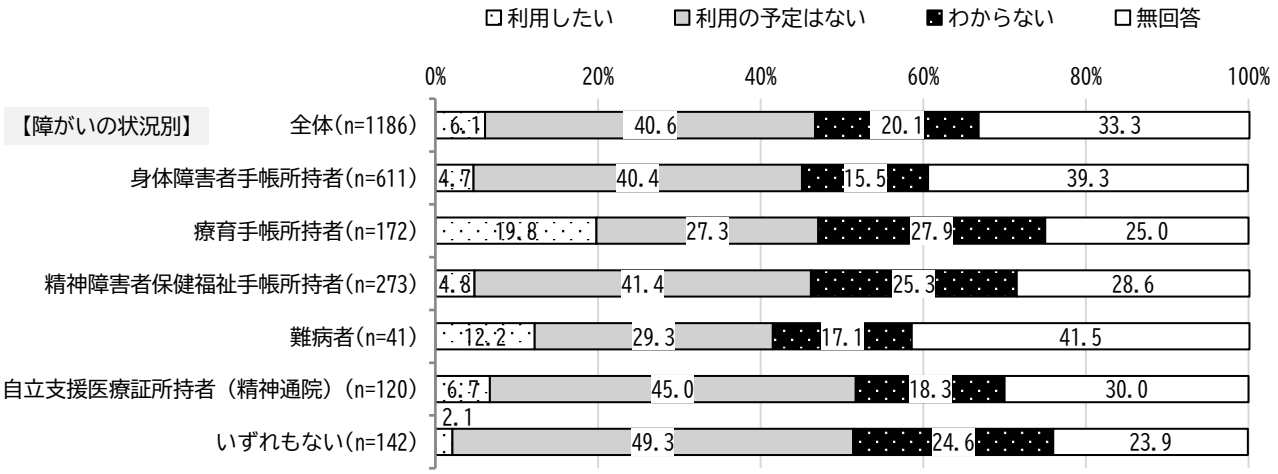
【利用の意向】７ー②地域活動支援センター事業

◆ 全体では、「利用したい」が 6.0%、「利用の予定はない」が 38.6%、「わからない」が 22.3%となっています。
◆ 障がいの状況別にみると、それぞれで「利用の予定はない」が最も高くなっている中で、療育手帳所持者で「利用したい」が他と比べて高くなっています。



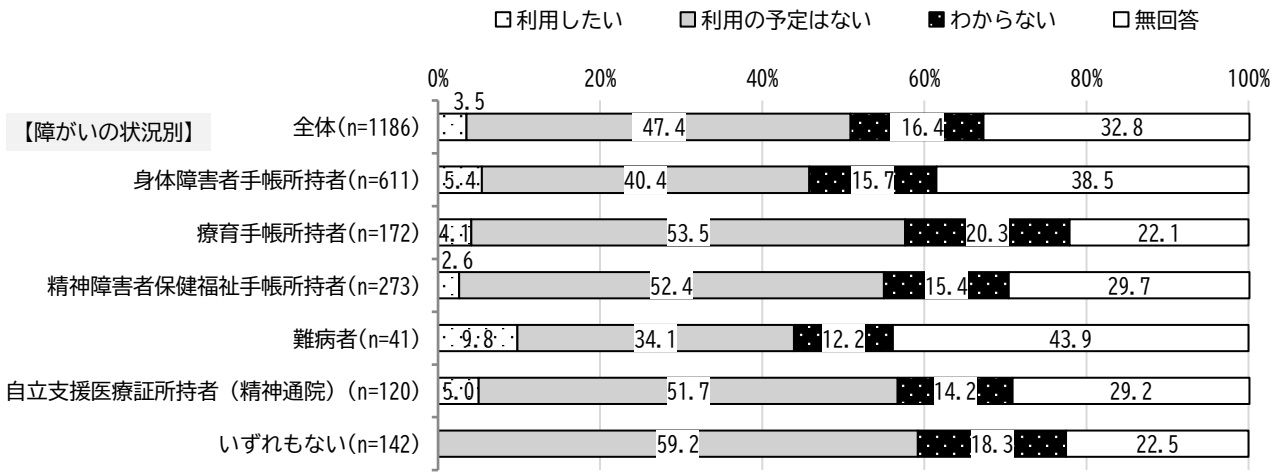
【利用の意向】７－③日中一時支援事業

◆ 全体では、「利用したい」が 6.1%、「利用の予定はない」が 40.6%、「わからない」が 20.1%となっています。
◆ 障がいの状況別にみると、それぞれで「利用の予定はない」が最も高くなっている中で、療育手帳所持者で「利用したい」が他と比べて高くなっています。



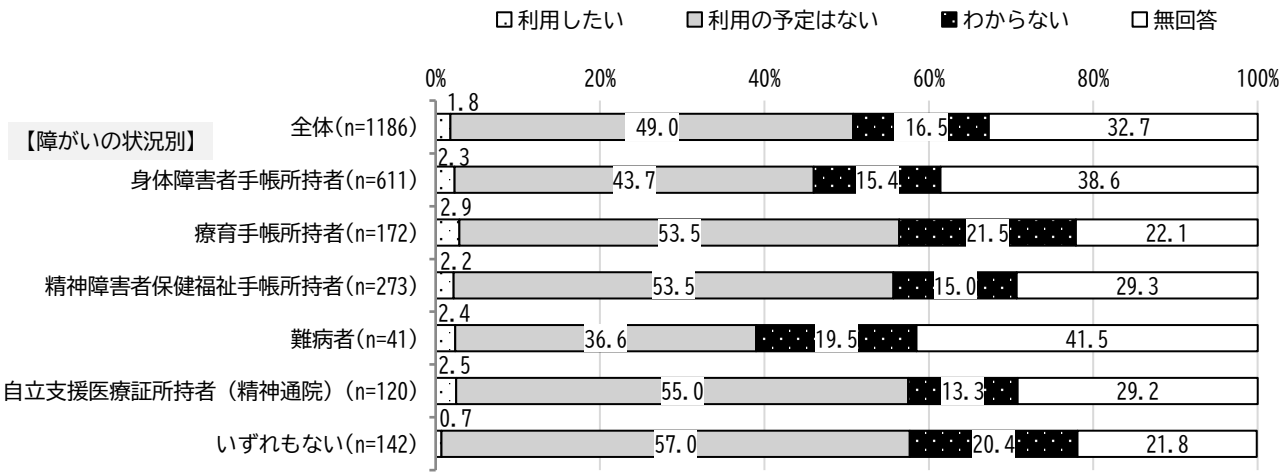
【利用の意向】７－④訪問入浴サービス事業

◆ 全体では、「利用したい」が 3.5%、「利用の予定はない」が 47.4%、「わからない」が 16.4%となっています。
◆ 障がいの状況別にみると、それぞれで「利用の予定はない」が最も高くなっている中で、難病者で「利用したい」が他と比べて高くなっています。



【利用の意向】７－⑤意思疎通支援事業

◆ 全体では、「利用したい」が1.8%、「利用の予定はない」が49.0%、「わからない」が16.5%となっています。
◆ 障がいの状況別にみると、それぞれで「利用の予定はない」が、最も高くなっています。



問 29　障害福祉サービスに関する情報はどこから入手していますか【○はいくつでも】

◆ 全体では、「家族・親戚」が 26.9%と最も高くなっており、次いで「市の広報紙」が 22.6%、「市役所」が 22.1%となっています。
◆ 障がいの状況別にみると、療育手帳所持者では「家族・親戚」と「相談員」が、いずれもない人で「家族・親戚」が、精神障害者保健福祉手帳所持者・自立支援医療証所持者で「市役所」が、身体障害者手帳所持者・難病者で「市の広報紙」が、精神障害者保健福祉手帳所持者で「インターネット」が、それぞれ最も高くなっています。

（%）

	家族・親戚	友人・知人	学校・職場・施設	ケアマネージャー	民生委員・児童委員	相談員	病院・診療所・薬局	社会福祉協議会	ボランティア
全体(n=1186)	26.9	11.7	11.4	13.3	2.4	16.7	13.0	18.0	0.8
身体障害者手帳所持者(n=611)	20.9	10.0	4.6	21.3	3.9	5.7	12.9	13.1	1.1
療育手帳所持者(n=172)	40.1	23.8	32.0	5.2	1.7	40.1	9.9	33.1	0.0
精神障害者保健福祉手帳所持者(n=273)	26.0	5.5	10.6	5.5	0.4	23.1	19.0	19.8	0.7
難病者(n=41)	14.6	12.2	7.3	31.7	0.0	12.2	29.3	19.5	0.0
自立支援医療証所持者（精神通院）(n=120)	18.3	3.3	10.8	10.8	1.7	26.7	23.3	16.7	0.8
いずれもない(n=142)	40.1	19.7	23.9	2.8	0.0	36.6	5.6	19.7	0.0

(%)

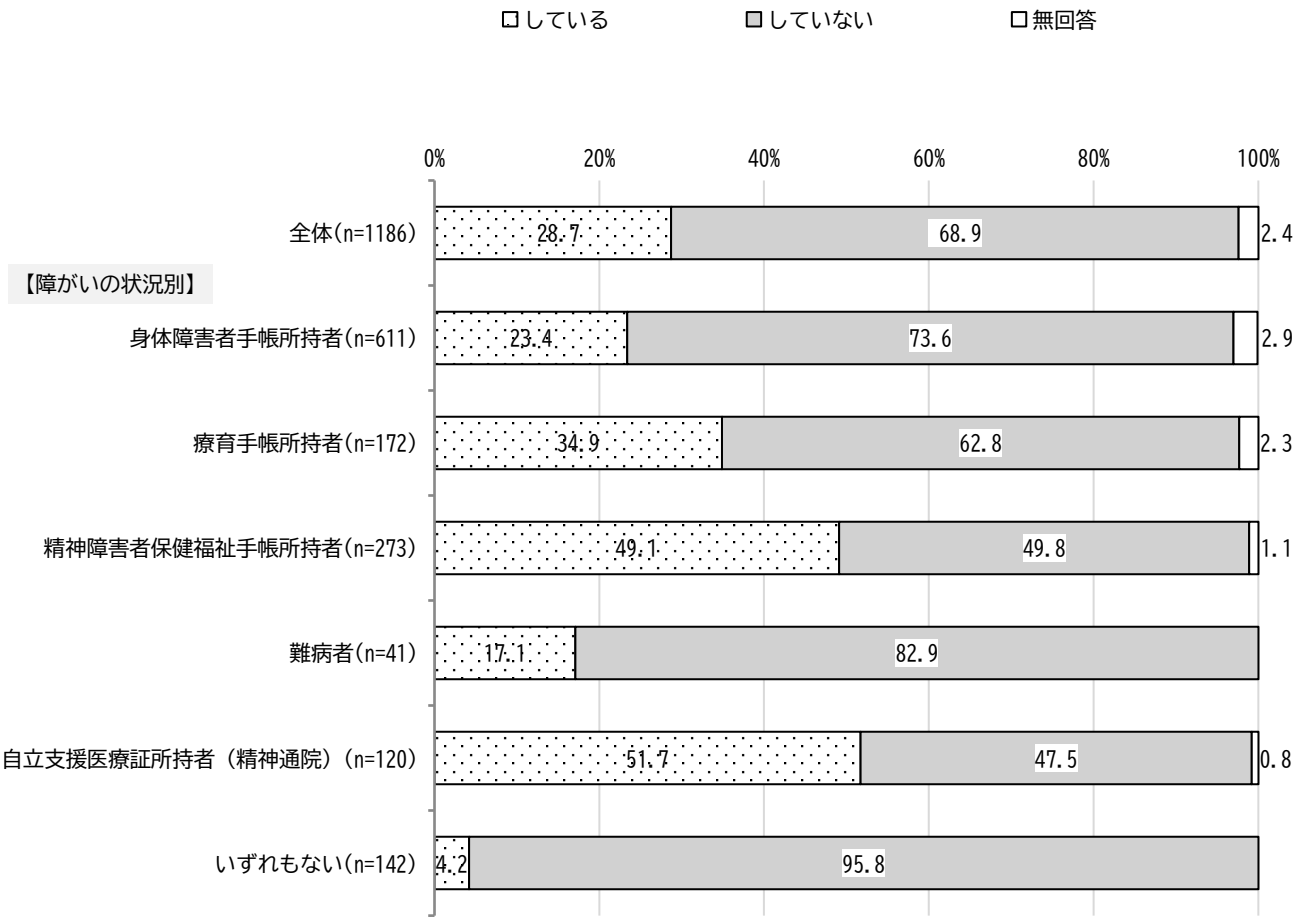
	市役所	市の広報紙	テレビ・ラジオ	新聞・雑誌	インターネット(ホームページ・SNSなど)	その他	特にない	無回答
全体(n=1186)	22.1	22.6	4.0	5.3	18.1	1.2	11.9	4.6
身体障害者手帳所持者(n=611)	22.7	30.6	5.6	7.7	15.1	1.1	15.2	5.9
療育手帳所持者(n=172)	17.4	11.6	2.3	3.5	18.0	2.3	3.5	2.9
精神障害者保健福祉手帳所持者(n=273)	27.5	19.4	3.3	2.6	27.5	2.2	9.2	2.6
難病者(n=41)	31.7	36.6	7.3	4.9	14.6	4.9	7.3	2.4
自立支援医療証所持者（精神通院）(n=120)	31.7	14.2	3.3	3.3	27.5	2.5	7.5	0.8
いずれもない(n=142)	13.4	7.0	1.4	1.4	14.8	0.0	12.0	1.4

主な「その他」の内容	件数
ハローワーク	3

7．雇用・就労について

問 30　あなたは、現在、仕事をしていますか。【○は１つ】

◆ 全体では、「している」が 28.7%、「していない」が 68.9%となっています。
◆ 障がいの状況別にみると、自立支援医療証所持者で「している」が、身体障害者手帳所持者・療育手帳所持者・精神障害者保健福祉手帳所持者・難病者・いずれもない人で「していない」が、それぞれ最も高くなっています。

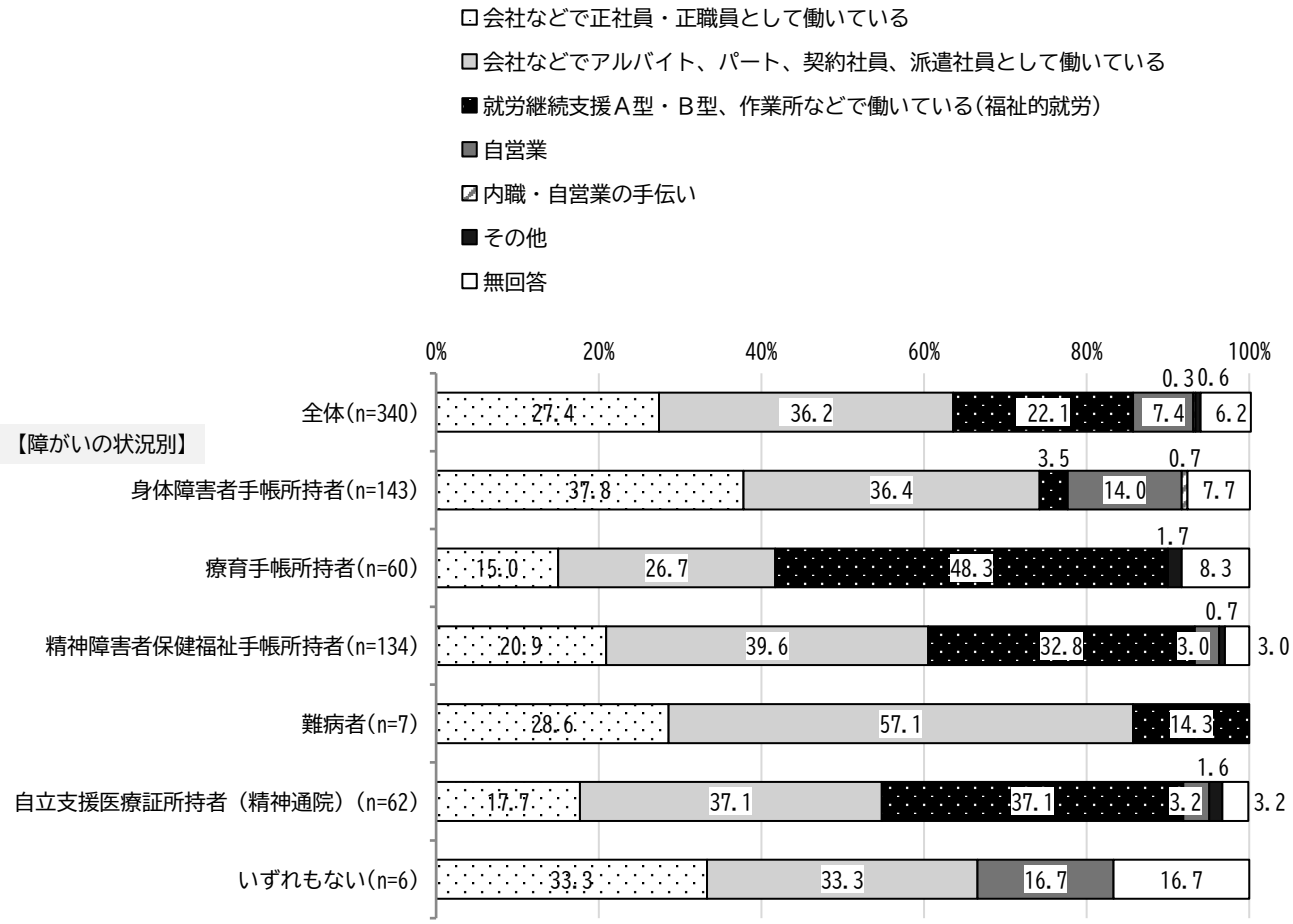


問 30 で「１．している」を選んだ方にお聞きします。

問 31　あなたは、どこで働いていますか。【○は１つ】

◆ 全体では、「会社などでアルバイト、パート、契約社員、派遣社員として働いている」が 36.2%で最も高く、次いで「会社などで正社員・正職員として働いている」が 27.4%、「就労継続支援Ａ型・Ｂ型、作業所などで働いている(福祉的就労)」が 22.1%となっています。

◆ 障がいの状況別にみると、身体障害者手帳所持者で「会社などで正社員・正職員として働いている」が、精神障害者保健福祉手帳所持者・難病者で「会社などでアルバイト、パート、契約社員、派遣社員として働いている」が、療育手帳所持者で「就労継続支援Ａ型・Ｂ型、作業所などで働いている(福祉的就労)」が、自立支援医療証所持者では「会社などでアルバイト、パート、契約社員、派遣社員として働いている」と「就労継続支援Ａ型・Ｂ型、作業所などで働いている(福祉的就労)」が、いずれもない人では「会社などで正社員・正職員として働いている」と「会社などでアルバイト、パート、契約社員、派遣社員として働いている」が、それぞれ最も高くなっています。

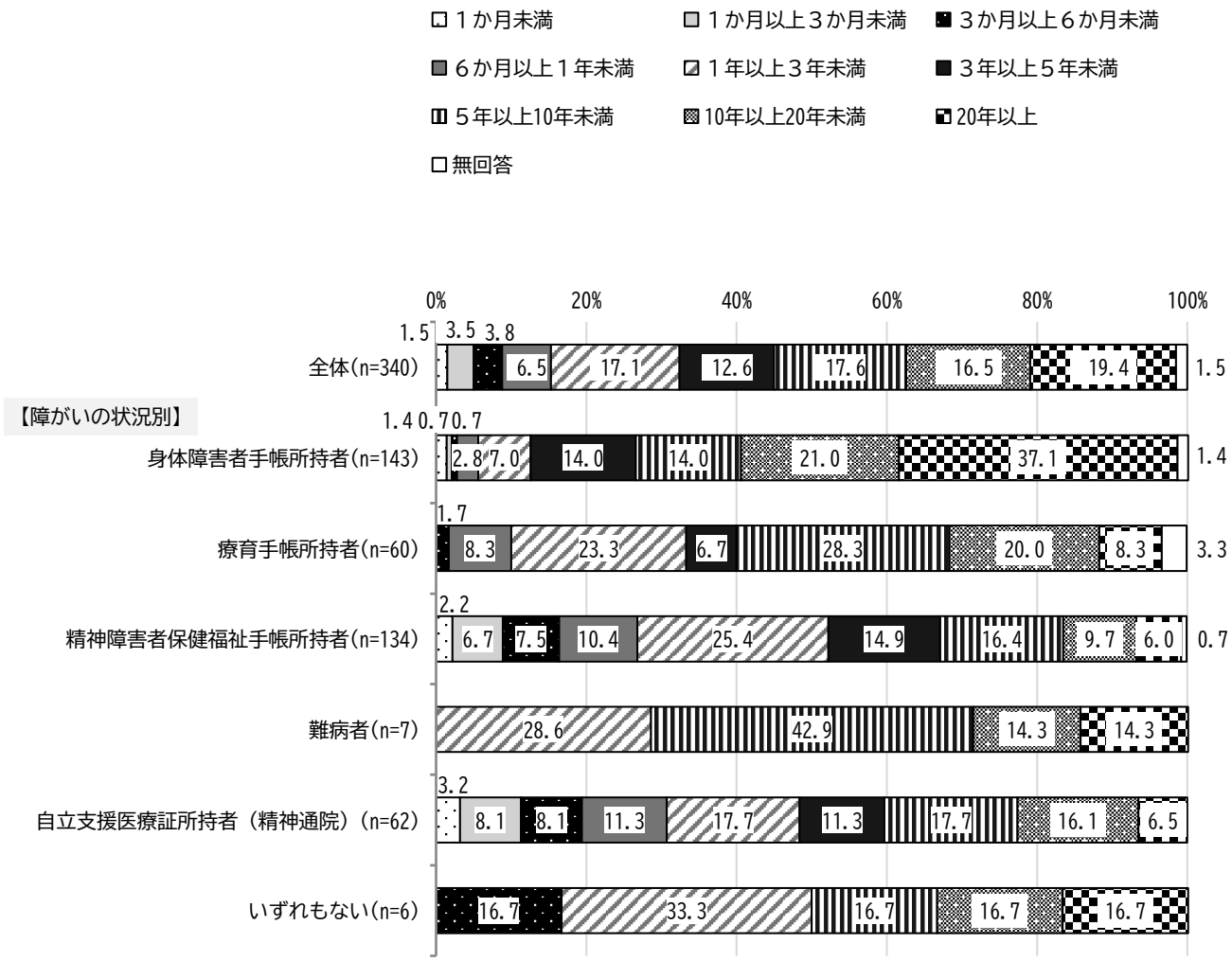


主な「その他」の内容	件数
シルバー人材センター	4

問 30 で「１．している」を選んだ方にお聞きします。

問 32　今の仕事に就いて、どのくらい経ちましたか。【○は１つ】

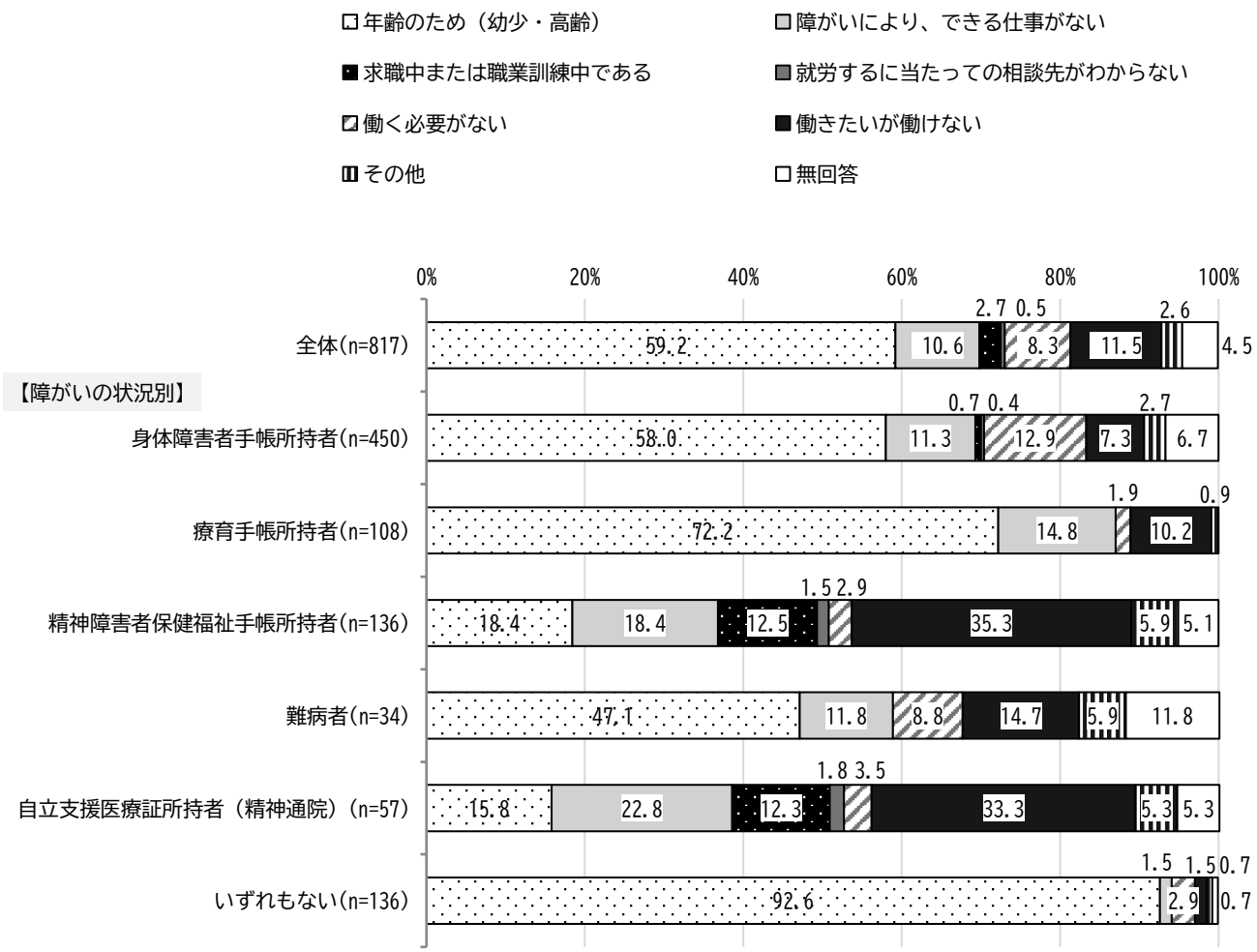
◆ 全体では、「20 年以上」が 19.4%で最も高く、次いで「５年以上 10 年未満」が 17.6%、「１年以上３年未満」が 17.1%となっています。
◆ 障がいの状況別にみると、身体障害者手帳所持者で「20 年以上」が、療育手帳所持者・難病者で「５年以上 10 年未満」が、精神障害者保健福祉手帳所持者・いずれもない人で「１年以上３年未満」が、自立支援医療証所持者では「５年以上 10 年未満」と「１年以上３年未満」が、それぞれ最も高くなっています。



問 30 で「２．していない」を選んだ方にお聞きします。

問 33　働いていない主な理由は何ですか。【○は１つ】

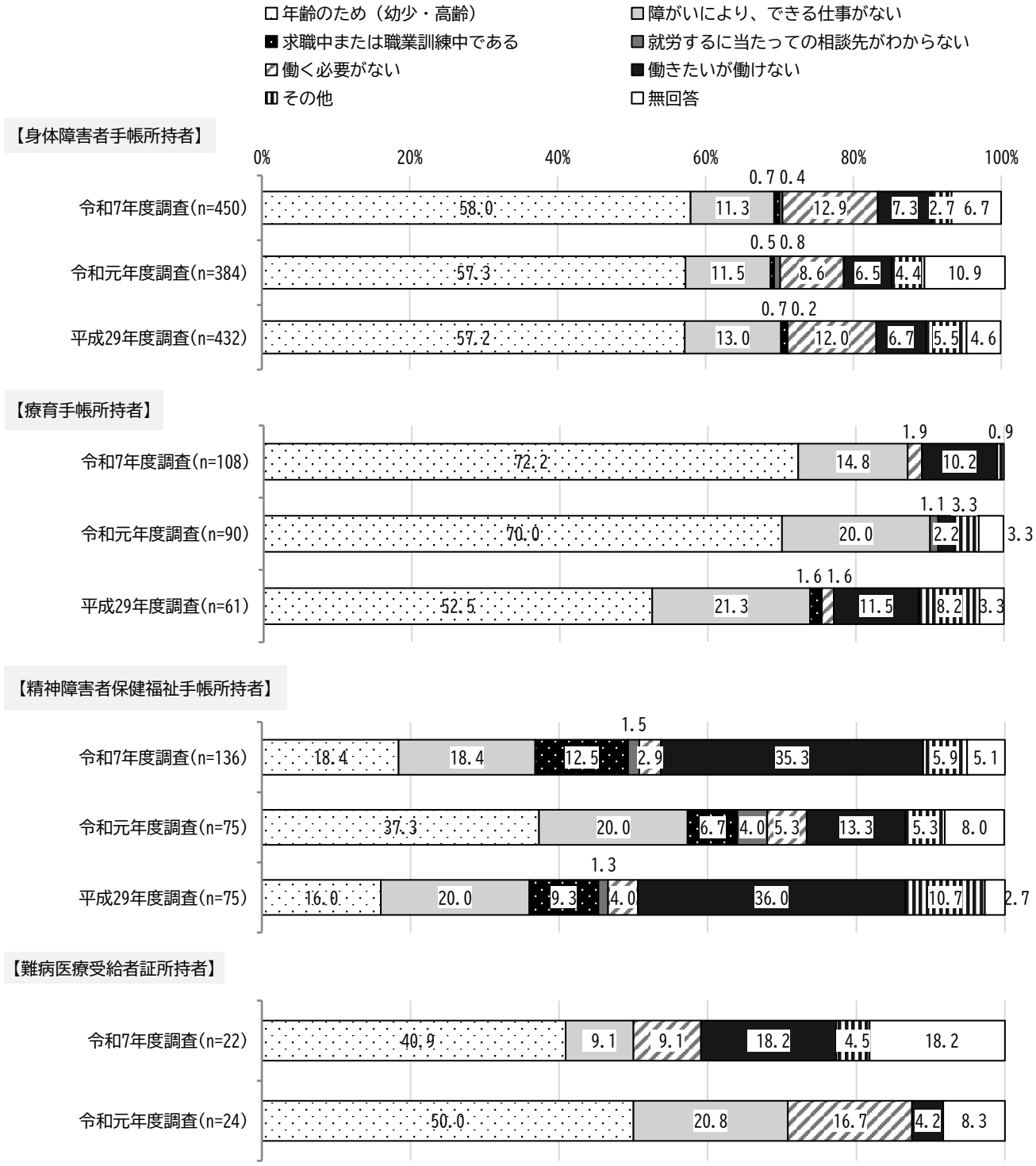
◆ 全体では、「年齢のため（幼少・高齢）」が 59.2%で最も高く、次いで「働きたいが働けない」が 11.5%、「障がいにより、できる仕事がない」が 10.6%となっています。
◆ 障がいの状況別にみると、身体障害者手帳所持者・療育手帳所持者・難病者・いずれもない人で「年齢のため(幼少・高齢)」が、精神障害者保健福祉手帳所持者・自立支援医療証所持者で「働きたいが働けない」が、それぞれ最も高くなっています。



主な「その他」の内容	件数
入院中	3
育児中	2

前回・前々回調査との比較

◆ 前回・前々回調査と比較すると、身体障害者手帳所持者・療育手帳所持者で「年齢のため（幼少・高齢）」が増加傾向、療育手帳所持者・精神障害者保健福祉手帳所持者で「障がいにより、できる仕事がない」が減少傾向にあります。



※「難病者」のうち、「認定あり」と回答された方を「難病医療受給者証所持者」と見なし、前回調査と比較しています。

問 33 で「6．働きたいが働けない」を選んだ方にお聞きします。

問 34　その理由は何ですか。【○はいくつでも】

◆ 全体では、「障がいの程度が重い、病弱」が 35.1%で最も高く、次いで「自分に合う（できる）仕事がない」が 29.8%、「長い間仕事をしていないため、働くことが不安」が 26.6%となっています。

◆ 障がいの状況別にみると、身体障害者手帳所持者で「自分に合う（できる）仕事がない」が、療育手帳所持者・難病者で「障がいの程度が重い、病弱」が、精神障害者保健福祉手帳所持者で「コミュニケーションや対人関係が不安」が、自立支援医療証所持者では「障がいの程度が重い、病弱」と「コミュニケーションや対人関係が不安」が、それぞれ最も高くなっています。

◆ 前回・前々回調査と比較すると、精神障害者保健福祉手帳所持者で「働く場が見つからない」が減少傾向にあります。

（%）

	障がいの程度が重い、病弱	働く場が見つからない	賃金が低いなど労働条件が悪い	自分に合う（できる）仕事がない	通勤が困難	家事・育児・介護	障がいのある人について職場の理解度が低い	長い間仕事をしていないため、働くことが不安	コミュニケーションや対人関係が不安
全体(n=94)	35.1	19.1	5.3	29.8	13.8	5.3	4.3	26.6	25.5
【身体障害者手帳所持者】									
令和７年度調査(n=33)	27.3	18.2	3.0	30.3	18.2	0.0	6.1	18.2	6.1
令和元年度調査(n=25)	48.0	12.0	4.0	24.0	12.0	12.0	4.0	16.0	0.0
平成 29 年度調査(n=29)	34.5	31.0	3.4	34.5	27.6	0.0	3.4	17.2	0.0
【療育手帳所持者】									
令和７年度調査(n=11)	45.5	9.1	9.1	27.3	9.1	0.0	0.0	0.0	9.1
令和元年度調査(n=2)	0.0	100	50.0	100	100	0.0	0.0	0.0	0.0
平成 29 年度調査(n=7)	14.3	42.9	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0
【精神障害者保健福祉手帳所持者】									
令和７年度調査(n=48)	37.5	22.9	6.3	31.3	10.4	10.4	4.2	33.3	41.7
令和元年度調査(n=10)	40.0	30.0	0.0	20.0	20.0	10.0	20.0	50.0	0.0
平成 29 年度調査(n=27)	33.3	37.0	0.0	48.1	11.1	11.1	11.1	48.1	0.0
【難病者】									
令和７年度調査(n=5)	80.0	0.0	0.0	60.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0
【難病医療受給者証所持者】									
令和７年度調査(n=4)	75.0	0.0	0.0	75.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0
令和元年度調査(n=1)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
【自立支援医療証所持者（精神通院）】									
令和７年度調査(n=19)	36.8	15.8	0.0	26.3	5.3	0.0	5.3	31.6	36.8
いずれもない(n=2)	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0

(%)

	家族の理解や協力が得られない	その他	無回答
全体(n=94)	2.1	22.3	3.2
【身体障害者手帳所持者】			
令和７年度調査(n=33)	0.0	33.3	6.1
令和元年度調査(n=25)	0.0	12.0	12.0
平成 29 年度調査(n=29)	3.4	17.2	3.4
【療育手帳所持者】			
令和７年度調査(n=11)	0.0	27.3	9.1
令和元年度調査(n=2)	50.0	0.0	0.0
平成 29 年度調査(n=7)	0.0	42.9	0.0
【精神障害者保健福祉手帳所持者】			
令和７年度調査(n=48)	4.2	12.5	2.1
令和元年度調査(n=10)	0.0	20.0	0.0
平成 29 年度調査(n=27)	0.0	11.1	0.0
【難病者】			
令和７年度調査(n=5)	0.0	0.0	0.0
【難病医療受給者証所持者】			
令和７年度調査(n=4)	0.0	0.0	0.0
令和元年度調査(n=1)	0.0	0.0	100
【自立支援医療証所持者（精神通院）】			
令和７年度調査(n=19)	0.0	21.1	0.0
いずれもない(n=2)	0.0	50.0	0.0

※「難病者」のうち、「認定あり」と回答された方を「難病医療受給者証所持者」と見なし、前回調査と比較しています。

今までに離職されたことがある方にお聞きます。

問 35　就労が続かなかった理由は何ですか。【○はいくつでも】

◆ 全体では、「体力的に続かないため」が 12.3%で最も高く、次いで「体調に波があり、いつも同じように働けないため」が 10.4%、「職場の理解がなく、働きづらくなったため」が 6.5%となっています。
◆ 障がいの状況別にみると、身体障害者手帳所持者・難病者で「体力的に続かないため」が、療育手帳所持者で「職場の理解がなく、働きづらくなったため」が、精神障害者保健福祉手帳所持者・自立支援医療証所持者で「体調に波があり、いつも同じように働けないため」が、それぞれ最も高くなっています。

(%)

	体力的に続かないため	体調に波があり、いつも同じように働けないため	職場の理解がなく、働きづらくなったため	職場に迷惑をかけているような気がしたため	仕事が分からない、うまくいかないため	職場の上司や同僚と仲良くやれないため	給料が低いため	家族の理解や協力が得られないため	その他	無回答
全体(n=1186)	12.3	10.4	6.5	5.7	4.0	6.3	2.5	0.8	8.3	68.4
身体障害者手帳所持者(n=611)	12.8	4.6	2.5	2.5	0.7	1.3	1.3	0.3	10.1	70.7
療育手帳所持者(n=172)	1.7	1.7	4.7	0.6	2.9	3.5	2.3	0.0	2.3	88.4
精神障害者保健福祉手帳所持者(n=273)	23.1	32.2	19.8	18.3	14.7	22.0	7.0	2.2	9.5	41.8
難病者(n=41)	17.1	9.8	0.0	4.9	2.4	2.4	0.0	0.0	12.2	65.9
自立支援医療証所持者（精神通院）(n=120)	27.5	33.3	18.3	20.8	15.8	25.8	9.2	0.8	7.5	38.3
いずれもない(n=142)	0.7	0.7	0.7	0.7	0.0	0.0	0.0	0.7	4.9	93.0

主な「その他」の内容	件数
高齢のため（定年等）	19
病気のため	9
パワハラ・モラハラ等があったため	5

問 36　あなたは、就労していくためには、どのような支援が必要だと思いますか。【○は３つ】

◆ 全体では、「仕事探しから就労までの総合的な相談支援」が 38.9%で最も高く、次いで「障がいの特性にあった職業・雇用の拡大」が 33.0%、「障がいや病気などに応じた柔軟な勤務体制」が 28．8%となっています。

◆ 障がいの状況別にみると、身体障害者手帳所持者・療育手帳所持者・精神障害者保健福祉手帳所持者・いずれもない人で「仕事探しから就労までの総合的な相談支援」が、難病者で「障がいの特性にあった職業・雇用の拡大」が、自立支援医療証所持者で「障がいや病気などに応じた柔軟な勤務体制」が、それぞれ最も高くなっています。

（%）

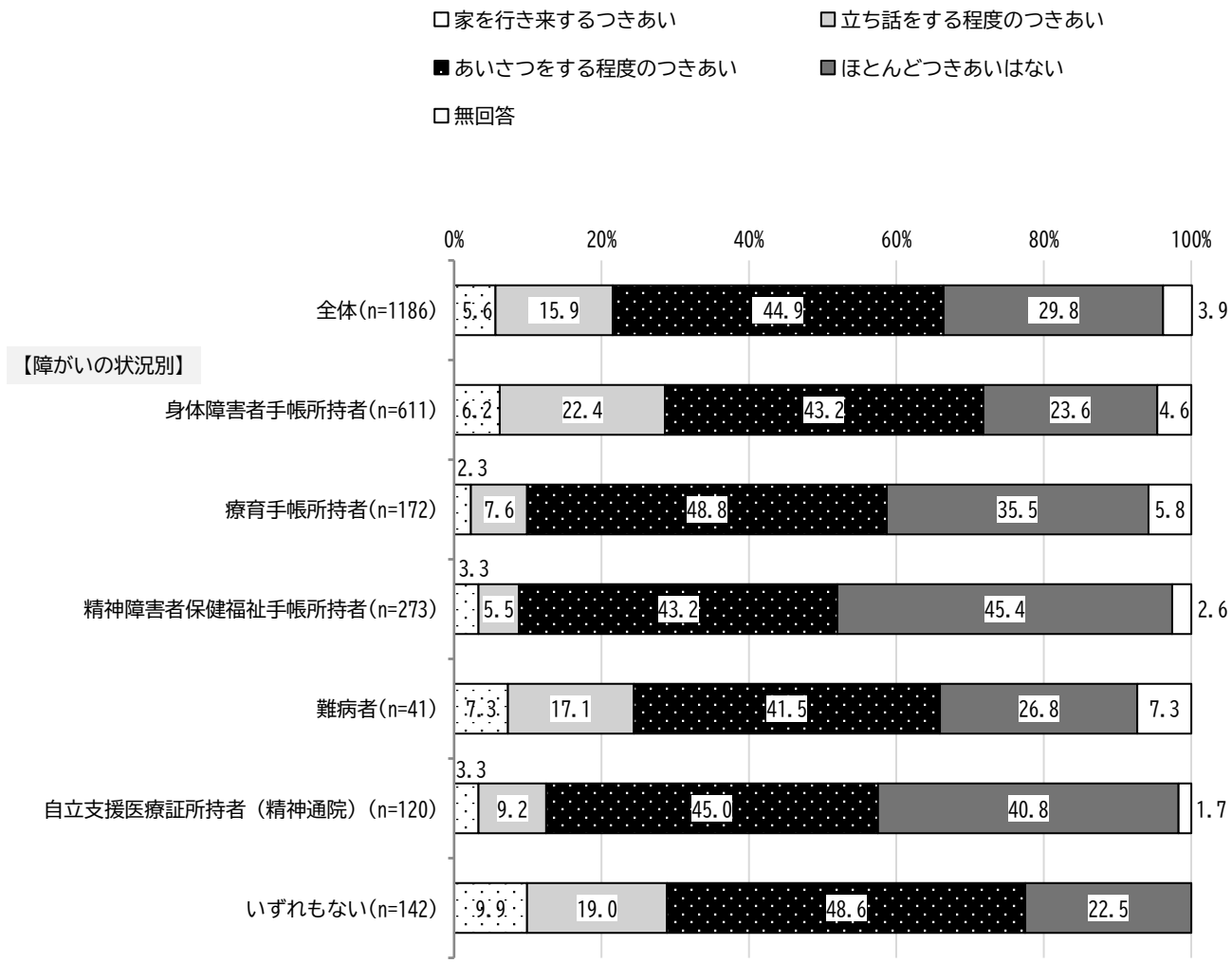
	仕事探しから就労までの総合的な相談支援	働くための知識や能力を身につけるための訓練	職場を理解するための就労体験	障がいの特性にあった職業・雇用の拡大	障がいに対する理解を深めるための職場への働きかけ	職場のバリアフリー化	障がいや病気などに応じた柔軟な勤務体制	ジョブコーチや介助者などの職場に定着するための支援	その他	無回答
全体(n=1186)	38.9	23.9	15.6	33.0	16.9	6.5	28.8	6.7	7.3	22.3
身体障害者手帳所持者(n=611)	29.0	14.4	8.7	25.4	12.4	10.1	26.2	2.6	8.5	35.2
療育手帳所持者(n=172)	56.4	38.4	27.9	55.8	22.7	3.5	19.2	19.2	3.5	7.0
精神障害者保健福祉手帳所持者(n=273)	43.2	23.8	16.8	40.7	26.7	2.6	42.9	9.5	6.2	10.3
難病者(n=41)	24.4	19.5	14.6	41.5	12.2	9.8	31.7	0.0	4.9	31.7
自立支援医療証所持者（精神通院）(n=120)	36.7	22.5	19.2	32.5	25.0	1.7	47.5	5.8	5.0	8.3
いずれもない(n=142)	55.6	50.0	28.9	31.0	15.5	2.8	23.2	3.5	9.2	4.2

主な「その他」の内容	件数
体調管理やカウンセリングなど	1
自分に合った職業選択のために、自分の特徴を理解する支援	1

８．地域社会とのかかわりについて

問 37　あなたは、ふだん近所の方とどの程度おつきあいをしていますか。
【○は１つ】

◆ 全体では、「あいさつをする程度のつきあい」が 44.9%で最も高く、次いで「ほとんどつきあいはない」が 29.8%、「立ち話をする程度のつきあい」が 15.9%となっています。
◆ 障がいの状況別にみると、身体障害者手帳所持者・療育手帳所持者・難病者・自立支援医療証所持者・いずれもない人で「あいさつをする程度のつきあい」が、精神障害者保健福祉手帳所持者で「ほとんどつきあいはない」が、それぞれ最も高くなっています。



問 38　あなたは、最近どのような活動をしましたか。【○はいくつでも】

◆ 全体では、「買い物（日常的な買い物を含む）」が 56.9%で最も高く、次いで「特に何もしていない」が 25.0%、「旅行」が 23.9%となっています。
◆ 障がいの状況別にみると、それぞれで「買い物」が、最も高くなっています。２番目に注目すると、身体障害者手帳所持者・精神障害者保健福祉手帳所持者・難病者・自立支援医療証所持者で「特に何もしていない」が、療育手帳所持者・いずれもない人で「旅行」が、いずれもない人で「地域の行事やお祭り」が、高くなっています。

（%）

	スポーツ	趣味などのサークル活動	旅行	買い物（日常的な買い物を含む）	ボランティア活動	障がい者団体の活動	障がい者団体の活動	地域の行事やお祭り
全体(n=1186)	14.0	15.6	23.9	56.9	3.9	3.9	5.6	12.1
身体障害者手帳所持者(n=611)	11.0	17.2	22.1	52.9	4.7	2.9	6.5	8.2
療育手帳所持者(n=172)	11.6	14.0	30.2	61.0	1.2	9.3	2.3	16.9
精神障害者保健福祉手帳(n=273)	11.0	15.8	19.4	63.4	4.0	3.3	7.7	7.7
難病者(n=41)	2.4	17.1	19.5	48.8	7.3	2.4	2.4	12.2
自立支援医療証所持者（精神通院）(n=120)	8.3	15.8	15.8	64.2	4.2	3.3	9.2	5.8
いずれもない(n=142)	33.8	9.2	35.9	59.2	3.5	2.8	2.8	35.9

(%)

	その他	特に何もしていない	無回答
全体(n=1186)	3.3	25.0	4.3
身体障害者手帳所持者(n=611)	2.9	29.6	5.4
療育手帳所持者(n=172)	2.3	19.2	4.7
精神障害者保健福祉手帳(n=273)	5.1	22.3	1.8
難病者(n=41)	0.0	26.8	7.3
自立支援医療証所持者（精神通院）(n=120)	5.8	25.0	0.8
いずれもない(n=142)	1.4	18.3	0.7

主な「その他」の内容	件数
散歩等の軽い運動	6

問 39　あなたが地域活動に参加しようとした場合、改善が必要な課題は何ですか。参加している方も参加していない方もお答えください。【は３つまで】

◆ 全体では、「特にない」が 26.1%で最も高く、次いで「参加したくなるような活動がない」が 24.7%、「参加のきっかけがない」が 23.5%となっています。
◆ 障がいの状況別にみると、身体障害者手帳所持者・いずれもない人で「特にない」が、療育手帳所持者・難病者で「参加したくなるような活動がない」が、精神障害者保健福祉手帳所持者・自立支援医療証所持者で「参加のきっかけがない」が、それぞれ最も高くなっています。

（%）

	身近に参加できる活動が少ない	参加したくなるような活動がない	費用や手間がかかりすぎる	いっしょに活動する仲間が少ない	会場までの交通の便がよくない	活動内容や会場に障がい者への配慮が少ない	地域の人たちの障がいへの理解が十分ではない	どのような活動が行われているのか情報が少ない
全体(n=1186)	18.1	24.7	3.6	15.3	9.6	4.7	5.3	20.2
身体障害者手帳所持者(n=611)	18.0	24.9	1.6	11.3	12.8	4.1	3.1	17.0
療育手帳所持者(n=172)	23.8	30.2	5.8	26.2	7.6	13.4	16.9	19.8
精神障害者保健福祉手帳(n=273)	15.0	23.4	5.5	18.3	6.2	4.4	7.7	24.2
難病者(n=41)	17.1	29.3	4.9	12.2	14.6	4.9	4.9	19.5
自立支援医療証所持者（精神通院）(n=120)	11.7	27.5	4.2	15.8	7.5	5.8	9.2	28.3
いずれもない(n=142)	19.7	19.0	5.6	15.5	6.3	2.1	2.1	24.6

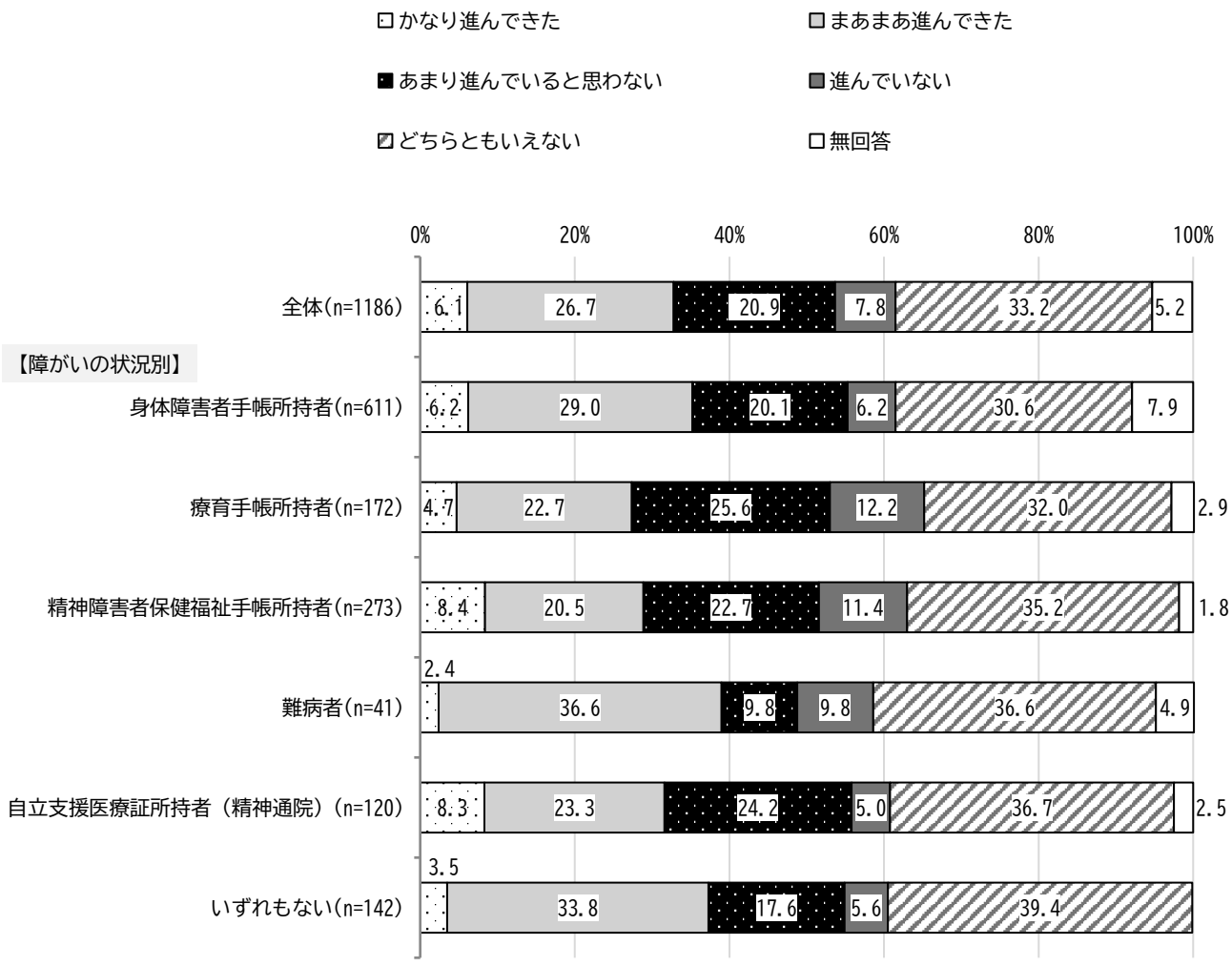
(%)

	参加のきっかけがない	特にない	その他	無回答
全体(n=1186)	23.5	26.1	4.9	6.7
身体障害者手帳所持者(n=611)	19.8	27.8	5.1	9.3
療育手帳所持者(n=172)	27.9	15.1	5.2	5.2
精神障害者保健福祉手帳(n=273)	30.8	24.9	4.8	4.0
難病者(n=41)	22.0	19.5	2.4	14.6
自立支援医療証所持者（精神通院）(n=120)	30.8	18.3	4.2	4.2
いずれもない(n=142)	16.9	31.7	6.3	0.7

主な「その他」の内容	件数
活動するまでの移動に関すること	7
活動に参加する時間がない	5
音の大きさに関すること	2

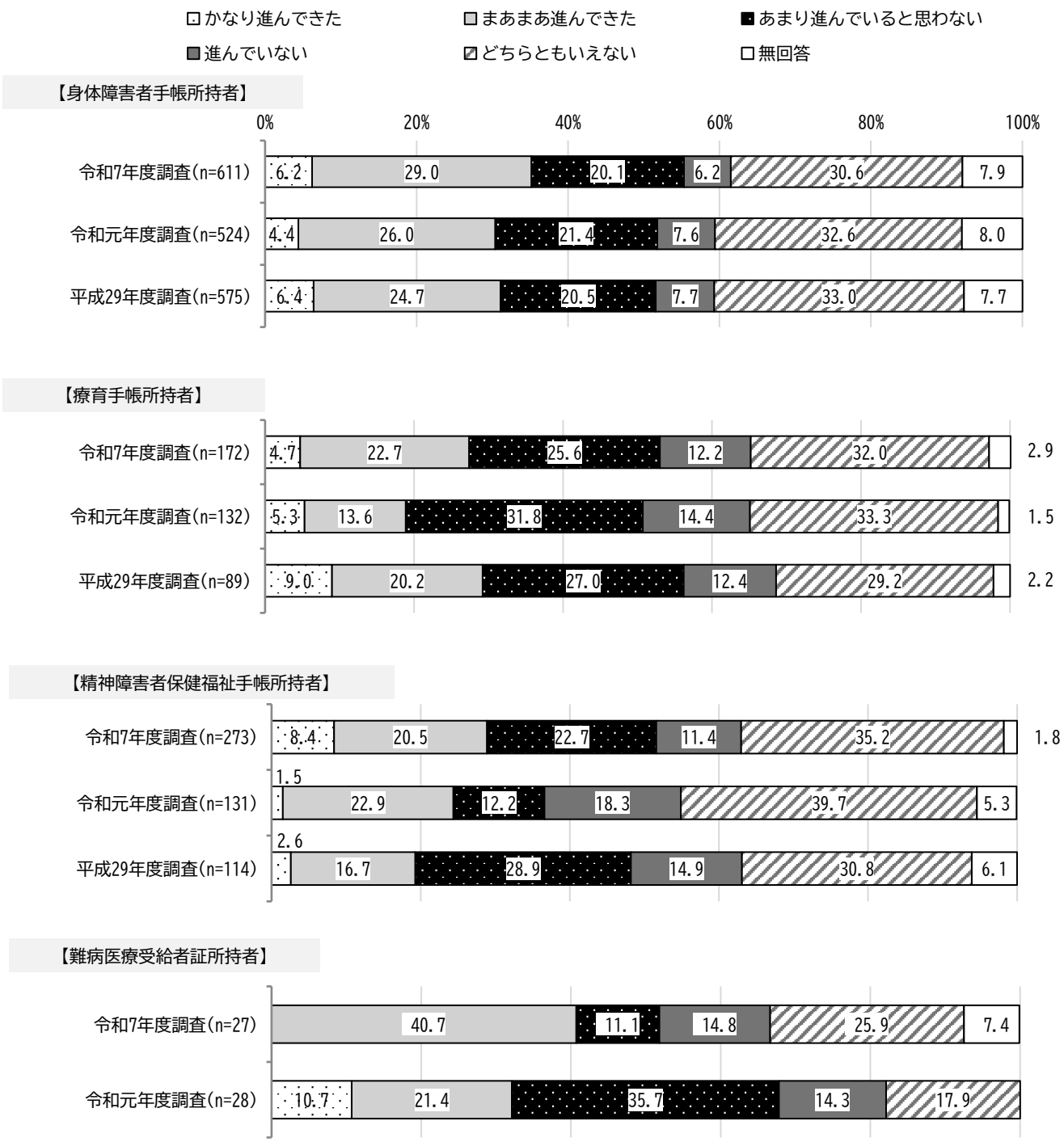
問 40　あなたは、障がいのある人に対する地域の理解は進んできたと思いますか。【○は１つ】

◆ 全体では、「どちらともいえない」が 33.2%で最も高く、次いで「まあまあ進んできた」が 26.7%、「あまり進んでいると思わない」が 20.9%となっています。
◆ 障がいの状況別にみると、それぞれで「どちらともいえない」が最も高くなっています。また、難病者では「まあまあ進んできた」も同様に最も高くなっています。



前回・前々回調査との比較

◆ 前回・前々回調査と比較すると、身体障害者手帳所持者で「まあまあ進んできた」が増回傾向、療育手帳所持者で「かなり進んできた」が減少傾向にあります。



※「難病者」のうち、「認定あり」と回答された方を「難病医療受給者証所持者」と見なし、前回調査と比較しています。

問 41　あなたが安心して地域で生活するにはどのような支援が必要ですか。
【○はいくつでも】

◆ 全体では、「困ったことを相談できる場所」が 40.5%で最も高く、次いで「緊急時に行くことができる場所」が 25.5%、「医療機関の充実」が 25.0%となっています。
◆ 障がいの状況別にみると、身体障害者手帳所持者・療育手帳所持者・精神障害者保健福祉手帳所持者・自立支援医療証所持者・いずれもない人で「困ったことを相談できる場所」が、難病者で「医療機関の充実」が、それぞれ最も高くなっています。

(%)

	身体の介護を頼める人	掃除や洗濯などの家事を頼める人	日中に通える場所	緊急時に行くことができる場所	外出のときの支援・サービス	医療機関の充実	就労するための支援・サービス	配食サービス	困ったことを相談できる場所	グループホームなどの住むための場所	隣近所に住んでいる人との交流	その他	無回答
全体(n=1186)	16.5	15.2	22.3	25.5	19.6	25.0	20.1	11.5	40.5	12.6	10.1	5.7	8.9
身体障害者手帳所持者(n=611)	25.4	14.2	16.5	22.9	22.9	26.5	8.2	13.9	28.8	8.7	11.5	5.2	13.4
療育手帳所持者(n=172)	12.2	19.8	47.1	37.2	26.7	20.9	34.9	8.7	53.5	39.5	11.0	4.1	4.7
精神障害者保健福祉手帳所持者(n=273)	9.5	17.9	19.8	28.6	15.4	28.6	33.7	10.6	52.4	11.4	6.2	6.6	3.7
難病者(n=41)	19.5	31.7	19.5	29.3	34.1	41.5	17.1	22.0	26.8	7.3	12.2	2.4	9.8
自立支援医療証所持者（精神通院）(n=120)	11.7	15.8	18.3	30.0	19.2	24.2	32.5	10.8	51.7	11.7	5.0	4.2	5.0
いずれもない(n=142)	4.2	9.9	25.4	22.5	8.5	17.6	31.0	3.5	55.6	5.6	9.9	9.2	2.8

主な「その他」の内容	件数
福祉避難所・障がい者が頼れる場所や人（特に夕方～夜間）	3

９．余暇・外出について

問 42　土曜日、日曜日など、施設に通所しない日は、何をして過ごしますか。
【○は３つ】

◆ 全体では、「特に決まった過ごし方はない」が 40.5%で最も高く、次いで「趣味や好きなことをする」が 25.5%、「通院」が 25.0%となっています。
◆ 障がいの状況別にみると、身体障害者手帳所持者・療育手帳所持者・精神障害者保健福祉手帳所持者・自立支援医療証所持者・いずれもない人で「特に決まった過ごし方はない」が、難病者で「通院」が、それぞれ最も高くなっています。

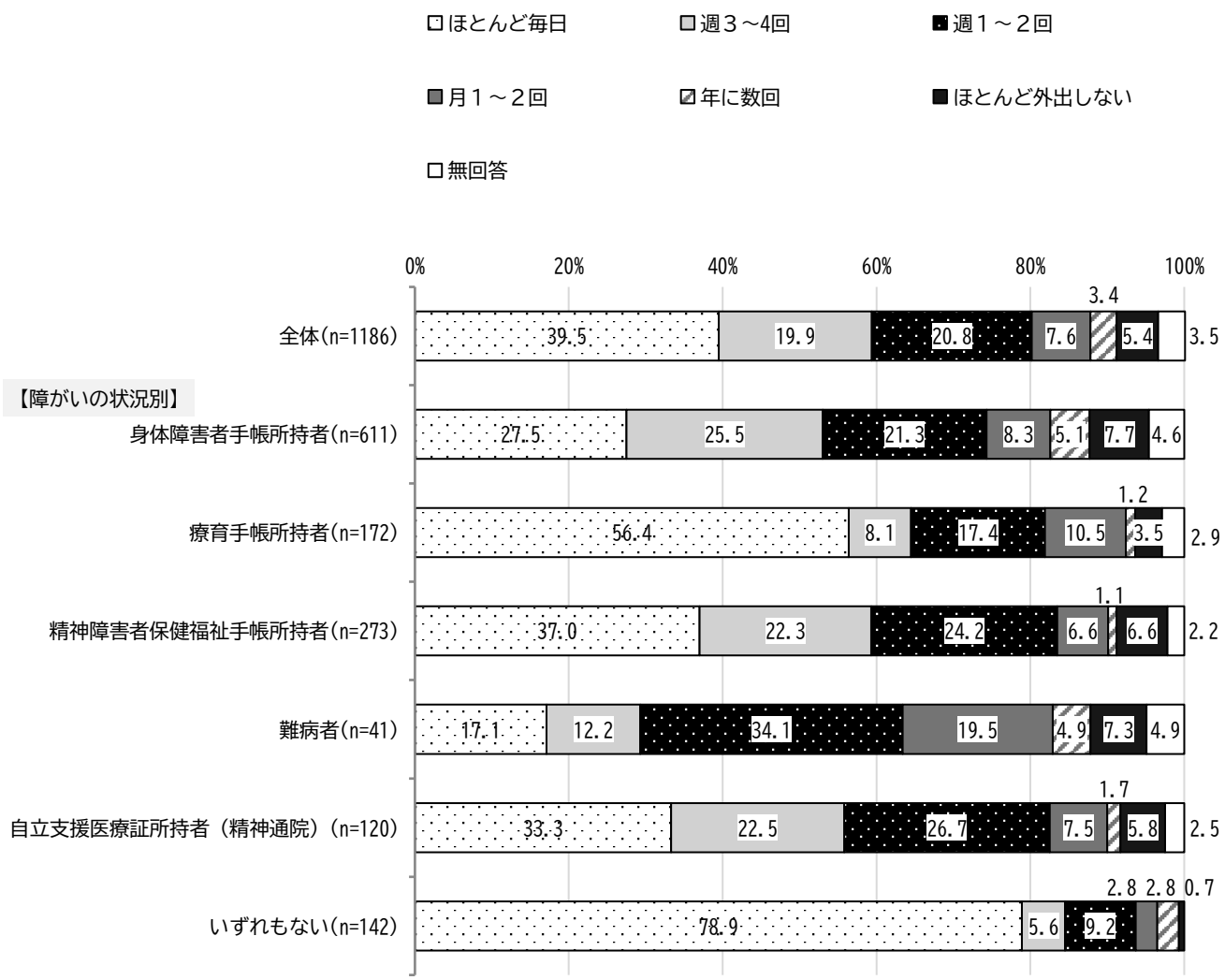
（%）

	家族と過ごす	友人・知人と過ごす	テレビや動画を見る	趣味や好きなことをする	散歩、買い物などで外出する	通院	体を休める・寝る	福祉サービス（移動支援、日中一時支援など）を利用する	特に決まった過ごし方はない	その他	無回答
全体(n=1186)	16.5	15.2	22.3	25.5	19.6	25.0	20.1	11.5	40.5	5.7	8.9
身体障害者手帳所持者(n=611)	25.4	14.2	16.5	22.9	22.9	26.5	8.2	13.9	28.8	5.2	13.4
療育手帳所持者(n=172)	12.2	19.8	47.1	37.2	26.7	20.9	34.9	8.7	53.5	4.1	4.7
精神障害者保健福祉手帳所持者(n=273)	9.5	17.9	19.8	28.6	15.4	28.6	33.7	10.6	52.4	6.6	3.7
難病者(n=41)	19.5	31.7	19.5	29.3	34.1	41.5	17.1	22.0	26.8	2.4	9.8
自立支援医療証所持者（精神通院）(n=120)	11.7	15.8	18.3	30.0	19.2	24.2	32.5	10.8	51.7	4.2	5.0
いずれもない(n=142)	4.2	9.9	25.4	22.5	8.5	17.6	31.0	3.5	55.6	9.2	2.8

主な「その他」の内容	件数
家事・子どもの世話	3
運動	2

問 43　あなたは、過去１年間にどれくらい外出をしましたか。【○は１つ】

◆ 全体では、「ほとんど毎日」が 39.5%で最も高く、次いで「週１～２回」が 20.8%、「週３～４回」が 19.9%となっています。
◆ 障がいの状況別にみると、身体障害者手帳所持者・療育手帳所持者・精神障害者保健福祉手帳所持者・自立支援医療証所持者・いずれもない人で「ほとんど毎日」が、難病者で「週１～２回」が、それぞれ最も高くなっています。



問 44　あなたが外出するとき、不便に感じることはありますか。【は３つ】

◆ 全体では、「気軽に利用できる移動手段が少ない」が 25.2%で最も高く、次いで「車などに危険を感じる」が 19.6%、「外出先でコミュニケーションがとりにくい」が 16.0%となっています。

◆ 障がいの状況別にみると、身体障害者手帳所持者・難病者で「気軽に利用できる移動手段が少ない」が、療育手帳所持者で「外出先でコミュニケーションがとりにくい」が、精神障害者保健福祉手帳所持者・自立支援医療証所持者で「まわりの視線が気になる」が、いずれもない人で「車などに危険を感じる」が、それぞれ最も高くなっています。

（%）

	まわりの視線が気になる	付き添ってくれる人がいない	必要なときに、まわりの人の手助け・配慮がたりない	車などに危険を感じる	外出先でコミュニケーションがとりにくい	気軽に利用できる移動手段が少ない	その他	無回答
全体(n=1186)	13.5	8.8	7.7	19.6	16.0	25.2	22.9	16.9
身体障害者手帳所持者(n=611)	7.4	11.0	7.4	15.5	8.5	29.0	23.7	21.4
療育手帳所持者(n=172)	14.5	8.7	13.4	25.6	36.0	26.2	17.4	11.0
精神障害者保健福祉手帳所持者(n=273)	27.8	7.0	8.4	23.1	20.9	23.8	20.5	11.4
難病者(n=41)	7.3	2.4	2.4	12.2	14.6	41.5	24.4	17.1
自立支援医療証所持者（精神通院）(n=120)	30.0	6.7	9.2	17.5	18.3	21.7	17.5	12.5
いずれもない(n=142)	10.6	4.9	2.1	26.1	18.3	14.1	31.0	8.5

主な「その他」の内容	件数
車イスや公共交通機関等、移動に関すること	16
トイレに関すること	4
付き添いが必要なこと（家族、福祉スタッフ等）	3

10. 災害への備えについて

問 45　あなたが災害発生時に不安に思うことは何ですか。【○はいくつでも】

◆ 全体では、「避難所（避難場所）が障がいのある人に配慮されているかどうか心配である」が 39.2%で最も高く、次いで「避難所（避難場所）で必要な医療や設備があるか心配である」が 35.8%、「災害に関する情報を入手できるかわからない」が 24.1%となっています。
◆ 障がいの状況別にみると、身体障害者手帳所持者・自立支援医療証所持者で「避難所（避難場所）で必要な医療や設備があるか心配である」が、療育手帳所持者・精神障害者保健福祉手帳所持者・難病者で「避難所（避難場所）が障がいのある人に配慮されているかどうか心配である」が、いずれもない人で「特にない」が、それぞれ最も高くなっています。
◆ 前回・前々回調査と比較すると、精神障害者保健福祉手帳所持者で「避難所（避難場所）が障がいのある人に配慮されているかどうか」が増加傾向にあります。

（%）

	災害に関する情報を入手できるかわからない	どこに避難してよいかわからない	避難するときに介助や支援をしてくれる人がいない	避難所（避難場所）が障がいのある人に配慮されているかどうか心配である	避難所（避難場所）で必要な医療や設備があるか心配である	その他	特にない	無回答
全体(n=1186)	24.1	21.2	14.2	39.2	35.8	4.8	23.5	4.6
【身体障害者手帳所持者】								
令和７年度調査(n=611)	19.0	16.5	16.2	38.6	39.9	3.6	23.7	6.7
令和元年度調査(n=524)	22.9	13.5	16.8	40.8	39.1	4.8	21.6	9.9
平成 29 年度調査(n=575)	21.9	13.9	12.3	38.8	39.8	6.8	16.9	12.7
【療育手帳所持者】								
令和７年度調査(n=172)	33.7	33.1	18.0	58.1	29.1	3.5	15.1	2.9
令和元年度調査(n=132)	30.3	26.5	18.2	64.4	28.8	6.8	12.9	2.3
平成 29 年度調査(n=89)	34.8	34.8	11.2	55.1	23.6	4.5	12.4	6.7
【精神障害者保健福祉手帳所持者】								
令和７年度調査(n=273)	28.2	25.3	11.4	42.5	41.8	8.1	19.4	1.1
令和元年度調査(n=131)	26.7	16.8	12.2	38.9	29.0	9.9	22.1	8.4
平成 29 年度調査(n=114)	29.8	25.4	12.3	29.8	38.6	7.0	15.8	14.0
【難病者】								
令和７年度調査(n=41)	26.8	24.4	19.5	61.0	63.4	7.3	7.3	4.9
難病医療受給者証所持者								
令和７年度調査(n=27)	22.2	29.6	25.9	63.0	70.4	11.1	3.7	3.7
令和元年度調査(n=28)	21.4	25.0	17.9	53.6	57.1	3.6	10.7	7.1
【自立支援医療証所持者（精神通院）】								
令和７年度調査(n=120)	30.8	29.2	12.5	35.8	43.3	8.3	18.3	0.8
いずれもない(n=142)	26.1	20.4	9.9	22.5	21.1	4.2	37.3	0.7

※「難病者」のうち、「認定あり」と回答された方を「難病医療受給者証所持者」と見なし、前回調査と比較しています。

問 46　災害に備えて、どのようなことに取り組むべきだと思いますか。
【は３つまで】

◆ 全体では、「必要な情報が確実に届く仕組み」が 42.2%で最も高く、次いで「障がいのある人に配慮した支援物資などの確保」が 32.6%、「地域・近所での日ごろからの協力、支え合いの体制づくり」が 27.3%となっています。

◆ 障がいの状況別にみると、身体障害者手帳所持者・精神障害者保健福祉手帳所持者・自立支援医療証所持者・いずれもない人で「必要な情報が確実に届く仕組み」が、療育手帳所持者・難病者で「障がいのある人に配慮した支援物資などの確保」が、それぞれ最も高くなっています。

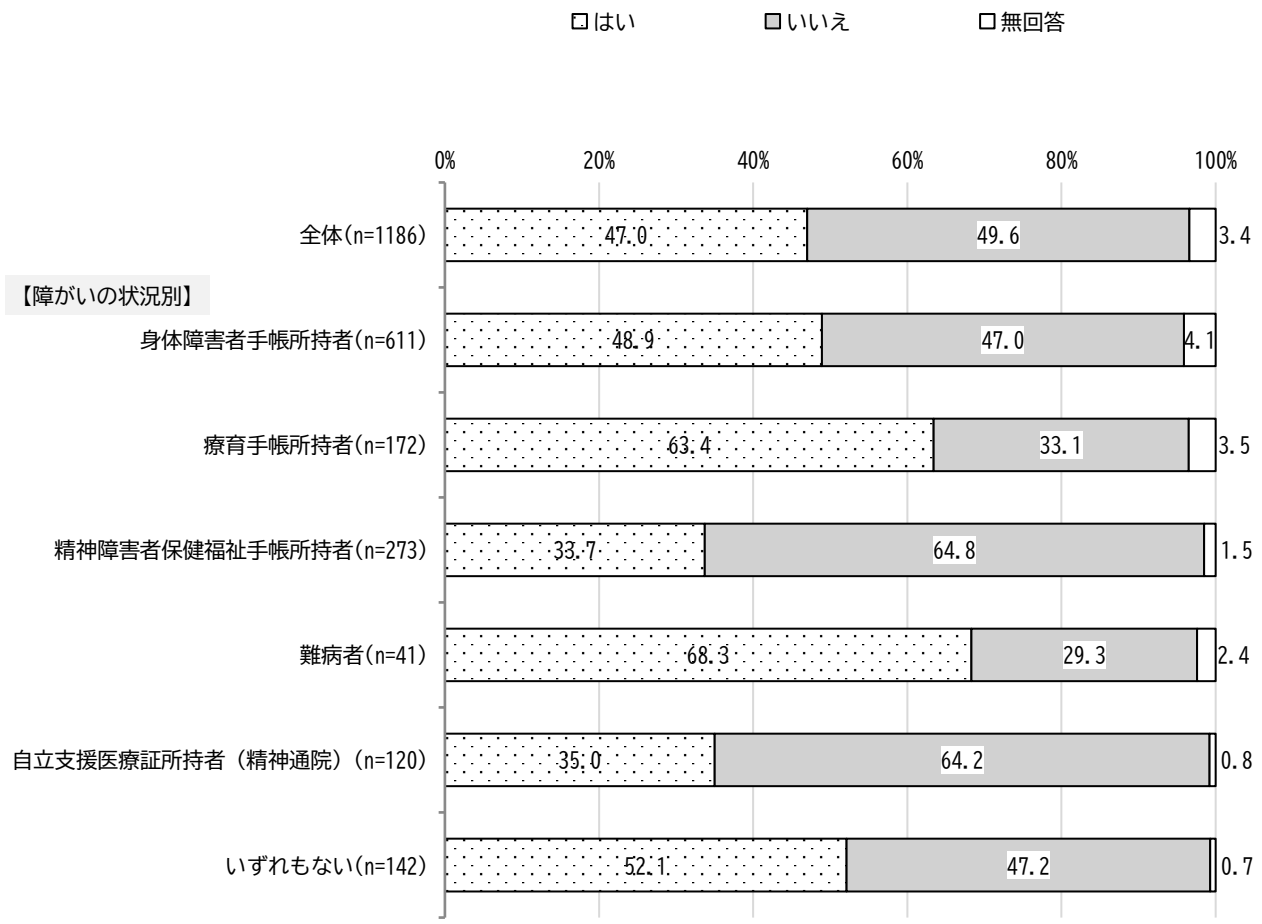
(%)

	地域・近所での日ごろからの協力、支え合いの体制づくり	タブレットなどを活用した安否確認の仕組み	必要な情報が確実に届く仕組み	日常生活を支える支援体制づくり	避難を支援する体制づくり	訓練の実施	地域の企業などと連携して支援する体制づくり	障がいのある人に配慮した支援物資などの確保	福祉避難所の周知体制づくり	その他	無回答
全体(n=1186)	27.3	7.0	42.2	18.4	24.7	9.1	6.2	32.6	18.0	3.8	7.4
身体障害者手帳所持者(n=611)	29.5	3.8	39.3	17.3	26.4	6.2	5.9	34.0	15.5	2.8	10.1
療育手帳所持者(n=172)	29.7	11.0	40.1	16.3	26.7	13.4	7.6	42.4	26.7	4.1	4.1
精神障害者保健福祉手帳所持者(n=273)	16.8	11.0	49.1	21.2	23.1	9.5	5.9	34.4	18.3	5.5	3.7
難病者(n=41)	34.1	2.4	26.8	22.0	36.6	7.3	9.8	48.8	17.1	2.4	7.3
自立支援医療証所持者（精神通院）(n=120)	15.8	10.0	44.2	24.2	23.3	10.8	8.3	31.7	25.0	3.3	5.0
いずれもない(n=142)	36.6	8.5	43.7	19.7	23.9	16.2	7.0	19.7	17.6	6.3	2.8

主な「その他」の内容	件数
トイレ等への対策	6

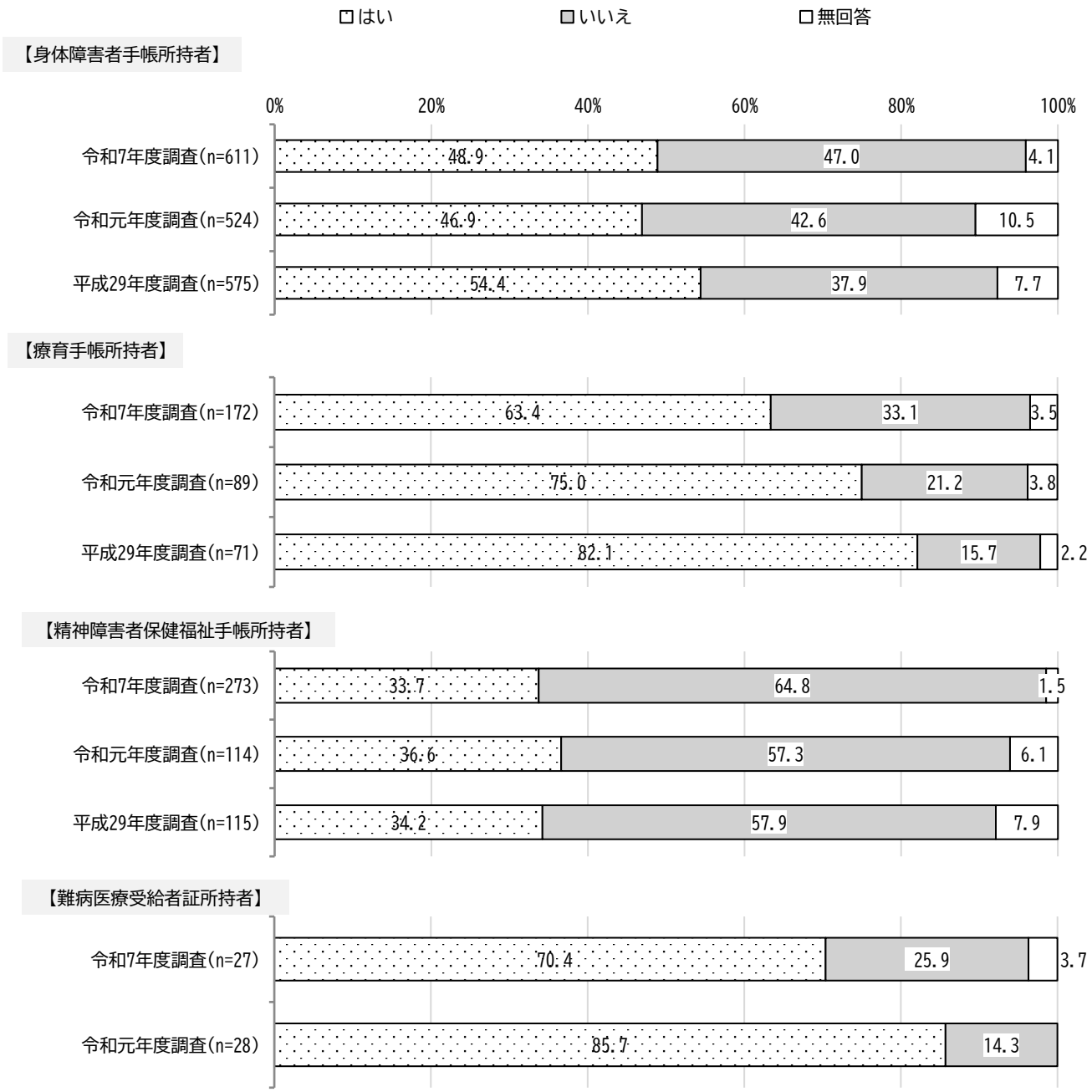
問 47　あなたは、災害発生時に避難の手助けが必要ですか。【○は１つ】

◆ 全体では、「はい」が 47.0%、「いいえ」が 49.6%となっています。
◆ 障がいの状況別にみると、身体障害者手帳所持者・療育手帳所持者・難病者・いずれもない人で「はい」が、精神障害者保健福祉手帳所持者・自立支援医療証所持者で「いいえ」が、それぞれ高くなっています。



前回・前々回調査との比較

◆ 前回・前々回調査と比較すると、全体的に「いいえ」が増加傾向、療育手帳所持者で「はい」が減少傾向にあります。

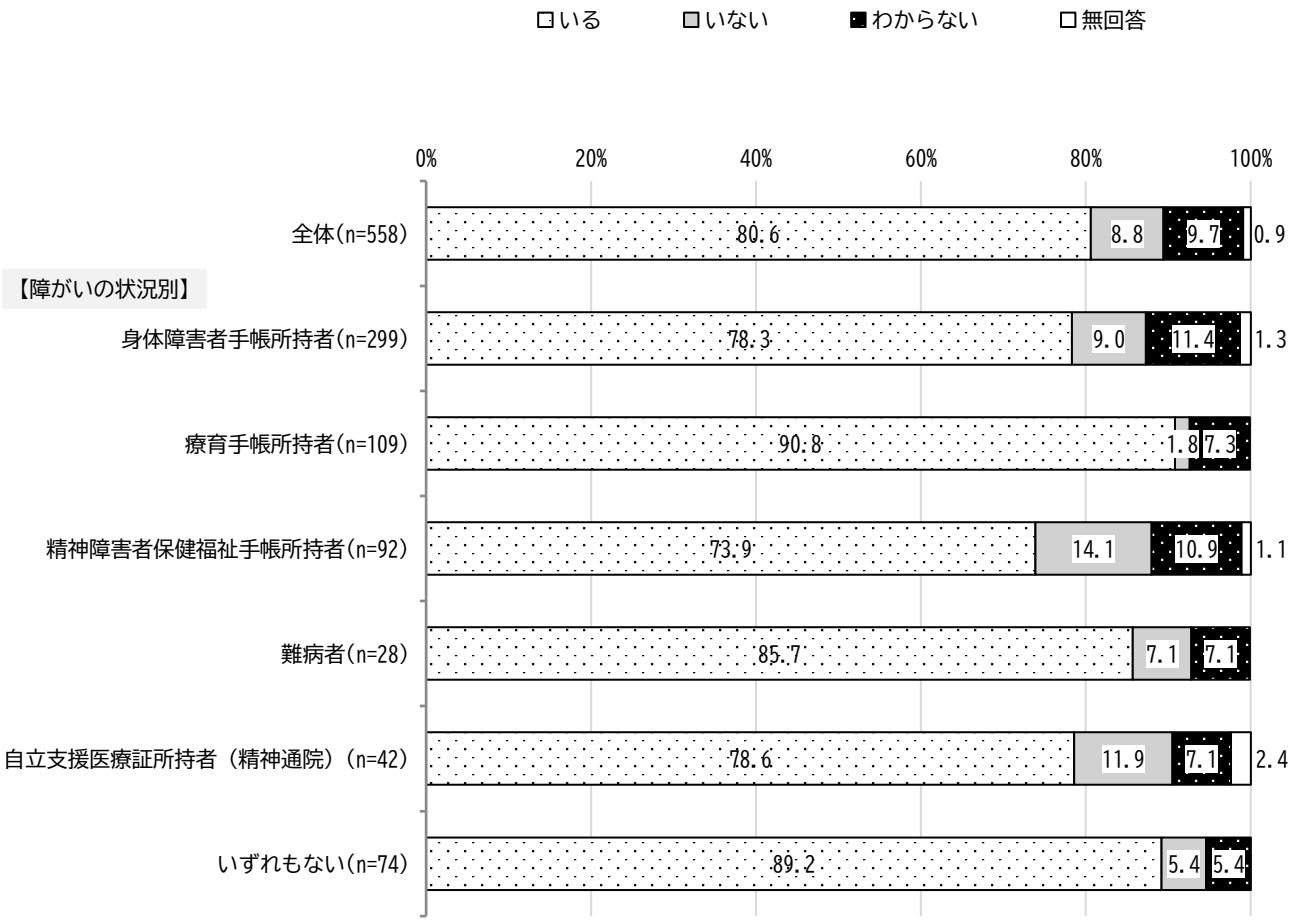


※「難病者」のうち、「認定あり」と回答された方を「難病医療受給者証所持者」と見なし、前回調査と比較しています。

問 47 で「１．はい」を選んだ方にお聞きします。

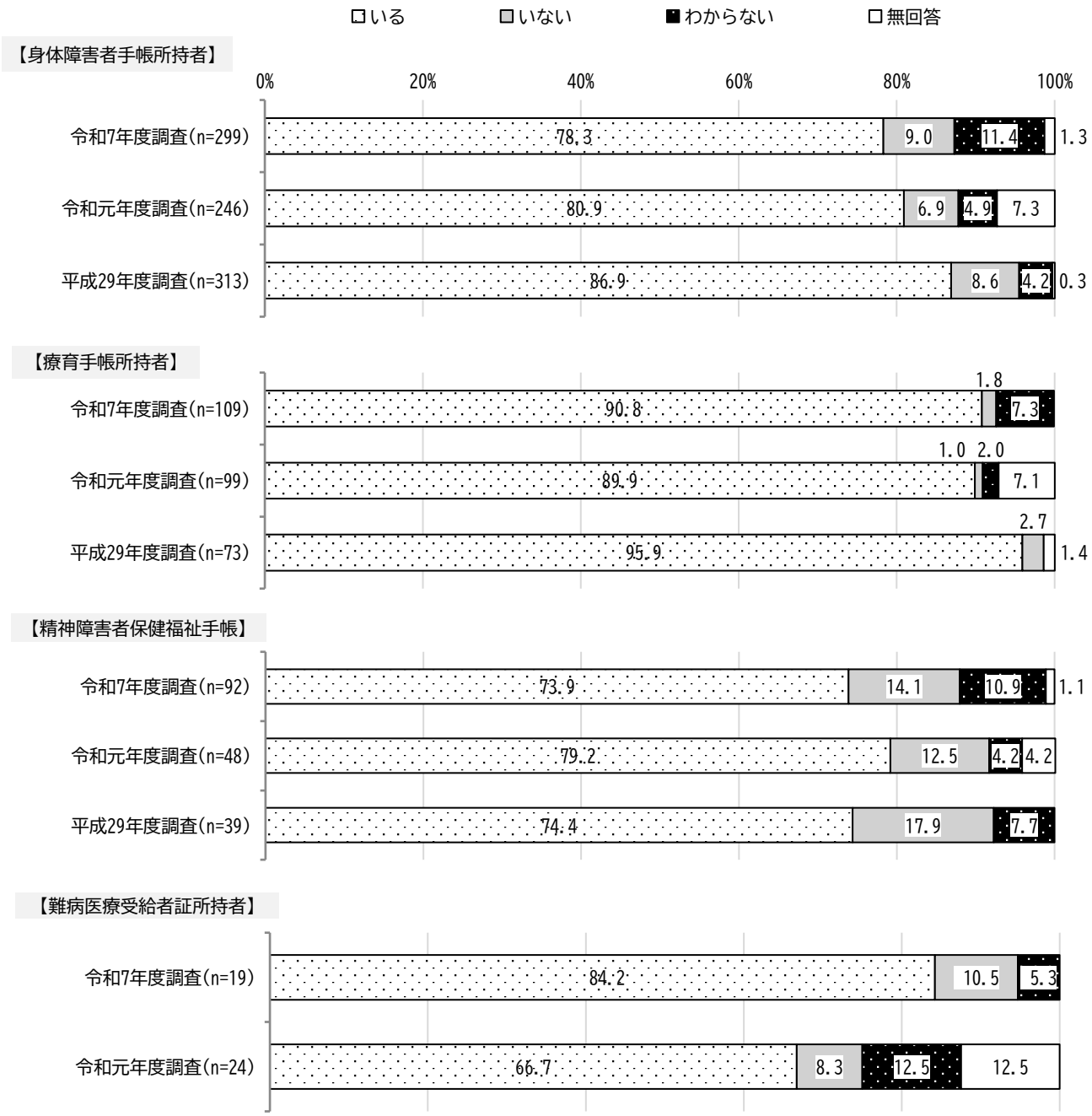
問 48　避難を手助けしてくれる人はいますか。【○は１つ】

◆ 全体では、「いる」が 80.6%で最も高く、次いで「わからない」が 9.7%、「いない」が 8.8%となっています。
◆ 障がいの状況別にみると、それぞれで「いる」が、最も高くなっています。また、精神障害者保健福祉手帳所持者・自立支援医療証所持者で「いない」が、他と比べて高くなっています。



前回・前々回調査との比較

◆ 前回・前々回調査と比較すると、身体障害者手帳所持者で「いる」が減少傾向にあります。



※「難病者」のうち、「認定あり」と回答された方を「難病医療受給者証所持者」と見なし、前回調査と比較しています。

問 48 で「１．いる」を選んだ方にお聞きします。

それはどなたですか。【○はいくつでも】

◆ 全体では、「家族」が 82.9%で最も高く、次いで「施設の職員」が 21.8%、「近くに住む親族」が 11.6%となっています。
◆ 障がいの状況別にみると、それぞれで「家族」が、最も高くなっています。２番目に注目すると、身体障害者手帳所持者・療育手帳所持者・精神障害者保健福祉手帳所持者・自立支援医療証所持者・いずれもない人で「施設の職員」が、難病者で「近くに住む親族」が、それぞれ高くなっています。
◆ 前回・前々回調査と比較すると、身体障害者手帳所持者と精神障害者保健福祉手帳所持者で「家族」が減少傾向、精神障害者保健福祉手帳所持者で「施設の職員」が増加傾向にあります。

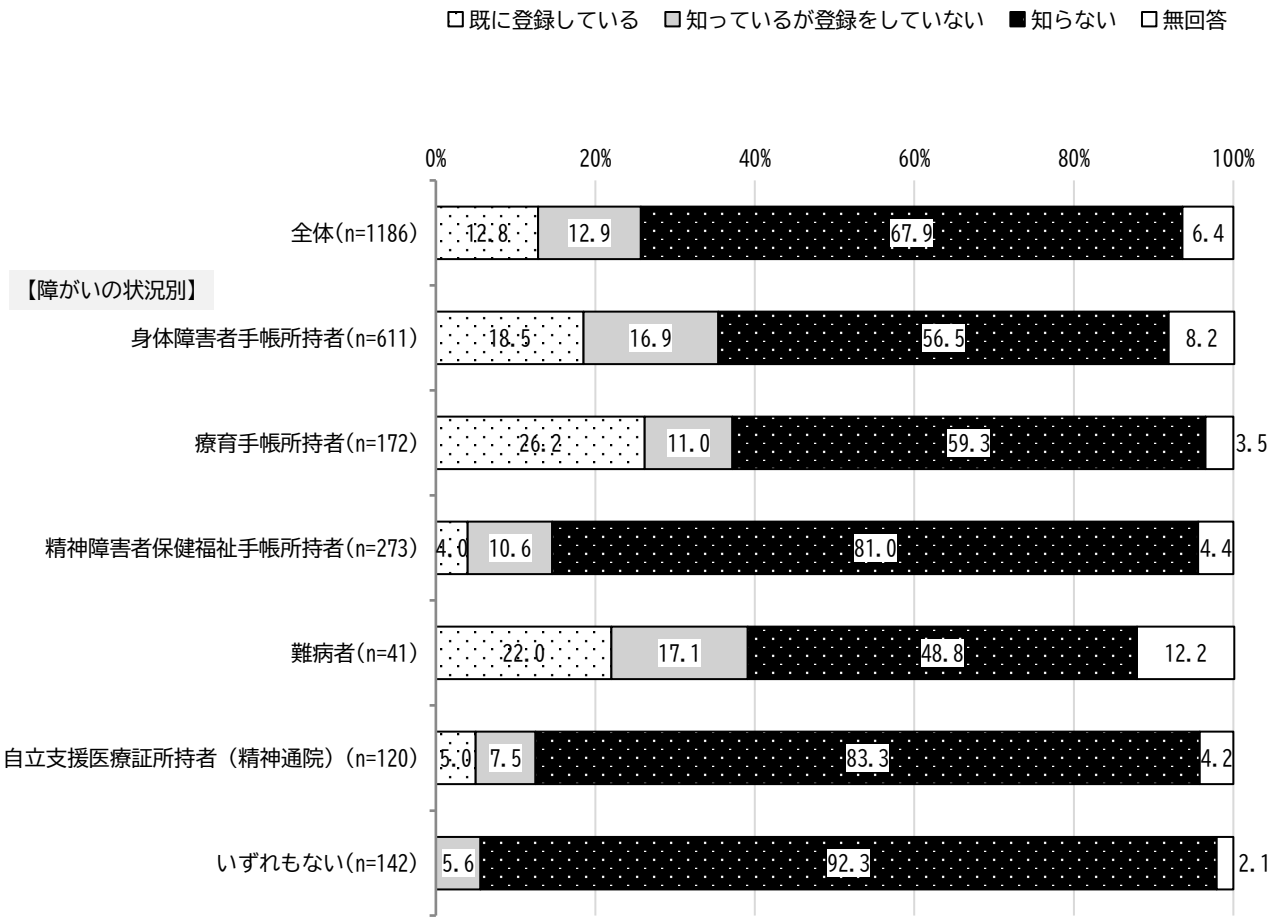
（%）

	家族	近くに住む親族	施設の職員	隣近所の住民	自主防災会の人	自治会の人	民生委員・児童委員	その他	無回答
全体(n=450)	82.9	11.6	21.8	7.1	0.2	1.1	3.8	0.4	0.9
【身体障害者手帳所持者】									
令和７年度調査(n=234)	76.5	14.1	18.4	7.7	0.4	1.3	5.6	0.0	1.3
令和元年度調査(n=199)	79.9	9.0	20.6	8.5	0.0	1.5	4.5	1.5	0.5
平成 29 年度調査(n=272)	82.4	15.8	15.4	15.4	0.7	3.7	6.6	2.9	0.4
【療育手帳所持者】									
令和７年度調査(n=99)	93.9	8.1	27.3	6.1	0.0	1.0	7.1	1.0	0.0
令和元年度調査(n=89)	97.8	14.6	27.0	9.0	0.0	3.4	7.9	1.1	0.0
平成 29 年度調査(n=70)	97.1	12.9	25.7	17.1	1.4	5.7	7.1	1.4	0.0
【精神障害者保健福祉手帳所持者】									
令和７年度調査(n=68)	75.0	4.4	41.2	4.4	0.0	2.9	1.5	1.5	0.0
令和元年度調査(n=38)	76.3	7.9	31.6	2.6	0.0	0.0	0.0	2.6	0.0
平成 29 年度調査(n=29)	79.3	17.2	20.7	3.4	0.0	0.0	0.0	3.4	0.0
【難病者】									
令和７年度調査(n=24)	95.8	20.8	4.2	8.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
【難病医療受給者証所持者】									
令和７年度調査(n=16)	93.8	25.0	6.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
令和元年度調査(n=16)	81.3	25.0	37.5	12.5	0.0	0.0	6.3	6.3	0.0
【自立支援医療証所持者（精神通院）】									
令和７年度調査(n=33)	66.7	9.1	51.5	6.1	0.0	3.0	0.0	0.0	0.0
いずれもない(n=66)	97.0	10.6	16.7	10.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

※「難病者」のうち、「認定あり」と回答された方を「難病医療受給者証所持者」と見なし、前回調査と比較しています。

問 49　あなたは、「避難行動要支援者名簿」を知っていますか。【○は１つ】

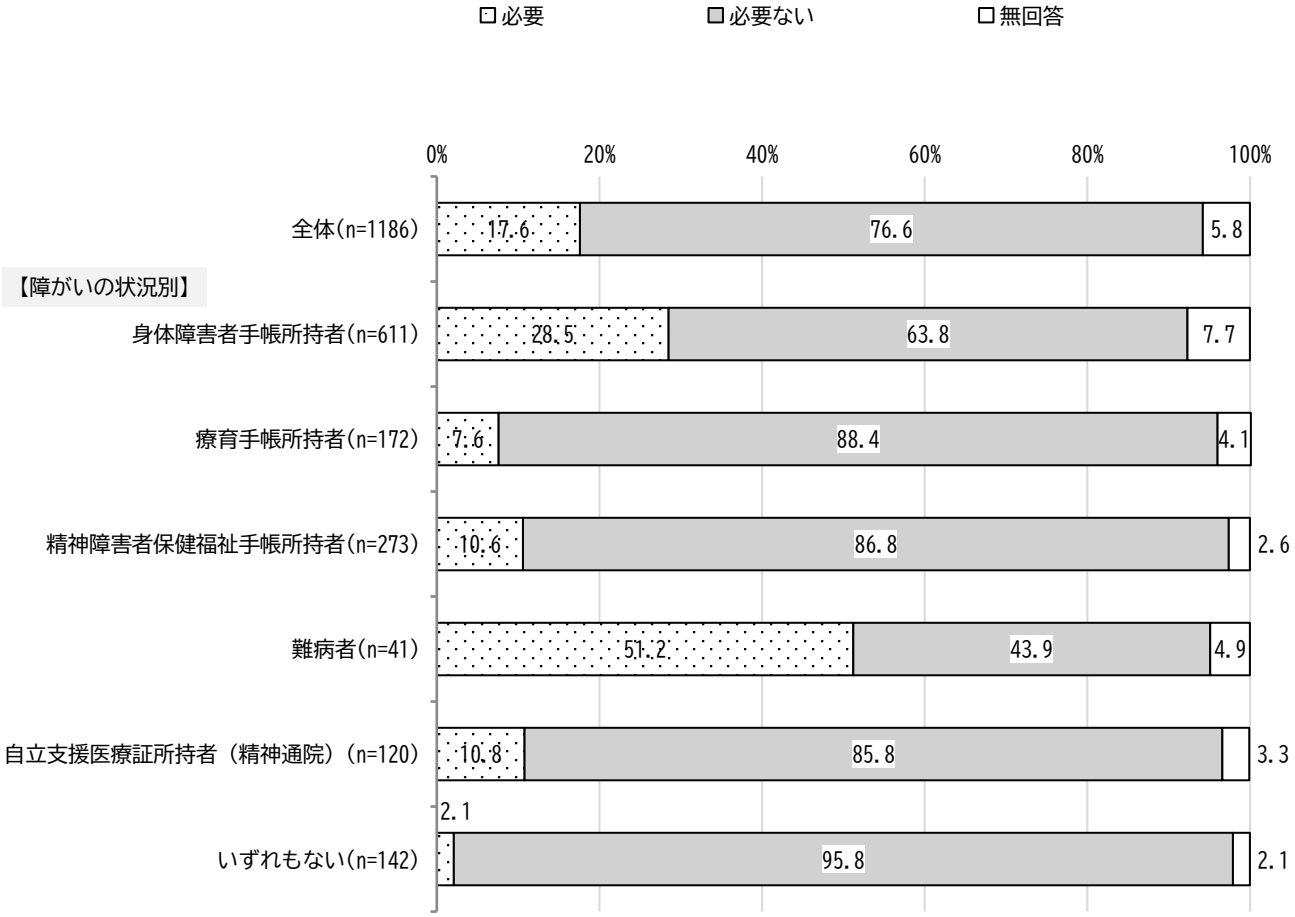
◆ 全体では、「知らない」が 67.9%で最も高く、次いで「知っているが登録をしていない」が 12.9%、「既に登録している」が 12.8%となっています。
◆ 障がいの状況別にみると、それぞれで「知らない」が、最も高くなっています。２番目に注目すると、身体障害者手帳所持者・療育手帳所持者・難病者で「既に登録している」が、精神障害者保健福祉手帳所持者・自立支援医療証所持者・いずれもない人で「知っているが登録をしていない」が、それぞれ高くなっています。



11. 医療的ケアについて

問 50　現在「医療機器などの使用」または「医療的ケアの必要」がありますか。【○は１つ】

◆ 本業では、「必要」が 17.6%、「必要ない」が 76.6%となっています。
◆ 障がいの状況別にみると、身体障害者手帳所持者・療育手帳所持者・精神障害者保健福祉手帳所持者・自立支援医療証所持者・いずれもない人で「必要ない」が、難病者で「必要」が、それぞれ最も高くなっています。



問 50 で「１．必要」を選んだ方にお聞きします。

問 51　必要としている「医療機器」または「医療的ケア」は何ですか。
【○はいくつでも】

- ◆ 「酸素吸入」が 13.9%で最も高く、次いで「経管栄養」が 12.0%、「導尿」と「インスリン投与」が 10.0%となっています。
- ◆ 障がいの状況別にみると、身体障害者手帳所持者・難病者で「酸素吸入」が、療育手帳所持者・精神障害者保健福祉手帳所持者・難病者で「経管栄養」が、それぞれ最も高くなっています。

（%）

	人工呼吸器（レスピレーター）	気管切開（カニューレ留置）	酸素吸入	たんの吸引	導尿	人工肛門	経管栄養	インスリン投与	その他	無回答
全体（n=209）	6.2	3.8	13.9	9.1	10.0	9.6	12.0	10.0	46.9	9.1
身体障害者手帳所持者（n=174）	6.9	4.6	13.8	9.8	11.5	11.5	12.6	9.8	43.1	8.6
療育手帳所持者（n=13）	23.1	23.1	38.5	30.8	0.0	0.0	46.2	0.0	53.8	7.7
精神障害者保健福祉手帳所持者（n=29）	0.0	0.0	10.3	10.3	6.9	3.4	13.8	10.3	62.1	10.3
難病者（n=21）	4.8	0.0	28.6	19.0	9.5	19.0	28.6	9.5	38.1	0.0
自立支援医療証所持者（精神通院）（n=13）	0.0	0.0	7.7	0.0	7.7	7.7	7.7	7.7	61.5	7.7
いずれもない（n=3）	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0

主な「その他」の内容	件数
透析	17
ペースメーカー	12

問 50 で「１．必要」を選んだ方にお聞きします。

問 52　「医療機器などの管理」や「医療ケア」に関して、主にどなたが対応されていますか。（本人から見た続柄）【○はいくつでも】

◆ 全体では、「自分」が 54.5%で最も高く、次いで「本人の配偶者」が 22.0%、「母」が 13.9%となっています。
◆ 障がいの状況別にみると、身体障害者手帳所持者・精神障害者保健福祉手帳所持者・難病者・自立支援医療証所持者で「自分」が、療育手帳所持者で「母」が、それぞれ最も高くなっています。

（%）

	自分	母	父	祖父母	きょうだい	本人の配偶者	その他親族	その他	無回答
全体(n=209)	54.5	13.9	6.2	0.0	1.9	22.0	6.2	15.3	5.3
身体障害者手帳所持者(n=174)	56.3	8.6	4.0	0.0	1.1	20.7	7.5	14.9	5.7
療育手帳所持者(n=13)	23.1	84.6	46.2	0.0	0.0	7.7	0.0	15.4	0.0
精神障害者保健福祉手帳所持者(n=29)	48.3	24.1	6.9	0.0	6.9	31.0	0.0	24.1	0.0
難病者(n=21)	42.9	28.6	14.3	0.0	0.0	28.6	0.0	23.8	0.0
自立支援医療証所持者（精神通院）(n=13)	61.5	7.7	0.0	0.0	7.7	30.8	0.0	30.8	0.0
いずれもない(n=3)	33.3	100.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

主な「その他」の内容	件数
病院の職員	14
施設の職員	8

問 50 で「１．必要」を選んだ方にお聞きします。

問 53　「医療機器などの管理」や「医療的ケア」が必要なことで、困ったことがありましたか。【○○はいくつでも】

◆ 全体では、「外出」が 31.6%で最も高く、次いで「家族の健康」が 20.6%、「福祉サービスの利用」が 16.7%となっています。
◆ 障がいの状況別にみると、身体障害者手帳所持者・難病者で「外出」が、療育手帳所持者で「家族以外の看護・介護者の確保」が、精神障害者保健福祉手帳所持者・自立支援医療証所持者で「福祉サービスの利用」が、それぞれ最も高くなっています。

（%）

	福祉サービスの利用	外出	保育園、学校との連携	家族以外の看護・介護者の確保	家族の就労	家族の健康	その他	無回答
全体(n=209)	16.7	31.6	2.4	13.9	5.7	20.6	16.3	26.8
身体障害者手帳所持者(n=174)	13.2	31.6	2.3	13.2	2.9	19.0	16.1	27.6
療育手帳所持者(n=13)	38.5	38.5	30.8	53.8	46.2	46.2	23.1	7.7
精神障害者保健福祉手帳所持者(n=29)	44.8	27.6	3.4	20.7	10.3	31.0	10.3	34.5
難病者(n=21)	14.3	38.1	14.3	28.6	19.0	19.0	23.8	19.0
自立支援医療証所持者（精神通院）(n=13)	38.5	23.1	7.7	23.1	15.4	30.8	15.4	30.8
いずれもない(n=3)	33.3	33.3	0.0	0.0	33.3	33.3	33.3	0.0

主な「その他」の内容	件数
通院に関すること	2

問 50「現在、「医療機器などの使用」、または「医療的ケアの必要」がありますか」で「１．必要」を選んだ方のみ回答

問 54　どのような配慮や取組があると、より生活しやすいと思われますか。

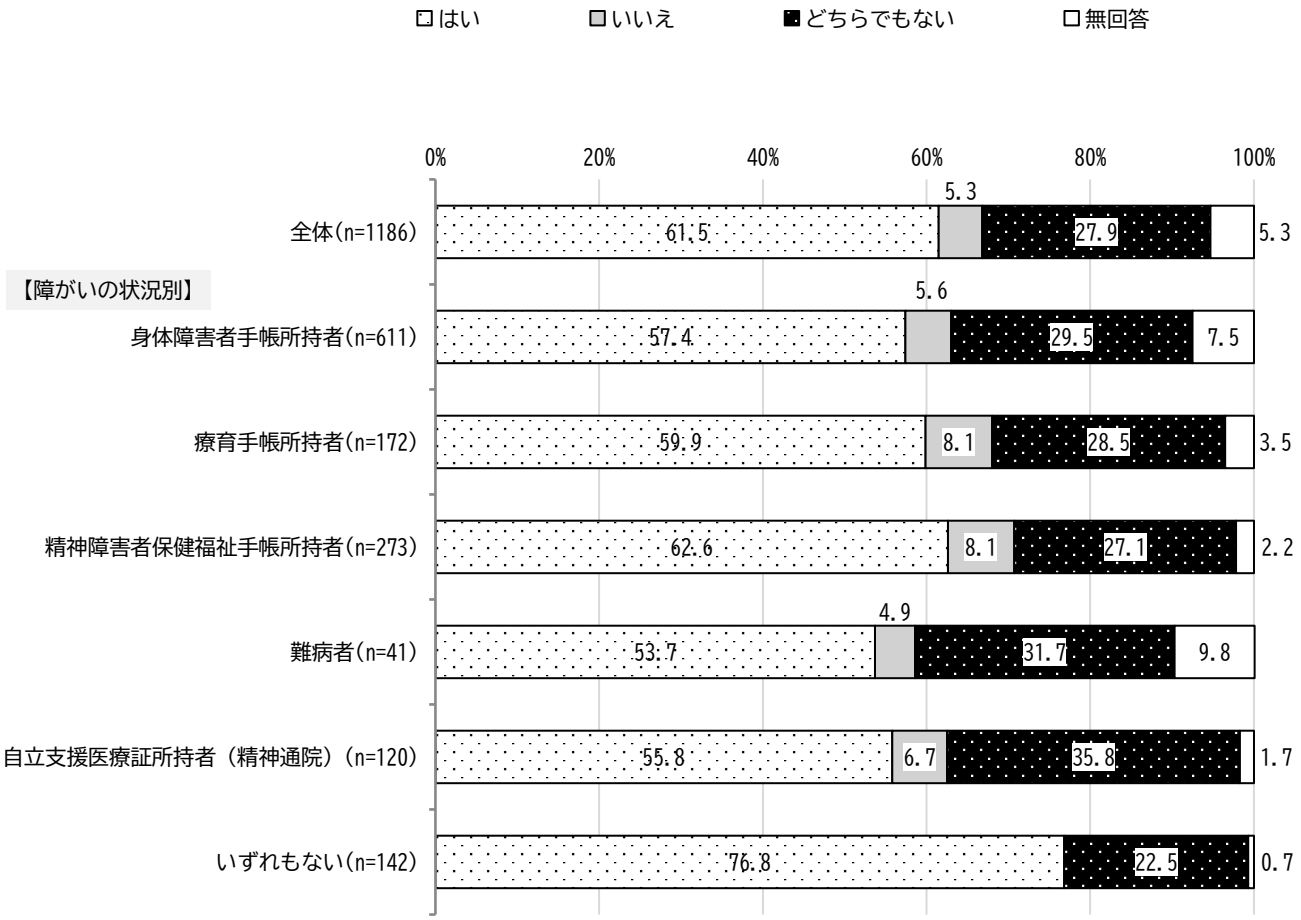
【自由記述】

主な内容
障がい者に対する市役所職員の親身な対応。
痰吸入、吸入、連動ベッドなど非常時に電源を確保する方法、発電機をどうするか？
障害に対する理解がとても必要だと思います。
本人はもちろんだが、一緒に生活する家族へのサービス拡充。
短時間や、本人が入院してしまった時に休めるはたらき方（先）があれば働きたい。（母）
キレイなトイレを探すのが大変。
保育園や小学校の対応
長久手市に重心の子を見られるヘルパーや訪看がいない。市として育つ指導や呼びかけが必要なのでは？10 年在宅だが、現状変わっていない。近隣の自治体頼みになっている。
痰の吸引が必要の場合、受け入れてくれるショートステイ施設が少ないのが残念。

12. 長久手市の障がい福祉施策について

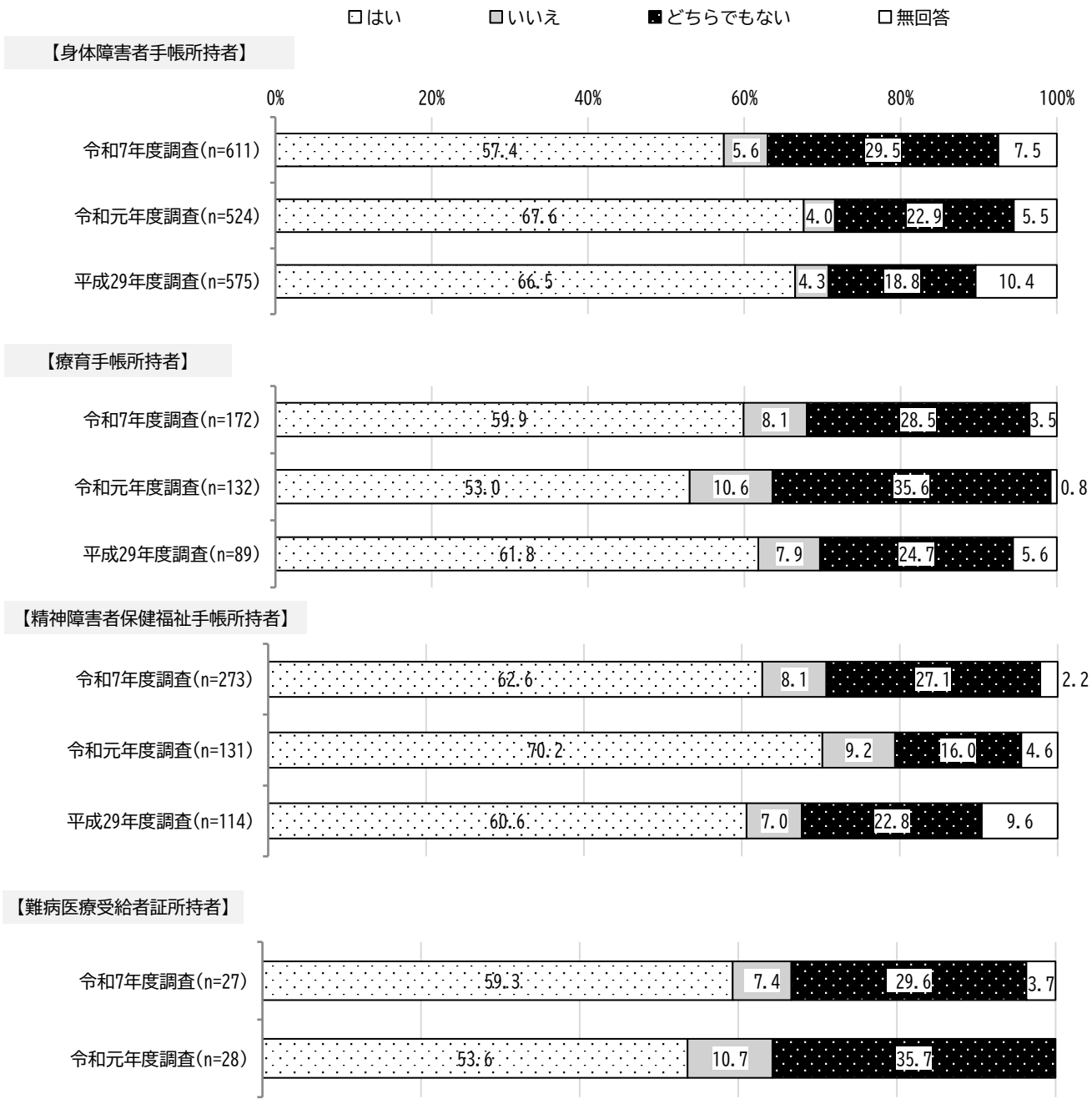
問 55　長久手市は、あなたにとって暮らしやすいまちですか。【○は１つ】

◆ 全体では、「はい」が 61.5%で最も高く、次いで「どちらでもない」が 27.9%、「いいえ」が 5.3%となっています。
◆ 障がいの状況別にみると、それぞれで「はい」が、最も高くなっています。「いいえ」と「どちらでもない」でも、それぞれで同じ傾向が見られます。



前回・前々回調査との比較

◆ 前回・前々回調査と比較すると、療育手帳所持者で「はい」が増加しており、身体障害者手帳所持者と精神障害者保健福祉手帳所持者で「はい」が減少しています。



※「難病者」のうち、「認定あり」と回答された方を「難病医療受給者証所持者」と見なし、前回調査と比較しています。

問 55「問 55　長久手市は、あなたにとって暮らしやすいまちですか」で「２．いいえ」を選んだ方のみ回答

その理由は何ですか。

主な理由	件数
交通手段が少ないなど、不便に感じる	9
若者向けの施策は手厚いが、高齢者や障害者に対する施策が十分ではないと感じる	7
市の職員の対応が十分ではないと感じる	7

問 56－1　長久手市の施策において、もっとも優先すべきと考えるもの

◆ 全体では、「障がい者への手当などの経済的給付の充実」が 18.7%で最も高く、次いで「障がいおよび障がいのある人に対する理解の促進」が 15.2%となっています。
◆ 障がいの状況別にみると、身体障害者手帳所持者・精神障害者保健福祉手帳所持者・難病者・自立支援医療証所持者で「障がい者への手当などの経済的給付の充実」が、療育手帳所持者・いずれもない人で「障がいのある子どもの教育・育成に関する施策」が、それぞれ最も高くなっています。
◆ 前回・前々回調査と比較すると、療育手帳所持者で「障がいのある子どもの教育・育成に関する施策」が増加傾向です。

（%）

	障がいおよび障がいのある人に対する理解の促進	差別や虐待など人権擁護に関する施策	障がいのある子どもの教育・育成に関する施策	雇用・就労の促進に関する施策	障害福祉サービスの充実のための施策	障がい者への手当などの経済的給付の充実	医療費・福祉サービス利用時の負担軽減に関する施策	地域とのコミュニティづくりに関する施策	バリアフリーの街づくりのための施策	障がい者への情報・コミュニケーション支援の施策	災害対策や防犯対策など、安全・安心に関する施策	無回答
全体(n=1186)	15.2	1.9	12.7	5.5	9.6	18.7	9.7	0.9	3.7	2.1	7.7	12.2
【身体障害者手帳所持者】												
令和７年度調査(n=611)	14.7	1.0	5.2	2.1	12.3	17.7	10.8	0.7	6.7	2.1	9.7	17.0
令和元年度調査(n=524)	17.9	1.9	5.5	2.1	10.3	13.5	14.5	1.3	6.9	1.1	8.0	16.8
平成 29 年度調査(n=575)	15.3	1.9	5.4	4.2	12.2	9.9	10.3	1.4	6.4	1.0	12.0	20.0
【療育手帳所持者】												
令和７年度調査(n=172)	16.3	4.1	26.7	8.1	12.2	15.1	3.5	0.0	1.2	1.7	2.9	8.1
令和元年度調査(n=132)	23.5	4.5	23.5	8.3	16.7	6.1	3.8	0.8	0.8	1.5	5.3	5.3
平成 29 年度調査(n=89)	24.7	3.4	20.2	13.5	18.0	3.4	1.1	0.0	3.4	1.1	1.1	10.1
【精神障害者保健福祉手帳所持者】												
令和７年度調査(n=273)	18.3	3.7	6.6	11.0	5.9	29.3	9.2	1.1	0.4	2.6	5.5	6.6
令和元年度調査(n=131)	18.3	4.6	8.4	14.5	12.2	13.0	6.9	0.8	2.3	0.8	7.6	10.7
平成 29 年度調査(n=114)	18.4	4.4	2.6	8.8	6.1	28.1	8.8	0.9	2.6	0.9	2.6	15.8
【難病者】												
令和７年度調査(n=41)	14.6	0.0	4.9	0.0	12.2	24.4	9.8	0.0	9.8	2.4	14.6	7.3
【難病医療受給者証所持者】												
令和７年度調査(n=27)	14.8	0.0	7.4	0.0	14.8	25.9	7.4	0.0	14.8	0.0	11.1	3.7
令和元年度調査(n=28)	10.7	3.6	3.6	0.0	21.4	3.6	42.9	0.0	0.0	0.0	10.7	3.6
【自立支援医療証所持者（精神通院）】												
令和７年度調査(n=120)	19.2	4.2	5.8	15.8	4.2	23.3	12.5	0.8	0.0	4.2	2.5	7.5
いずれもない(n=142)	12.0	0.0	41.5	4.2	5.6	7.7	12.0	2.8	0.7	2.8	7.0	3.5

※「難病者」のうち、「認定あり」と回答された方を「難病医療受給者証所持者」と見なし、前回調査と比較しています。

問 56ー2　長久手市の施策において、２番目に優先すべきと考えるもの

◆ 全体では、「医療費・福祉サービス利用時の負担軽減に関する施策」が 14.2%で最も高く、次いで「障がい者への手当などの経済的給付の充実」が 13.2%となっています。
◆ 障がいの状況別にみると、身体障害者手帳所持者・難病者で「医療費・福祉サービス利用時の負担軽減に関する施策」が、療育手帳所持者で「障害福祉サービスの充実のための施策」が、精神障害者保健福祉手帳所持者・自立支援医療証所持者で「障がい者への手当などの経済的給付の充実」が、いずれもない人で「障がいのある子どもの教育・育成に関する施策」が、それぞれ最も高くなっています。
◆ 前回・前々回調査と比較すると、身体障害者手帳所持者で「障がい者への手当などの経済的給付の充実」が増加傾向です。

（%）

	障がいおよび障がいのある人に対する理解の促進	差別や虐待など人権擁護に関する施策	障がいのある子どもの教育・育成に関する施策	雇用・就労の促進に関する施策	障害福祉サービスの充実のための施策	障がい者への手当などの経済的給付の充実	医療費・福祉サービス利用時の負担軽減に関する施策	地域とのコミュニティづくりに関する施策	バリアフリーの街づくりのための施策	障がい者への情報・コミュニケーション支援の施策	災害対策や防犯対策など、安全・安心に関する施策	無回答
全体(n=1186)	9.9	5.2	6.7	8.6	11.8	13.2	14.2	2.0	4.0	4.1	6.3	13.9
【身体障害者手帳所持者】												
令和７年度調査(n=611)	6.5	3.6	3.8	5.4	12.6	13.3	15.9	2.0	5.4	4.4	7.2	20.0
令和元年度調査(n=524)	5.9	2.3	5.5	3.8	14.3	12.6	15.6	1.9	8.8	3.2	6.7	19.3
平成 29 年度調査(n=575)	5.4	3.5	6.4	4.9	11.1	9.0	18.1	2.3	6.6	3.1	6.6	23.0
【療育手帳所持者】												
令和７年度調査(n=172)	13.4	8.1	7.0	9.9	18.6	16.3	8.7	0.0	0.6	4.7	4.7	8.1
令和元年度調査(n=132)	7.6	3.0	15.9	15.9	21.2	12.9	4.5	3.0	3.8	2.3	4.5	5.3
平成 29 年度調査(n=89)	14.6	5.6	14.6	19.2	11.2	9.0	5.6	2.2	2.2	0.0	3.4	12.4
【精神障害者保健福祉手帳所持者】												
令和７年度調査(n=273)	12.8	8.1	7.3	12.8	10.3	14.3	13.9	1.5	2.9	3.3	5.1	7.7
令和元年度調査(n=131)	6.1	6.1	8.4	9.9	15.3	19.1	12.2	0.8	3.8	3.8	2.3	12.2
平成 29 年度調査(n=114)	11.4	2.6	4.4	13.2	14.0	11.4	16.6	1.8	1.8	4.4	1.8	16.6
【難病者】												
令和７年度調査(n=41)	17.1	0.0	0.0	4.9	9.8	17.1	19.5	2.4	7.3	7.3	7.3	7.3
【難病医療受給者証所持者】												
令和７年度調査(n=27)	18.5	0.0	0.0	7.4	7.4	11.1	18.5	3.7	11.1	7.4	11.1	3.7
令和元年度調査(n=28)	3.6	0.0	10.7	0.0	10.7	35.7	14.3	0.0	14.3	0.0	3.6	7.1
【自立支援医療証所持者（精神通院）】												
令和７年度調査(n=120)	12.5	5.8	5.8	8.3	13.3	16.7	13.3	3.3	4.2	2.5	6.7	7.5
いずれもない(n=142)	12.0	6.3	17.6	11.3	6.3	9.9	14.1	4.2	3.5	3.5	7.7	3.5

※「難病者」のうち、「認定あり」と回答された方を「難病医療受給者証所持者」と見なし、前回調査と比較しています。

問 56－3　長久手市の施策において、３番目に優先すべきと考えるもの

◆ 全体では、「災害対策や防犯対策など、安全・安心に関する施策」が 12.8%で最も高く、次いで「障がいおよび障がいのある人に対する理解の促進」が 9.5%となっています。
◆ 障がいの状況別にみると、身体障害者手帳所持者・療育手帳所持者・難病者・自立支援医療証所持者で「災害対策や防犯対策など、安全・安心に関する施策」が、精神障害者保健福祉手帳所持者で「医療費・福祉サービス利用時の負担軽減に関する施策」が、いずれもない人で「障害福祉サービスの充実のための施策」が、それぞれ最も高くなっています。また、自立支援医療証所持者では「雇用・就労の促進に関する施策」「障がい者への手当などの経済的給付の充実」も同様に最も高くなっています。
◆ 前回・前々回調査と比較すると、療育手帳所持者で「災害対策や防犯対策など、安全・安心に関する施策」が増加傾向です。

（%）

	障がいおよび障がいのある人に対する理解の促進	差別や虐待など人権擁護に関する施策	障がいのある子どもの教育・育成に関する施策	雇用・就労の促進に関する施策	障害福祉サービスの充実のための施策	障がい者への手当などの経済的給付の充実	医療費・福祉サービス利用時の負担軽減に関する施策	地域とのコミュニティづくりに関する施策	バリアフリーの街づくりのための施策	障がい者への情報・コミュニケーション支援の施策	災害対策や防犯対策など、安全・安心に関する施策	無回答
全体(n=1186)	9.5	3.2	5.9	7.8	9.4	9.2	9.0	4.7	5.1	7.2	12.8	16.1
【身体障害者手帳所持者】												
令和７年度調査(n=611)	8.3	1.6	5.4	4.6	8.7	8.2	7.9	4.7	7.0	6.1	14.7	22.7
令和元年度調査(n=524)	10.5	0.4	2.1	3.1	10.7	8.2	9.7	3.4	8.6	4.4	17.4	21.6
平成 29 年度調査(n=575)	8.2	3.0	3.7	4.2	9.4	6.6	8.2	4.9	8.9	4.7	13.2	25.0
【療育手帳所持者】												
令和７年度調査(n=172)	12.8	3.5	9.3	9.3	9.9	12.2	5.8	4.7	1.2	8.1	13.4	9.9
令和元年度調査(n=132)	13.6	3.8	9.8	15.2	9.1	11.4	8.3	5.3	3.0	6.1	8.3	6.1
平成 29 年度調査(n=89)	13.5	3.4	4.5	7.9	13.5	7.9	5.6	13.5	2.2	5.6	6.7	15.7
【精神障害者保健福祉手帳所持者】												
令和７年度調査(n=273)	11.0	5.1	2.9	11.7	8.4	11.4	13.9	3.7	4.0	6.6	11.7	9.5
令和元年度調査(n=131)	14.5	2.3	3.8	9.9	16.8	9.2	15.3	4.6	0.0	3.8	6.9	13.0
平成 29 年度調査(n=114)	7.0	6.1	2.6	13.2	11.4	10.5	8.8	7.9	2.6	2.6	9.6	17.7
【難病者】												
令和７年度調査(n=41)	2.4	2.4	7.3	12.2	7.3	7.3	19.5	2.4	4.9	4.9	22.0	7.3
【難病医療受給者証所持者】												
令和７年度調査(n=27)	3.7	0.0	7.4	7.4	7.4	7.4	25.9	3.7	7.4	7.4	18.5	3.7
令和元年度調査(n=28)	17.9	0.0	0.0	0.0	17.9	7.1	7.1	7.1	7.1	3.6	21.4	10.7
【自立支援医療証所持者（精神通院）】												
令和７年度調査(n=120)	10.0	5.8	3.3	12.5	6.7	12.5	10.8	3.3	4.2	9.2	12.5	9.2
いずれもない（n=142）	11.3	4.2	9.9	13.4	14.1	6.3	7.0	6.3	4.9	9.2	9.2	4.2

※「難病者」のうち、「認定あり」と回答された方を「難病医療受給者証所持者」と見なし、前回調査と比較しています。

長久手市の障がい福祉施策についてのご意見やご要望【自由記入】

所持手帳等の表記

□身体障害者手帳所持者：身体　　□療育手帳所持者：療育
□精神障害者保健福祉手帳所持者：精神　　□難病者：難病
□自立支援医療証所持者（精神通院）：自立支援

相談

主な内容	所持手帳等
障がいがある方に配偶者や家族がいらっしゃる場合は、まだ相談したり、協力したりして良いと思いますが、一人暮らしの方は協力して頂けるヘルパーさんやアドバイザーが必要だと思います。家族や配偶者が同居している場合もそれぞれの生活があり、仕事がありますのでいろいろなサポートが必要になってきます。どうしたらいいのだろうと心配にはなるけれど、相談窓口が分からなかったり、サポート施設がどこにあり、どのような方がサポートして頂けるか詳しい事が分かりません。分かりやすく障がいのある方のサポート方法が記してあるパンフレットなどが知りたいと思います。	無回答
子どもの発達相談について、子どもの発達が気になる、心配というお母さんがこども発達相談室に相談したところ、「学校、園で先生から何も言われてないのであれば、様子をみましょう」と言われたそうです。モヤモヤしたまま状況は変わらず困っていたようでしたので、私から相談事業所を紹介してその後療育（福祉サービス）に繋がっています。そういう方が何名もいました。相談されるお母さん、家族の状況にもよるかと思いますが、療育は早くから始められるのが大切だということもあります。相談された方が少しでも前に進めるような形になるといいのかなと思っています。発達相談室に電話をかけたり、相談することも勇気を持って一歩踏み出された方も多いかと思います。	なし
市の発達支援には大変お世話になり、ここを信じて、つらい時も頑張ってきて良かったと思う。ただ、親が「うちの子は平気」と思ってしまうとどんな支援があっても進まないので、医療と連携して、できる限り早い段階から訓練を受けて、障がいがあっても少しでも学校生活や就職などでの困難が減らせるように、親や、親になる方への情報共有もしていってほしいと思う。「うちの子、ちょっとみんなと違うかも？」と思ったら、気軽にここに相談してね、という相談先を、生後の検診から配ってほしい。	なし
親が亡くなった後のことについて、深く相談出来るような仕組みや環境を設けていただければありがたいです。つまり、今の後見制度にも仕組みにも心が足りていると感じられていない、ということです。出来ることに限度があることも、よく承知しております。それならそれで納得すべきか、と問われればとてもではありませんが、そのようには思えない、ということです。根本、人間の心のあり方に沿って、仕組みをもっと、あたたかなものにしてもらえないものか、と、日々苦しく感じ、生活しております。	療育 精神
支援サービスを受ける事ができるようになるまでが大変です。相談場所も分からない、その都度長い経過を話しまた後日予約をとりまた経過を話し…のくり返しです。ひどいと大変ですね…とこちらは話をしたいわけではなく解決したいのに…と思いながら進まない話にどれだけの時間がかかったのか…と思います。	なし

主な内容	所持手帳等
子どもの発達に困り感や育てにくさ、他のお子さんとの違いを感じて相談を受けた事があります。発達相談をお願いすると話は聞いて貰えるがこれといった回答や解決策はなく、なかなか本当に困っている時に相談できる人は居ないのだと孤独に感じました。情報を共有出来る場や障がいについて学べる場、知識を得られる、相談出来る場が欲しい。	なし
こぐまっこに相談してすぐに医療機関に係りその後はスムーズに支援を受けることができています。●●（放課後等デイサービス）と●●（相談支援事業所）とこぐまっこの連携がしっかり取れているので、安心して相談することができています。	療育
福祉サービスの手続きなど以前に比べてとても楽になりました、窓口に行く回数も減り、手続きをまとめて出来るように助言をしてもらいよくわかるようになってきました、充実してきてると感じます、年令によって相談したい内容が変わってきていて、どこに相談に行けば良いのかどんな受け皿があるのか迷うことがあります、障がいのある人の住宅事情なども知りたいと思っています。	精神

学校・教育

主な内容	所持手帳等
小学校の特別支援学級では、もうすこし視覚支援をとりいれてもらえると嬉しい。子どもたちが生活しやすいように、色分けや余分なものは正面に置かないなど、専門的な知識のある方から先生方への研修だったり、指導があると、通うお子さんみなさんにも結果的にやりやすくなるのではと感じている。	療育
公立小学校・中学校の先生方に障害についての理解を深めてもらいたい。（通常級、支援級どちらも）そしてそれに関して見える形で表してほしい。（専門家との連携の公表や理解するための講座を修得済みと公表する等）	精神
知的も重度なので、将来働けるとは思っていない。けれど、のんびり過ごせる生活介護として預かってくれるところ、入居できるところの情報がなく、●●（相談支援事業所）にきいてもよくわからない。将来どうなるか不安。また北小学区は特に支援級の子供達が増えている。特別支援学校にいくにも、さくらんぼは送迎必要で遠く、つばきも狭き門と聞く。地域との共存という意味でも北小北中での支援学級で受け入れ特別支援学校に行かなくてもいいように充実させてほしい。	身体 療育
不登校の為、家以外で日中を安心して過ごせる場所がなかなか見つからない。放デイに通っているが、日中に通える場所が少なく選択肢が持てない。親は仕事がある為、日中子どもが安心して過ごせる居場所がないと非常に困る。福祉サービスだけではなく、学校の教師の質を良くしてほしい。ADHD、ASD などの知識や対応の仕方を教師、校長がもっと理解して行動してくれないと発達障害で悩んでいる子どもは学校に通えない。	なし
普通学級に馴染めず他に使える教室もなく居場所がなくなり、引きこもりになった。今は、通級教室だけに通っていますが、他の小学校の様に学校の中にフリースクールがほしい。学校に相談しても、教室が足りない、教員が足りない、という理由で難しいですといつもいわれてしまう。	なし

福祉サービス・事業所

主な内容	所持手帳等
市内の生活介護事業所はほとんどが定員で空きがなく選択肢が限られている。市外の事業所を選択すれば送迎も問題になってくるが、移動支援などお願いできる事業所もなく、いつまで親が担えるか不安になる災害対策も含めここ数年あまり進んでいないように思う。	療育
18 才以上の障害者を見守ってくれる施設が少ない。自宅で 1 人で留守番できないため、日中一時支援等利用したくても、施設が少ないため、入れない方々が多いときく。就労支援や生活介護等で日中のサービスへ行っていても 15～16 時ごろ帰宅などが多い。保護者の就労にも影響している（働けない保護者の話もよく聞く）。放デイを利用できなくなる年齢になったらどうすればよいのか、悩んでいる声も聞くので本当になんとかしてほしい（手当てが削られるのなら、別のとこで補填してほしい）。	療育

将来の不安

主な内容	所持手帳等
親（保護者）がいなくなった後にどうするか？グループホームなどの充実（入りたい障がい者が全員入所できる）ようにして欲しい。一人で生きていくのは不可能です。	療育
市のグループホームなど親が一緒に暮らせなくなったときの為、又、緊急時、保護、ショートステイ的な所が少なすぎるので、作ってほしいです。老人は、子供が世話をすることができますが、障害をもった子の親は、年をとっていくので、いつ、どうなるかわかりません。障害の親の気持になっていただき、検討していただきたい。	療育
収入が少ないので将来くらしていけるのか不安です。	身体
32 歳で障害を負ったため、ライフステージごとの支援のなさに驚くと同時に退院後の行き先が長久手市には全くなく、老夫婦でかなりの施設を遠方まで探しまくった。ながくて福祉ガイドが大変役に立ちありがたかった。両親が高齢で障害を負った娘が残る事が何より心配です。今やれるべきことなど教えてくれる講座があれば助かります。	身体
対応は多岐に渡り、個々に面談により要望に答えることは難しいと思います。将来一人暮しになり、行動が出来なくなった場合不安があります。私のように一人で家から出られない、どんな設備や対策があっても利用出来ません。いろんな施策があるかと思いますが障害者に寄りそう、話を直接聞いてくれる対策が必要かと思います。	身体

就労

主な内容	所持手帳等
福祉の家であった就労に関する説明会に参加しました。知らない施設を知ることや実際に施設の職員の雰囲気が知れて大変良かったです。午前に参加した方からも良かったということを聞きました。準備等大変でしょうがぜひ今後も続けていただきたいです。	療育
福祉的就労や障害年金を受給してるからと言って、生活費に困ってない訳では無いし、福祉的就労と障害者雇用を含む一般企業での就労を一緒にされては困る。A 型作業所でも交通費は出ないことがほとんどだし、そもそも最低賃金までしか出ないのが大半なのに「働けてるからいいでしょ」みたいなスタンスでは自立した生活を送りたい障害者には不満。	精神
就労支援サービスを充実させて欲しいです。働く意欲はあるが、働き先が少ないと感じています。	精神
地域で障がい者雇用で働ける場所がもっと増えると嬉しい。障がいがある方でも参加できるイベントがもっとあるといい。	身体
家庭が働きながら介護できるようなサービスが無い。障がい者が若い（40 代）と老人ホームも無く、日中、あずける場所がなく困っている。	精神
発達障害は程度の差はあれど特に手当はいらないと考えがおありかもしれないが、私は、雇用・仕事については主にコミュニケーションについてとても悩んでいる、ぜひ相談に乗ってほしい、創作活動の相談にも出来ればのってほしい。	精神 自立支援

経済的負担

主な内容	所持手帳等
日常生活用具の補助額を上げてほしい（特にオムツなど排泄用具）。物価高により、いろいろな物が値上がりしているのに、補助額は上がらないため自己負担が増加している。	身体
お金を使うことが不安で、他人に迷惑をかけているように感じたが、長久手市障害者手当で少しでもお金がもらえると少し気持ちが楽になった。どうしても収入が減り、通院や薬にお金がかかるので経済的負担を軽減する取組をこれからも実施してほしい。	精神 自立支援
様々な障がいがあり、日々生活していく上で、必要不可欠な消耗品がある。何年、生きられるか？は分かりえないが、その代金が負担になっているので全てを市でというのは様々な事業を日々行っているので大変難しいとは思いますが、少しでも負担軽減に繋がる施策を実行して頂くことで生きていく糧となるよう切望しているのでよろしくお願いします。	身体
障害に必要な様々な用具の高騰により自己負担額が増大し支給して頂いている範囲を常に大きく超過している状況を改善してくださるようお願い致します。	身体

通院・医療機関

主な内容	所持手帳等
いつも色々な方に助けていただき大変ありがたく思っています。アンケートにも記入しましたが、内科・歯科・耳鼻科・皮膚科・眼科などの医療機関ですと、障害があることで、受診の必要があるのになかなか受診できないことが多々あります。障がい者・児が通院できる所を調べられるサイトなどがあると嬉しく思います。	療育
病院ですら聞こえない人への配慮がない所が多い。窓口に聴覚障害マークがあるのに受付で何度も叫ばれるのは本当にイヤ。もう少し相手のこと考えられるようにして欲しい。	身体
長久手市の福祉サービスに関わるようになって半年弱です。それまで、市内における福祉サービスを一切知りませんでした。手帳を取得する利点が見いだせず、申請を渋っていましたが、もっと早くサービス内容を知っていたら、通院開始直後からの行動に大いに助けられたのだろうなと思います。（手帳を取得するイコール、悪いイメージしかなかったので、申請しなかった自分も悪いのですが…）福祉サービスにより、助けられる事も多々ありますので感謝しています。	精神

窓口対応

主な内容	所持手帳等
福祉課の職員さんの知識不足が気になります。理解しているのかしていないのか分からないです。	身体 療育
障がい福祉の手続きがとてもスムーズに出来て毎回感謝している。	身体
諸々の手続き申請のため市役所の係へ出向いているが、事務的な対応が多い。障害者への理解、配慮があってよいのではないか。申請しても許可があるまでの期間が長過ぎる。申請の決裁を早めてほしい。	身体
市役所の窓口に行かなければならない手続きを郵送対応できるようにしてほしい。福祉サービスについて更新案内がないものがあるので更新案内をしてほしい。	無回答

障がい理解

主な内容	所持手帳等
福祉施策やサービスや制度や取組などが充実したり障がい者に対する理解が広がるといいと思います。	療育
障がい者への理解、障がい者は「かわいそう」ではない事、他の人と変わりなく接する。	身体
市役所に行くとよく話をきいてもらえてうれしい。説明が下手なので理解して対応してもらってありがたい。	精神
長久手市の福祉サービスのガイドラインはあると思いますが、障がい者は個々により、支援の必要のあり方が違います。ここ数年、個々に寄り添った支援サービスが貧しくなってきている気がします。限られた税収の中での事でしょうが、もう少し個人に個人に対して市役所福祉課の方、市長さんも心を寄せていただきたく、お願い致します。	身体

主な内容	所持手帳等
障がいや障がいがある人への理解は、実際に接することが必要不可欠です。けれども、障がいの程度が重いと、早くから専門機関に通うことになるため、発達期に地域の同年代の子どもたちと交流することはほとんどありません。親も、障がいのある子を連れて出かけるのは、近所で買い物をするだけでも負担で、子どもと離れられる時に出かけたいです。親が先に意識を変えられればよいのですが、難しいのできっかけが欲しいです。	療育

情報発信・情報交換

主な内容	所持手帳等
このアンケートは障害者全体を対象者にしていると思われますが、障害者が自立している場合を全く想定されていないと思いました、道具や工夫で一般の方と同じように生活している方もたくさんいます、障害者は必ず支援者がつき、事業者などの福祉サービスとつながるべきという考え方は多様性を否定していると思います、同時に自立する機会も奪っています、福祉の制度がわかりにくい、自ら情報を探しに行かなければ利用できない、新しい制度の告知があってもよいと思います。	精神
障害福祉施策について長久手市がサービス、制度、取組をこの数年どうしてきたのか、改善されたのか逆に教えて欲しい。⇒知る機会が無い	身体
障がい福祉施策があるとは思うけど、肝心な障がい者に届いていない感があって、残念です。障がい者は自発的に行動を取りにくいです。例えば、小冊子（情報）を送るとかしてもらえたらすごく有難いし満足感も上がります。	身体
障がいの同じ人達の情報交換の場などがあるといいと思う。高齢でなくても障がいを持つ人も福祉の家を利用できたらそこでコミュニケーションの場を作れるのではないだろうか。	身体
市がどんな福祉施策をおこなっているかがわからない。色々な事がかわっていくなかでも、もっとわかりやすい情報発信を行っていってほしい。何が行われていないのかがわからないのでどのサービスや取組が良くなったのかも実感がない。	身体 精神 自立支援
どのようなサービスがあるか知らなければ、受ける事ができません。幸いにもケアマネジャーや友人、知人、社協の方のお話を聞くことが出来て、サービスを受けさせてもらって助かりました。住民としては関心を持って情報を得ることが大事だと思いました。市としても分かりやすい情報発信が必要だと思います。	身体
取組に対してアンケートを取るだけではなく、取り組んだことの実情も教えてほしいです。またアンケート内に配慮という言葉が数多くあった。やさしい世界が作られることは悪いことではないと思うが、やってもらう事があたりまえと感じてしまう人が増加するのはどうかと思うし、それが弊害となることが懸念されるのでバランスを考えて取り組んでいただければと思います。	身体

災害

主な内容	所持手帳等
災害が起きた時の準備が何も出来ていない。障がい者、時に知的障害は役所自体が取り組む事が出来ていないと思う。	療育

移動・交通機関

主な内容	所持手帳等
タクシー券を使っている。降りるときに出したら、「使えない」と言われ、障がい割も使ってもらえなかった。	精神
障害者タクシー助成券をいただいてます。大変有り難い事ではありますが。通院箇所・頻度が多い為に全く足りない状況です。Nバスの存在は知ってはいますが。バス停まで歩いて行くのが困難ですし、Nバス利用が出来る受診先もほぼ無い為、タクシー利用に頼らずを得ません。	身体
大型の施設、ショッピングセンター等に車イスを貸出してる所が少ない為、買物に困る。	身体
長久手市内に十分な入所施設があるわけでもないので、入所のためには近隣の市町の施設も検討することになります。居住地が他の市町になったとたんに移動のためのタクシー補助がうちきられ、その点では不便を強いられました。他の市町と連携した支援も考えていただけるとありがたいと思います。	身体
足に力がたりない自分にとって段差はすごく辛い事の１つです。バス等の階段等に力をいれていただきたいと思っております。	身体

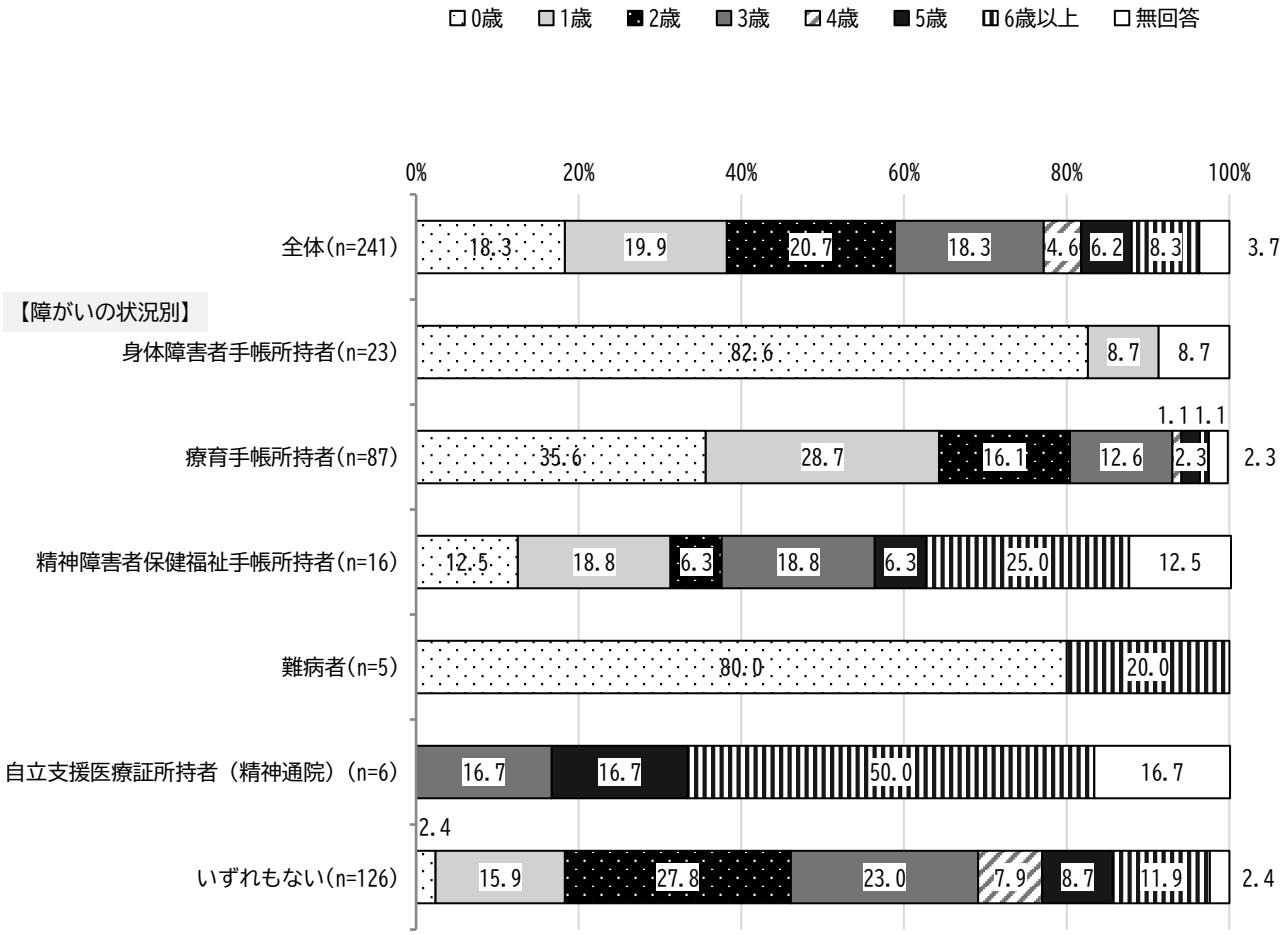
外出・運動

主な内容	所持手帳等
2秒、目を離せば、一瞬でどこかに行ってしまう息子。息子は体を動かすこと公園が大好きだから思いっきり遊ばせたい気持ちもありますが、母はとても大変です。「ごめんなさい」を減らせるような公園（施設）ができるといいです。	療育
長久手に障がい者が運動できる施設が少ない。	身体
障がい者もたくさん出かけられるよう企画してほしい。	身体
障害、車イスでもゆったり気兼ねなく飲食（持ち込み可）や会話を楽しめるあたたかな空間フリースペース的なのを希望する。車イスの母を連れて外食できるお店が少なくて（トイレ問題など）、できたとしてもまわりの方の目など気になるし、ゆっくりできない。	身体 精神 自立支援

13. お子さんの成長発達を支える仕組みについて

問 57　お子さんの発達や障がいについて、気になった時期はいつ頃ですか。

◆ 全体では、「２歳」が 20.7%で最も高く、次いで「１歳」が 19.9%、「０歳」と「３歳」が 18.3%となっています。
◆ 障がいの状況別にみると、身体障害者手帳所持者・療育手帳所持者・難病者で「0 歳」が、精神障害者保健福祉手帳所持者・自立支援医療証所持者で「6 歳以上」が、いずれもない人で「2 歳」が、それぞれ最も高くなっています。



問 58　「問 57」に関して、気になったきっかけは何ですか。【○はいくつでも】

◆ 全体では、「自分で本やホームページを見た」が 25.7%で最も高く、次いで「保育園・幼稚園の先生から話があった」が 21.6%となっています。
◆ 障がいの状況別にみると、身体障害者手帳所持者・難病者で「出産後に主治医から説明を受けた」が、精神障害者保健福祉手帳所持者で「自分で本やホームページを見た」が、自立支援医療証所持者・いずれもない人で「保育園・幼稚園の先生から話があった」が、療育手帳所持者では「出産後に主治医から説明を受けた」と「自分で本やホームページを見た」が、それぞれ最も高くなっています。

(%)

	出産後に主治医から説明を受けた	保健所の職員から話があった	保健センターの職員から話があった	乳幼児健診の健診医から話があった	医療機関の医師から説明を受けた	保育園・幼稚園の先生から話があった	学校の先生から話があった	親族から心配された
全体(n=241)	12.9	2.9	10.0	14.5	8.3	21.6	4.6	6.2
身体障害者手帳所持者(n=23)	60.9	0.0	0.0	4.3	30.4	0.0	4.3	0.0
療育手帳所持者(n=87)	24.1	3.4	9.2	17.2	11.5	10.3	2.3	6.9
精神障害者保健福祉手帳所持者(n=16)	6.3	6.3	0.0	6.3	12.5	12.5	12.5	12.5
難病者(n=5)	80.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0
自立支援医療証所持者（精神通院）(n=6)	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	33.3	16.7	0.0
いずれもない(n=126)	2.4	2.4	12.7	14.3	4.0	31.7	5.6	5.6

(%)

	友人・知人から心配された	自分で本やホームページを見た	もともと知識があった	覚えていない	その他	無回答
全体(n=241)	0.4	25.7	15.8	1.2	11.2	3.7
身体障害者手帳所持者(n=23)	0.0	4.3	0.0	0.0	8.7	8.7
療育手帳所持者(n=87)	1.1	24.1	17.2	1.1	10.3	2.3
精神障害者保健福祉手帳所持者(n=16)	0.0	43.8	18.8	0.0	12.5	6.3
難病者(n=5)	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0
自立支援医療証所持者（精神通院）(n=6)	0.0	16.7	0.0	0.0	33.3	0.0
いずれもない(n=126)	0.0	27.0	16.7	1.6	11.9	3.2

主な「その他」の内容	件数
発語が少なかった、遅いと感じた	8
不登校になった	2
妊娠中に発育の不安があった	2

問 59　「問 57」の時期に、困ったことはどのようなことですか【○はいくつでも】

◆ 全体では、「必要な支援(サービス)を利用するまでに時間がかかった」が 31.1%で最も高く、次いで「お子さんへの接し方が分からなかった」が 30.7%となっています。

◆ 障がいの状況別にみると、身体障害者手帳所持者・療育手帳所持者・いずれもない人で「必要な支援(サービス)を利用するまでに時間がかかった」が、精神障害者保健福祉手帳所持者で「お子さんへの接し方が分からなかった」が、それぞれ最も高くなっています。難病者では、「相談機関が分からなかった」「必要な支援(サービス)を利用するまでに時間がかかった」「必要な支援(サービス)を利用できなかった」「仕事ができず、経済的に大変だった」が、自立支援医療証所持者では、「お子さんの発達について知る機会がなかった」「相談機関が分からなかった」「専門の医療機関で診てもらうまでに時間がかかった」が、それぞれ同様に最も高くなっています。

(%)

	お子さんの発達について知る機会がなかった	お子さんへの接し方が分からなかった	相談機関が分からなかった	専門の医療機関が分からなかった	専門の医療機関で診てもらうまでに時間がかかった	必要な支援(サービス)を利用するまでに時間がかかった	必要な支援(サービス)を利用できなかった	身近に悩みや不安を話せる人がいなかった
全体(n=241)	22.8	30.7	29.5	25.3	21.2	31.1	7.5	19.9
身体障害者手帳所持者(n=23)	13.0	8.7	21.7	13.0	13.0	39.1	13.0	26.1
療育手帳所持者(n=87)	20.7	29.9	32.2	24.1	20.7	33.3	12.6	27.6
精神障害者保健福祉手帳所持者(n=16)	25.0	37.5	31.3	18.8	31.3	31.3	6.3	12.5
難病者(n=5)	20.0	0.0	40.0	20.0	20.0	40.0	40.0	0.0
自立支援医療証所持者（精神通院）(n=6)	50.0	33.3	50.0	0.0	50.0	33.3	16.7	0.0
いずれもない(n=126)	25.4	31.7	30.2	29.4	22.2	32.5	5.6	16.7

(%)

	進路(就園・就学・進学・就労など)について相談する機関がわからなかった	他の家族や(お子さんの)きょうだいのことが後回しになった	仕事ができず、経済的に大変だった	その他	無回答
全体(n=241)	20.7	14.9	14.1	12.4	5.8
身体障害者手帳所持者(n=23)	26.1	21.7	17.4	4.3	13.0
療育手帳所持者(n=87)	23.0	17.2	19.5	10.3	6.9
精神障害者保健福祉手帳所持者(n=16)	25.0	18.8	12.5	6.3	12.5
難病者(n=5)	0.0	0.0	40.0	20.0	20.0
自立支援医療証所持者（精神通院）(n=6)	16.7	16.7	16.7	0.0	0.0
いずれもない(n=126)	17.5	13.5	11.9	14.3	4.0

主な「その他」の内容	件数
家族や周囲の人間が理解してくれなかった	5
心理士・保育士・市の相談窓口等に相談しても適切なアドバイスがもらえなかった	4
理解してもらうため、毎回同じ説明をしなければいけなかった	2

問 60　「問 57」の気になった時期に、どこの機関に相談しましたか。
【○はいくつでも】

◆ 全体では、「医療機関」が 47.3%で最も高く、次いで「こどもの発達相談室」が 31.5%となっています。
◆ 障がいの状況別にみると、身体障害者手帳所持者・療育手帳所持者・精神障害者保健福祉手帳所持者・難病者で「医療機関」が、自立支援医療証所持者で「相談支援事業所」が、いずれもない人で「こどもの発達相談室」が、それぞれ最も高くなっています。

(%)

	医療機関	保健所	児童相談所	保健センター	子育て支援センター	家庭児童相談室	こどもの発達相談室	保育園・幼稚園など
全体(n=241)	47.3	6.6	6.2	22.0	24.1	1.7	31.5	17.4
身体障害者手帳所持者(n=23)	91.3	0.0	0.0	0.0	8.7	0.0	8.7	4.3
療育手帳所持者(n=87)	55.2	6.9	5.7	27.6	21.8	0.0	18.4	13.8
精神障害者保健福祉手帳所持者(n=16)	56.3	18.8	12.5	18.8	25.0	0.0	18.8	25.0
難病者(n=5)	80.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	20.0	0.0
自立支援医療証所持者（精神通院）(n=6)	33.3	16.7	0.0	16.7	16.7	0.0	0.0	0.0
いずれもない(n=126)	38.1	5.6	6.3	20.6	27.8	3.2	45.2	21.4

(%)

	相談支援事業	学校(スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー含む)	Nハウス(適応指導教室)	児童クラブ・学童保育所など	学習塾や習い事など	その他	無回答
全体(n=241)	22.8	8.7	0.4	0.0	0.0	6.6	3.7
身体障害者手帳所持者(n=23)	21.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	8.7
療育手帳所持者(n=87)	25.3	2.3	0.0	0.0	0.0	8.0	2.3
精神障害者保健福祉手帳所持者(n=16)	25.0	12.5	0.0	0.0	0.0	6.3	6.3
難病者(n=5)	40.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
自立支援医療証所持者（精神通院）(n=6)	50.0	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
いずれもない(n=126)	23.0	13.5	0.8	0.0	0.0	6.3	3.2

主な「その他」の内容	件数
当事者の集まり	2

問 61　「問 57」の気になった時期に、感じたことはどのようなことですか。
【○はいくつでも】

◆ 全体では、「お子さんの成長発達や将来に対する不安」が 69.7%で最も高く、次いで「お子さんのためにできる限りのことをしたい」が 62.2%となっています。
◆ 障がいの状況別にみると、身体障害者手帳所持者・療育手帳所持者・精神障害者保健福祉手帳所持者・難病者・いずれもない人で「お子さんの成長発達や将来に対する不安」が、自立支援医療証所持者で「お子さんのためにできる限りのことをしたい」が、それぞれ最も高くなっています。

(%)

	ショック、つらい(という気持ち)	「診断（疑い含む）」や「見立て」に対する疑いや怒り	お子さんの成長発達や将来に対する不安	同年齢の他のお子さんとの違いや周囲の目が気になる	個人差があるため気にする必要はない	何をしてよいか分からない	(それまであった)もやもやした気持ちが晴れた	お子さんのありのままを受け止めたい
全体(n=241)	40.2	6.2	69.7	48.1	8.7	30.7	9.5	20.3
身体障害者手帳所持者(n=23)	56.5	4.3	73.9	52.2	0.0	26.1	0.0	26.1
療育手帳所持者(n=87)	54.0	8.0	77.0	55.2	5.7	32.2	9.2	16.1
精神障害者保健福祉手帳所持者(n=16)	31.3	6.3	56.3	31.3	12.5	31.3	12.5	18.8
難病者(n=5)	60.0	20.0	80.0	40.0	0.0	60.0	0.0	40.0
自立支援医療証所持者（精神通院）(n=6)	33.3	16.7	33.3	16.7	16.7	16.7	0.0	33.3
いずれもない(n=126)	31.0	6.3	68.3	46.0	10.3	31.7	11.9	22.2

(%)

	お子さんのためにできる限りのことをしたい	支えてくれる人が「いない」	その他	無回答
全体(n=241)	62.2	10.0	5.0	5.0
身体障害者手帳所持者(n=23)	65.2	8.7	8.7	8.7
療育手帳所持者(n=87)	59.8	11.5	8.0	3.4
精神障害者保健福祉手帳所持者(n=16)	50.0	12.5	6.3	12.5
難病者(n=5)	60.0	0.0	20.0	0.0
自立支援医療証所持者（精神通院）(n=6)	50.0	0.0	0.0	0.0
いずれもない(n=126)	64.3	9.5	3.2	4.0

主な「その他」の内容	件数
家族の理解のなさがつらかった	2
この先のことに対する不安	2
なかなか療育につなげてもらえない焦り	2

問 62　お子さんとご家族が安心して生活するために、どのような取組の充実が必要だと思いますか。【○はいくつでも】

◆ 全体では、「総合的な相談窓口」が 60.2%で最も高く、次いで「福祉サービスの充実」が 59.8%となっています。
◆ 障がいの状況別にみると、身体障害者手帳所持者・療育手帳所持者で「総合的な相談窓口」が、精神障害者保健福祉手帳所持者で「関係機関の連携」が、難病者・いずれもない人で「福祉サービスの充実」が、難病者で「保護者の就労や再就職などに関する支援」が、自立支援医療証所持者で「分かりやすい相談窓口の周知」が、それぞれ最も高くなっています。

（%）

	分かりやすい相談窓口の周知	総合的な相談窓口(生まれてから卒業、就労までの一貫した相談体制)	専門職（心理職等）による相談の機会	福祉サービスの充実(児童発達支援・放課後等デイサービスなど)	関係機関の連携(医療・保育・教育・福祉など)	保護者の就労や再就職などに関する支援	居場所や余暇の充実等に関する支援	保護者同士の交流の機会
全体(n=241)	50.6	60.2	33.6	59.8	50.6	22.0	22.0	24.5
身体障害者手帳所持者(n=23)	43.5	65.2	21.7	52.2	52.2	43.5	26.1	17.4
療育手帳所持者(n=87)	43.7	70.1	29.9	69.0	52.9	25.3	33.3	32.2
精神障害者保健福祉手帳所持者(n=16)	31.3	37.5	37.5	50.0	56.3	18.8	25.0	25.0
難病者(n=5)	60.0	40.0	40.0	80.0	40.0	80.0	0.0	0.0
自立支援医療証所持者（精神通院）(n=6)	66.7	50.0	33.3	33.3	33.3	33.3	16.7	0.0
いずれもない(n=126)	57.1	55.6	34.9	60.3	47.6	19.8	15.9	20.6

(%)

	保護者向けの勉強会	親子で参加できる講座やイベント	(お子さんの)きょうだいと保護者がふれ合う機会	支援をする職員のスキルアップ	障がいのある子どもへの理解や知識向上	その他	無回答
全体(n=241)	28.2	19.5	9.1	29.5	37.3	5.4	4.6
身体障害者手帳所持者(n=23)	8.7	4.3	13.0	26.1	43.5	8.7	8.7
療育手帳所持者(n=87)	31.0	14.9	10.3	35.6	41.4	4.6	3.4
精神障害者保健福祉手帳所持者(n=16)	18.8	12.5	0.0	31.3	31.3	6.3	6.3
難病者(n=5)	0.0	0.0	20.0	20.0	20.0	0.0	0.0
自立支援医療証所持者（精神通院）(n=6)	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0
いずれもない(n=126)	30.2	25.4	9.5	26.2	35.7	6.3	4.0

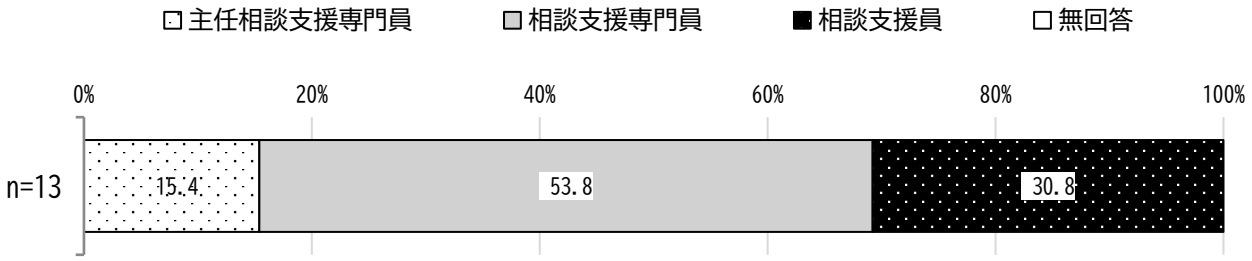
主な「その他」の内容	件数
学校の先生の障がいに対する理解	2
経済的支援	2

２．相談員への調査

問１　あなたのことを教えてください。

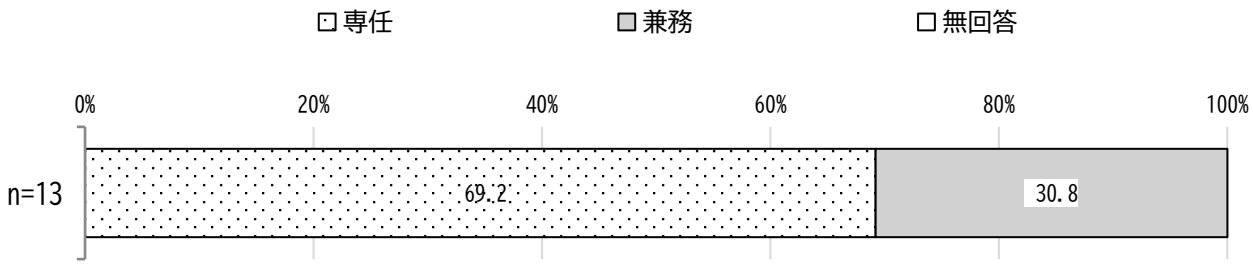
□ 相談員の資格

◆ 「相談支援専門員」が 53.8%と最も高くなっており、次いで「相談支援員」が 30.8%、「主任相談支援専門員」が 15.4%となっています。



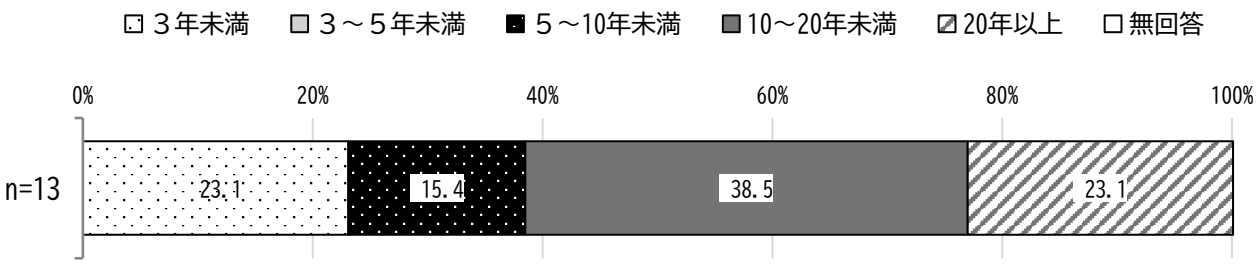
□ 相談員の配置状況

◆ 「専任」が 69.2%、「兼務」が 30.8%となっています。



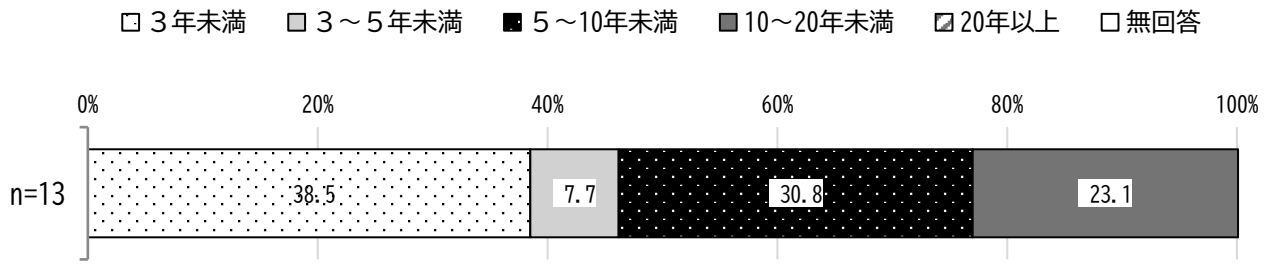
□ 障がい福祉事業の経験年数

◆ 「10～20 年未満」が 38.5%と最も高くなっており、次いで「３年未満」「20 年以上」が 23.1%となっています。



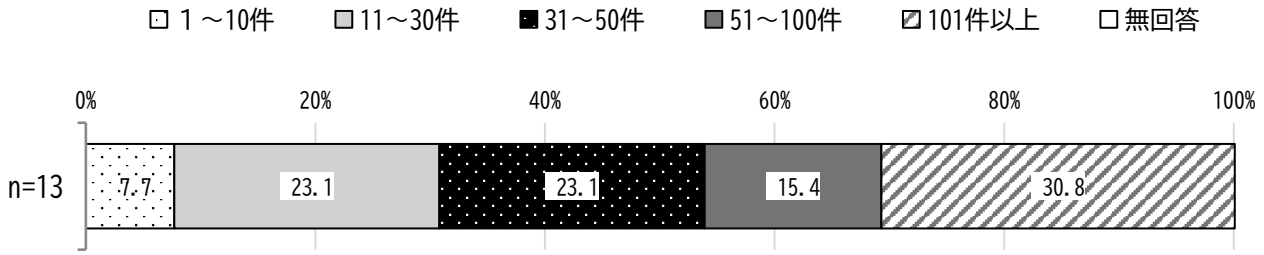
☐ 相談員の経験年数

◆ 「３年未満」が 38.5%と最も高くなっており、次いで「５～10 年未満」が 30.8%、「10～20 年未満」が 23.1%となっています。



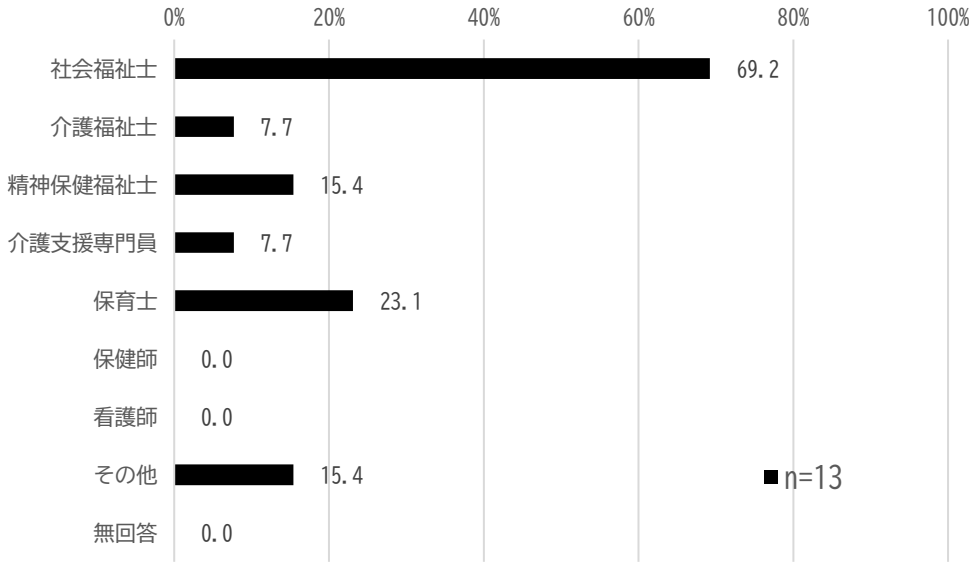
☐ 計画相談支援の作成件数（直近の１年間）

◆ 「101 件以上」が 30.8%と最も高くなっており、次いで「11～30 件」「31～50 件」が 23.1%となっています。



□ 所持資格

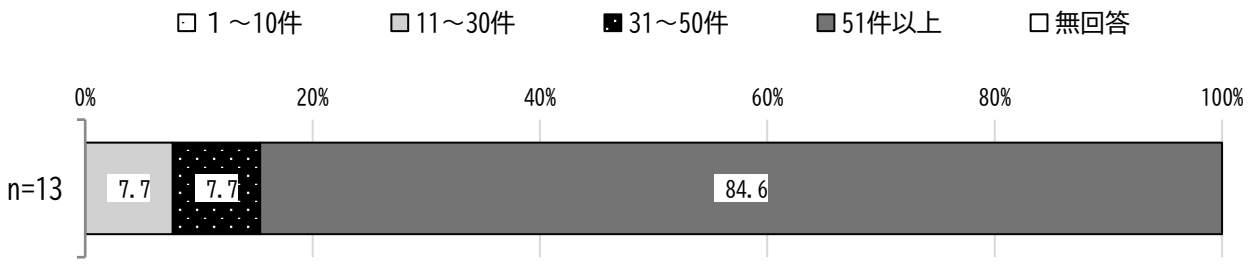
◆ 「社会福祉士」が 69.2%と最も高くなっており、次いで「保育士」が 23.1%、「精神保健福祉士」が 15.4%となっています。



主な「その他」の内容
臨床心理士・公認心理師
ない

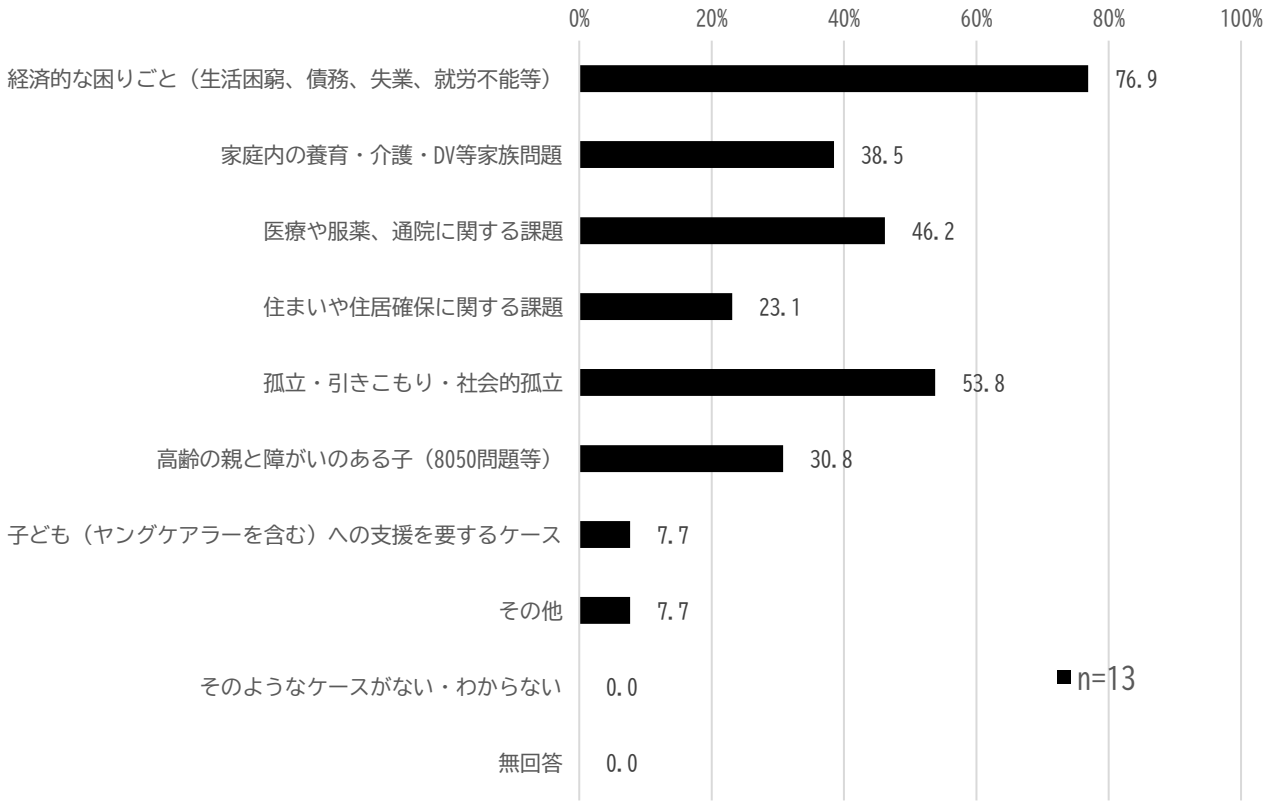
問２　あなたが、適切だと思うサービス等利用計画の１年間あたりの作成件数を教えてください。

◆ 「51 件以上」が 84.6%と最も高くなっており、次いで「11～30 件」「31～50 件」が 7.7%となっています。



問３ー1　障がい福祉分野以外の課題を同時に抱えるケースについて、他にどのような課題を抱えてますか。

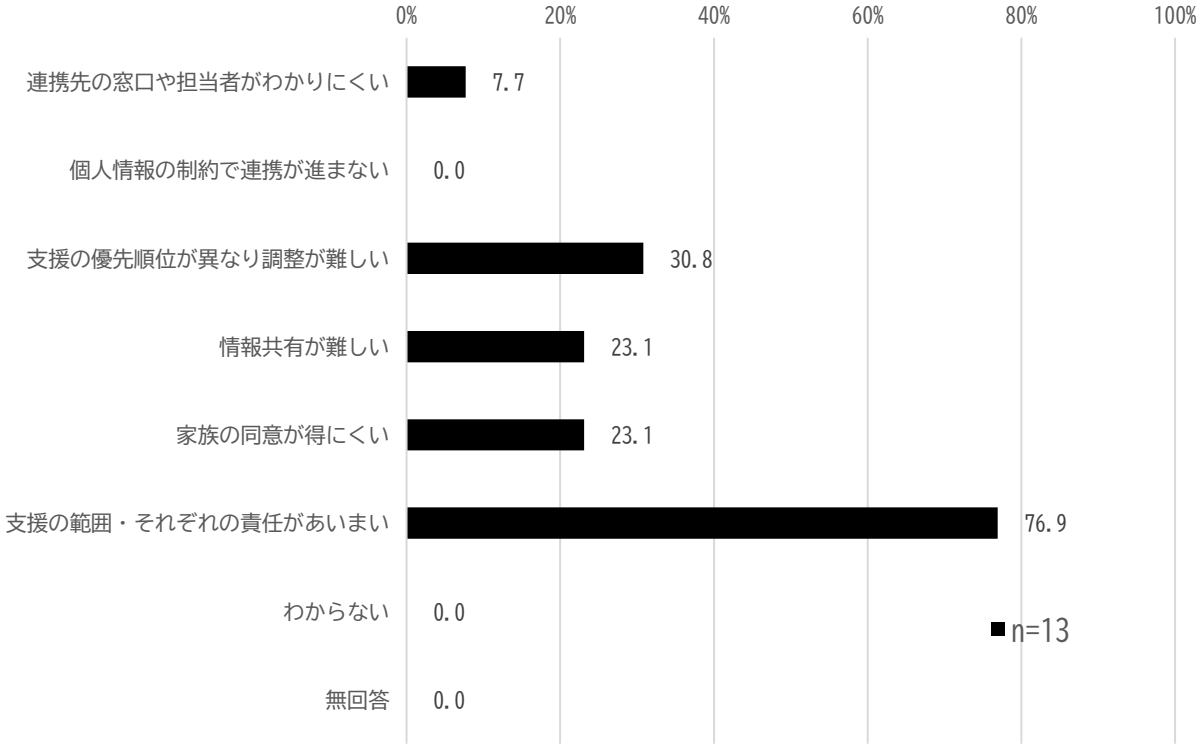
◆「経済的な困りごと（生活困窮、債務、失業、就労不能等）」が 76.9%と最も高くなっており、次いで「孤立・引きこもり・社会的孤立」が 53.8%、「医療や服薬、通院に関する課題」が 46.2%となっています。



主な「その他」の内容
触法や重度の知的、精神障がいによる行動障害

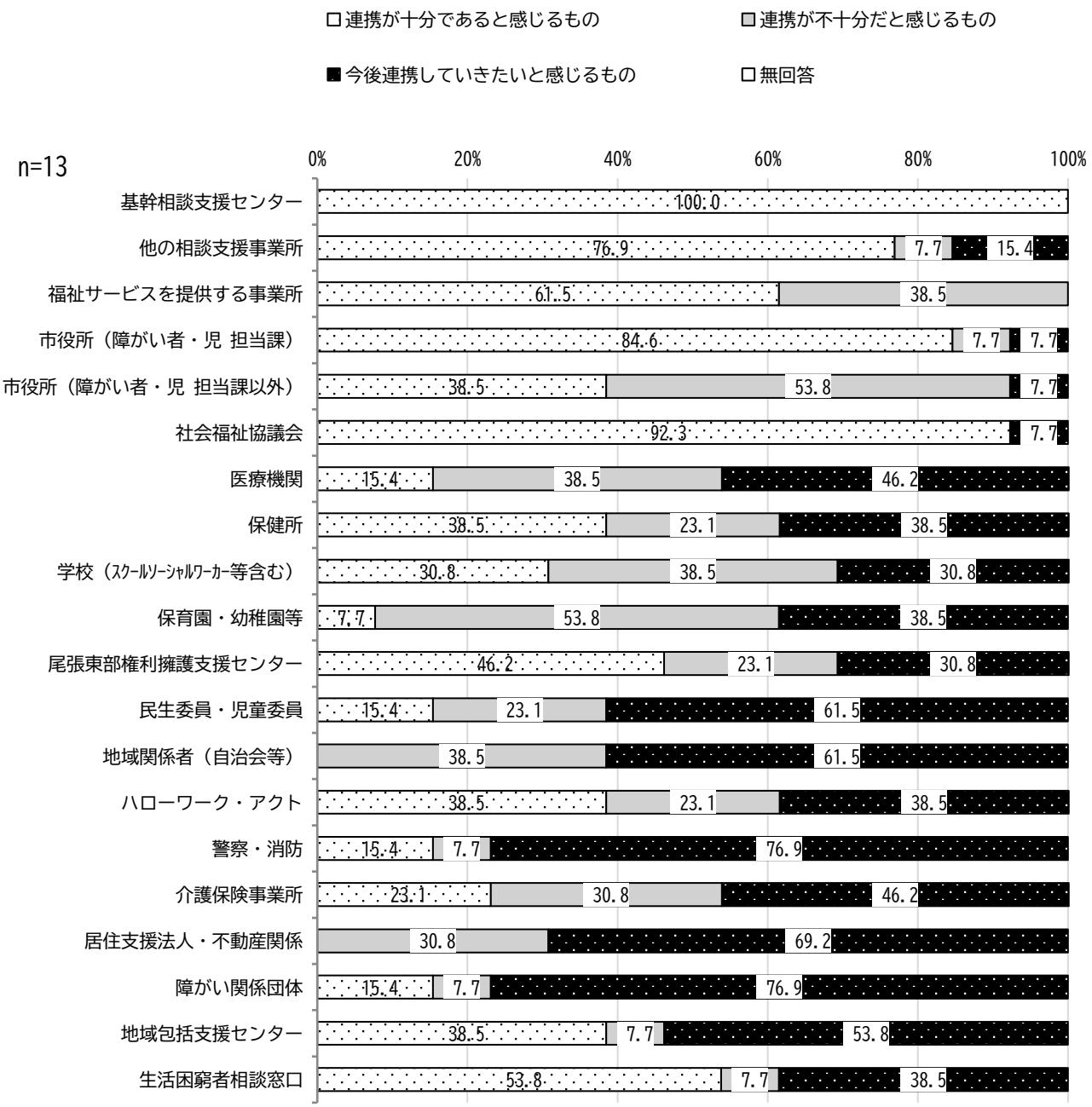
問３－２　他分野との連携で課題に感じる点を教えてください。

◆ 「支援の範囲・それぞれの責任があいまい」が 76.9%と最も高くなっており、次いで「支援の優先順位が異なり調整が難しい」が 30.8%、「情報共有が難しい」「家族の同意が得にくい」が 23.1%となっています。



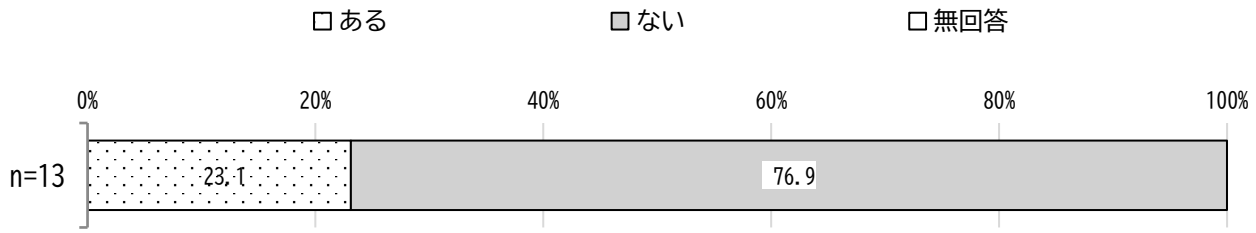
問４　連携状況について

◆「連携が十分であると感じるもの」では「基幹相談支援センター」が 100%と最も高く、次いで「社会福祉協議会」が 92.3%となっています。
◆「連携が不十分だと感じるもの」では「市役所（障がい者・児 担当課以外）」「保育園・幼稚園等」が 53.8%と最も高くなっています。
◆「今後連携していきたいと感じるもの」では「警察・消防」「障がい関係団体」が 76.9%と最も高くなっています。



問４－1　上記の設問にある【連携先以外】で連携が十分・連携が不十分・今後連携していきたいのいずれかを感じる連携先はありますか。

◆ 「ない」が 76.9%、「ある」が 23.1%となっています。



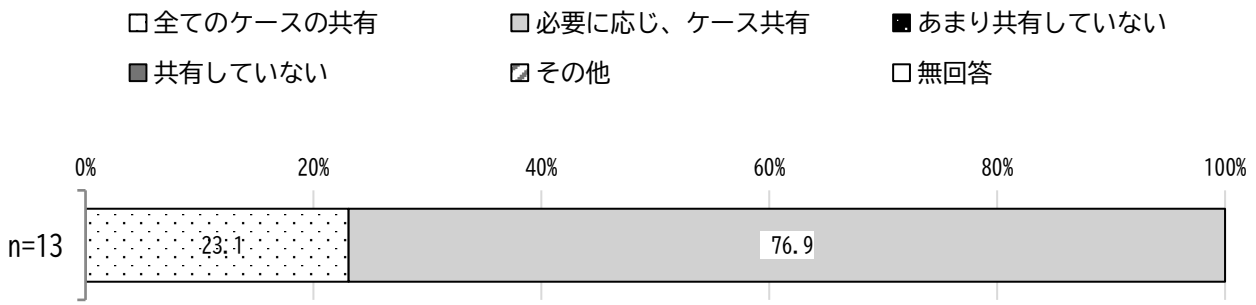
連携が十分であると感じる連携先
訪問看護事業所

連携が不十分であると感じる連携先
回答なし

今後連携していきたい感じる連携先
こども食堂、助産院、地域の子育て団体、児童クラブ

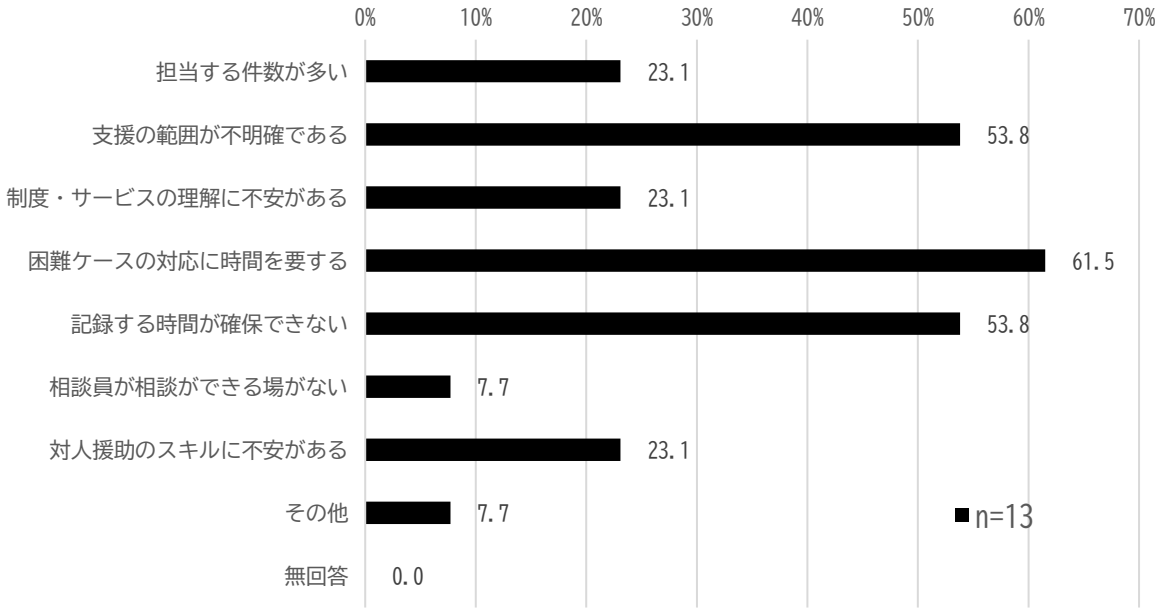
問５　個別の相談支援ケースについて、組織内でどのように共有していますか。

◆ 「必要に応じ、ケース共有」が 76.9%と最も高くなっており、次いで「全てのケースの共有」が 23.1%となっています。



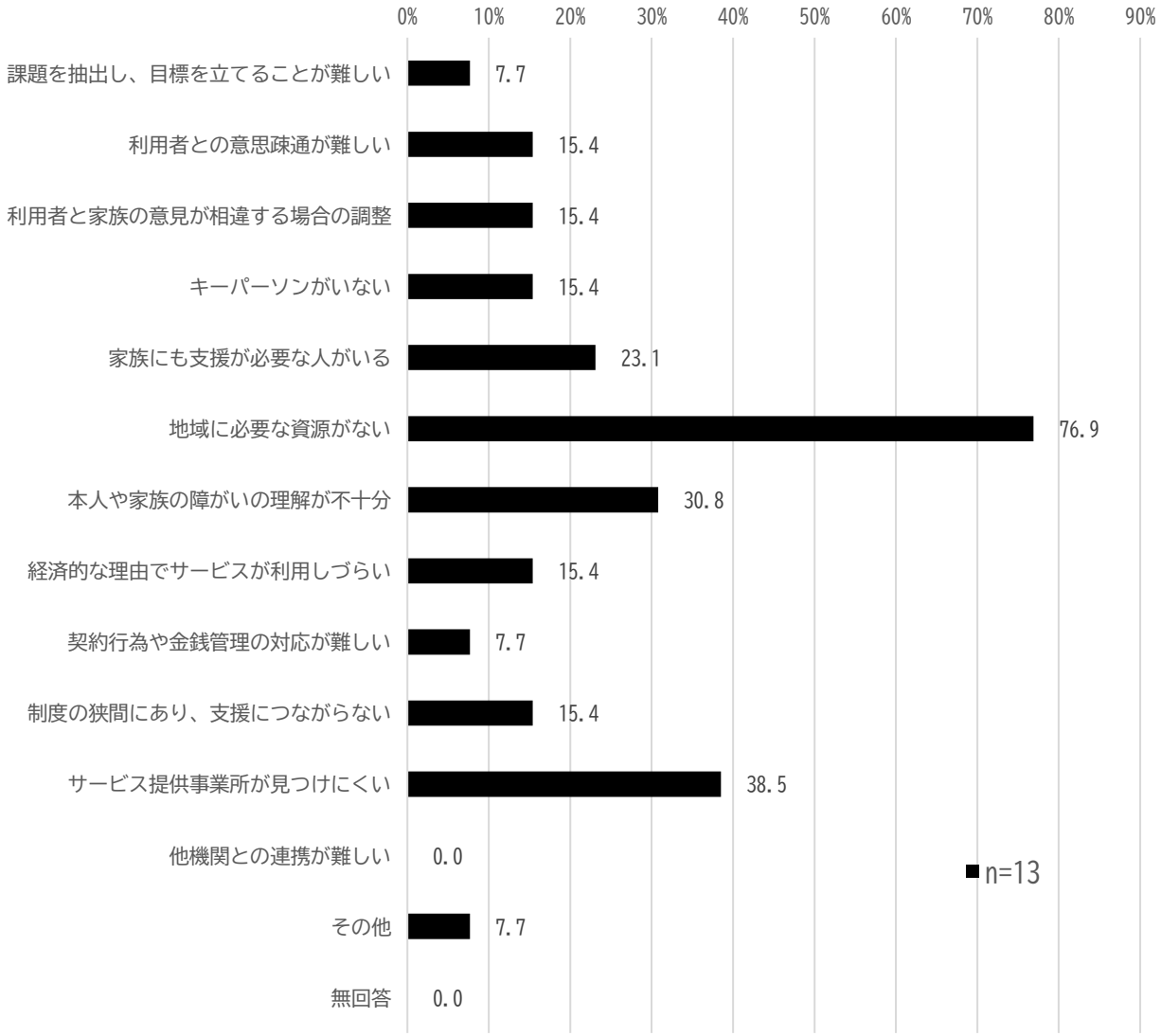
問６　業務を進めるうえで、負担感はどのようなことがありますか。

◆ 「困難ケースの対応に時間を要する」が 61.5%と最も高くなっており、次いで「支援の範囲が不明確である」「記録する時間が確保できない」が 53.8%となっています。



問７　支援における困りごとについて教えてください。

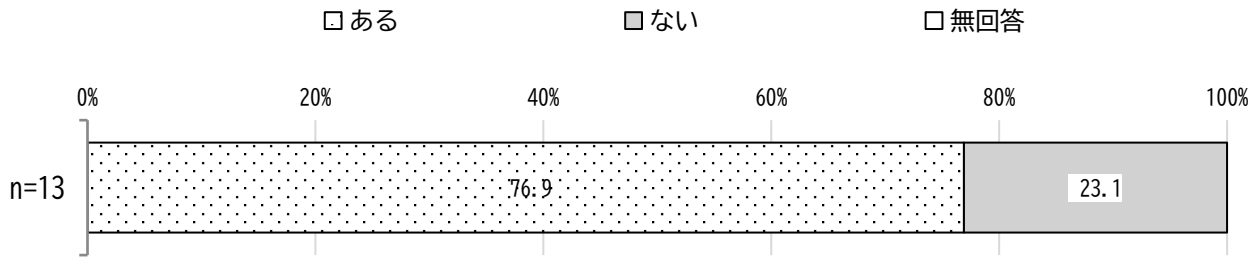
◆ 「地域に必要な資源がない」が 76.9%と最も高くなっており、次いで「サービス提供事業所が見つけにくい」が 38.5%、「本人や家族の障がいの理解が不十分」が 30.8%となっています。



主な「その他」の内容
業務に慣れていないため、持ち込まれた相談に対応できないと感じることがある

問８　相談の利用者の中に、「虐待及びその疑いがある人（セルフネグレクトを含む）」を見かけたことはありますか。

◆ 「ある」が 76.9%、「ない」が 23.1%となっています。



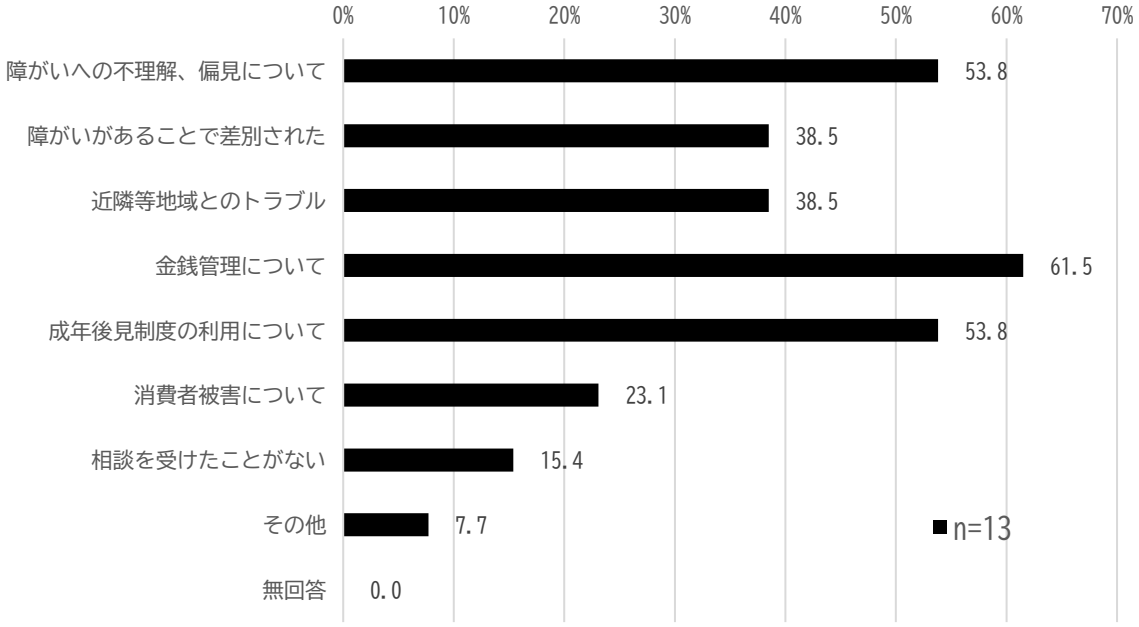
問９　その際、どのような対応をしたか教えてください。

◆ 「市役所の担当課に連絡した」が 80.0%と最も高くなっており、次いで「他事業所・機関も交えて対応した」が 40.0%となっています。



問 10　利用者や家族から以下のような差別解消や権利擁護に関する相談を受けたことがありますか？

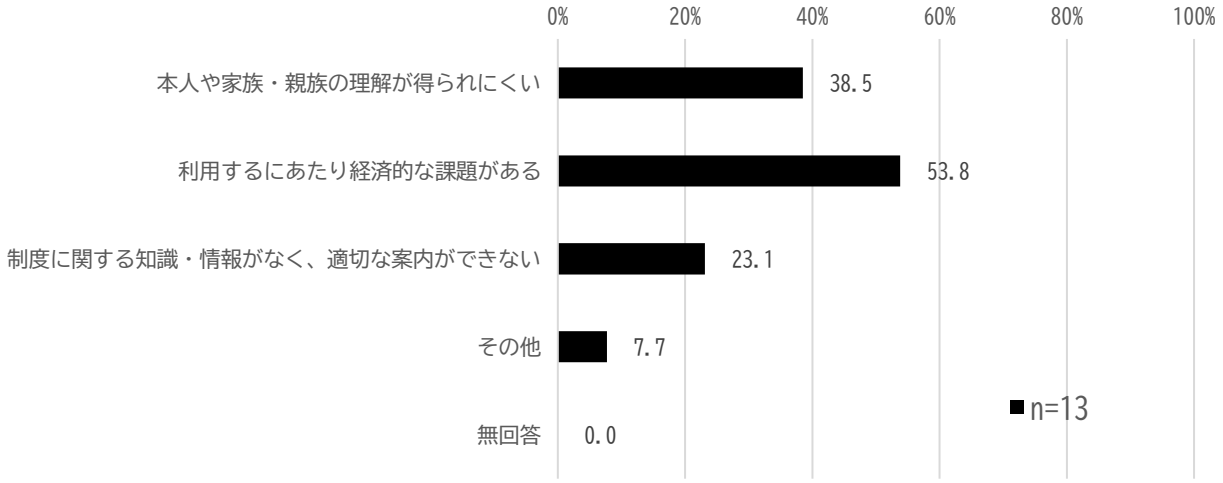
◆ 「金銭管理について」が 61.5%と最も高くなっており、次いで「障がいへの不理解、偏見について」「成年後見制度の利用について」が 53.8%となっています。



主な「その他」の内容
医療的ケア児や肢体不自由児の保育園の受け入れについて。

問 11　日常生活自立支援事業及び成年後見制度を案内をしていくうえで、どのような課題がありますか

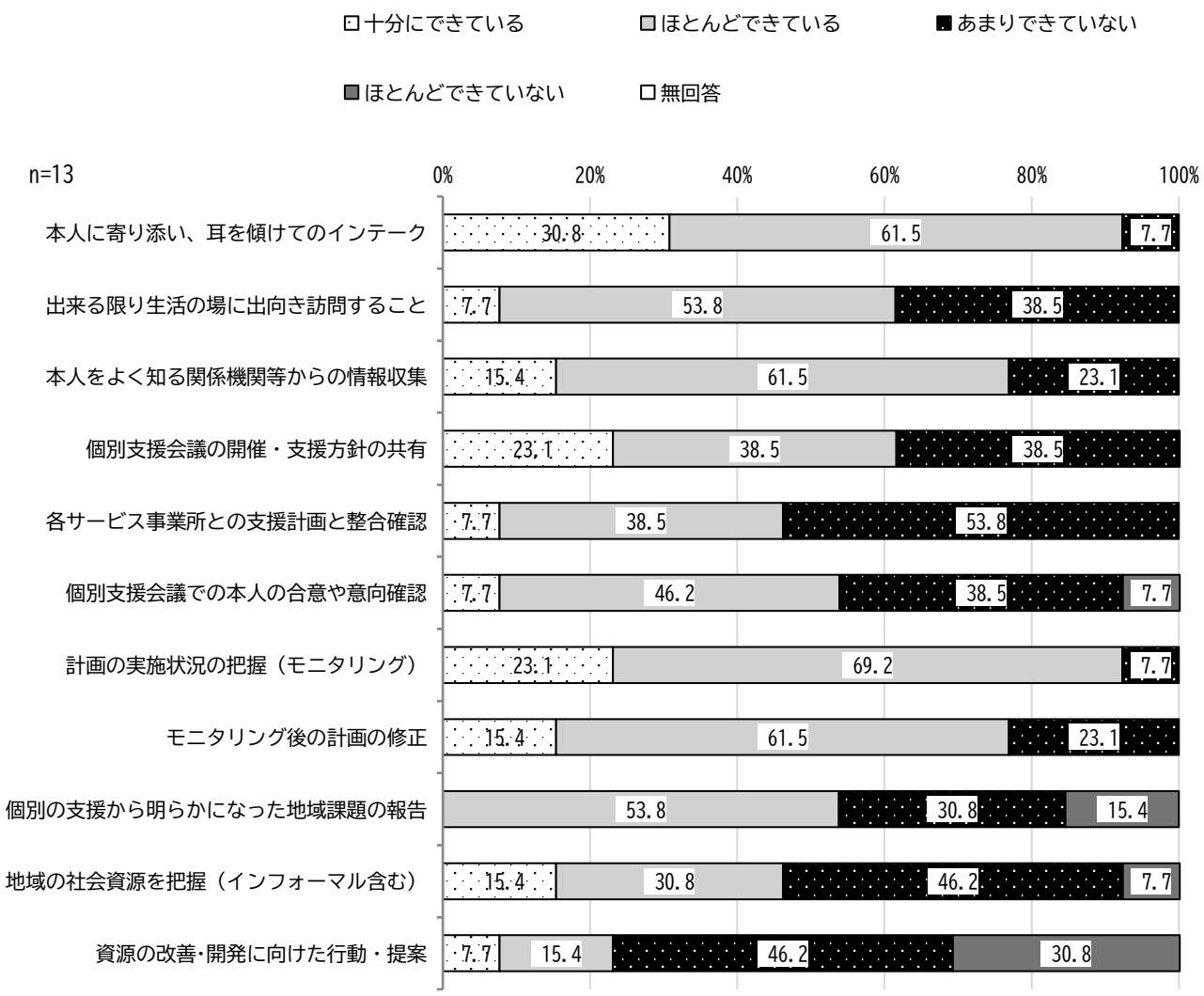
◆ 「利用するにあたり経済的な課題がある」が 53.8%と最も高くなっており、次いで「本人や家族・親族の理解が得られにくい」が 38.5%、「制度に関する知識・情報がなく、適切な案内ができない」が 23.1%となっています。



主な「その他」の内容
関係する事業所担当者の理解が得にくい

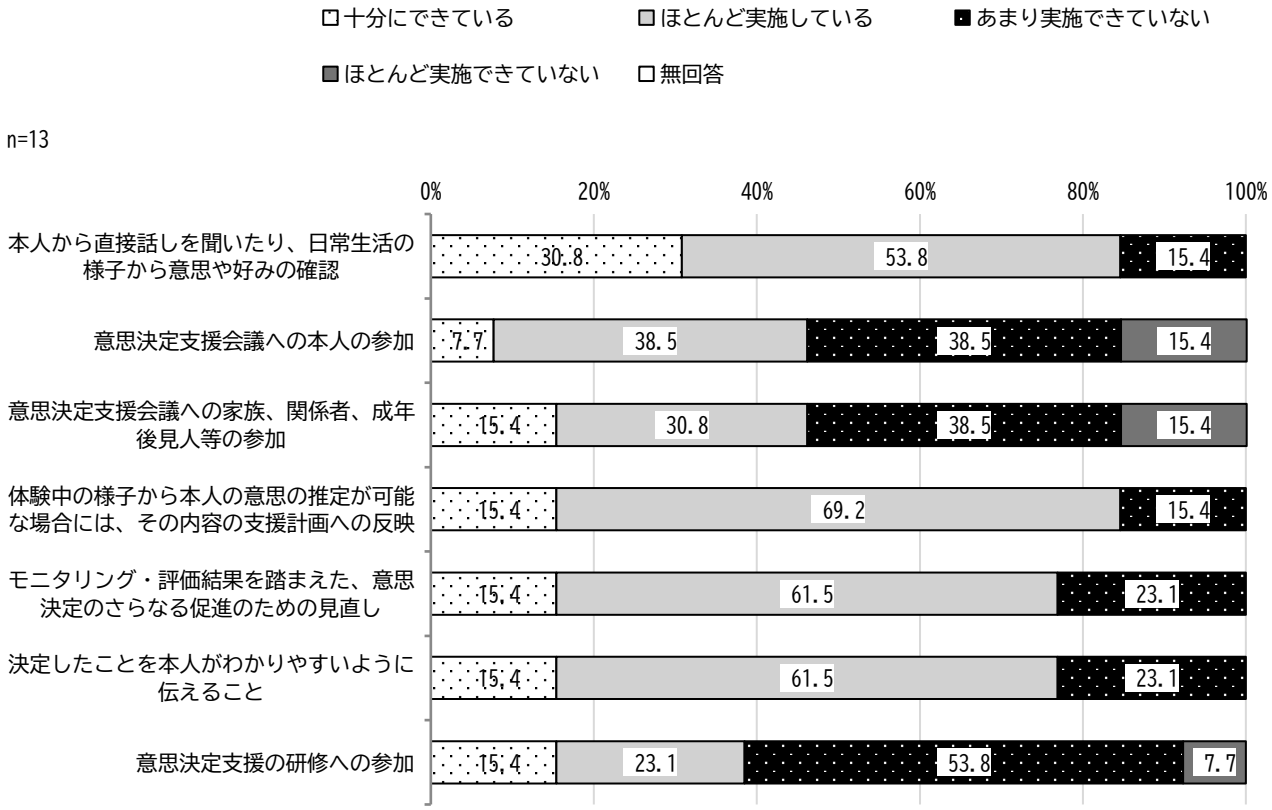
問 12　サービス等利用計画、障害児支援利用計画を作成について

◆「十分にできている」では、「本人に寄り添い、耳を傾けてのインテーク」が 30.8%と最も高く、次いで「個別支援会議の開催・支援方針の共有」「計画の実施状況の把握（モニタリング）」が 23.1%となっています。
◆「ほとんどできている」では「計画の実施状況の把握（モニタリング）」が 69.2%と最も高く、次いで「本人に寄り添い、耳を傾けてのインテーク」「本人をよく知る関係機関等からの情報収集」「モニタリング後の計画の修正」が 61.5%となっています。
◆「あまりできていない」では、「各サービス事業所との支援計画と整合確認」が 53.8%と最も高く、次いで「地域の社会資源を把握（インフォーマル含む）」「資源の改善･開発に向けた行動・提案」が 46.2%となっています。
◆「ほとんどできていない」では、「資源の改善･開発に向けた行動・提案」が 30.8%と最も高く、次いで「個別の支援から明らかになった地域課題の報告」が 15.4%となっています。



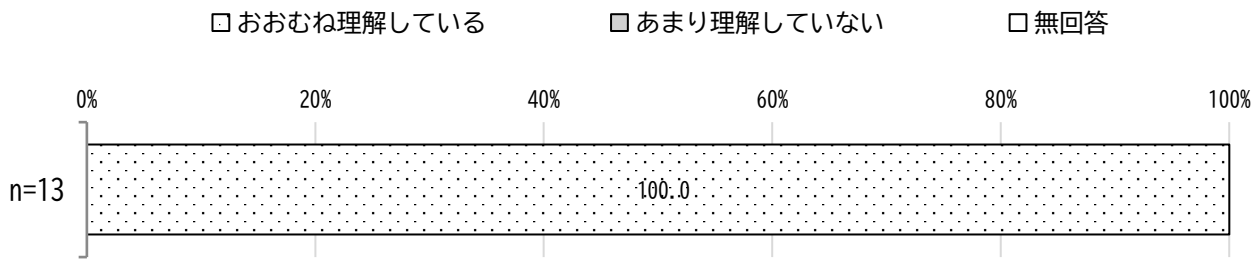
問 13　計画を立案する際の利用者の意思決定の対応状況について

◆「十分にできている」では、「本人から直接話しを聞いたり、日常生活の様子から意思や好みの確認」が 30.8%と最も高くなっています。
◆「ほとんど実施している」では、「体験中の様子から本人の意思の推定が可能な場合には、その内容の支援計画への反映」が 69.2%と最も高く、次いで「モニタリング・評価結果を踏まえた、意思決定のさらなる促進のための見直し」「決定したことを本人がわかりやすいように伝えること」が 61.5%となっています。
◆「あまり実施できていない」では、「意思決定支援の研修への参加」が 53.8%と最も高く、次いで「意思決定支援会議への本人の参加」「意思決定支援会議への家族、関係者、成年後見人等の参加」が 38.5%となっています。
◆「ほとんど実施できていない」では、「意思決定支援会議への本人の参加」「意思決定支援会議への家族、関係者、成年後見人等の参加」が 15.4%と最も高くなっています。



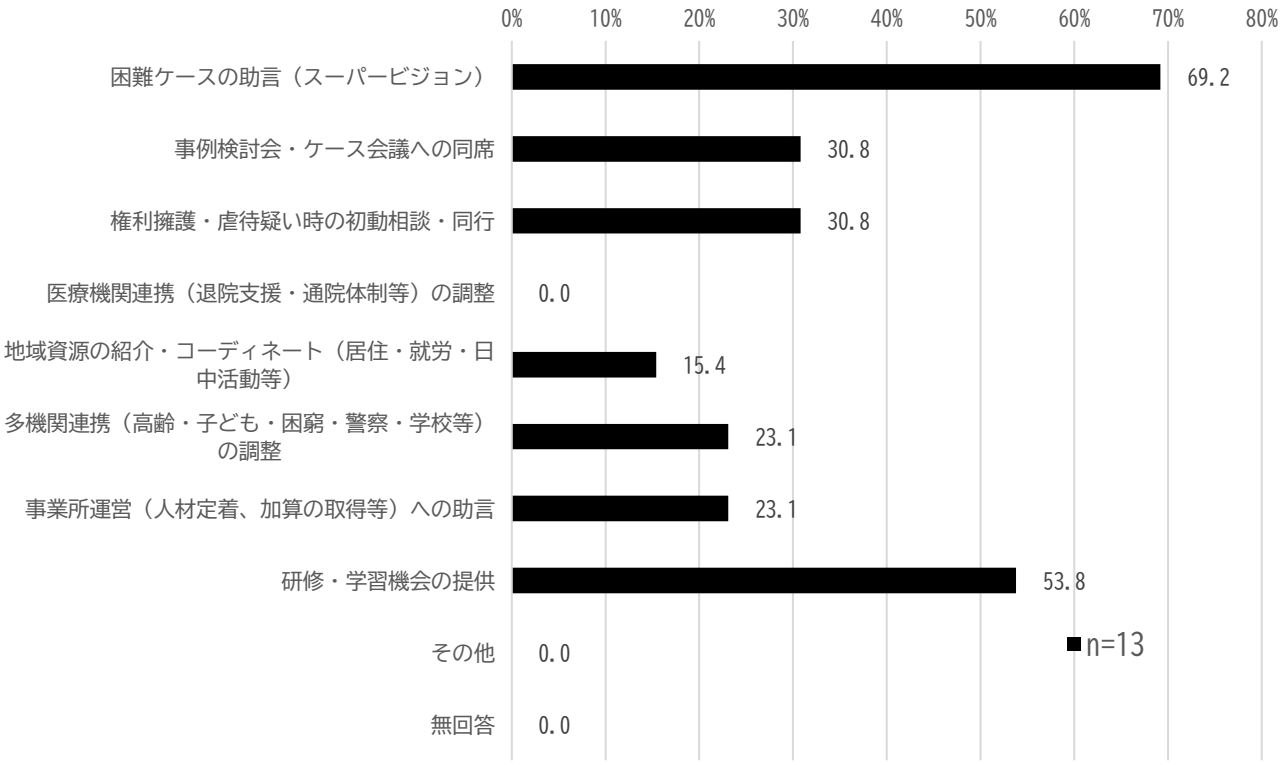
問 13ー1　指定特定相談支援事業所、委託相談事業所、基幹相談支援センターのそれぞれの役割について理解していますか。

◆ 「おおむね理解している」が 100%となっています。



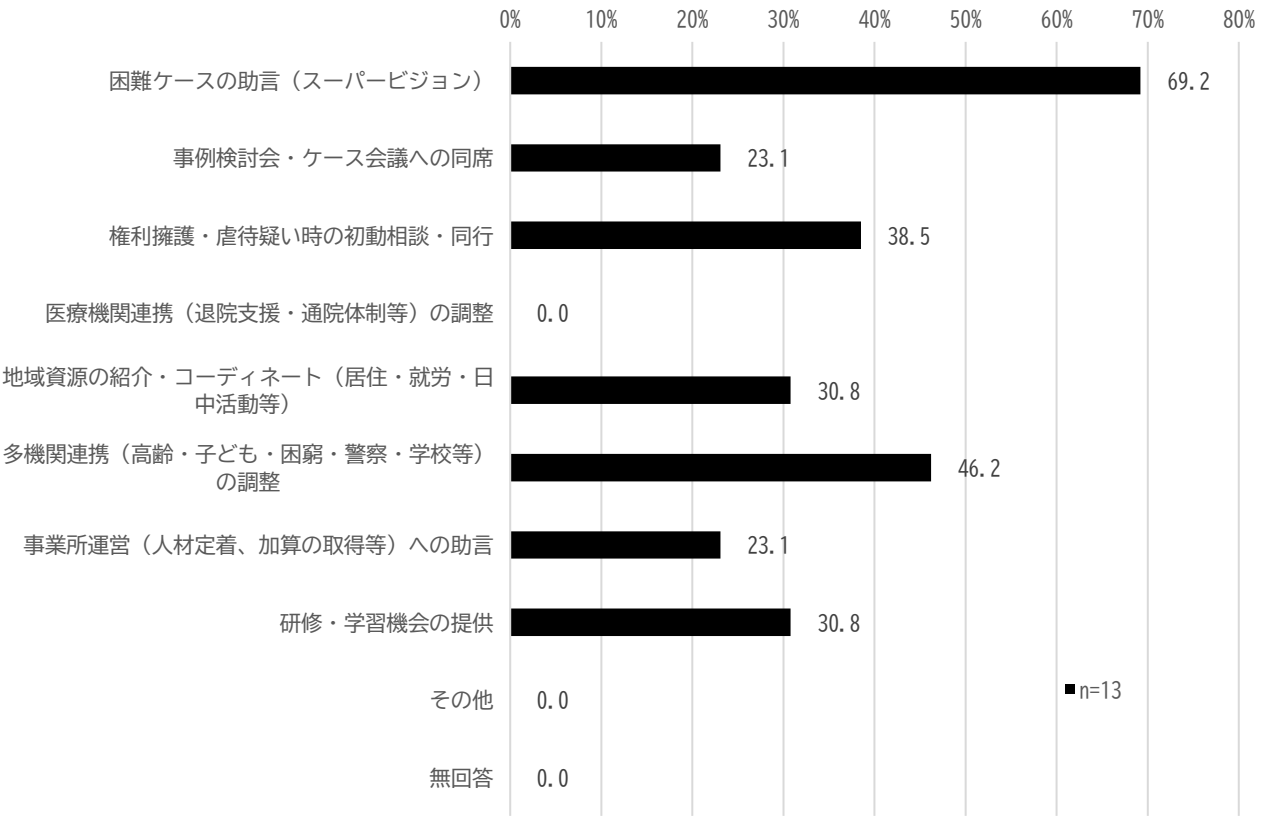
問 13ー2　基幹相談支援センターの支援で役立ったものは何ですか。

◆ 「困難ケースの助言（スーパービジョン）」が 69.2%と最も高くなっており、次いで「研修・学習機会の提供」が 53.8%、「事例検討会・ケース会議への同席」「権利擁護・虐待疑い時の初動相談・同行」が 30.8%となっています。



問 13ー3　基幹相談支援センターの支援で今後、期待する支援はありますか。

◆ 「困難ケースの助言（スーパービジョン）」が 69.2%と最も高くなっており、次いで「多機関連携（高齢・子ども・困窮・警察・学校等）の調整」が 46.2%、「権利擁護・虐待疑い時の初動相談・同行」が 38.5%となっています。



問 14　本市の相談支援体制の質の向上や地域課題の解決を図るために、どのような取組や資源が必要と考えますか

主な「その他」の内容
地域課題の解決を、福祉だけで取り組むには限界もあるため、企業や学校など、福祉を超えた領域との連携が必要
わがまちの相談員は、ほぼ全ての相談員が、まだ経験則や知識、技術の面で、学びの途上にあると考える。通常の部会ではない場での、事例検討や個別のスーパービジョンにより、相談支援そのものの熟練者からの指導助言育成、研修の場の必要性と、障がい特性や制度自体の積極的な外部専門研修が必要だ。
人材確保、人材育成
インフォーマルな資源と連携ができる環境・資源として、予防的な支援につながる居場所や社会参加ができる場・医療的ケアや重心、強度行動障害、支援度が高い当事者を抱える家族への支援の充実
相談支援事業への人材確保と定着。計画作成に追われ、ソーシャルアクションが行えていないと思う。仕事がマイノリティで理解されづらい。
知識、経験不足の為何が必要かまだ分からない。ただ、感じる事としては相談員1人1人の負担が大きく、地域課題に取り組む余裕や相談支援の質の維持・向上が薄いように見える。
市の現状が見えていないため分からない

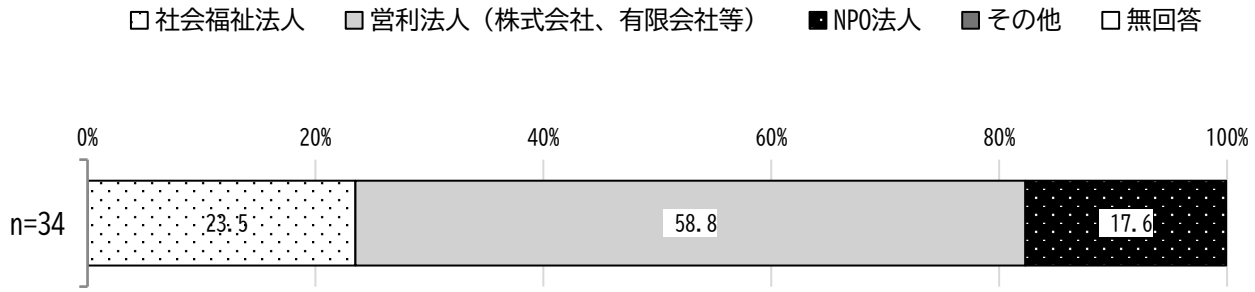
３．障害福祉サービス提供事業所への調査

問１　基礎情報について

回答法人数（回答事業所数）	23 法人（34 事業所）

問２　事業所の運営形態について教えてください。（○は１つ）

◆ 「営利法人（株式会社、有限会社等）」が 55.9%で最も高く、次いで「社会福祉法人」が 23.5%、「NPO 法人」が 17.6%となっています。



問３　事業所の現在のサービス提供状況及び今後の事業展望を教えてください。

◆「訪問系サービス」のサービス提供状況は居宅介護（ホームヘルプ）に偏っており、全体的に今後の事業展望は現状維持となっています。
◆「通所系サービス」では、生活介護、就労継続支援（Ｂ型）、児童発達支援、放課後等デイサービスで、今後の事業展望は拡大傾向となっています。
◆「入所系サービス」の共同生活援助(グループホーム)では、今後の事業展望は拡大傾向となっています。
◆「地域生活支援事業」では、地域活動支援センター事業、日中一時支援事業で、今後の事業展望は拡大傾向となっています。
◆「相談支援事業」では、指定特定相談支援事業で、今後の事業展望は拡大傾向となっています。

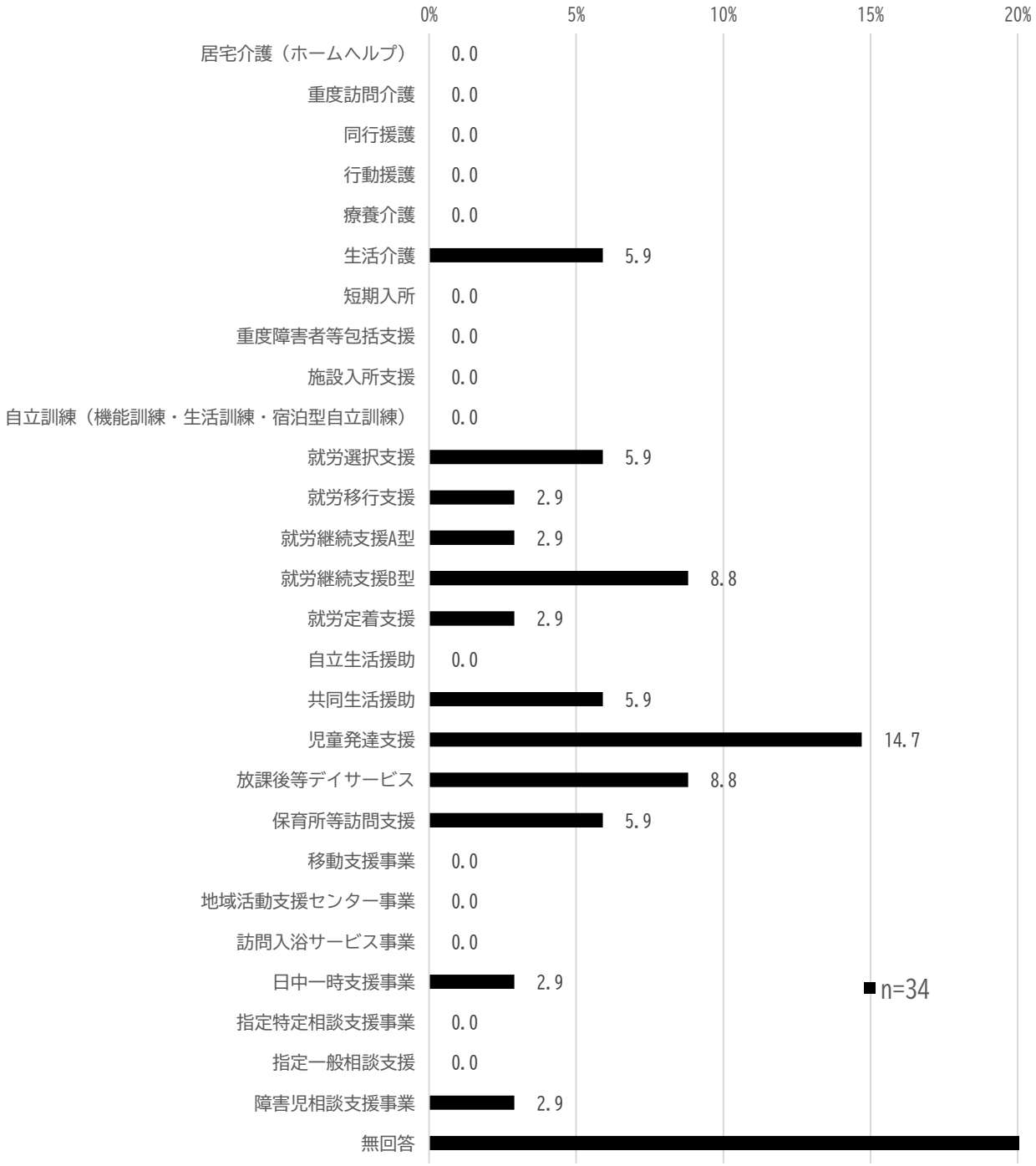
事業名		現在のサービス提供状況			今後の事業展望
		定員数	利用者数	うち、長久手市民	
１　訪問系サービス	①居宅介護（ホームヘルプ）		19 人	18 人	現状維持
			12 人	１人	拡大
			26 人	26 人	現状維持
			13 人	13 人	現状維持
	②重度訪問介護		２人	０人	現状維持
			０人	０人	現状維持
			０人	０人	現状維持
			０人	０人	現状維持
	③同行援護		４人	３人	現状維持
			０人	０人	現状維持
			１人	１人	現状維持
	④行動援護		０人	０人	現状維持

事業名		現在のサービス提供状況			今後の事業展望
		定員数	利用者数	うち、長久手市民	
2 通所系サービス	⑤生活介護	30 人	23 人	３人	拡大
		20 人	27 人	24 人	拡大
	⑥就労移行支援				
	⑦就労継続支援（Ａ型）	20 人	19 人	11 人	現状維持
	⑧就労継続支援（Ｂ型）	20 人	48 人	35 人	現状維持
		20 人	24 人	７人	現状維持
		30 人	20 人	０人	拡大
		20 人	18 人	14 人	拡大
	⑨就労選択支援				
	⑩短期入所	２人	14 人	６人	現状維持
	⑪児童発達支援	３人	15 人	15 人	拡大
		４人	16 人	14 人	拡大
		５人	０人	０人	現状維持
		10 人	13 人	12 人	拡大
		４人	19 人	15 人	拡大
	⑫放課後等デイサービス	15 人	65 人	50 人	現状維持
		10 人	55 人	50 人	現状維持
		20 人	60 人	45 人	現状維持
		10 人	11 人	８人	拡大
		７人	30 人	28 人	拡大
		６人	14 人	６人	拡大
		５人	20 人	20 人	現状維持
		10 人	30 人	30 人	拡大
		10 人	14 人	12 人	拡大
		10 人	８人	８人	現状維持
		６人	56 人	46 人	縮小
	⑬保育所等訪問支援				

事業名		現在のサービス提供状況			今後の事業展望
		定員数	利用者数	うち、長久手市民	
３　入所系サービス	⑭共同生活援助(グループホーム)	５人	５人	３人	拡大
		８人	７人	３人	現状維持
		20 人	20 人	４人	現状維持
		18 人	16 人	13 人	拡大
		15 人	15 人	13 人	拡大
４　地域生活支援事業	⑮移動支援事業		８人	６人	現状維持
			11 人	10 人	現状維持
	⑯地域活動支援センター事業	20 人	12 人	12 人	拡大
	⑰訪問入浴サービス事業				
	⑱日中一時支援事業	15 人	25 人	23 人	拡大
		10 人	16 人	９人	現状維持
５　相談支援事業	⑲指定特定相談支援事業		54 人	45 人	拡大
			134 人	５人	現状維持
			100 人	93 人	拡大
			1 人	０人	現状維持
	⑳指定一般相談支援		０人	０人	現状維持
	㉑障害児相談支援事業		21 人	19 人	拡大
			240 人	２人	現状維持
			104 人	４人	現状維持
			25 人	10 人	拡大
			142 人	123 人	現状維持

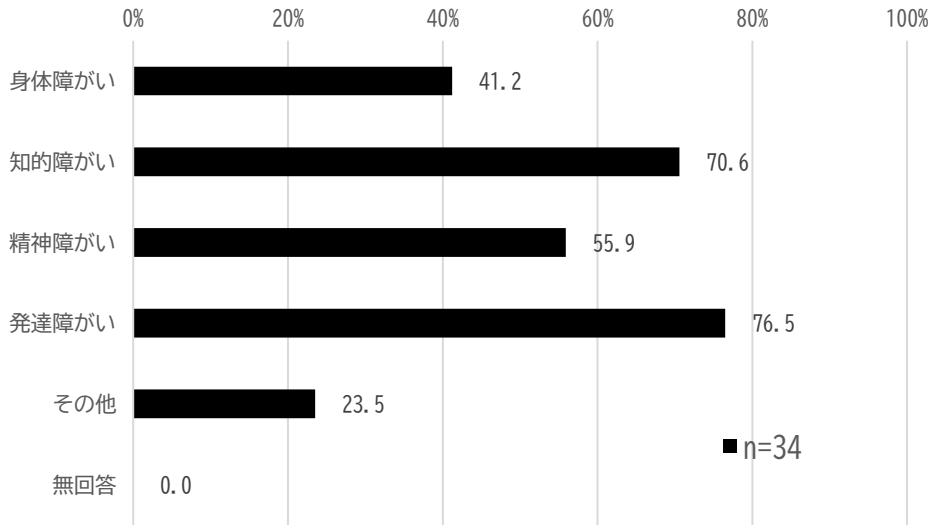
問４　今後、新規参入予定のサービスがあれば教えてください。（○はいくつでも）

◆ 「児童発達支援」が 14.7%で最も高く、次いで「就労継続支援 B 型」「放課後等デイサービス」が 8.8%となっています。



問５　提供しているサービスで利用者の主な障がい種別を教えてください。（○はいくつでも）

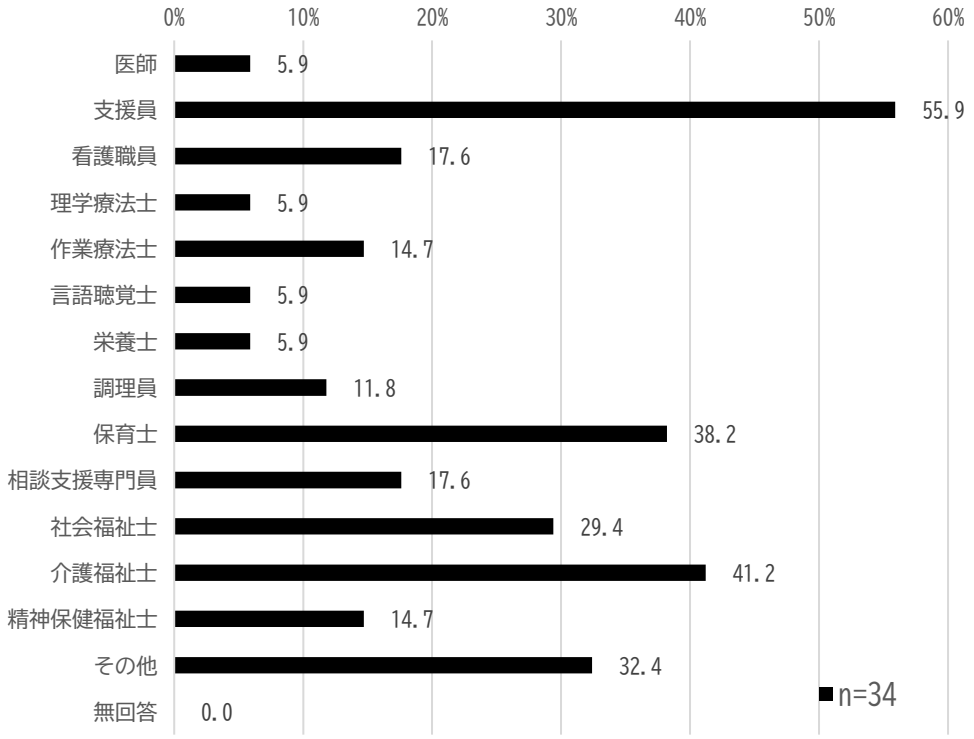
◆ 「発達障がい」が 76.5%で最も高く、次いで「知的障がい」が 70.6%、「精神障がい」が 55.9%となっています。



主な「その他」の内容
難病者（指定難病者）[6件]
若年性認知症
不登校児
高次機能障害
医療的ケア

問６　事業所において配置している職種を選択してください。（○はいくつでも）

◆ 「支援員」が 55.9%で最も高く、次いで「介護福祉士」が 41.2%、「保育士」が 38.2%となっています。



□ 配置している職種の人数

職種	人数（うち正職数）	職種	人数（うち正職数）
医師	２人（０人）	調理員	６人（０人）
支援員	162 人（57 人）	保育士	38 人（17 人）
看護職員	11 人（１人）	相談支援専門員	14 人（12 人）
理学療法士	３人（１人）	社会福祉士	17 人（14 人）
作業療法士	８人（３人）	介護福祉士	75 人（24 人）
言語聴覚士	３人（３人）	精神保健福祉士	６人（５人）
栄養士	２人（１人）	その他	65 人（23 人）

主な「その他」の内容
介護職員初任者研修者[5 件]
介護職員実務者研修修了者[3 件]
公認心理士[2 件]
臨床心理士
正看護師

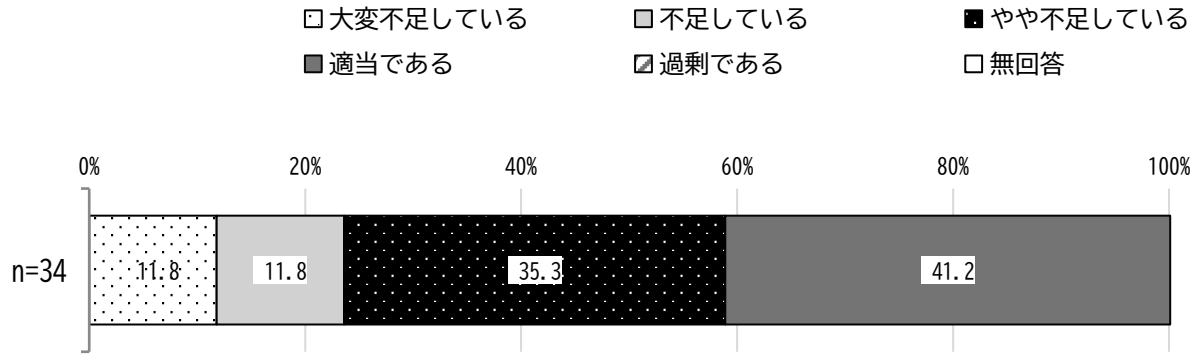
問７　通算経験年数別の職員数を記入してください。

◆ 428 人中、「5 年～10 年未満」が 101 人で最も多く、次いで「10 年以上」が 97 人、「1 年～3 年未満」が 84 人となっています。一方で、「6 ヶ月～1 年未満」が 43 人で最も少なくなっています。

通算経験年数	職員数
6 ヶ月未満	45 人
6 ヶ月～1 年未満	43 人
1 年～3 年未満	84 人
3 年～5 年未満	58 人
5 年～10 年未満	101 人
10 年以上	97 人
合計	428 人

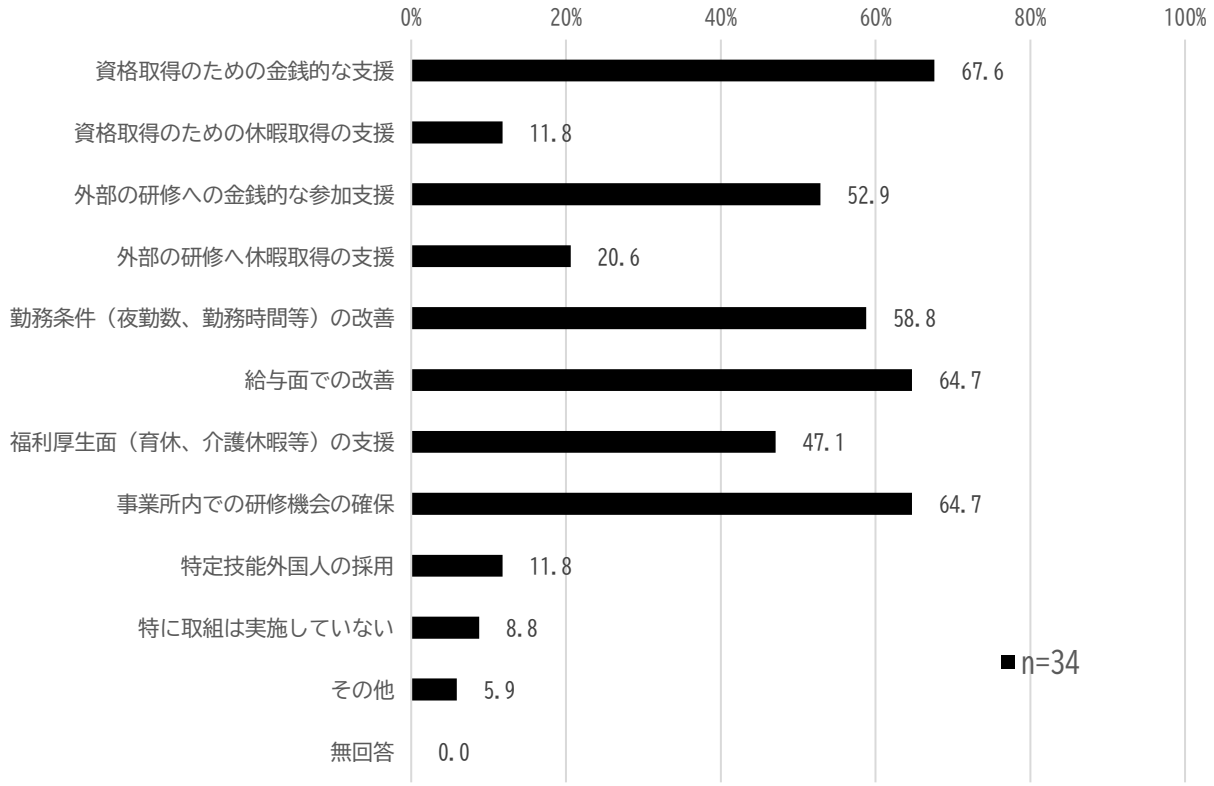
問８　現在の職員の過不足について教えてください。（○は１つ）

◆ 「適当である」が 41.2%で最も高く、次いで「やや不足している」が 35.3%、「大変不足している」「不足している」が 11.8%となっています。



問９　人材確保・職員定着のために実施している取組を教えてください。
（〇はいくつでも）

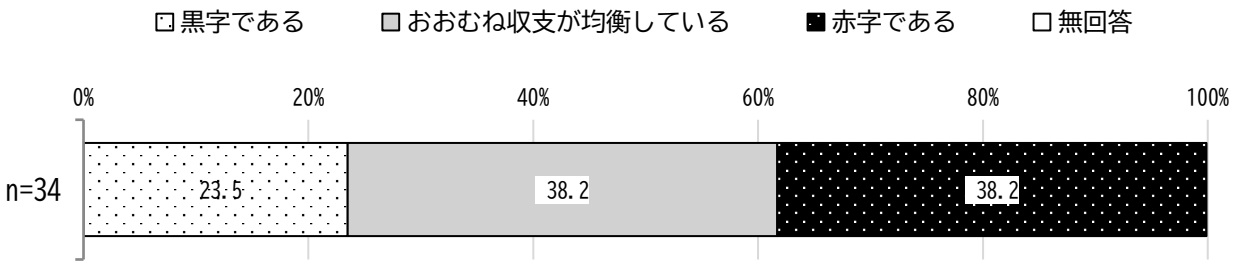
◆「資格取得のための金銭的な支援」が 67.6%で最も高く、次いで「給与面での改善」「事業所内での研修機会の確保」が 64.7%となっています。



主な「その他」の内容
積極的な採用広報(自社採用サイトの設置、採用コンサルタント契約、採用マネジャー担当、ｗｅｂ求人サイト活用等)
夜間職員の加配、人でのないところを埋める隙間バイトの活用、専門職(訪問診療、訪問看護、居宅介護、後見人等)の外部派遣依頼をし課題解決を迅速に行っている、チャットアプリの活用による即時の情報共有

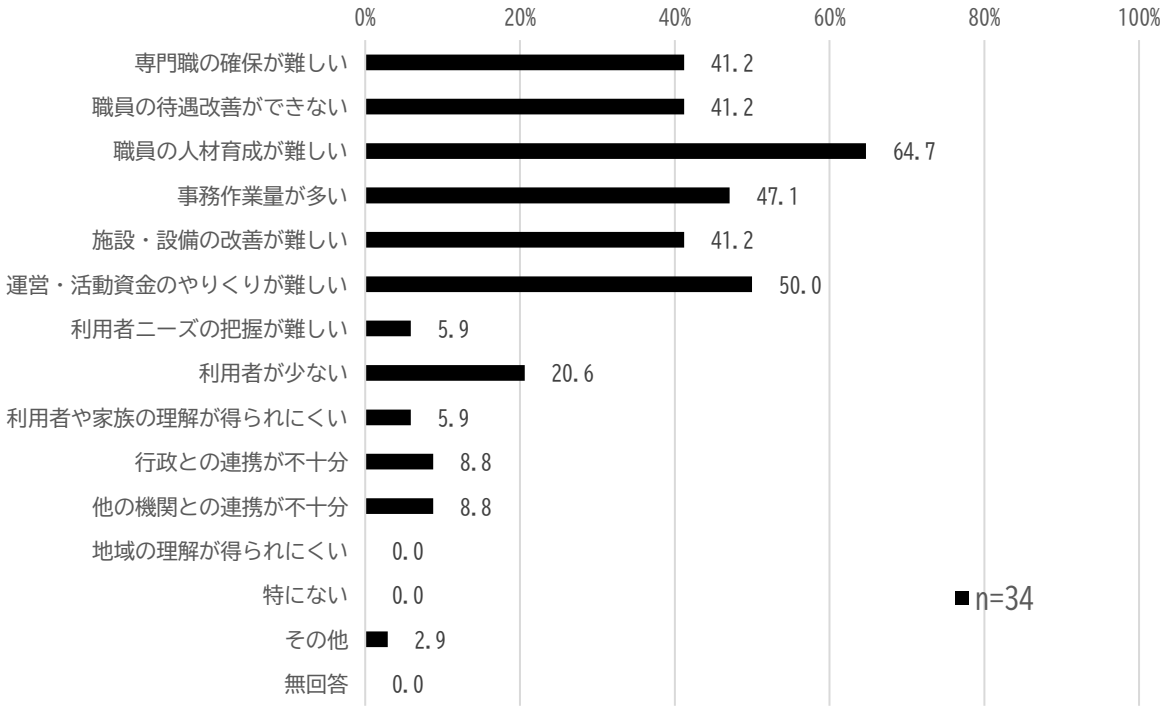
問 10　事業所の年間収支状況について教えてください。（○は１つ）

◆ 「おおむね収支が均衡している」「赤字である」が 38.2%、「黒字である」が 23.5%となっています。



問 11　運営上の不安を教えてください。（○はいくつでも）

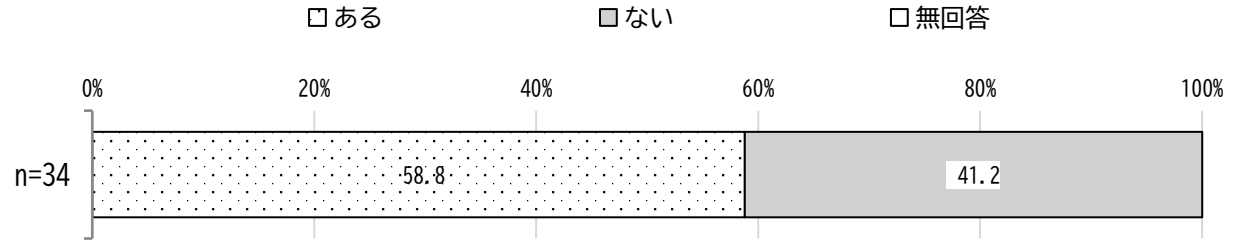
◆ 「職員の人材育成が難しい」が 64.7%で最も高く、次いで「運営・活動資金のやりくりが難しい」が 50.0%、「事務作業量が多い」が 47.1%となっています。



主な「その他」の内容
ここ 5 年間で、求人が極端に減っており、ニーズや必要性はあるものの人材不足が顕著になっている。質の高い人材の年齢層が上がっている。

問 12　今までに利用者からの依頼に対して、受入れ（サービス提供）ができなかったことはありますか。（○は１つ）

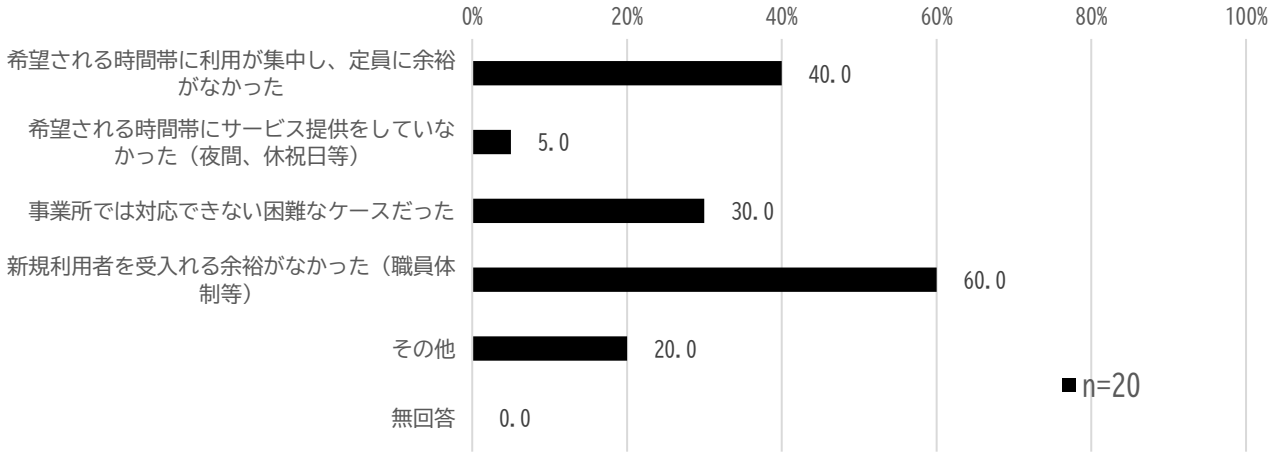
◆ 「ある」が 58.8%、「ない」が 41.2%となっています。



問 12 で「ある」と回答された方にお聞きます。

問 13　理由を下記の選択肢から選んで記入してください。（○はいくつでも）

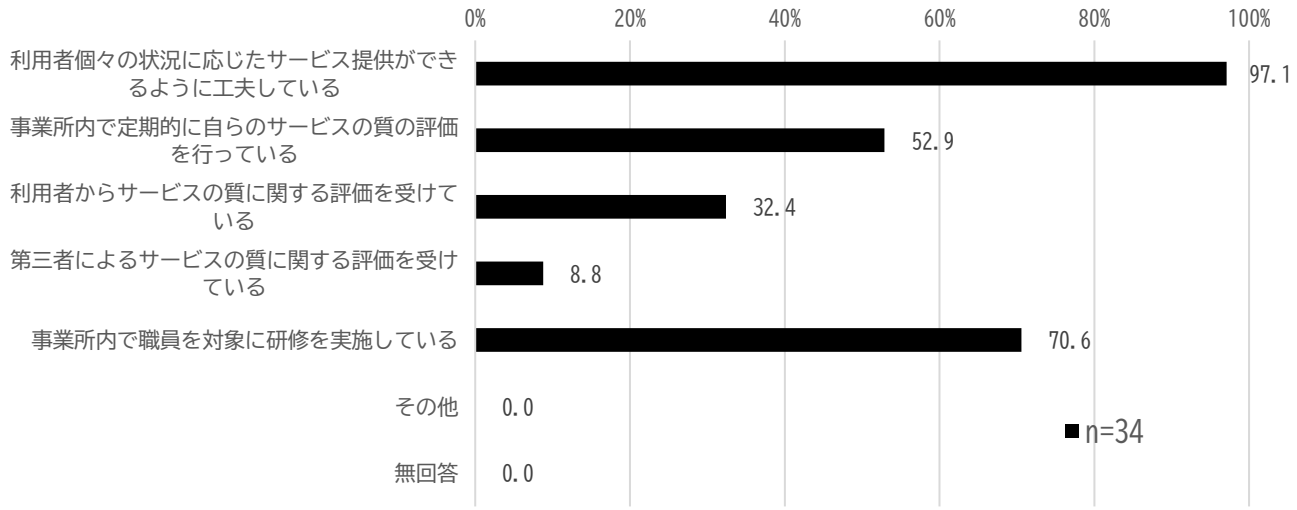
◆ 「新規利用者を受入れる余裕がなかった（職員体制等）」が 60.0%で最も高く、次いで「希望される時間帯に利用が集中し、定員に余裕がなかった」が 40.0%、「事業所では対応できない困難なケースだった」が 30.0%となっています。



主な「その他」の内容
送迎のコース、時間帯が重なると難しいため。一旦利用したが、道路に飛び出してしまうことがあり、様々措置を講じたが対応できず、ご家族や相談支援と話合い利用中とさせていただいた。特に強度行動障害に類する利用者さんの利用ニーズが高く、人員配置上、個別対応ができない場合にそのような結果になる場合がある。
圧倒的なヘルパー不足による。
希望送迎範囲が対応外であった
送迎上、ご自宅までの距離や添乗員確保の課題など

問 14　サービス向上のために取り組んでいることを教えてください。（○はいくつでも）

◆ 「利用者個々の状況に応じたサービス提供ができるように工夫している」が 97.1%で最も高く、次いで「事業所内で職員を対象に研修を実施している」が 70.6%、「事業所内で定期的に自らのサービスの質の評価を行っている」が 52.9%となっています。



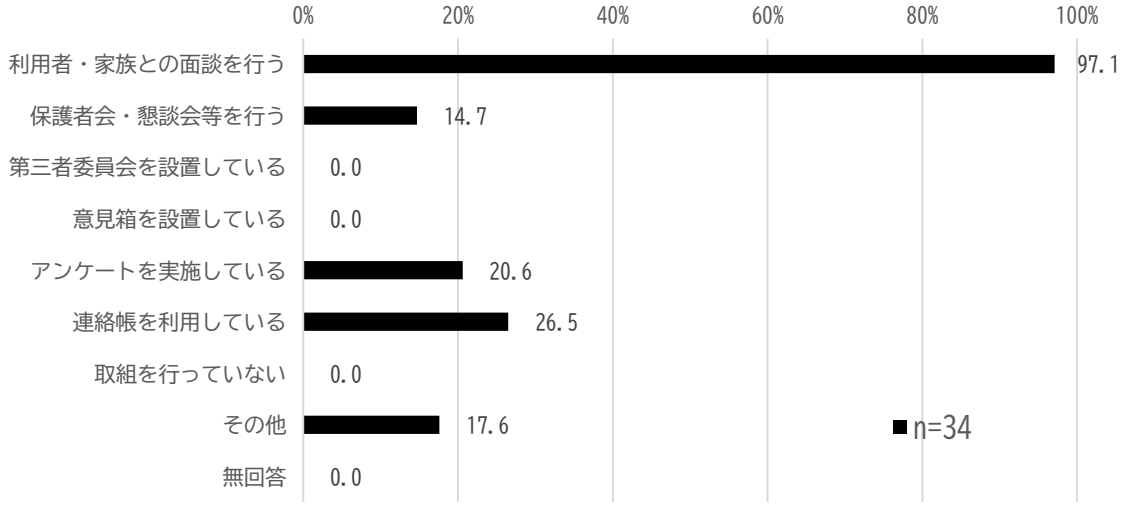
問 15　参加を希望する研修があれば教えてください。（自由記述）

参加を希望する研修	希望する理由
就労支援研修、精神保健福祉実務者会議、精神支援に関する研修、相談支援に関する研修など	基本的に、相談支援と一体的に提供される地域活動支援センター事業が目指すべきところである。精神障害地域生活支援センターを前身とするならば、アウトリーチ機能とともに、ソーシャルスキルトレーニングなど職業準備性や社会性の獲得や仲間作り・ピアサポートなど自立支援や当事者活動を目指した取り組みが地域活動支援センターの役割である。そうした意味で開設後まもなく、スキルアップは常に課題である。
現在の機能強化に係る、月一回の相談支援部会、アップデート会議、精神保健福祉実務者会議など	現在参加している相談支援の研修育成体制、顔の見える関係は非常に良い。質的向上が図れる専門研修を、相談員個々から意見徴収をして、地域で積極的に育成が図れると良い。
高齢者に関する研修	私どもの主が高齢者対象の訪問介護事業であるため。

参加を希望する研修	希望する理由
人材確保と市としての支援策について	現在、慢性的にヘルパー不足で、サービス提供を優先するため時間的に余裕が常にない。他のヘルパー事業所も同じ状況。国でも、介護福祉士試験の特例策、介護福祉士試験の細分化、ヘルパーへの求職が高まるような動画作成、外国人雇用の緩和、処遇改善などが実施されている一方で、令和 6 年度には報酬改定がマイナスとされた。その結果、さらに求人が減ったと業界では取りざたされている(廃業したヘルパー事業所も激増した)。また、相談員自身が、ヘルパーの意義や目的、役割を理解していない現状があり、お手伝い感覚や便利屋のようにとらえている節があり、相談員やケアマネジャーに向けたヘルパーの専門職種としての理解の普及・啓発が必要と考えている(多職種の理解がないまま、プランしている相談員の質的課題でもある)。ヘルパー事業所同士のコミュニケーションや育成のパブリックな場が必要。
他のグループホームとの交流研修会や地域に向けた理解促進の市民、関係者向けの発表会等	ー
就労支援研修	専門的な就労支援を学べる研修への参加。
職員が参加できる時間帯の研修	現状がそれでないため
虐待防止研修	障害関係の未経験者が多く、知識不足
構造化の支援など、自閉症や強度行動障害に対する専門的研修、医療的ケア支援研修	自傷他害や特に他害のある利用者さんの集団的ケアで工夫を凝らしているもののケアが難しい場面がある。医療ケアも同様。関われるスタッフとそうでないスタッフがいるため、より質の高い研修への参加が望ましいと思っている。
他のグループホームとの交流研修会	ー

問 16　利用者の苦情解決のためにどのような取組を行っていますか（○はいくつでも）

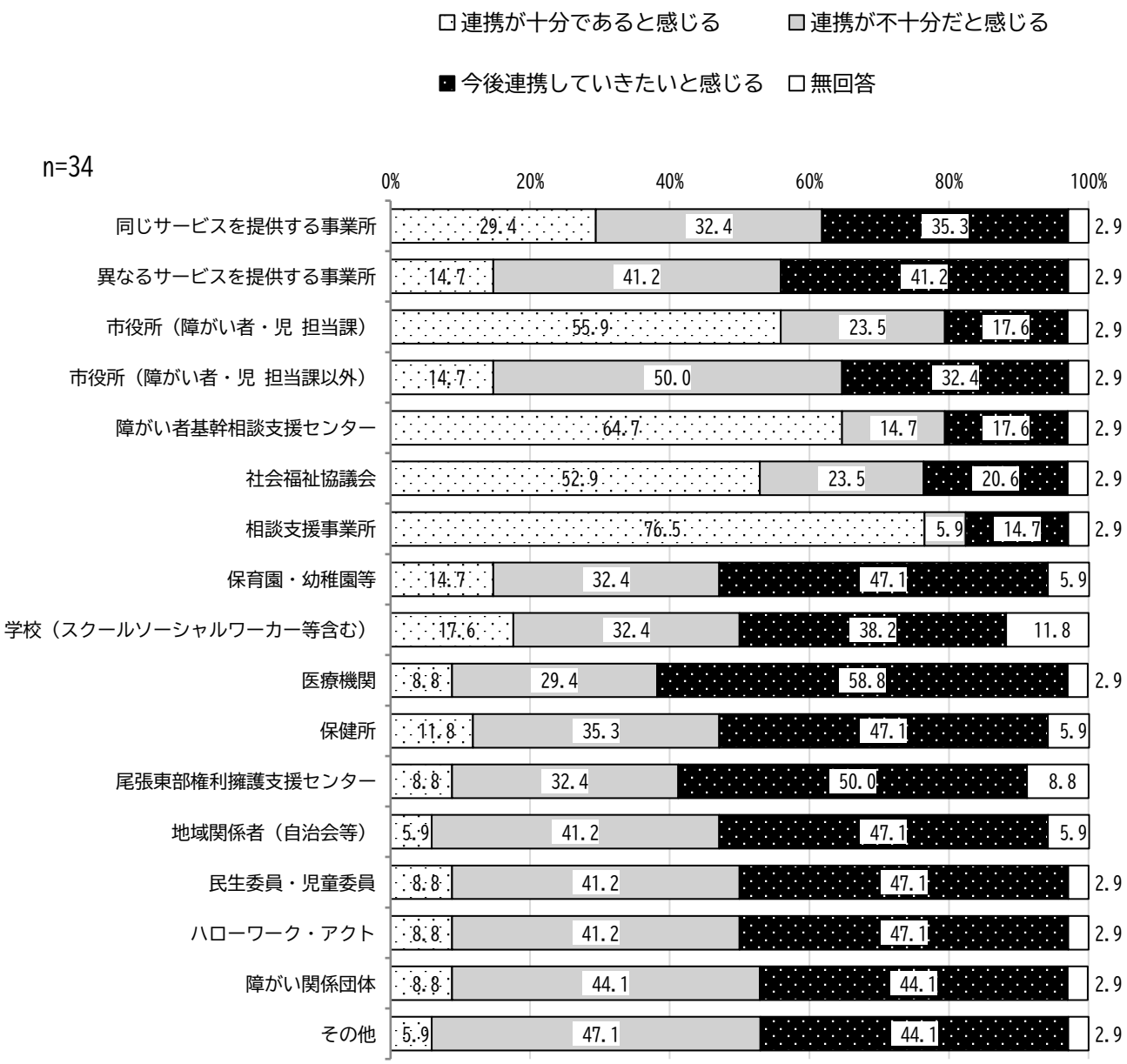
◆ 「利用者・家族との面談を行う」が 97.1%で最も高く、次いで「連絡帳を利用している」が 26.5%、「アンケートを実施している」が 20.6%となっています。



主な「その他」の内容
LINE やメール等での情報共有[2 件]
送迎時にコミュニケーションを取っている
各利用者対象にモニタリングを行っている。
他機関と連携し、ケア会議を開催している等
利用者家族とほぼ頻繁に、チャットアプリを利用して共有している。ただし、身寄りのない方やコミュニケーション自体が困難なご家庭もあり。

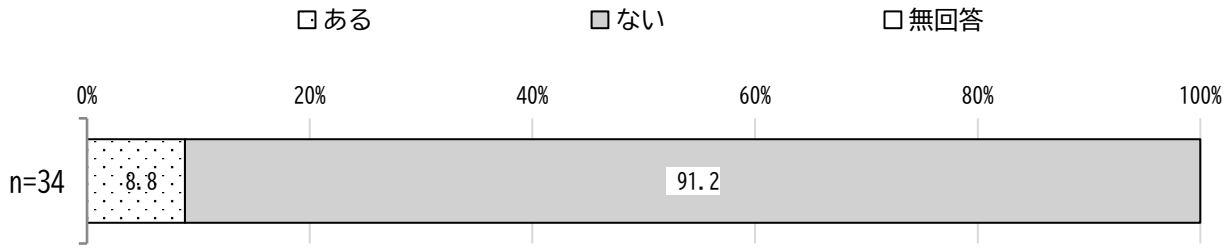
問 17　事業所と各関係機関との連携状況について、あてはまるものを以下から選択してください。

◆「連携が十分であると感じるもの」では、「相談支援事業所」が 76.5%で最も高く、次いで「障がい者基幹相談支援センター」が 64.7%となっています。
◆「連携が不十分だと感じるもの」では、市役所（障がい者・児 担当課以外）」が 50.0%で最も高く、次いで「障がい関係団体」が 44.1%となっています。
◆「今後連携していきたいと感じるもの」では、「医療機関」が 58.8%で最も高く、次いで「尾張東部権利擁護支援センター」が 50.0%となっています。



□ 上記の設問にある【連携先以外】で連携が十分・連携が不十分・今後連携していきたいのいずれかを感じる連携先はありますか。

◆ 「ない」が91.2%、「ある」が8.8%となっています。



連携が十分であると感じる連携先
弁護士・司法書士・社労士などの士業
特別支援学校高等部

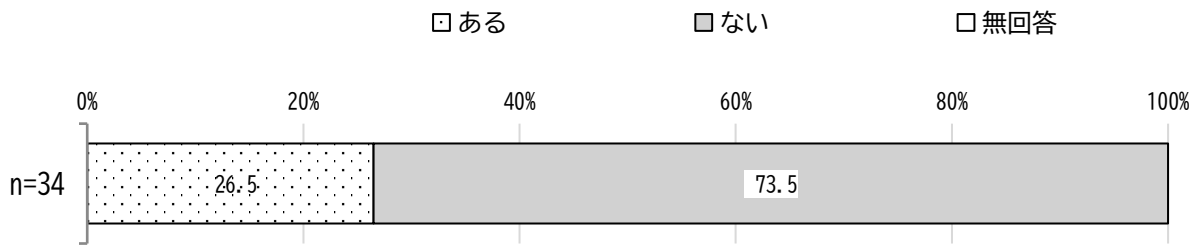
連携が不十分であると感じる連携先
住宅型有料老人ホーム

今後連携していきたいと感じる連携先
一般企業

問 18　重症心身障がい児者・医療的ケア児者の受入れについて記入してください。

□ 重症心身障がい児・者の受入れ有無

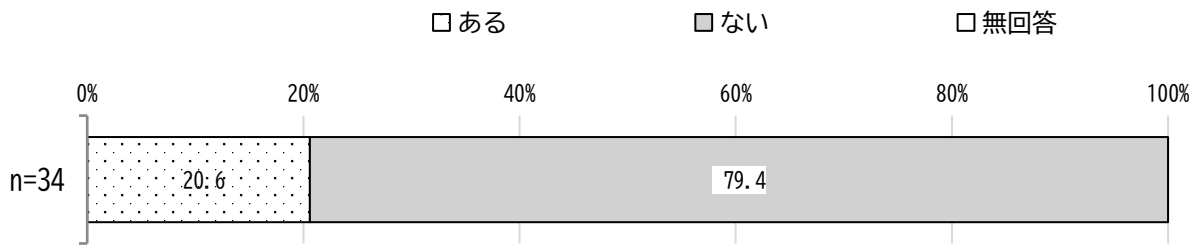
◆ 「ない」が 73.5%、「ある」が 26.5%となっています。



現在の受け入れ人数	令和８年度以降 受入予定人数
ー	０人
４人	０人
８人	２人
０人	０人
ー	10 人
２人	２人
０人	０人
０人	２人
４人	２人
４人	４人
１人	１人

□ 医療的ケア児・者の受入れ有無

◆ 「ない」が 79.4%、「ある」が 20.6%となっています。

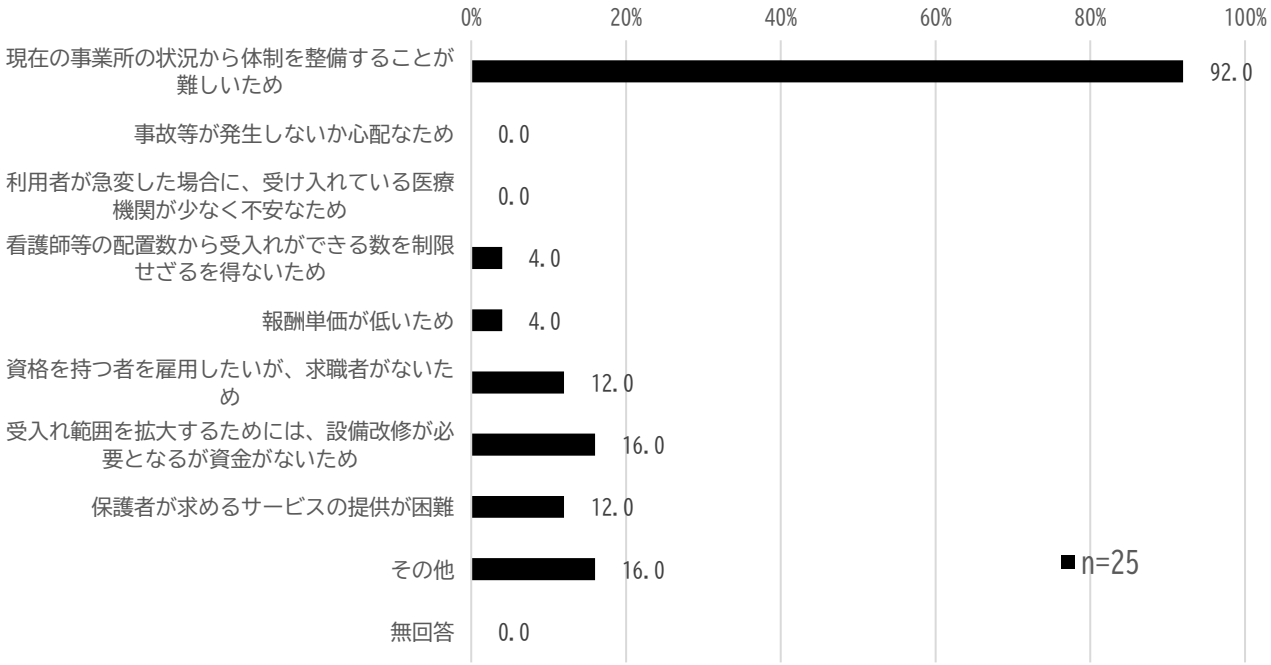


現在の受け入れ人数	令和８年度以降 受入予定人数
13 人	０人
０人	０人
１人	１人
０人	10 人
４人	４人
０人	０人
０人	１人
２人	１人
０人	０人
１人	１人

問 18 で「受入れ」が「ない」と回答した場合にお答えください。

問 19　その理由を教えてください。（○はいくつでも）

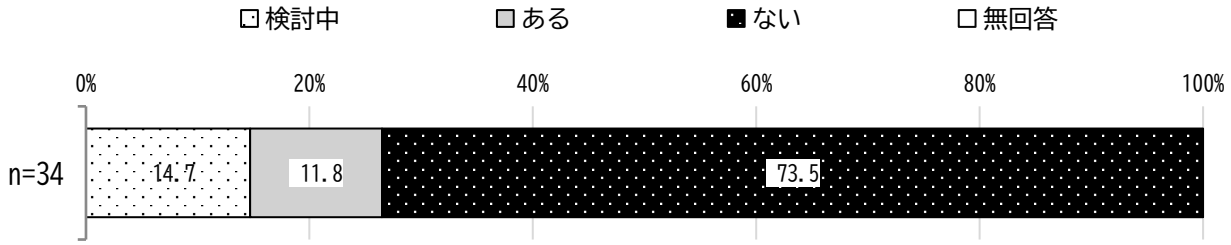
◆ 「現在の事業所の状況から体制を整備することが難しいため」が 92.0%で最も高く、次いで「受入れ範囲を拡大するためには、設備改修が必要となるが資金がないため」が 16.0%、「資格を持つ者を雇用したいが、求職者がないため」「保護者が求めるサービスの提供が困難」が 12.0%となっています。



主な「その他」の内容
常時 2 名以上の配置であるため、重度者の受け入れは人員配置上できない
ニーズが今までない為
今のところ、相談がない
法人グループ内で、サービス提供可能な事業所へ案内しているため。

問 20　喀痰吸引等研修（たんの吸引・経管栄養）を職員に受講をしてもらい、今後医療的ケアの対応が可能な職員を増やしていく予定はありますか？（○は１つ）

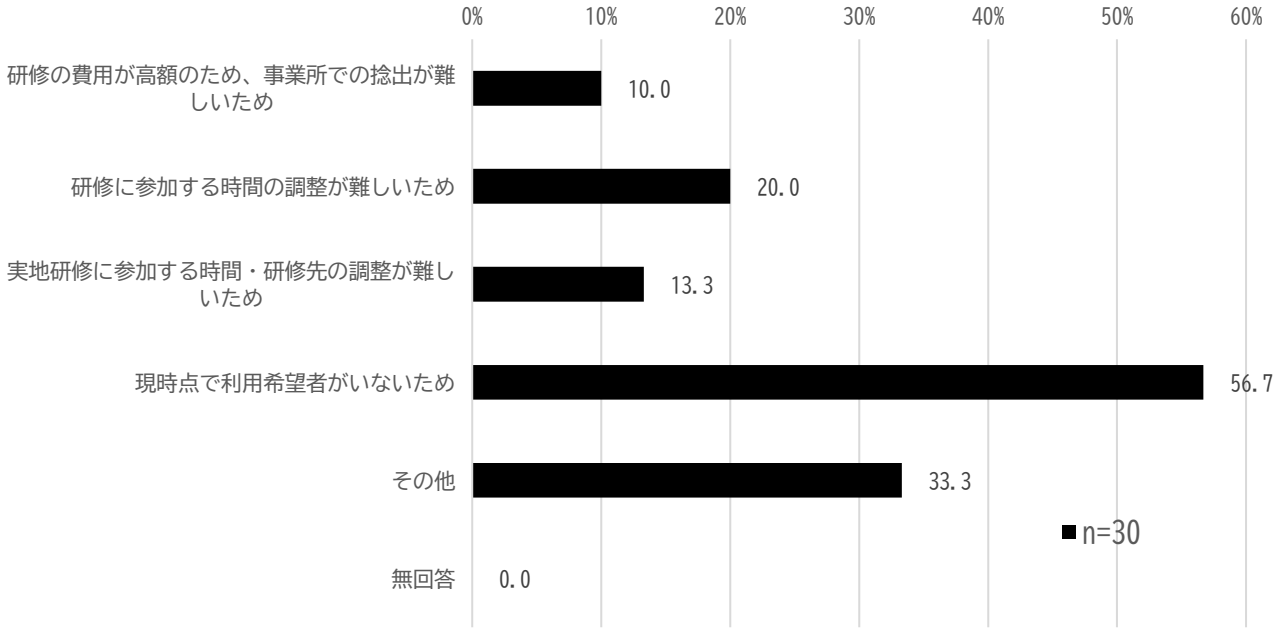
◆ 「ない」が 73.5%で最も高く、次いで「検討中」が 14.7%、「ある」が 11.8%となっています。



問 20 で「検討中」「ない」と回答した場合にお答えください。

問 21　その理由を教えてください。（○はいくつでも）

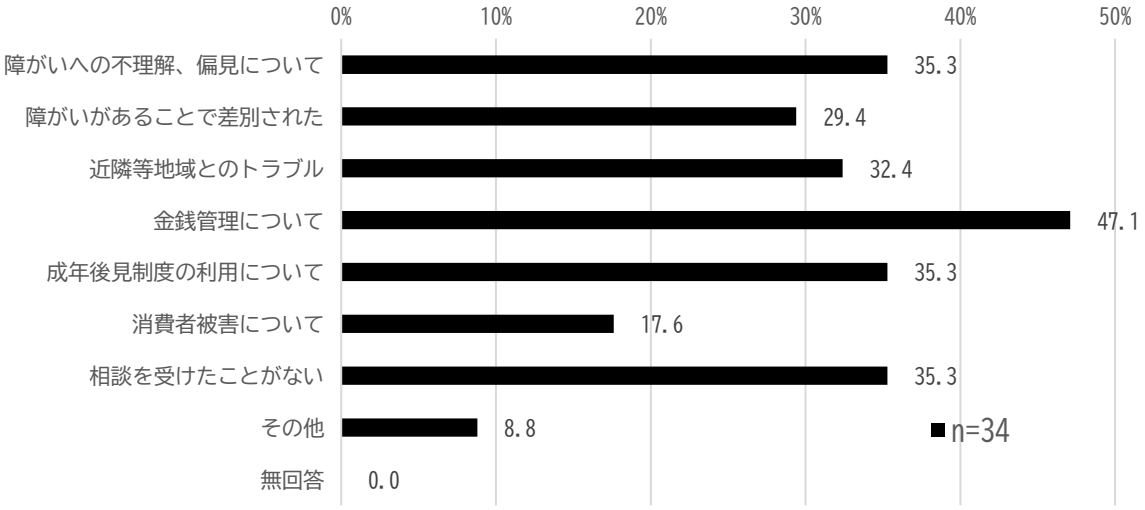
◆ 「現時点で利用希望者がいないため」が 56.7%で最も高く、次いで「研修に参加する時間の調整が難しいため」が 20.0%、「実地研修に参加する時間・研修先の調整が難しいため」が 13.3%となっています。



主な「その他」の内容
必要がないため[2 件]
想定していないため[2 件]
人材不足のため[2 件]
常時 2 名以上の配置であるため、重度者の受け入れは人員配置上できない
相談支援のため
現場ではないため
現在、看護師免許取得者がいる為

問 22　利用者や家族から以下のような相談を受けたことがありますか？
（○はいくつでも）

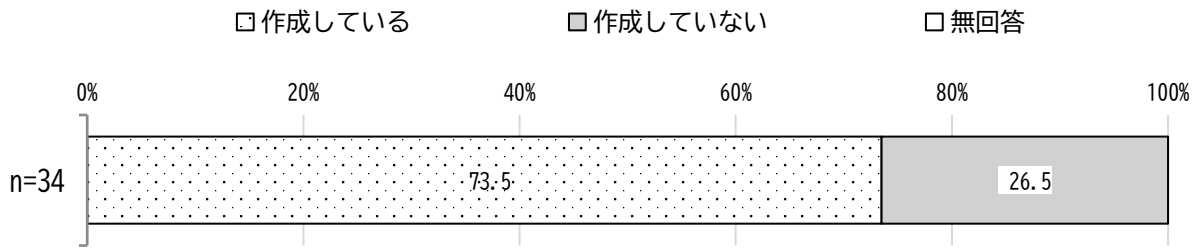
◆ 「金銭管理について」が 47.1%で最も高く、次いで「障がいへの不理解、偏見について」「成年後見制度の利用について」「相談を受けたことがない」が 35.3%となっています。



主な「その他」の内容
サービス利用を増やしたい意向など
障がい特性による問題行動について
親なきあとの住まい等グループホームの相談

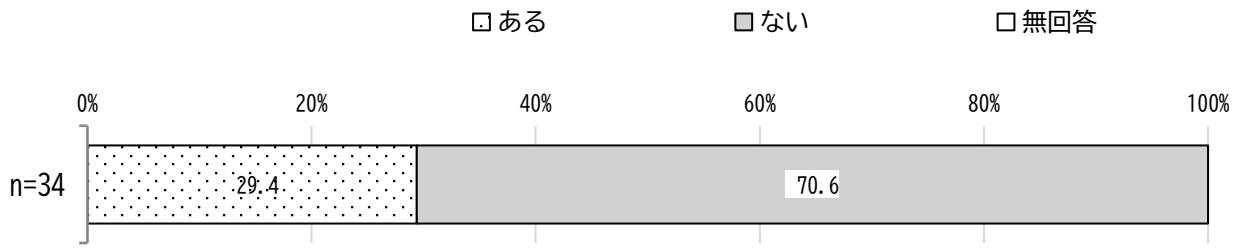
問 23　事業所で「虐待及びその疑いがある（セルフネグレクトを含む）」の発生防止に関するマニュアルの作成はしていますか。（○は１つ）

◆ 「作成している」が 73.5%、「作成していない」が 26.5%となっています。



問 24　事業所等の利用者で、「虐待及びその疑いがある（セルフネグレクトを含む）」を見かけたことはありますか。（○は１つ）

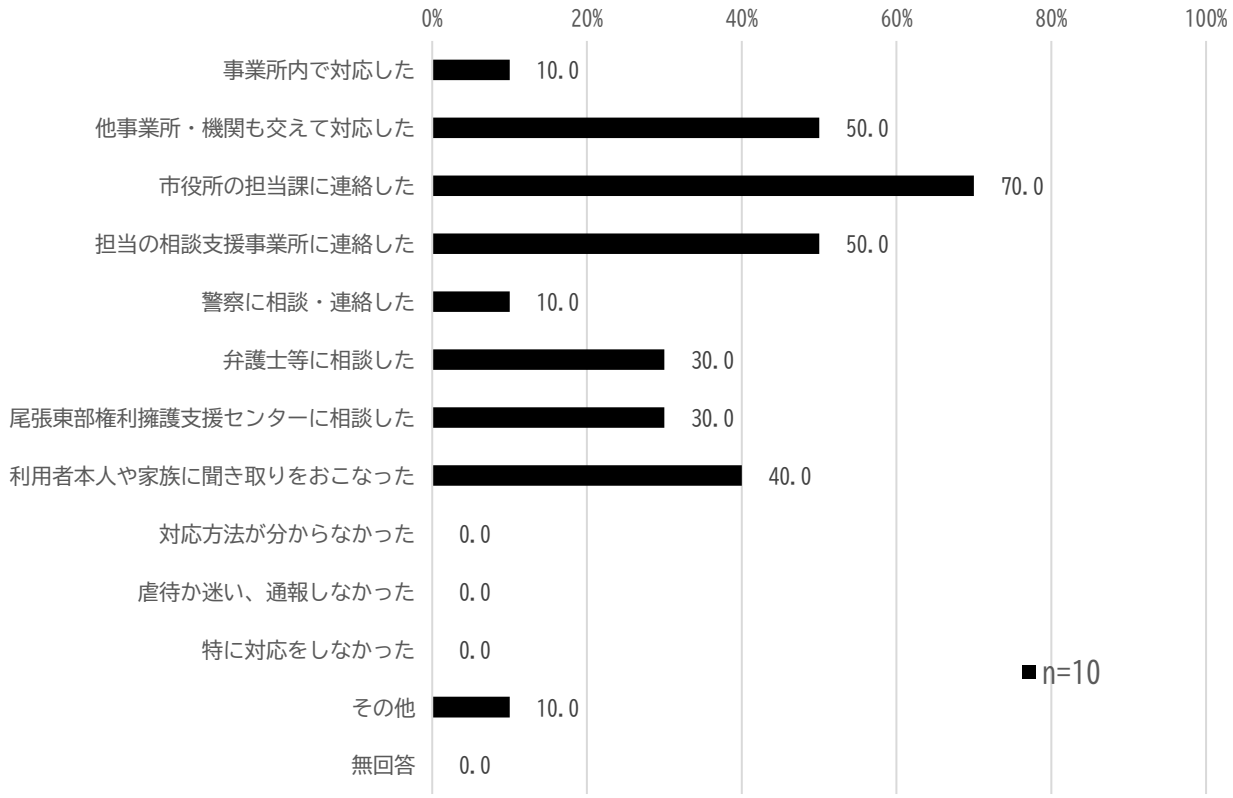
◆ 「ない」が 70.6%、「ある」が 29.4%となっています。



問 24 で「ある」と回答された方にお聞きます。

問 25　その際、どのような対応をしたか教えてください。（○はいくつでも）

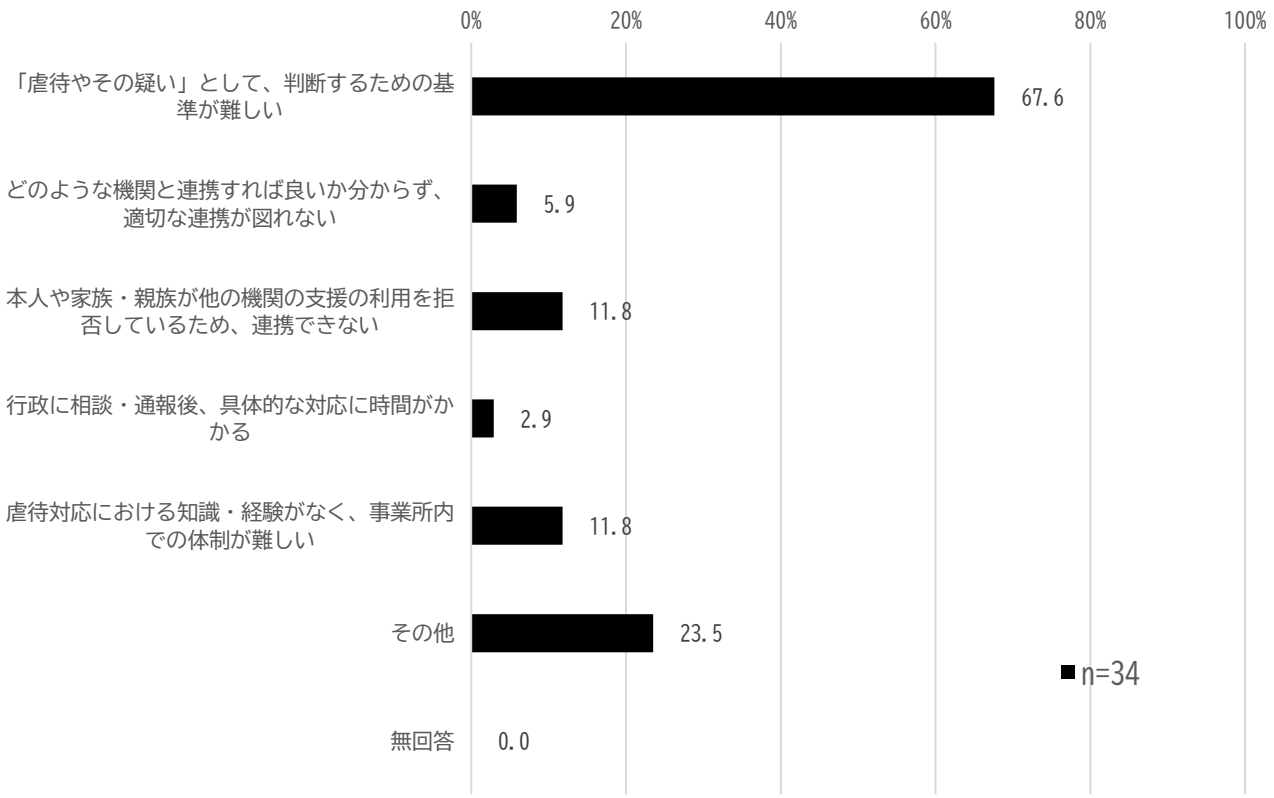
◆ 「市役所の担当課に連絡した」が 70.0%で最も高く、次いで「他事業所・機関も交えて対応した」「担当の相談支援事業所に連絡した」が 50.0%となっています。



主な「その他」の内容
児童相談所

問 26　事業所等が、「虐待及びその疑いがある（セルフネグレクトを含む）」の対応する際の課題を教えてください。（○はいくつでも）

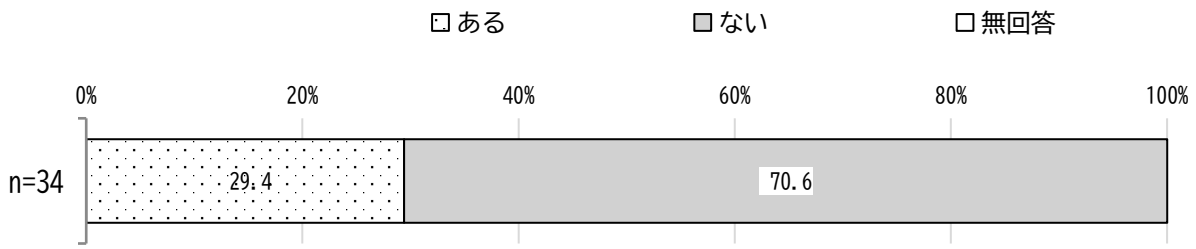
◆ 「『虐待やその疑い』として、判断するための基準が難しい」が 67.6%で最も高く、次いで「本人や家族・親族が他の機関の支援の利用を拒否しているため、連携できない」「虐待対応における知識・経験がなく、事業所内での体制が難しい」が 11.8%となっています。



主な「その他」の内容
連携により時間がかかっても対応している。
家族自身が対話できず、最初から最後まで疑いが晴れないカスタマーハラスメント（家族の思い通りの要求の状態でないと納得されない）
利用者家族からのカスタマーハラスメントに現在も困っている

問 27　事業所で提供している内容以外の支援を利用者や保護者から希望されたことはありますか？（○は１つ）

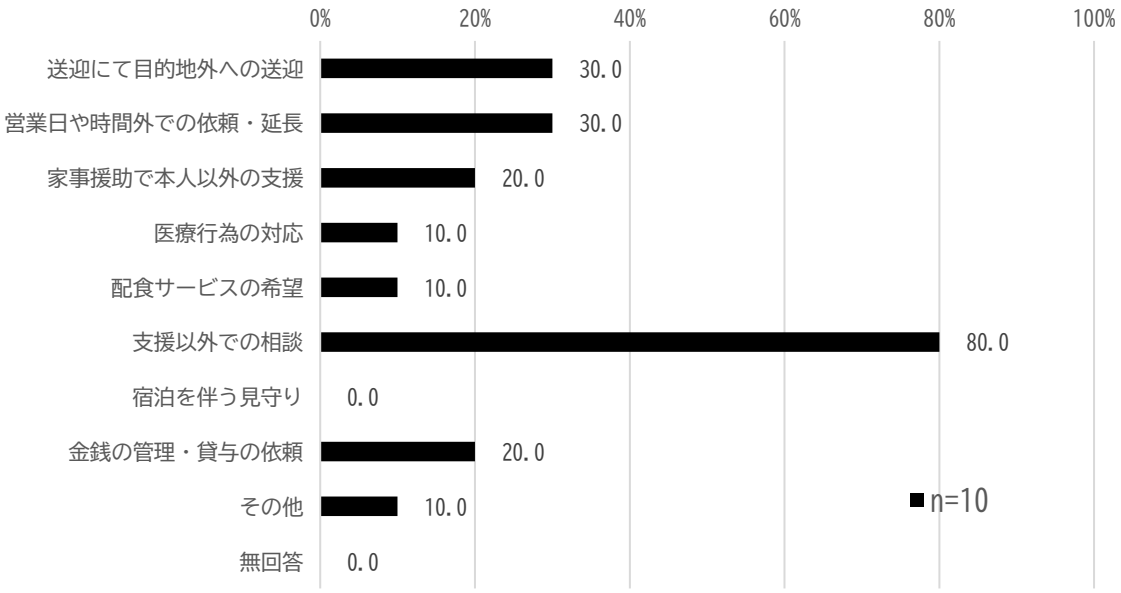
◆ 「ない」が 70.6%、「ある」が 29.4%となっています。



問 27 で「ある」と回答された方にお聞きます。

問 28　それは、どんな内容でしたか？（○はいくつでも）

◆ 「支援以外での相談」が 80.0%で最も高く、次いで「送迎にて目的地外への送迎」「営業日や時間外での依頼・延長」が 30.0%となっています。

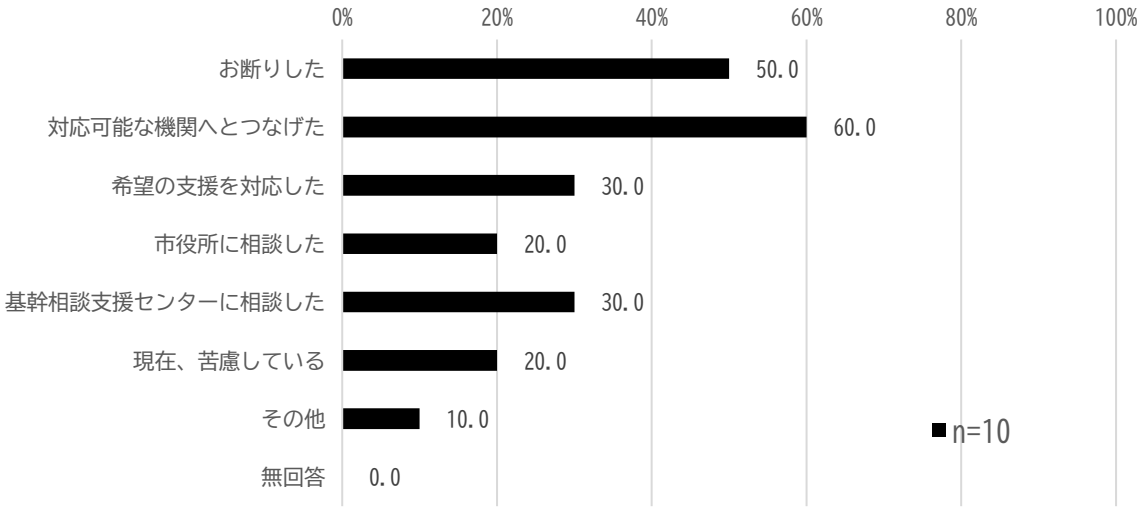


主な「その他」の内容
ピンポイントの送迎時間のご希望、ケアする内容と場に限定したご希望、緊急避難先としての活用など

問 27 で「ある」と回答された方にお聞きます。

問 29　その対応をどうしましたか？（○はいくつでも）

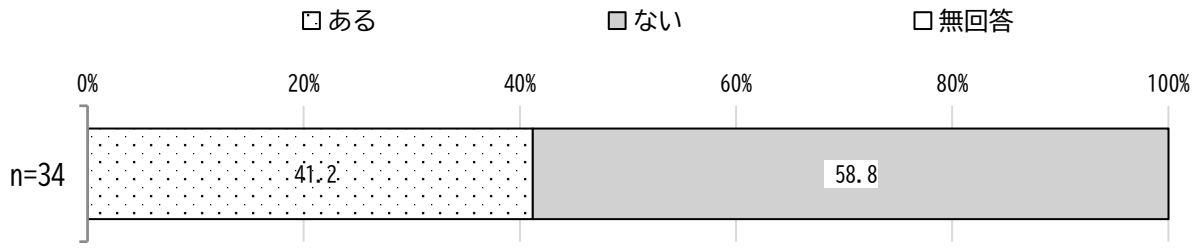
◆ 「対応可能な機関へとつなげた」が 60.0%で最も高く、次いで「お断りした」が 50.0%、「希望の支援を対応した」「基幹相談支援センターに相談した」が 30.0%となっています。



主な「その他」の内容
相談員から、本来のサービス提供以外の相談を受けることがある

問 30　周辺の地域住民と連携や交流はありますか？（○は１つ）

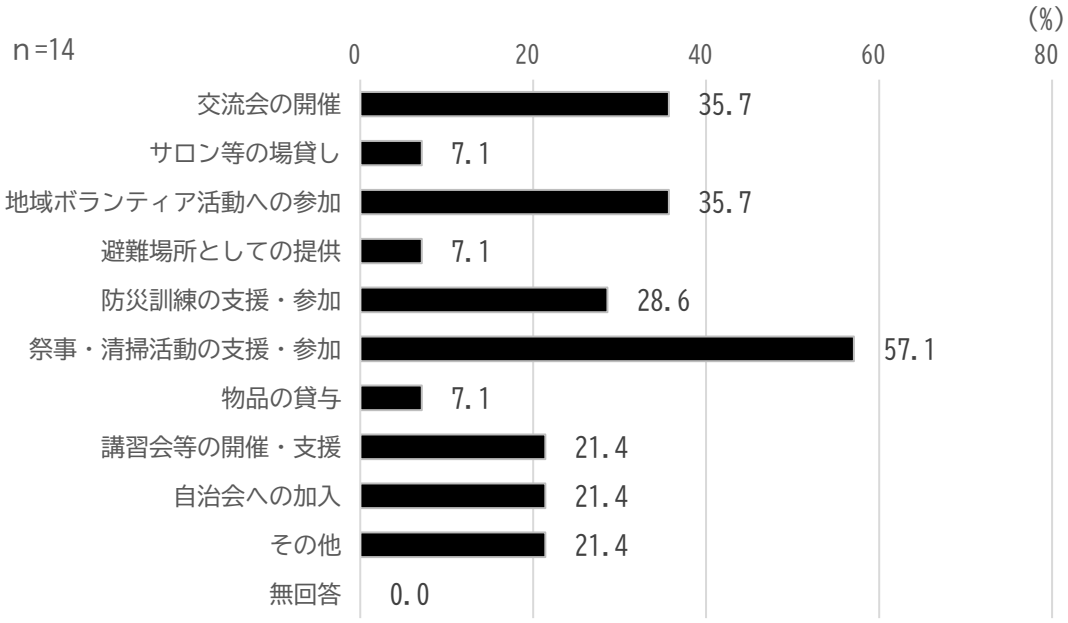
◆ 「ない」が 58.8%、「ある」が 41.2%となっています。



問 30 で「ある」と回答された方にお聞きます。

問 31　それは、どのようなことですか？（○はいくつでも）

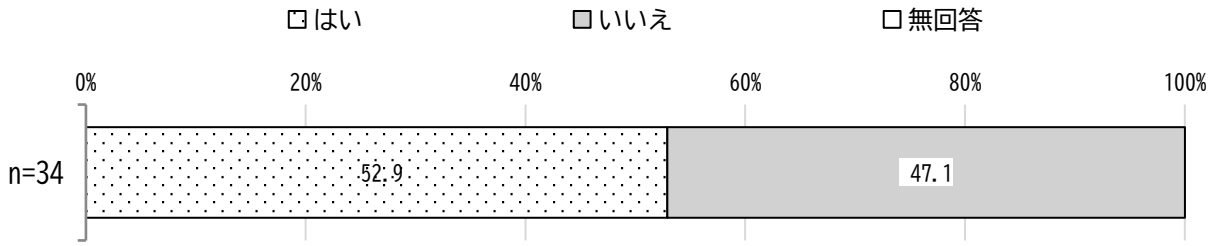
◆ 「祭事・清掃活動の支援・参加」が 57.1%で最も高く、次いで「交流会の開催」「地域ボランティア活動への参加」が 35.7%となっています。



主な「その他」の内容
地域の自治組織への参加、連携
マルシェなどイベントへの参加
近隣高齢施設や保育園との共同行事の開催

問 32　ボランティアの受入れは行っていますか？（○は１つ）

◆ 「はい」が 52.9%、「いいえ」が 47.1%となっています。



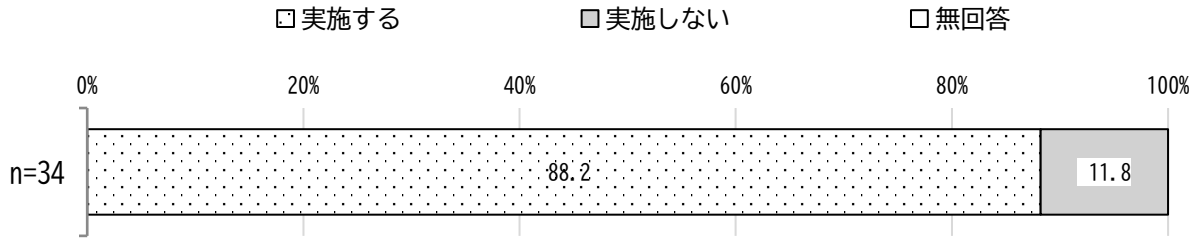
問 33　ボランティアの受け入れる際に、課題や困りごとはありますか？（自由記述）

主な内容
事前のオリエンテーションやアフターフォローが時間的に厳しい[2 件]
未経験の方のボランティアの場合に説明等に時間を割く必要があり、支援に支障が出るのではと心配になることと、事故やトラブルが起きた際の責任の所在が曖昧になること
事業所の場所的にボランティアが継続的に通いにくい場所にあるため、ボランティアへの参加人数が極めて少ない

問 34　災害が発生した場合の次の体制について教えてください。

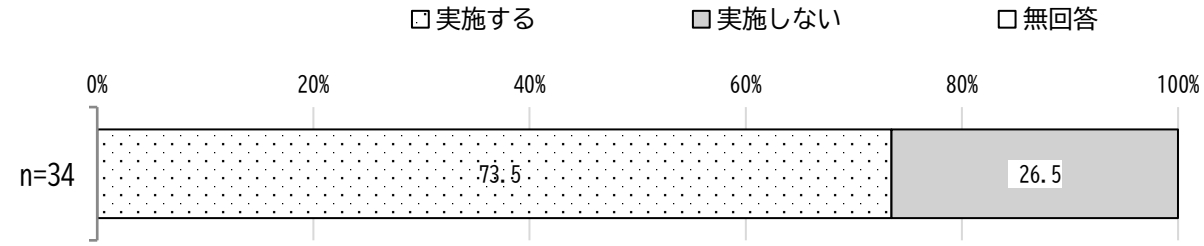
□ （通所時）安否確認

◆ 「実施する」が 88.2%、「実施しない」が 11.8%となっています。



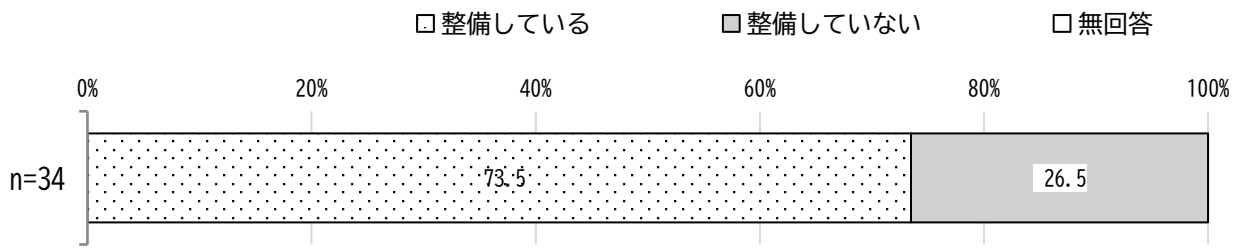
□ （帰宅後）安否確認

◆ 「実施する」が 73.5%、「実施しない」が 26.5%となっています。



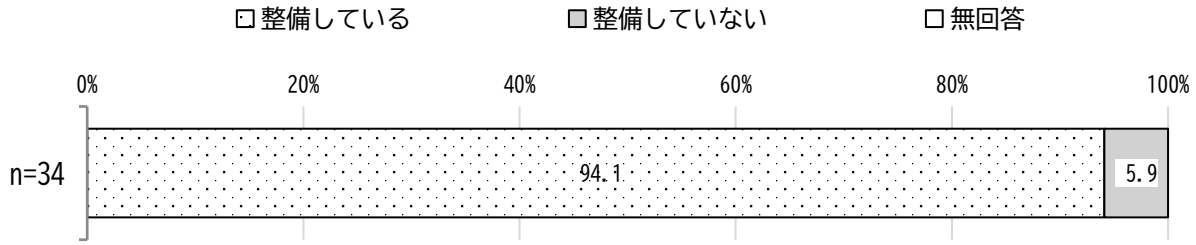
□ 緊急連絡網の整備

◆ 「整備している」が 73.5%、「整備していない」が 26.5%となっています。



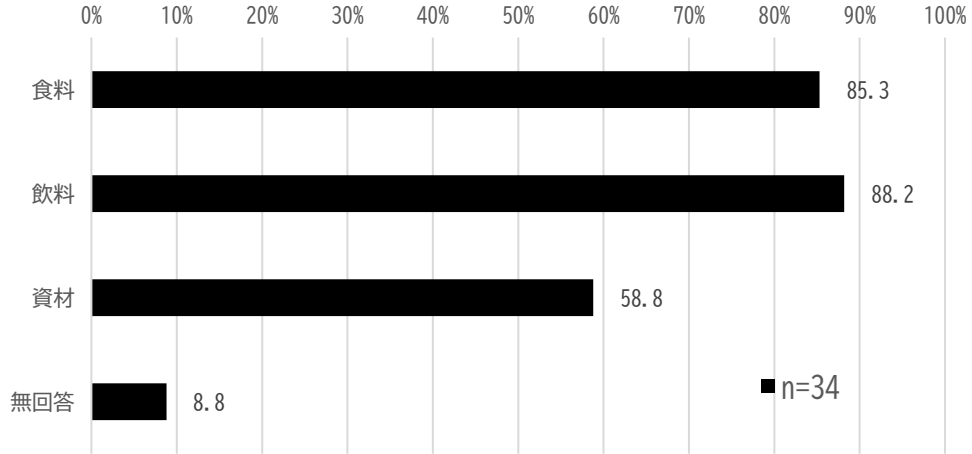
□ 緊急時のマニュアルの整備

◆ 「整備している」が 94.1%、「整備していない」が 5.9%となっています。



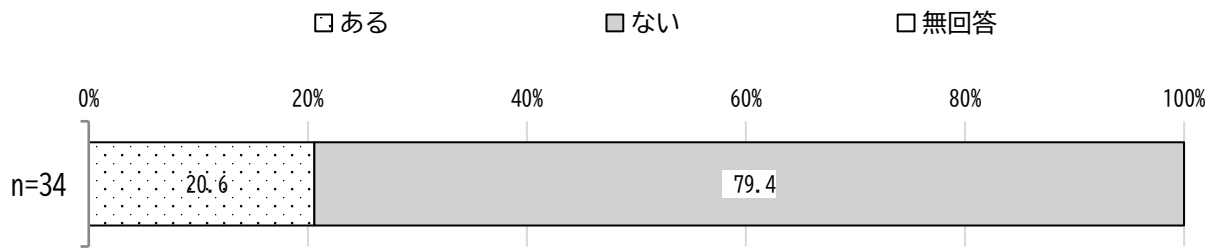
□ 食料・物資の備蓄（確保しているもの）

◆ 「飲料」が 88.2%で最も高く、次いで「食料」が 85.3%、「資材」が 58.8%となっています。



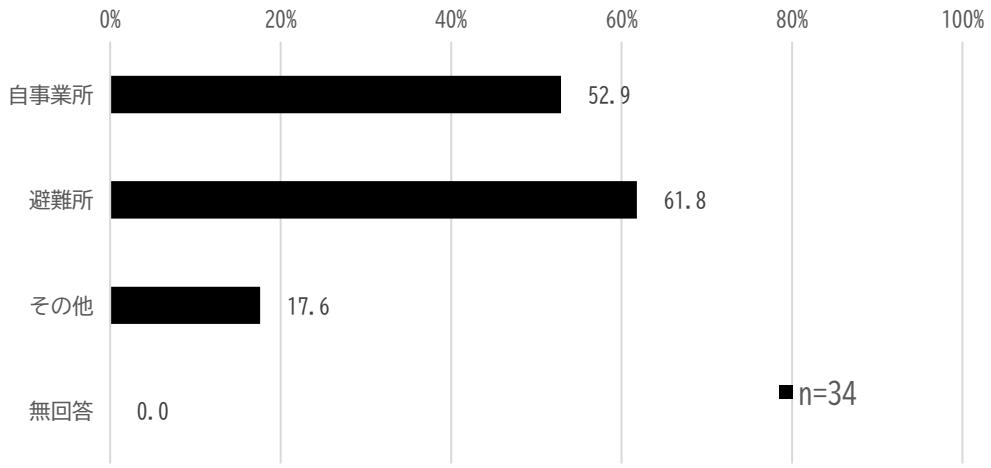
□ 非常電源の有無

◆ 「ない」が 79.4%、「ある」が 20.6%となっています。



□ 避難所先の想定

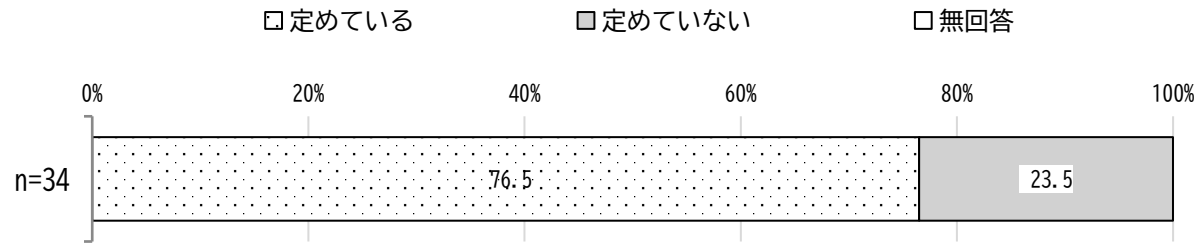
◆ 「避難所」が 61.8%、「自事業所」が 52.9%となっています。



主な「その他」の内容
自宅[5 件]
利用先の事業所等
近隣の小学校

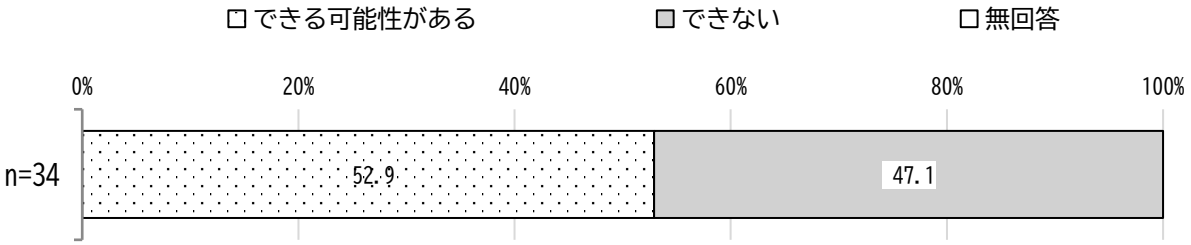
□ 担当者の選定

◆ 「定めている」が 76.5%、「定めていない」が 23.5%となっています。



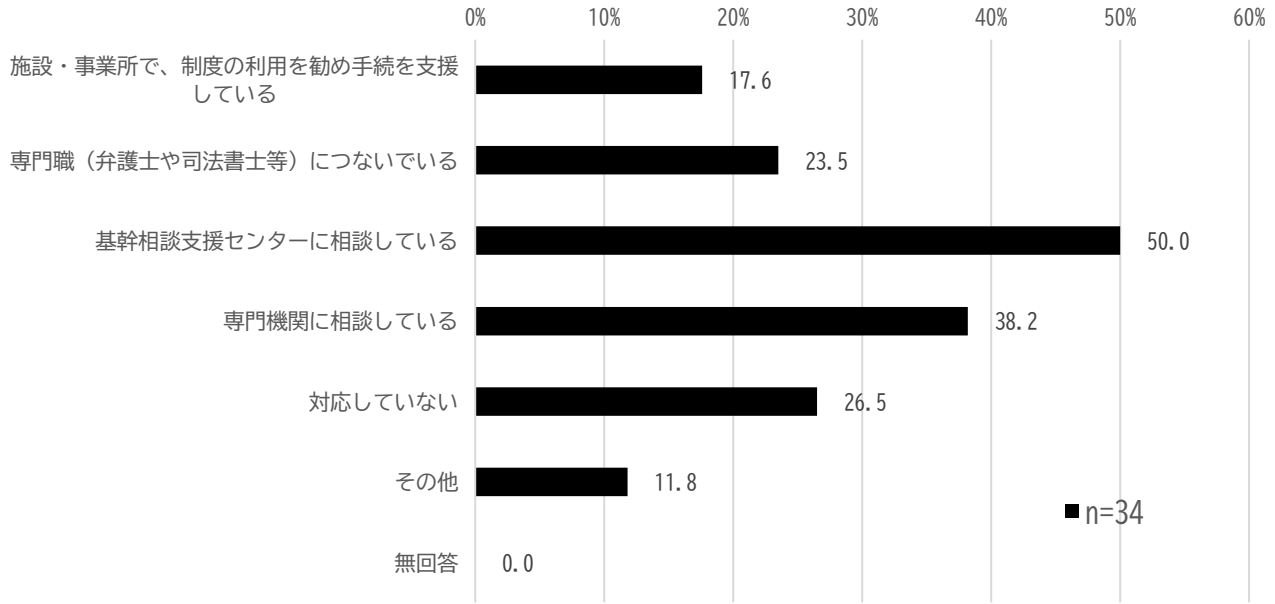
問 35　災害発生時に障がいのある人等が一時的に過ごす場所として事業所を活用できる可能性がありますか。（○は１つ）

◆ 「できる可能性がある」が 52.9%、「できない」が 47.1%となっています。



問 36　日常生活自立支援事業・成年後見制度の利用が必要だと思われる利用者がいた場合、どのように対応していますか（○はいくつでも）

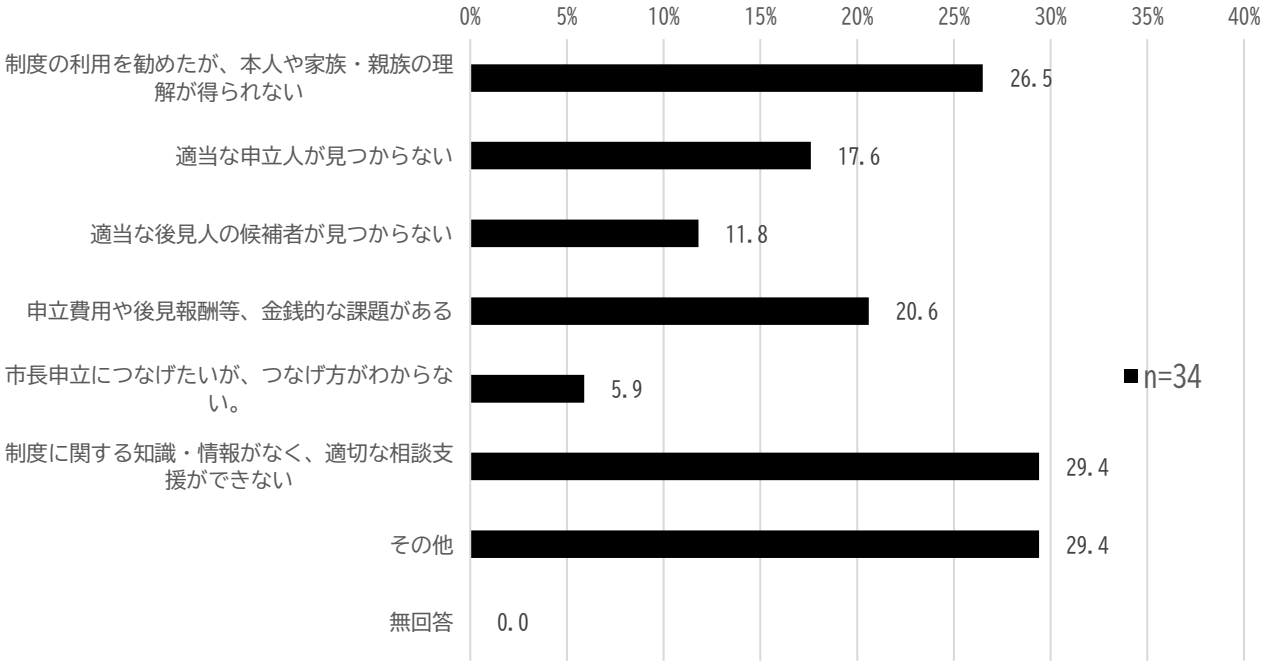
◆ 「基幹相談支援センターに相談している」が 50.0%で最も高く、次いで「専門機関に相談している」が 38.2%、「対応していない」が 26.5%となっています。



主な「その他」の内容
これまでそのような対応をするケースがない[2 件]
相談支援事業所との連携
利用が必要な利用者がいない

問 37　金銭管理や契約行為が難しそうな人の支援をする際に、何らかの課題がありますか（○はいくつでも）

◆「制度に関する知識・情報がなく、適切な相談支援ができない」が 29.4%で最も高く、次いで「制度の利用を勧めたが、本人や家族・親族の理解が得られない」が 26.5%、「申立費用や後見報酬等、金銭的な課題がある」が 20.6%となっています。



主な「その他」の内容
これまでそのような対応をするケースがない[2 件]
利用が必要な利用者がいない
障害児を対象としているため、課題は見つからない
既に後見人である家族自体との意思の疎通が難しい

問 38　障がい福祉関係事業所のサービス提供の質の向上や地域課題の解決を図るために、どのような取組や資源が必要と考えますか。（自由記述）

主な内容
事業所の意思決定を主導する立場にある管理者や施設長、サービス管理責任者などの幹部職員が地域の会合や行事に積極的に参加し、地域の方々と意見交換しながら、地域課題（防災や高齢者の外出支援など）に真剣に向き合うことが大事である。また、普段の関わりを通して、非常勤も含めた職員全員が「地域の社会資源である事業所（施設・設備はもちろん、マンパワーも含め）をどのように地域の為に役立てるか」という視点を常に持ち続けられるよう意識づけしていくことが必要である。
いわゆるレスパイトサービスに該当する日中一時支援事業は、万民向けのサービスではなく、利用者家庭の個々の状態(ひとり親家庭、高齢の親御さん、要介護や病気、障害者世帯、困窮世帯など)と、知的、身体の重い介護状態とが重なった時に、家族支援のために必要なサービスである。特に、「知的障害、重い区分、強度行動障害」が重なると「養護者虐待が起こりうるリスク」が飛躍的に高まり、また養護者自身の「健康問題から就労困難」になり、ひいては「家庭全体が生活困窮世帯となったり、新たな障害のある人を生む土壌」となり得るため、市民に対する一定数に対しては「必要なセーフティーネット」と当法人では考えている。しかしながら、夕方、土曜日また、夜間に伴う求人の少なさ、地域生活支援事業の単価が変わらないことから、支援員は採用困難な人材になっている。当法人でも、数年先は人員配置できず運営困難となり得る状況もあるため、ヘルパー、グループホームのスタッフ同様、採用に力を入れるとともに、スタッフの理解を得ている、常に継続性が難しい運営であるため、市としてもバックアップを検討していただきたい。
人材の確保、育成に尽きる。
長久手市として利用者の方が活用できる地域資源を増やしていく
長久手市に限らず、尾張東部圏域で地域活動支援センター事業所数自体が減少傾向にある。就労支援事業所が増加したこと、そもそも相談支援のプランに、地域活動支援センターが反映されないため、就労準備性が整っていない利用者さんに対しても、B 型中心でプランが組まれ、地活の意識が相談員にはないように考える。月 1 回程度の利用でも、サロンの効果はあり、利用者の社会性の支援、精神面の安定などに大きな効果があげられるサービスである。恒常的な利用サービスでなく、社会的な自立訓練サービスとして、通過的な一時支援あるいはその繰り返し支援で良い。支援員自身のスキルアップは必要であるとともに、地域の相談支援にも周知する取り組みが必要である。また、近隣市町の地活事業は赤字運営をしており、予算がないため積極的な取り組み、活動がしづらい理由でもある。例えば統合失調症は、人口 100 人に 1 人(0.08%)の割合といわれており、これは世界基準で地域の定率割合である。統合失調症は、遺伝的に発生するため、幼少から関り、適切な医療やストレス低減など悪化しないためのサポートが第一選択である。長久手市においても、約 500 人の割合はおり、その入り口として好発年齢の 10～30 代の利用を今後も促進していきたいと考えている。
地域にいる人的な資源との交流
訪問介護事業を継続していくこと自体が苦しい現状であり、また他産業と比べて低い賃金にもなっており、人材の確保もより難しくなると思われる。現状維持していくことが精一杯な状況では、質の向上や課題解決などに時間を割いていくことが難しいので、まずはそこを解決しないといけない。

主な「その他」の内容
当該事業所は、昔ながらのグループホーム事業を継承し、地域に点在する自立支援を目標とした「生活支援」を中心に行っているグループホームとして活動している。現在、日中サービス支援型が増え、24 時間 365 日型のグループホームの設置が傾倒されているが、昔ながらのグループホームの理念、目標は、障害のある人が自ら生活の中で自立していき、支援から手離れることだが、風潮として理解されづらくなっているため、関係者含め普及啓発が必要と考えている。また地域移行支援の受け皿としても有効に働いている実感はある。
新たに就労選択支援サービスが始まり、専門的就労支援の考え方を、長久手市で共有でき、支援の質を上げていけるような取り組み。優先調達法などを活用した、市内事業所と協働した地域参加と工賃向上への取り組み。
市単位での福祉人材の採用
利用者を支える事業所を運営しつづけるためには管理者も職員も安定して働き続けられる環境の整備が必要だなとつくづく感じている
普段から関われるような公的施設が近くにあり、交流できるとよい
多事業所との連携や互いの意見交換がフリーでできる場や共同行事などができると良い。
障害や高齢に関わらず、人材確保と定着、育成が一貫して必要と思われる。そのため、総合的な常時の福祉人材・研修センターが、市立か広域で一か所必要ではないかと考えている。

4．団体への調査

問１　相談体制・情報提供

【キーワード】支援窓口、ワンストップ窓口、情報のわかりやすさ、多言語対応、ICT 活用、専門職との連携

主な内容	回答者
転入時にどこの病院に通うと良いのかがわからない。最初にどこへ相談したらいいのかもわからない。	当事者の家族
子どもだと別の窓口になるのがわかりにくい。	当事者の家族
相談しても、（医療機関の情報など）市役所ではわからないと言われる、放課後等デイサービスも事業所が決まるまでの相談先がわからない、決まってからは話が進んだ。決まるまではに時間が掛かり、大変だった。	当事者の家族
低年齢児で相談をしても、様子を見ましょうと言われる。どこに相談したらいいか最初は教えてくれなかった。相談先を教えてほしい。	当事者の家族
計画策定に係るアンケート対象を手帳所持者・サービスを利用している人以外に、グレーゾーンの人など福祉サービスから漏れている人にも対象を広げるとよい。	当事者の家族
相談員は、福祉サービスを利用するために計画を作成してくれる人だと思っており、「相談」にのってくれるとは最近まで知らなかった。相談員の役割をはじめに教えてもらえるとよい。	当事者の家族

主な内容	回答者
市の職員も手話を覚えたらどうか。	その他団体等
行政の文章にもわかりやすく絵があると良いと思う。「介護保険」などの文字だけでは分からず、チラシを目にしても文字だけでは理解ができず、介護保険を利用できなかった方がいた。	その他団体等
真に支援を必要とする人が、真に有益な窓口につながれない。ネット上にも窓口がたくさんあり、わかりづらい。	当事者の家族
学校、病院、警察、保健所さまざまところに連絡したが、どこにも当てはまらず、最後に家族会で欲しい情報が入手できた。	当事者の家族
制度や福祉サービスの仕組みがわからない。	当事者の家族
昔に比べて人権意識の高まりにより、公的支援が広がってきた。	当事者の家族
若年層向けの相談窓口が必要。	当事者の家族
困っていることに対して、「●●に相談してください」ではなくて、包括的に相談支援ができるとよい。	当事者の家族
聴覚障がい者に対しては、手話通訳者がいたり相談先がはっきりしているが、視覚障がい者に対しては特になく、相談しにくい。	その他団体等
声の広報について、ホームページで探しにくい。他市町は市のホームページを開くとすぐみつかる。	その他団体等
障がい者・児が通うことができる病院が分からない。そもそも相談していいものか、受け入れてもらえるか分からず、相談しにくい。	当事者の家族
新しくサービスを利用したいが、事業所が探せない。利用したくても、定員がいっぱいであったり、対応不可能といわれることがある。市で介入できたらいいのではないか（養成・育成する、費用面で補助するなど）。	当事者の家族
聞こえる、聞こえないに関係なく、誰でも仲間になることができるよう地域に同じ考えを広めていく活動をしている。	その他団体等
サークルで手話のスキルが上がっていくと、聴覚障害の方とコミュニケーションが取りやすくなっていくと思う。	その他団体等
聞きたいことがあっても、市役所に手話ができる職員がいない。現在、福祉課の窓口には週２しかいないため、待つ必要があり、気軽に相談ができない。毎日がよい。	当事者
どこに相談したらいいかわからない。ケアマネジャーに相談したが障がいのことはわからなかった。	当事者
要約筆記ボランティア講座のあとの（行政の）フォローが不十分。サークルに入っても、続かない。	その他団体等

※その他団体等には、ボランティア団体、関係事業者を含みます。

問２　住まい・生活環境

【キーワード】バリアフリー住宅、グループホーム、福祉用具、アクセス環境、地域住民、地域包括ケア、自立支援、親亡き後

主な内容	回答者
親亡き後が心配である。	当事者の家族
本市は家賃が高く、事業所が増えない。他市へ流れているように思える。本市に事業所があると良い。	当事者の家族
リニモテラスは車椅子ユーザーには、トイレの鏡が見えず、手洗い場も高くて利用しづらい。	当事者
公共施設整備にあたって、昔は図面の相談やヒアリングを受けていたが、そのような機会は今はない。当事者から聞くべき。	当事者
車いすユーザーにとっては、道路に段差が多く危険。ひっくり返ったこともある。	当事者
雨よけのため障害者用駐車場スペースに屋根を設けてほしい。一気に変えることは難しいが、少しずつ見直してほしい。	当事者
肢体不自由の人が使いやすいよう、公共施設のトイレの洋式化やウオッシュレットの整備を進めてほしい。	当事者

問３　放課後・余暇

【キーワード】放課後等デイサービス、余暇活動、レクリエーション、ボランティア支援、居場所づくり

主な内容	回答者
土日に障がい事業所がやっていないので困っている。親の負担が大きい。	当事者の家族
子の体力が有り余っており、体力を発散できる場がほしい。安心して遊べる場所の情報を提供してほしい。	当事者の家族
日中一時支援は平日のみ。土日は移動支援、行動援護などがあれば利用できるが、事業所が対応していない。	当事者の家族
休日に学校を貸切ることができるか問い合わせをしたが、貸せないとのことだった。障がい児の親の孤立が進む。既存資源を活用して地域の人とかかわっていけるとよい。	当事者の家族
出入口が少ないなど、安全が配慮された場所や公園などで（子どもの安全）管理がしやすい場所を作ってほしい。	当事者の家族
放課後等デイサービスと児童発達支援が本市に少ない。市外へ行く人が多く、その場合、長小校区と東小校区は送迎エリア外であることが多い。	当事者の家族
中学生になり部活に行くなら放課後等デイサービスの日数を減らすよう、相談員から言われた。他の人に聞くと減らすようには言われてないのに、なぜ自分だけ言われるのか不安。市の方針なのか	当事者の家族

主な内容	回答者
デイサービスへボランティアとして行ったとき、大勢で楽しそうに活動している傍ら、ろう者の方がさみしそうに一人で活動していた。今後は高齢のろう者も増えるため、活動場にも配慮が必要と感じた。	その他団体等
視覚障がい者の集まり場所がない。以前社協主催で、余暇活動を行ったが、意外と集まり、外に出かけたいが、きっかけがないのかなと感じた。市が集まる場を設けられるといい。	その他団体等
手話奉仕員養成講座の後の勉強の機会やろう者との会話の機会が少なく、勉強したくてもできない。愛知県のステップアップ講座は昼間開催であり、仕事があり行きたくてもいけない。	その他団体等
社会見学事業によって、障がいがあっても人間らしく楽しみを作ることができる。余暇活動して、外で出て人と会うということは、これからも重要な活動である。障がい者同士だから安心して参加できる面がある。 社会見学事業を行政が主導しなくなり、職員が障がい者を顔を知らないため、誘うこともできない。人が集まらなくなった。	当事者
余暇活動の場がない。当事者同士で集まる場もなく、悩みが共有できない。	その他団体等
外へ出るには人の手がいる。一人で出ることができず、外出のハードルは高い。	その他団体等

※その他団体等には、ボランティア団体、関係事業者を含みます。

問４　市民の理解・協力

【キーワード】理解の促進、啓発の取組、インクルーシブ社会、地域住民との交流、偏見・差別の解消、ボランティア養成、共生のまちづくり

主な内容	回答者
地域のイベントは子どもの行動（10 代の男児が跳びはねる、大きな声を出すなど）が気になってしまうため、行きにくい。地域に「この子はこういう子」と知ってもらいたいとは思うが、まず参加することに対し気が引けてできない。心理的にも物理的にもハードルがある。	当事者の家族
誰でもいける場所が欲しい。イベント開催などでも「バリアフリー」という一言があると、主催者側に理解があると感じて、行きやすい。静養室などがあるとよい。	当事者の家族
手話関するドラマがメディアで放送されると、関心が高まるが終わると興味を示さなくなる。メディアの影響は大きいと思う。	その他団体等
福祉まつりで手話に親しんでもらおうと出店するが、その先は実を結ばない。	その他団体等
ろう者であると見た目ではわかりにくい。聞こえない人が身近にいても気づかない。ろう者自身も気づかれたくないということもあり、難しい。	その他団体等
他県に住んでいたときは小中学校へ年に何回も手話を教えに行ってた。障がいを身近に感じてもらいたいので、そのような機会は多い方が良い。	その他団体等

主な内容	回答者
障がいがあることを家族が周りに隠そうとしたり、家族だけで悩み事を抱える傾向が今でも強い。近くに障がいの方がいること、誰でも、いつ障がい者になるかわからない、ということを意識してほしい。	当事者の家族
市役所に窓口で相談できる（専門職の）相談員がいない。	当事者の家族
障害者手帳を取得することにより、差別が生まれ、身内の就職に影響が出ることが不安。	当事者の家族
音訳のボランティアに関するスキルアップの講座がない。市で手話講座や要約筆記講座のように音訳講座を開いてほしい。養成、育成のサポートがない。	その他団体等
聴覚障がい者に対してのサポートは多いが、視覚障がい者に対しては少なく感じる。	その他団体等
団体として社会と関わりを持つように運営していきたい。学生たちは障がい者を目にすることは少ないため、知ってもらえるよう活動していきたい。	当事者の家族
障がいの子をもつ親として、障がいの子をもつ親に伝えられることや、教えられることがあったら話していきたいと思う。	当事者の家族
ろう者や手話に関する理解は促進されているが、難聴への理解はまだまだ低い。制度もない。	当事者
（軽度・中等度の難聴者に対して）18 歳まではあった補聴器の助成がなく経済的な負担が大きい。	当事者
子どもの頃は、難聴であることを隠し、補聴器が見えないよう隠していた。聞こえないときも聞こえるふりをすることもあった。大人になった今でも初めてあった人に難聴であることを話すことはない。	当事者
個人情報の観点から、昔ほど行政が障がい者にアプローチできず、団体の人数が年々減少している。手帳を新規で取得したり、転入したりした際に窓口で団体への加入を勧めてほしい。市民への発信方法を工夫して市役所が勧誘するべき。	当事者
公共交通バスは車椅子が２台しか乗らない。友人と一緒にバスに乗ることが出来ないことがあった。また、スロープを利用するため乗降に時間がかかり、冷たい目で見られたことがある。	当事者
点字の必要性を知ってもらえない。団体としても、点字を利用する人が少なくなっている、目に見えて成果が得られないので必要なのかと考えてしまうが、１人でも必要な人がいると思い、行っている。福祉実践教室で講師をしたとき、生徒が点字に興味を持ち、サークルへ何度も遊びに来てもらえたことは、やっていて嬉しかった。	その他団体等
アプリが進化し、声を読み取り文字起こししてくれるアプリを利用しているので相手が言っていることはわかる。しかし、自分の気持ちを伝えることは難しい。	当事者
コンビニなどで聞こえないことを言わずに相づちを打っていると、ミスコミュニケーションが起こることがよくある(袋を必要以上に渡されてしまうなど)。	当事者
コンビニにもコミュニケーションボードがあるところがある。	当事者

主な内容	回答者
店舗で、耳マーク（聞こえない、聞こえにくい人のマーク）やコミュニケーションボードがあっても、従業員の対応は様々である（聞こえないと伝えると、筆談をしてくれる方もいれば、聞こえないの？と怪訝そうな顔をされることがある）。	当事者
店員がマスクをしていると、読唇ができない。	当事者
難聴者は、プライドのせいなのか「聞こえない」と自ら言わないのでわからない。出会えない。行政で難聴者を対象としたサロン等があるとよいが・・・。	その他団体等
メンバーは必ず耳マークを付けるようにしているが、マークの認知度が低く、むしろ当事者と勘違いされる。	その他団体等
市職員が窓口等の対応のための簡単な筆記を学んでほしい。マイク等で音量を上げても難聴者は聞き取りづらい。	その他団体等

※その他団体等には、ボランティア団体、関係事業者を含みます。

問５　教育・保育

【キーワード】特別支援教育、保育所等訪問支援、通級指導教室、教職員の研修、学校との連携、個別支援計画、保護者支援、学校卒業後の支援

主な内容	回答者
市内全小中校で介助犬を通した福祉教育をしたい。	その他団体等
子どもより、大人が介助犬や介助犬訓練センターの存在を知らない。地域の行事等で市民と触れ合う機会をもっと作りたい。	その他団体等
介助犬を通して障がいに対する心のバリアフリーを育てていくことが必要。	その他団体等
特別支援学校卒業後の情報不足している、また相談窓口がわかりづらい。	当事者の家族
小学校において支援級か普通級の差が大きく、迷う。（グレーゾーンなど）あいまいな人への支援が不十分。普通級の時間が週に一回ぐらいしかなく、質も良くない。先生から何をやってほしいかを聞かれる状況。	当事者の家族
グレーゾーンの子の支援が必要である。引きこもりなどにならないように学齢期に集中的支援が必要ではないか。将来的な財政負担の観点からも重要である。	当事者の家族
普通級では先生の補助が必要である。勉強に不安がある場合は、授業中にもフォローが必要である。	当事者の家族
普通級のみならず、支援級内でも障がいが多様であり、児童の中で理解不足による差別や偏見がある。	当事者の家族
大人の理解不足が子どもの差別意識につながる。先生、保護者、障がい事業所の間で情報を共有する必要がある。	当事者の家族
保育所等訪問支援が小学校入って 1 学期までなのが不安。18 歳まで使えるはずだが事業所がない。	当事者の家族

主な内容	回答者
支援級の先生の質がバラバラだが特別支援学校の先生は専門的である。	当事者の家族
学校卒業後の支援が不安。障害者手帳が有ると障害者雇用もあるが、手帳をとらないグレーゾーンの子たちは就労でつまづく子が多いが支援が不十分である。福祉と教育の繋ぎが大事だと感じるが、できているように思えない。	当事者の家族
不登校が増えているが、親が知られたくないから交流も望まない。	当事者の家族
福祉と教育の連携が必要である。	当事者の家族
精神障害には発達障害などがベースにあることが多い。早期発見し、対応できるような仕組みがあるとよい。	当事者の家族
特別支援学校卒業後の生活が心配。現在は、学校から放課後等デイサービスの流れが出来ているが、卒業後は生活介護のあとの行き先が見つからない。居場所がなく、３時間から４時間、暇を潰すことが大変。仕事もやめなくてはいけないと感じている。	当事者の家族
福祉実践教室を実施している。	その他団体等
地域に手話を広める活動を定期的に行っている。	その他団体等
親御さんが視覚障がい者で、子どもに対していろいろ教えてあげられないことが悲しかったと聞く。絵本を読んでいて、これ何？と絵を指されても、見ないから答えることができない。	その他団体等

※その他団体等には、ボランティア団体、関係事業者を含みます。

問６　防災・災害時の支援

【キーワード】避難行動要支援者名簿、避難所、避難経路等のバリアフリー化、支援物資の確保、情報伝達アクセシビリティ、福祉避難所、地域防災訓練への参加、支援体制の整備

主な内容	回答者
介助犬を伴った避難者への対応がどのようにできるか心配である。現状で市内在住の介助犬ユーザーはいないが、ジブリパークやセンター内で宿泊を伴う訓練中に被災した場合は、地域の避難所や福祉避難所に行く可能性もある。介助犬訓練センターと自治体が、どのような対応ができるか。	その他団体等
介助犬と他のペットとの差別化や個別対応が必要になるが、市民の理解が得られるか不安。	その他団体等
要支援者の枠に、介助犬ユーザーも入れてほしい。	その他団体等
避難行動要支援者の案内が来て登録しているが、できる限り在宅でいようと思っている。そうなったときに自分たちの存在をどうやって知らせるのか不安である。	当事者の家族
市の職員に手話が浸透すれば、災害時にも対応しやすくなるのではないか。	その他団体等
家がどんな状態(壊れかけているなど）でも避難所へ避難はできないと思っている。	当事者の家族
避難場へ避難することができないから避難してからよりも、災害に備えるために準備を行う段階で市に協力してもらいたい。	当事者の家族

主な内容	回答者
在宅で避難しているから良いわけではない。気にかけてもらうようにしてほしい。	当事者の家族
福祉避難所の周知ができていない。	当事者
避難行動要支援者名簿を実効性のあるものにしてほしい。避難所へ行けず、家や車で生活する人が多いと考えられ、その人たちへの支援体制についても考える必要がある。	当事者
能登半島地震の際は、職員が出勤できない代わりに、協定先の自治体職員が避難所を開設したと聞いた。それに向けて、他市町と連携協定を締結しておくことも必要ではないか。	当事者
福祉避難所での専門職の確保についても検討すべき。	当事者
避難訓練には基本参加していない。いつやっているかも知らない。	当事者
災害の時に一番不安なのは情報が入手できないこと。聴覚障がい者は情報があれば行動ができる。情報が確実に入手できる場所が決まっており、そこに手話通訳者がいるとよい。	当事者
聴覚障がい者同士が一同に集まれる場所が決まっているとよい。	当事者
地域の方は、聞こえないことを理解し、普段は気を遣ってくれているが、災害などいざというときに助けてもらえるかはわからない。	当事者
避難所においてコミュニケーションボードが必要で、それを地域の自治会が使えるように日頃から訓練しておかなければならない。	その他団体等

※その他団体等には、ボランティア団体、関係事業者を含みます。

問７　就労・社会参加

【キーワード】就労移行支援、就労継続支援（A 型・B 型）、職場の合理的配慮、障がい者雇用促進、社会的役割の創出、地域活動への参加、キャリアアップ、就労選択

主な内容	回答者
障がい事業所の送迎サービスがない場合もあり就労時間が限られる。	当事者の家族
保護者の負担が多く、仕事を続けるのが難しく退職する人もいる。働きたいけど働けない。	当事者の家族
障がいがあると就労しにくいと感じる	当事者の家族
社会参加をしようにも移動支援や行動援護を行う障がい事業所が少なく、利用が出来ない。	当事者の家族
事業者が合理的配慮が義務化したことを認識していないため、働きかけが必要。事業所が取り組まなけれいけないが、財政的な負担がネックとなり進まない。他自治体では事業者への補助制度もある。	当事者
障害者雇用について、市役所も雇用率を達成するべき。事業者においては、支援や配慮を誰が行うかが課題であり、負担も大きい。	当事者
地域活動も参加するには誰かの支援が必要。ハードルが高い。	その他団体等

主な内容	回答者
（職場で）聞こえないことでコミュニケーションが取りにくい。同じ職場にろう者がいると安心できる。	当事者
手話通訳者の県外派遣を認めてほしい。例えば、配偶者の親族に万が一（冠婚葬祭、病院の付き添いなど）のことがあった場合に、家族として支えようにも支えられない。	当事者
自治会については、コミュニケーションが難しいから参加していない。	当事者
障がいを理由に役員をやらなくてよいと言われているが、参加している気にはなれない。そもそも、自治会に関わっていないのでもともと何をやっているのか、やる必要があるのかわからない。	当事者
自治会や様々な会議、講演会などに参加したいと思うこともあるが、主催者が手話通訳を知らない、または、派遣費用がないということで手話通訳がつかず、参加ができない。費用がないと言われたら、どうしようもできずそれで終わってしまう。	当事者

※その他団体等には、ボランティア団体、関係事業者を含みます。

問８　医療・保険

【キーワード】医療機関との連携、訪問診療、看護、精神科デイケア、医療的ケア児支援、健康管理

主な内容	回答者
昔に比べると（病院の）デイケア、訪問看護が普及した。使いたくても使うことができなかった。	当事者の家族
欧米で広がっているオープンダイアローグの手法による診療を受けたいが、近隣では取り入れているクリニックがなく、遠方まで行った。日本では、自由診療の扱いであり、経済的な負担も大きく広まらない。	当事者の家族
親以外の人で、医療受診ができる相談員や支援員がいるとよかった。	当事者の家族
個々の症状に詳しい病院（婦人科など）にかかることが難しい。小さい頃から通っているかかりつけ医はあるが、特化した内容を聞きたいときには首をひねられることがある。地域の病院が障がい者・児に対応してもらえるか分からず困る。	当事者の家族
急病等で病院に行き、必要があるときに事前の申請なしで手話派遣を依頼した場合、事後申請を認めてほしい。	当事者
長久手市において、登録手話通訳者名簿を整備し、派遣を行えるとよい。	当事者

問９　その他

主な内容	回答者
放課後等デイサービス、理解のある特別支援学校の先生の専門的支援が手厚く助かった。ちょっとしたことでもありがたいと思う。	当事者の家族
相談員の情報提供が、事業所探しなどの際に助かった。	当事者の家族
自身の病気、親の介護などが重なったときに、事業所に連携・協力してもらって助かった。	当事者の家族
支援級で悩まれている人が非常に多い。福祉課、子ども家庭課、教育委員会、市の組織の中でもきちんと連携してほしい。	当事者の家族
障がい者の家族になって、公的支援（財政的なことも含め）の必要性を認識した。この点について国民の理解も必要である。	当事者の家族
病院のケースワーカーから紹介でグループホームに入居し、トラブルが起こったことがあったが、相談支援にもつながっていなかったため家族で対応した。制度を知らないと権利が守られないこともある。	当事者の家族
声の広報について周知したいが、市役所は周知しているのか。声の広報のテープ配布について、新規の方を増やしたいが、視覚障がい者の方を知らないので福祉課から案内してほしい。	その他団体等
事業所職員の確保が難しいということであれば、学生を対象に応募をかけると良い。本市には大学が多くある。そこのアルバイト求人などに掲載したらいいと思う。	当事者の家族
要約筆記は、手話と比較すると入口は低めと感じる。一方で、有資格者は専門性が高く、ボランティアとの壁があるのも事実。身近なところで活躍したいと考えている。	その他団体等
難聴者は制度の狭間で困っている。要約筆記者を派遣してもらうといった制度にはのらないところで、ゆるやかな支援としてボランティアがいることにも、もっと目を向けてもらいたい。	その他団体等
AI 要約や手話だけでは隙間ができる。筆談は重要な意思疎通の手段である。当たり前になるとよい。	その他団体等
高齢者等の施設で、意思疎通のお手伝いもできる。	その他団体等

※その他団体等には、ボランティア団体、関係事業者を含みます。